

# 第1章 調査の概要

## 1 調査目的

「第5次秋田市男女共生社会への市民行動計画」の策定目標の達成状況および実施後の市民の意向等を把握する目的で実施する。

## 2 調査項目

- (1) 多様性について
- (2) 家庭生活について
- (3) 結婚（事実婚に対する法律婚）について
- (4) 教育について
- (5) 仕事と家庭について
- (6) 介護や老後について
- (7) 男女の人権に関わる問題について

## 3 調査の設計

- (1) 調査対象 秋田市に居住する18歳以上の男女

配布地区	人口※1	サンプル数※2	年齢別抽出数※3											計※4	
			2003～2002	2001～1997	1996～1992	1991～1987	1986～1982	1981～1977	1976～1972	1971～1967	1966～1962	1961～1957	1956～1947		1946～
中央	69,697	692	58	58	58	58	58	58	58	58	58	58	58	54	692
東部	61,827	615	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	46	615
西部	33,581	333	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	24	333
南部	48,508	481	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	37	481
北部	75,375	748	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	60	748
河辺	7,640	76	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	4	76
雄和	5,617	55	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3	55
計	302,245	3,000	252	252	252	252	252	252	252	252	252	252	252	228	3,000

※1：R3.7.1推計人口（情報統計課ホームページより）

※2：全標本数を3,000とした人口比例地区別サンプル数

※3：各年齢階層ごとの標本数を252（75歳以上は228）とした年齢・地区別抽出数。

年齢階層ごとの標本数は、前回との比較を可能とするため、前回のとおりにした。

※4：実際の抽出数。計算上の調整を行っているため、※2とは一致しない。

中央地区	大町、旭北、旭南、川元、川尻、山王、高陽、保戸野、泉（JR線西側）、千秋、中通、南通、檜山、茨島、八橋
東部地区	東通、手形、手形山、泉（JR線東側）、旭川、新藤田、濁川、添川、山内、仁別、広面、柳田、横森、桜、桜ガ丘、桜台、下北手、太平、大平台
西部地区	新屋、勝平、浜田、豊岩、下浜
南部地区	牛島、卸町、大住、仁井田、御野場、御所野、四ツ小屋、上北手、山手台、南ヶ丘
北部地区	寺内、外旭川、土崎、将軍野、港北、飯島、金足、下新城、上新城
河辺地区	
雄和地区	

- (2) 標本数 3,000 サンプル
- (3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (4) 母集団 住民基本台帳
- (5) 調査方法 郵送による無記名アンケート
- (6) 調査期間 令和3年9月1日～9月30日
- (7) 調査実施主体 秋田市市民生活部生活総務課 女性活躍推進担当
- (8) 集計分析報告 株式会社東京商工リサーチ

#### 4 回収結果

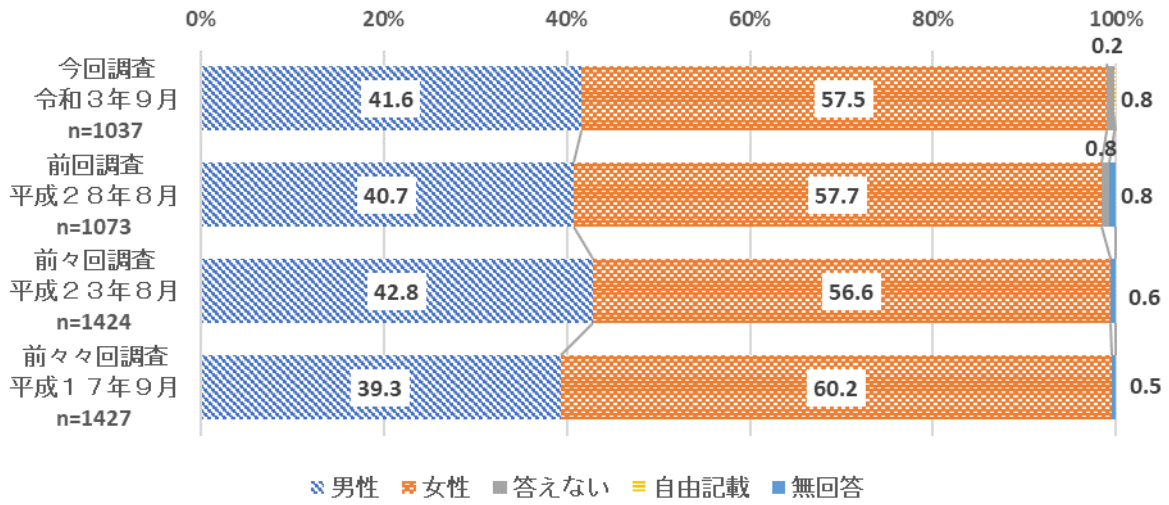
有効回答数 1,037 件（有効回答率 34.6%）

#### 5 報告書の見方

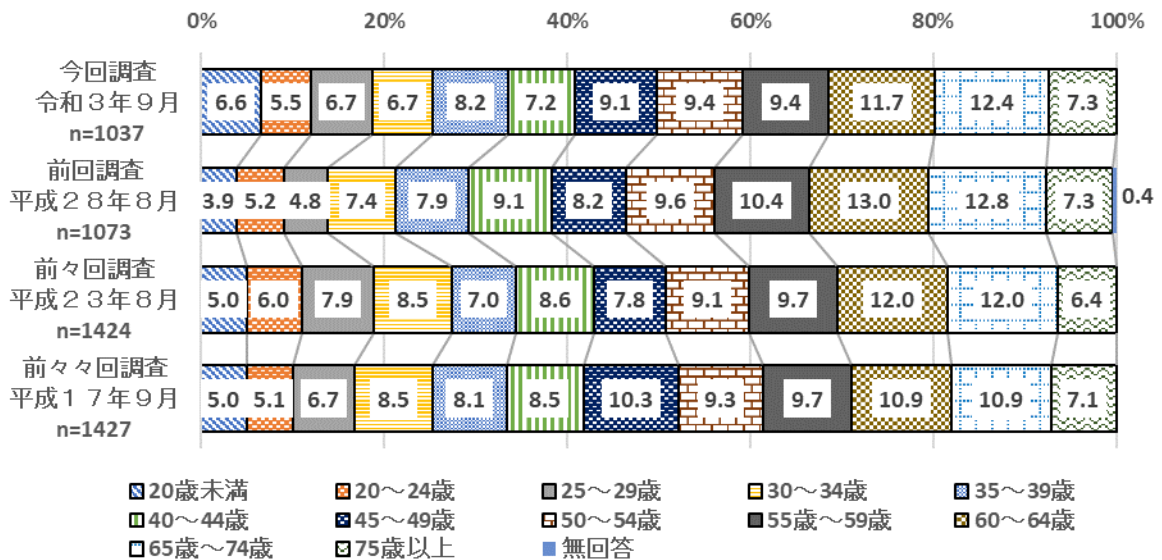
- (1) n (Number of cases の略) は、比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す。なお、n が少ない場合、極端な結果となる場合がある。
- (2) 回答者が2つ以上の回答をすることができる質問では、回答件数の合計は回答者数(100%)を超える。
- (3) 回答は全て百分比(%)で表し、小数点第2位を四捨五入している。そのために百分比の合計が100.0にならない場合がある。
- (4) 図表において、比率が少ない選択肢については、見出しや比率の表示を省略している場合がある。
- (5) 図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- (6) 図表を見やすくするため、グラフ主軸の最大値(%)を調整している。

## 第2章 回答者の属性

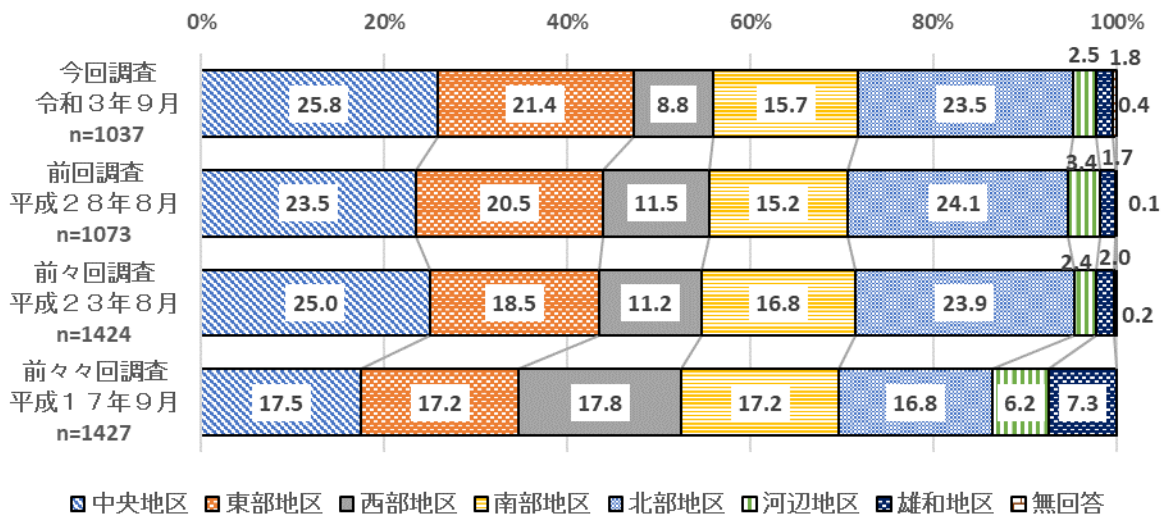
### 1 性別



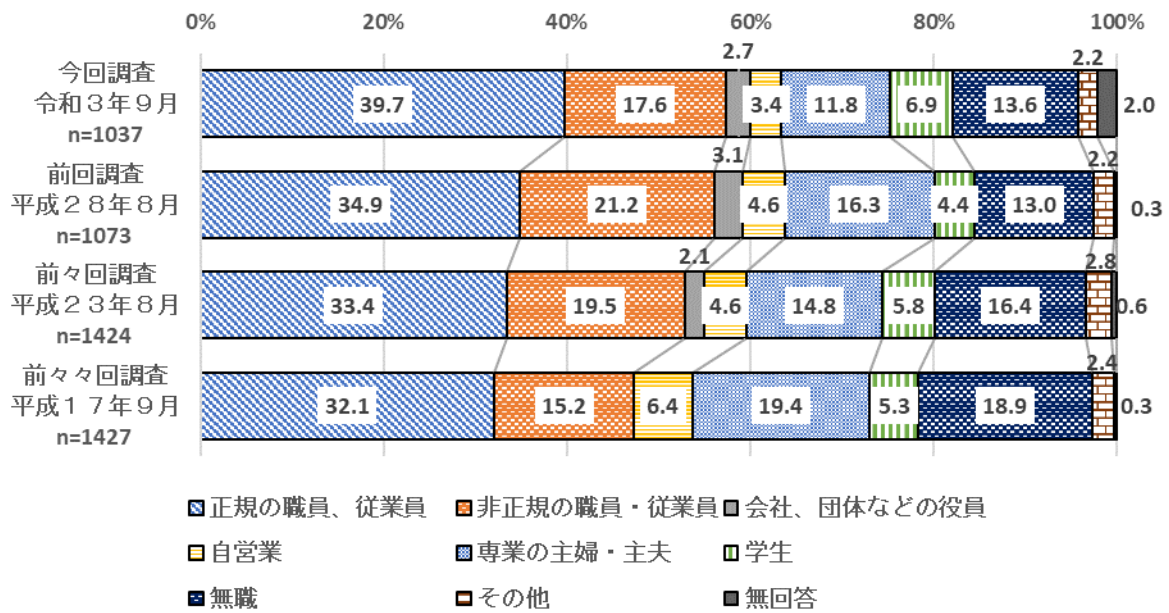
### 2 年齢



### 3 居住地区

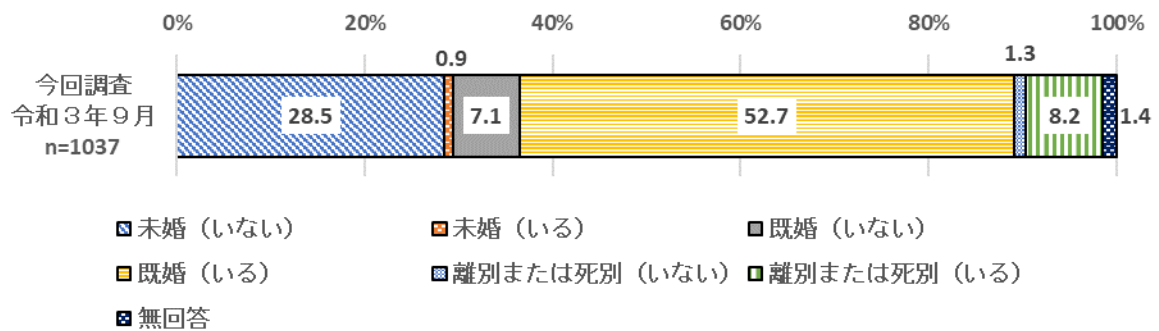


## 4 職業

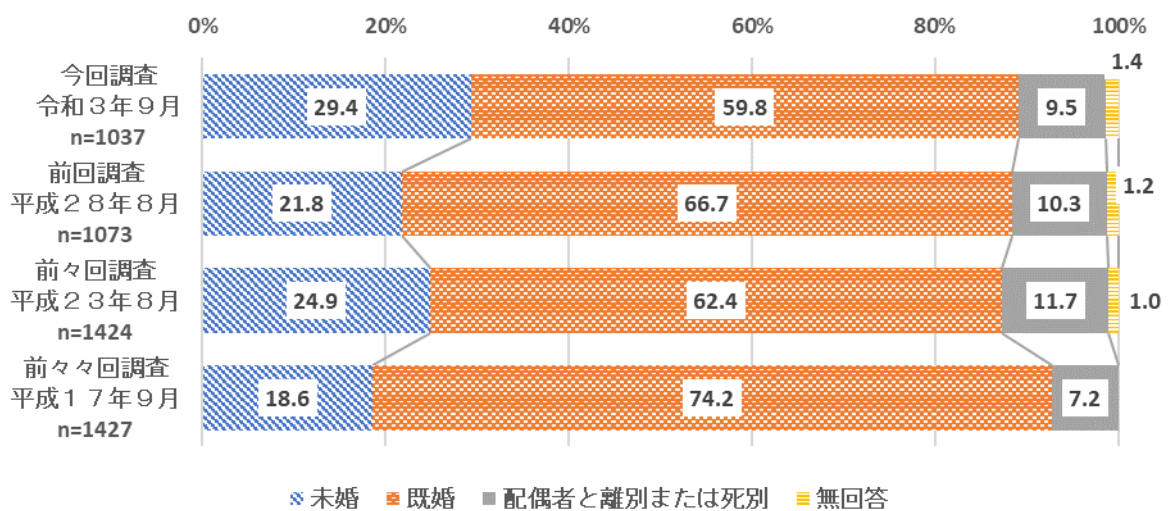


※（注意）平成17年度は選択肢「会社・団体の役員」が無いため回答を「0」としている。

## 5 結婚（事実婚等を含む）

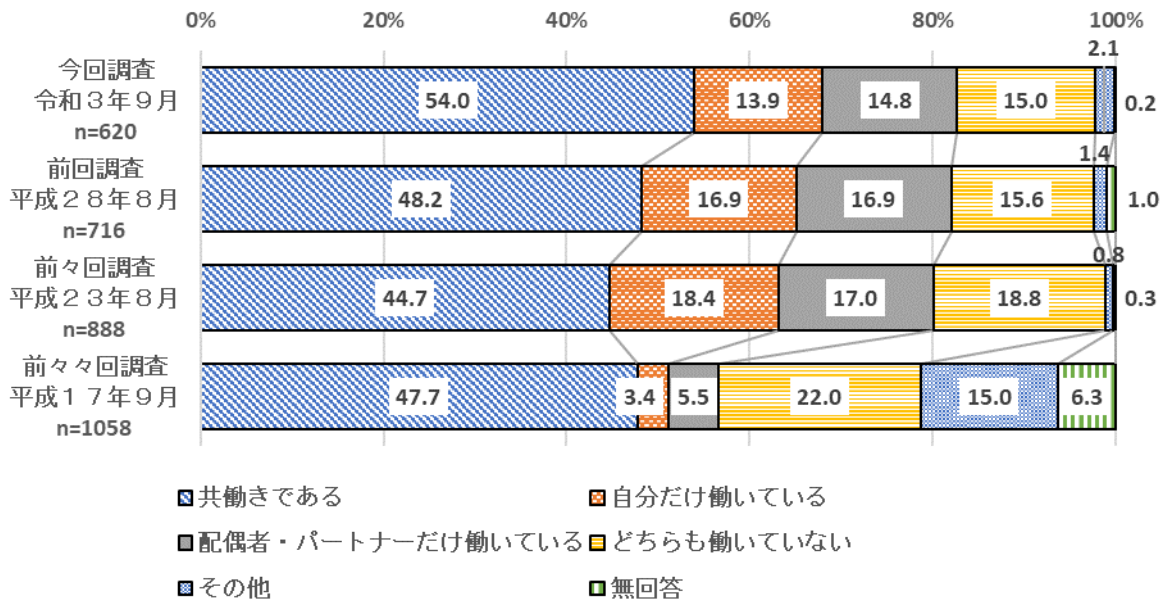


※（注意）表記説明→（いる）：子どもがいる。（いない）：子どもがいない。



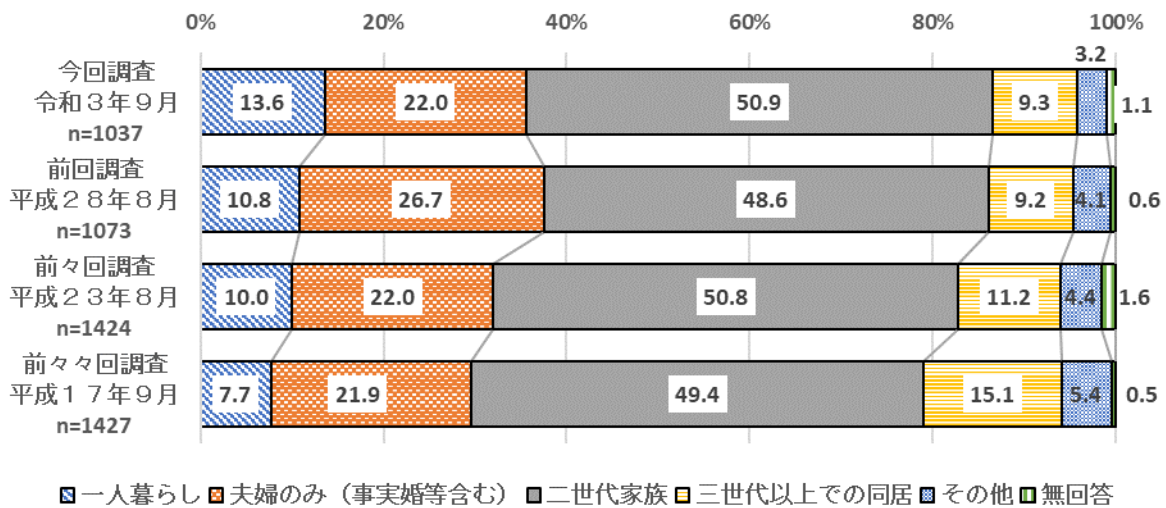


6 夫婦の仕事 ※既婚者への設問

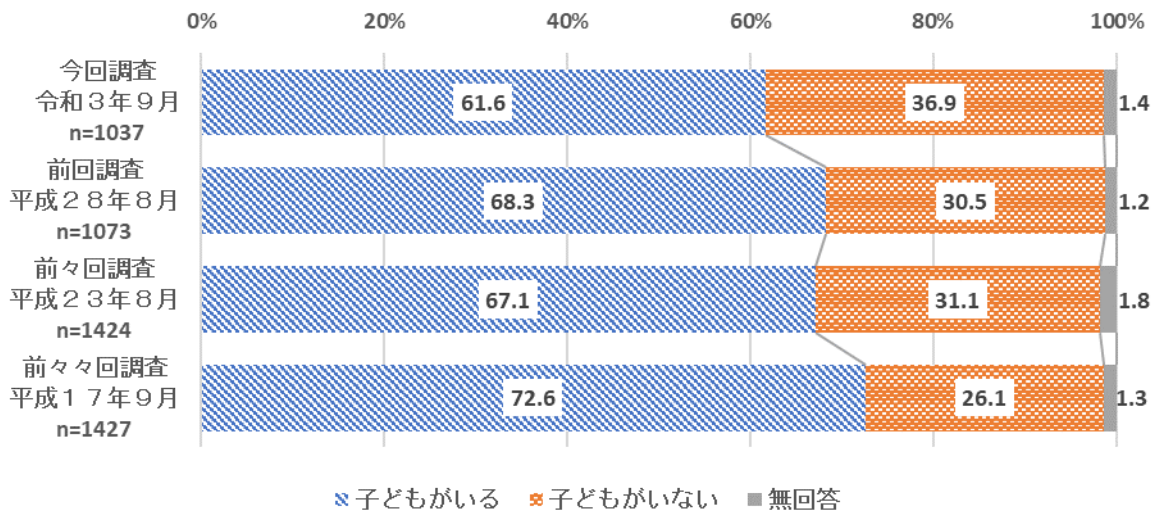


※（注意）平成17年度は各回答率より回答人数を求め、既婚者に対する割合に換算した割合

7 家族形態



8 子どもの有無



※（注意）今回調査「子どもの有無」は、「5 結婚」の各選択肢回答数を集計

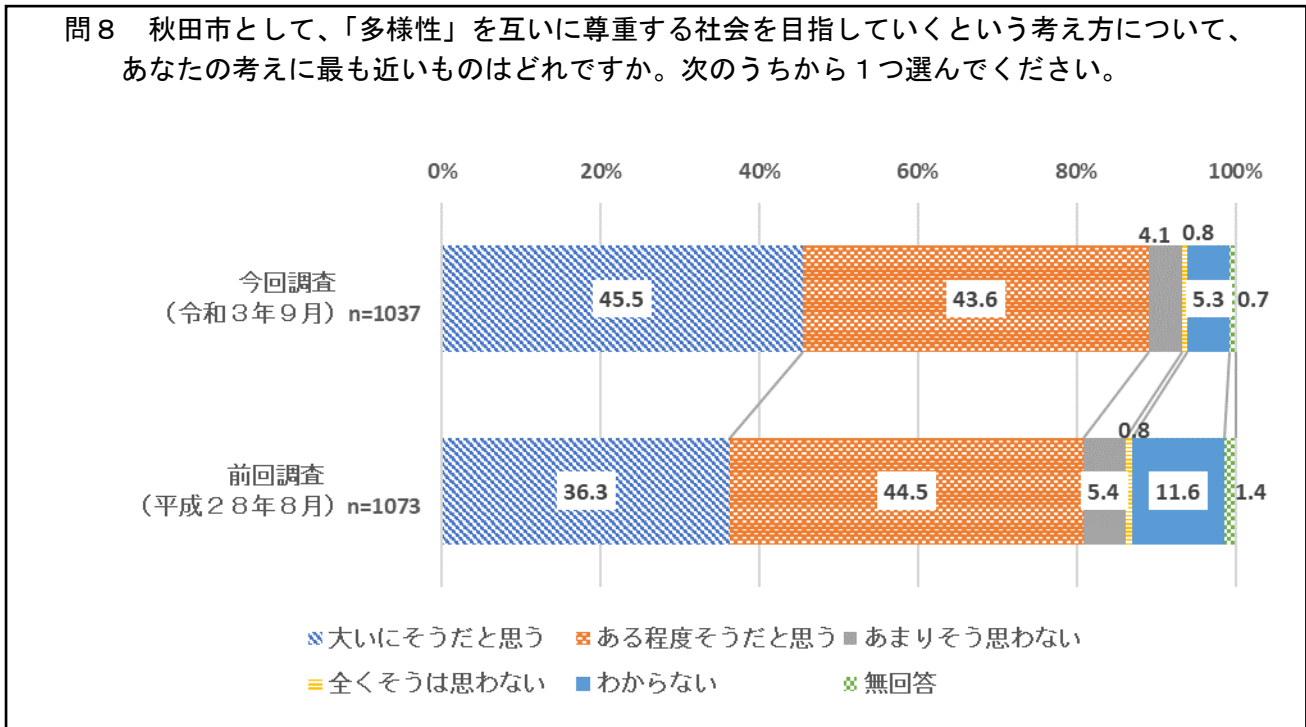
- ・子どもがいる：選択肢[2], [4], [6]の合計
- ・子どもがいない：選択肢[1], [3], [5]の合計



### 第3章 調査結果の分析

#### 1 多様性について

##### (1) 多様性の尊重



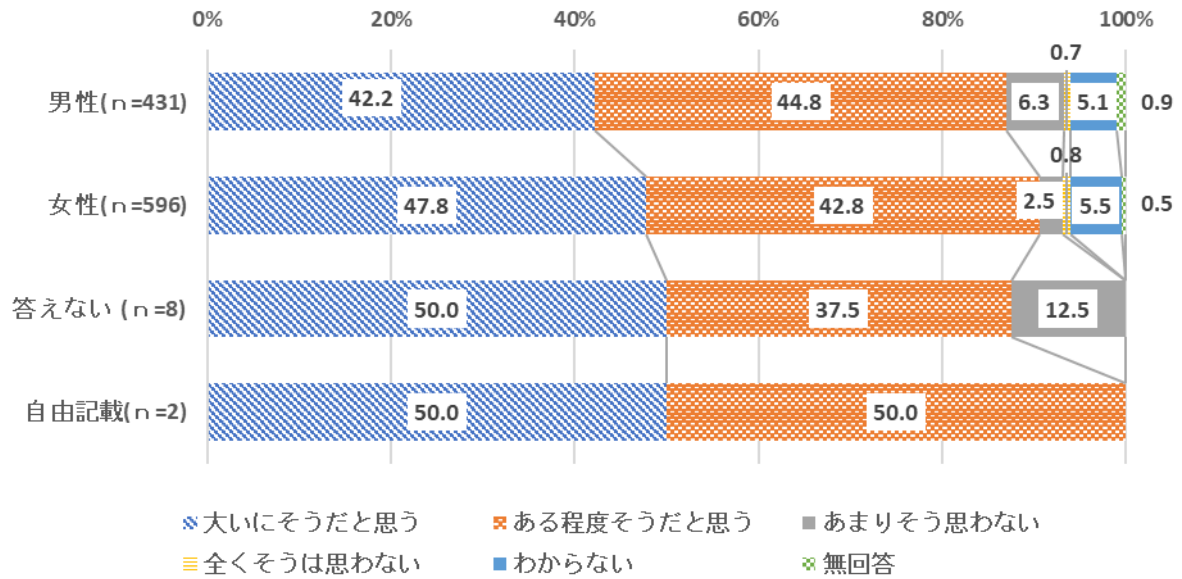
秋田市が目指している男女共生社会のような、「多様性」を認めあう社会を目指すべきだという考え方について、「大いにそうだと思う」(45.5%)が最も高く、次いで、「ある程度そうだと思う」が43.6%、「わからない」が5.3%、「あまりそう思わない」が4.1%などと続いている。

「大いにそうだと思う」と「ある程度そうだと思う」を合わせた《そうだと思う》が89.1%で約9割となっている。

また、前回調査と比較すると、「大いにそうだと思う」と「ある程度そうだと思う」を合わせた《そうだと思う》は8.3ポイント増加しており、「大いにそうだと思う」も9.2ポイント増加している。

性別にみると、男性で「大いにそうだと思う」(42.2%)、「ある程度そうだと思う」(44.8%)で合わせた《そうだと思う》と答えた人は87.0%で、女性の《そうだと思う》(90.6%)よりも3.6ポイント低い。また、「あまりそう思わない」と「全くそうは思わない」を合わせた《そうは思わない》と答えた人は、男性が7.0%、女性が3.3%と男性が上回っている。

図表 8-1 多様性を認め合う考え方（性別）

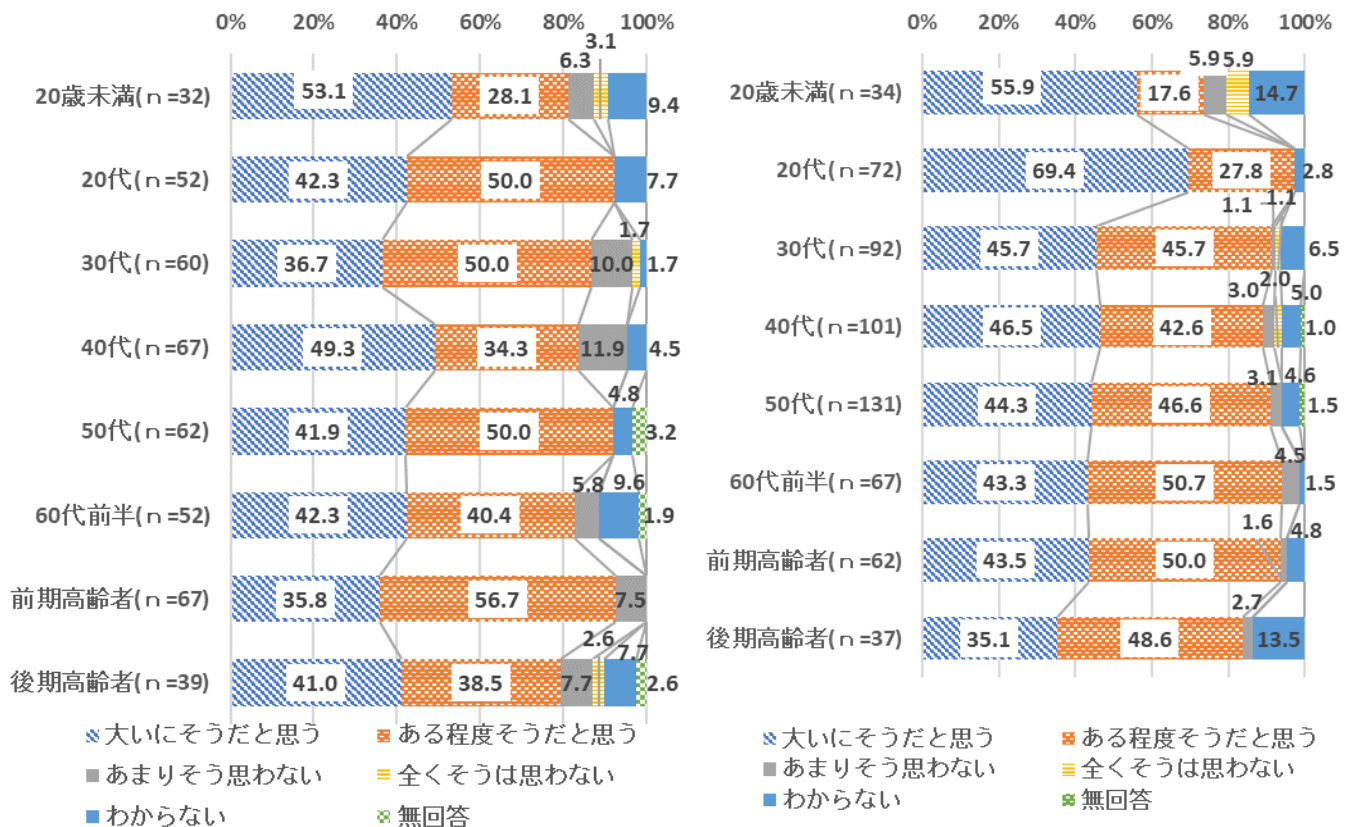


性・年代別にみると、《そうだと思う》は、男性では、前期高齢者(92.5%)が最も高く、全ての年代で8割を超えており、女性では20代(97.2%)が最も高い。一方、《そうは思わない》は、男性60代(15.4%)、女性20代未満(11.8%)が最も高く、他の年代で1割程度となっている。「全くそう思わない」は、女性20代未満(5.9%)が最も高く、次いで男性20代未満(3.1%)、後期高齢者男性(2.6%)、女性40代(2.0%)となっている。

図表 8-2 多様性を認め合う考え方（性・年代別）

【男性】

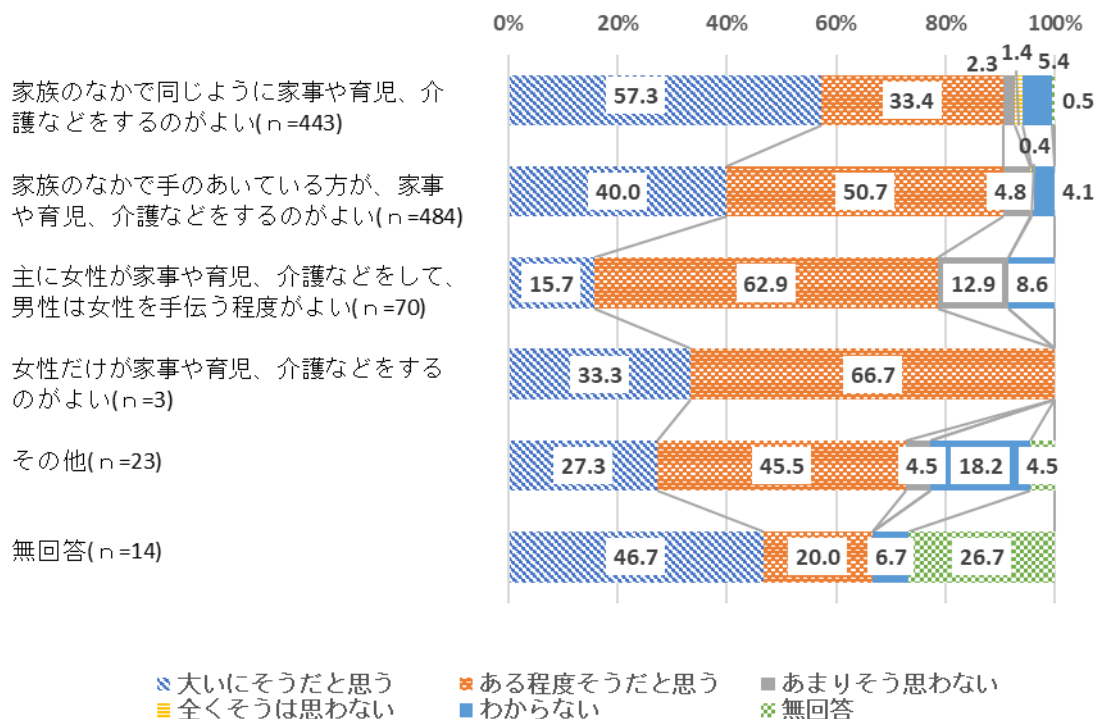
【女性】





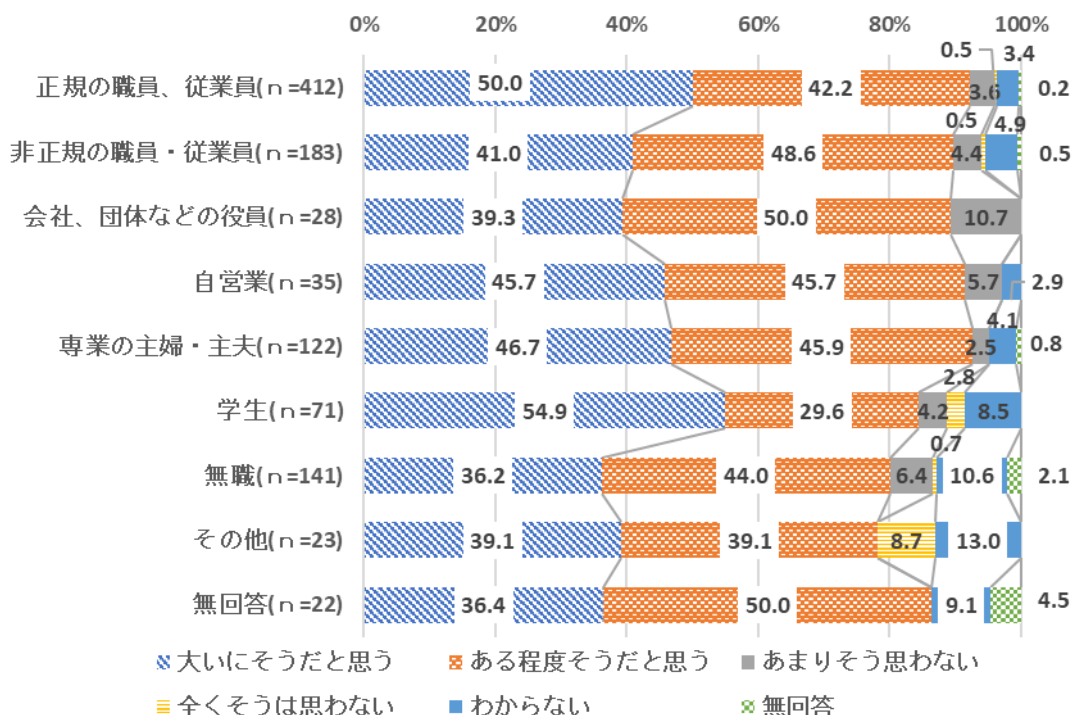
役割分担意識別にみると、《そうだと思う》は『家族のなかで同じように家事や育児、介護などをするのが良い』、『家族のなかで手のあいているほうが、家事や育児、介護などをするのがよい』の《家事協力派》で90.7%となっている。また、『主に女性が家事や育児、介護などをして、男性は女性を手伝う程度がよい』でも《そうだと思う》が78.6%となっている。

図表 8-3 多様性を認め合う考え方（役割分担意識別）



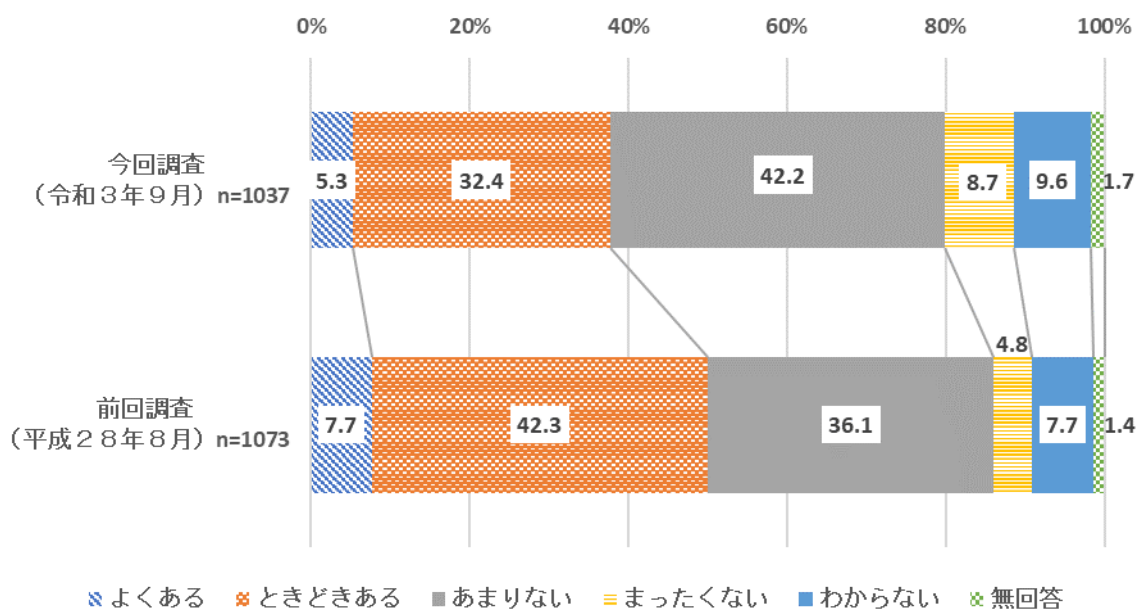
職業別にみると、「大いにそうだと思う」と回答した人は、『学生』(54.9%)が最も高く、次いで、『正規の職員・従業員』(50.0%)、『専業主婦・主夫』(46.7%)と4割台で続いている。「大いにそうだと思う」と「ある程度そうだと思う」を合わせた《そうだと思う》では、『専業主婦・主夫』(92.6%)が最も多く、次いで『正規の職員・従業員』(92.2%)、『自営業』(91.4%)と9割台で続いている。

図表 8-4 多様性を認め合う考え方（職業別）





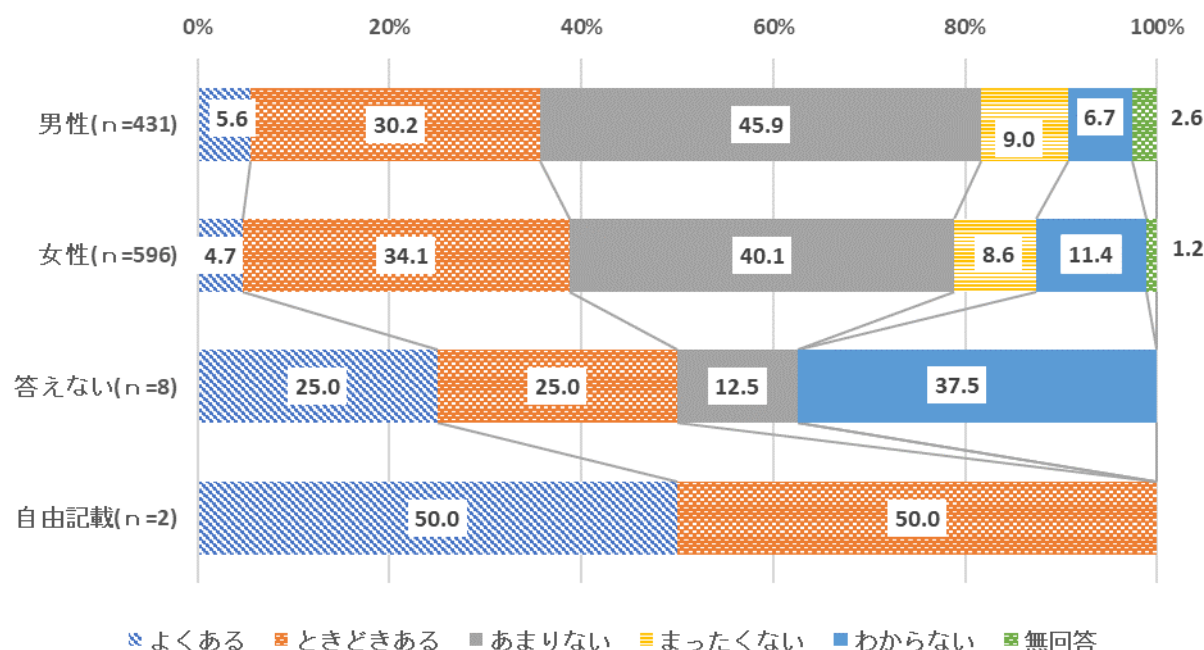
問9 あなたは、日常の暮らしの中で、各人の違い「多様性」について受け入れられないと感じることがありますか。次のうちから1つ選んでください。



日常の暮らしの中で、「多様性」について受け入れられないと感じることについて、「あまりない」(42.2%)が最も多く、以下、「ときどきある」(32.4%)、「わからない」(9.6%)、「まったくない」(8.7%)など続いている。「よくある」は前回調査7.7%から今回調査5.3%と2.4ポイント低くなっている。「ときどきある」は前回調査42.3%から今回調査32.4%となっている。

性別をみると、「ときどきある」が男性で30.2%、女性で34.1%となっており、女性が男性より3.9ポイント高くなっている。「あまりない」が男性で45.9%、女性で40.1%となっており、男性が女性より5.8ポイント高くなっている。「わからない」が男性で6.7%、女性で11.4%となっており、女性が男性より4.7ポイント高くなっている。

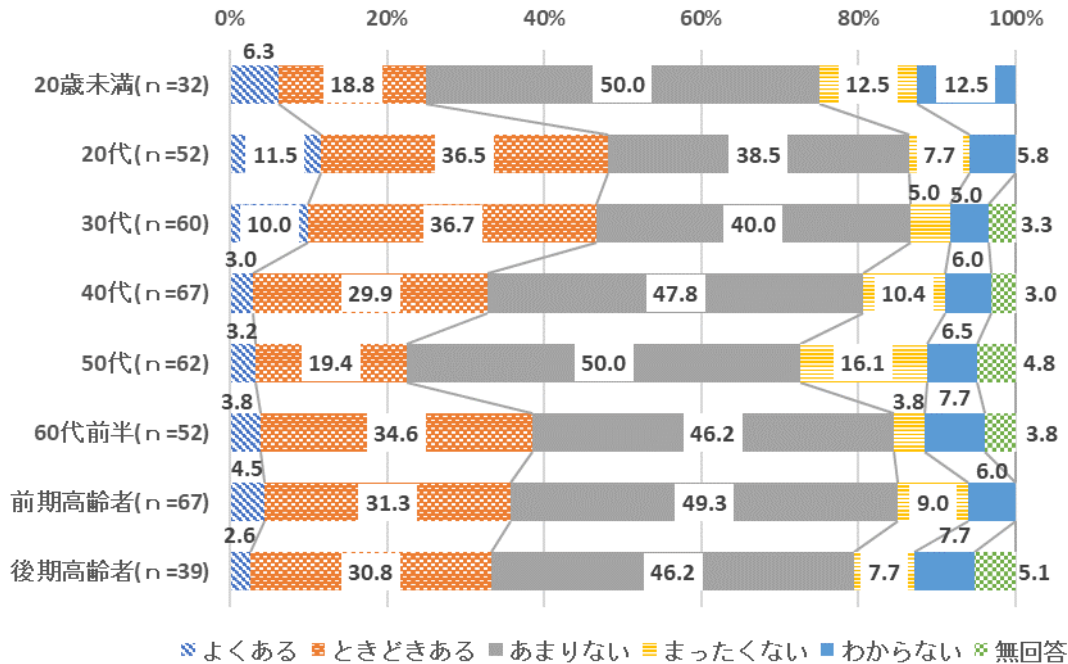
図表 9-1 多様性の受容（性別）



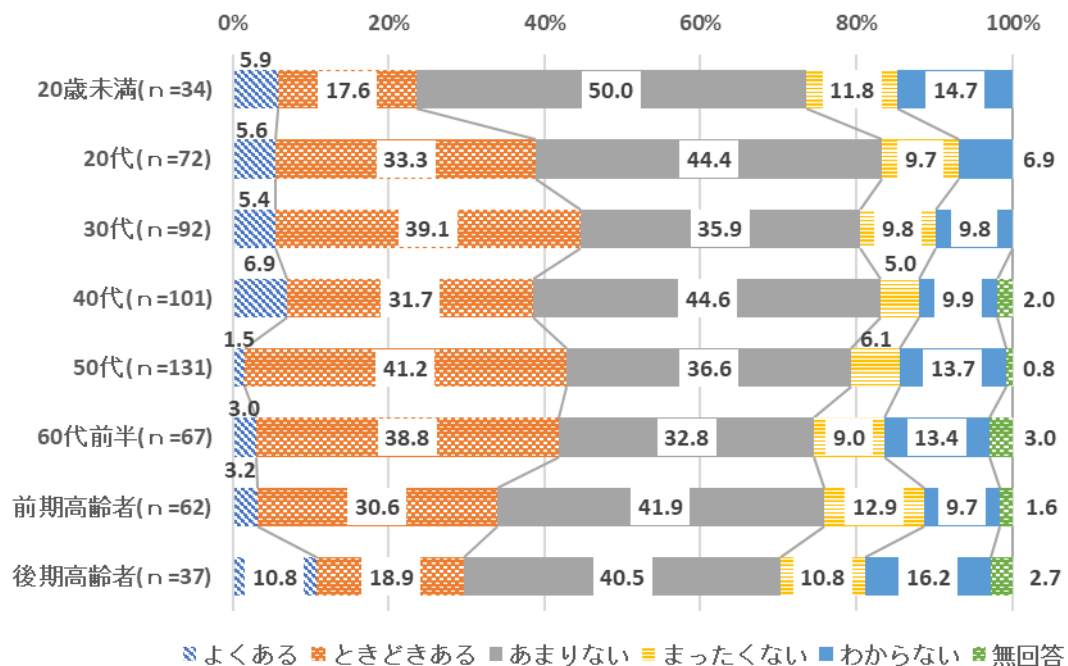
性・年代別にみると、男性で「多様性」について受け入れられないと感じることについて「よくある」、「ときどきある」と答えた人は20代(48.0%)が最も高く、次いで30代(46.7%)、60代前半(38.4%)となっている。一方、「あまりない」、「まったくない」と答えた人は50代(66.1%)が最も高く、次いで、20歳未満(62.5%)、前期高齢者(58.3%)となっている。女性で「よくある」、「ときどきある」と答えた人は30代(44.5%)が最も高く、次いで、50代(42.7%)、60代前半(41.8%)となっている。一方、「あまりない」、「まったくない」と答えた人は20歳未満(61.8%)が最も高く、次いで、前期高齢者(54.8%)、20代(54.1%)となっている。

図表 9-2 多様性の受容（性・年代別）

【男性】

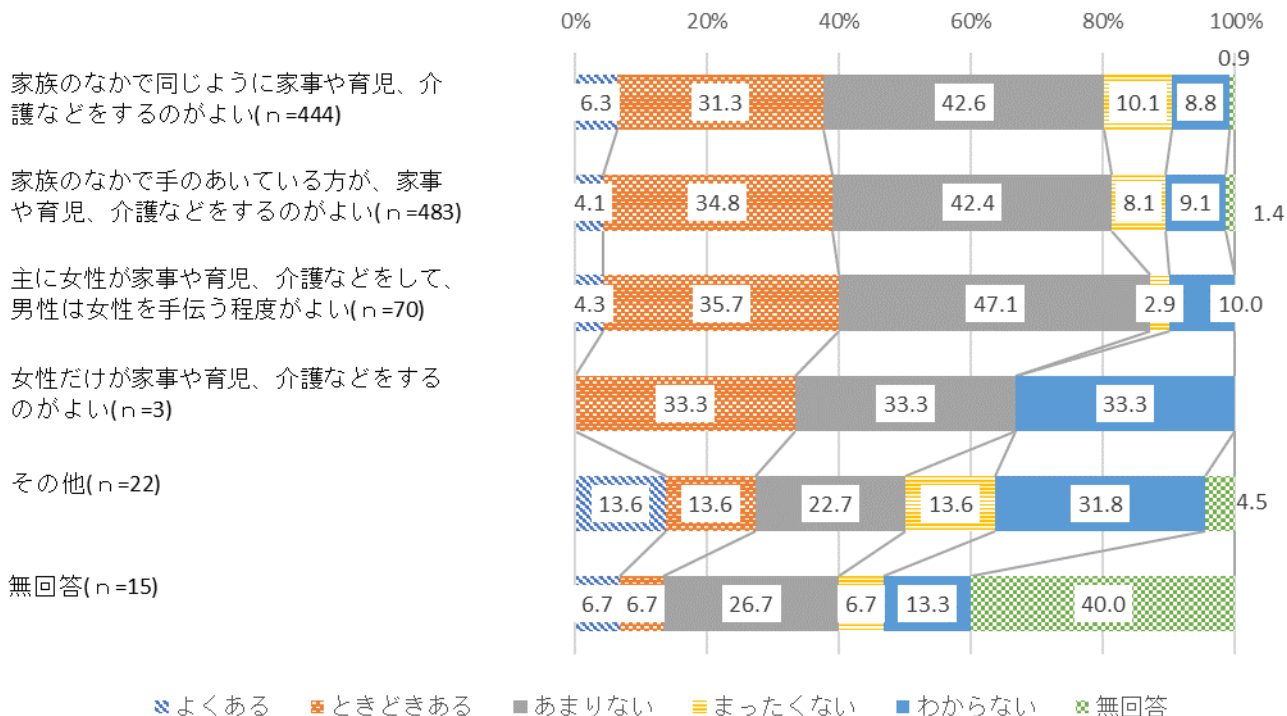


【女性】



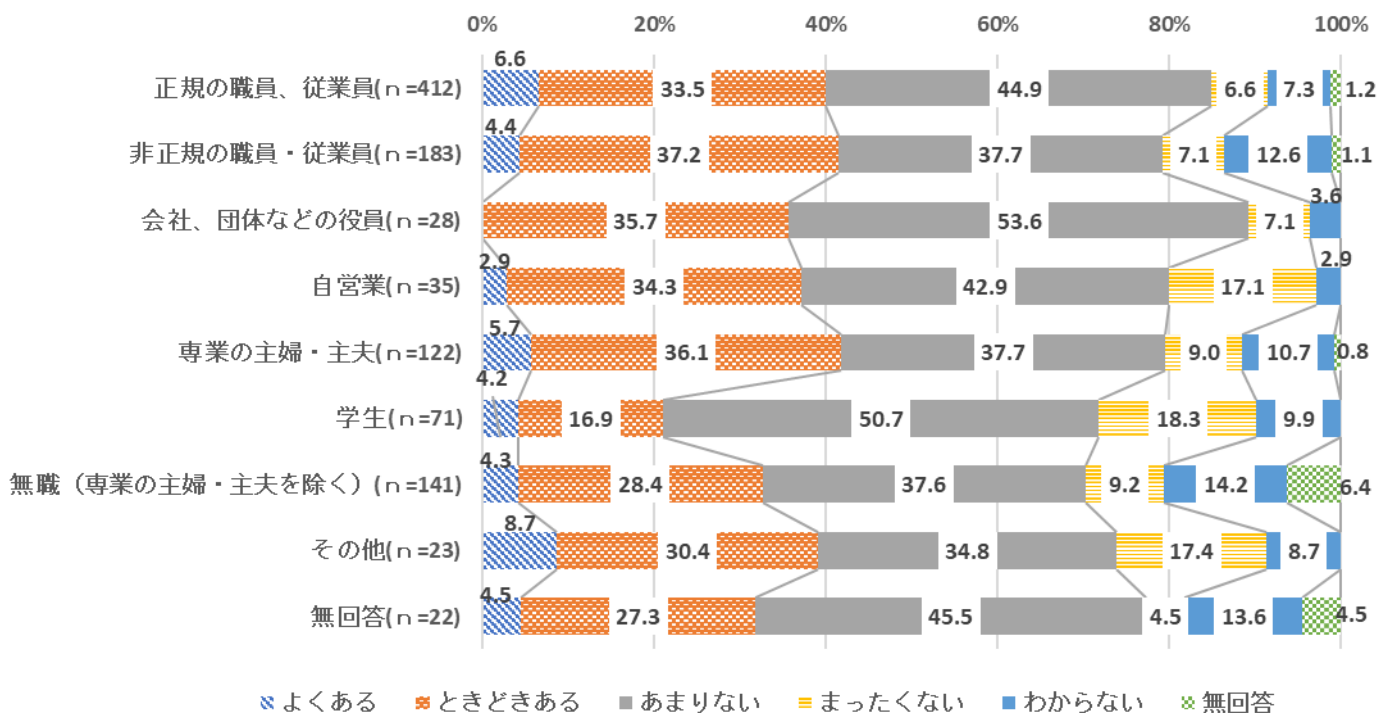
役割分担意識別にみると、「よくある」、「ときどきある」を合わせた割合が最も高いのは、「主に女性が家事や育児、介護などをして、男性は女性を手伝う程度がよい」とする人で 40.0%、次いで「家族のなかで手のあいている方が、家事や育児、介護などをするのがよい」が 38.9% などとなった。

図表 9-3 多様性の受容（役割分担意識別）

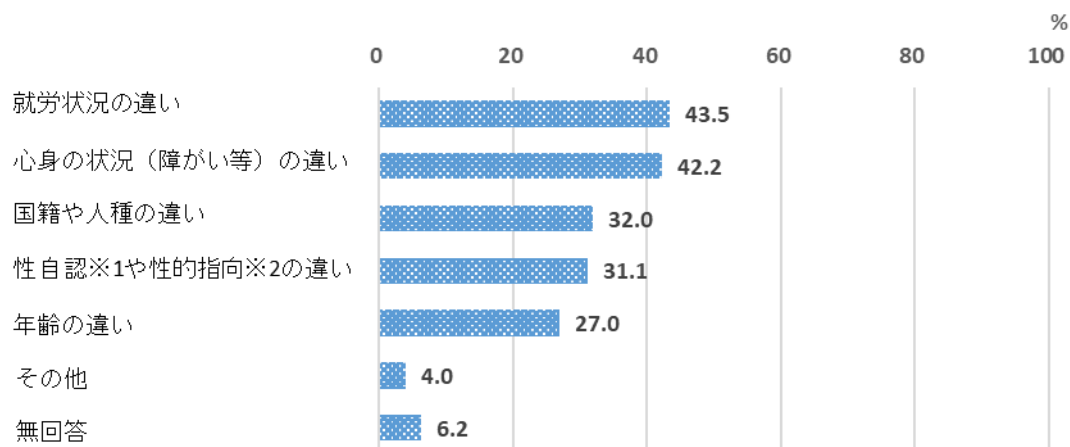


職業別にみると、「よくある」と回答した人は、『その他』(8.7%)が最も高く、次いで、『正規の職員、従業員』(6.6%)、『専業の主婦・主夫』(5.7%)などと続き、『会社・団体の役員』(0.0%)が最も低くなっている。「よくある」、「ときどきある」では、『専業の主婦・主夫』(41.8%)が最も高く、次いで『非正規の職員・従業員』(41.6%)、『正規の職員、従業員』(40.1%)などとなっている。

図表 9-4 多様性の受容（職業別）



問10 あなたは、次の各人の違い「多様性」のうち、社会的に尊重されていないと感じるのはどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。



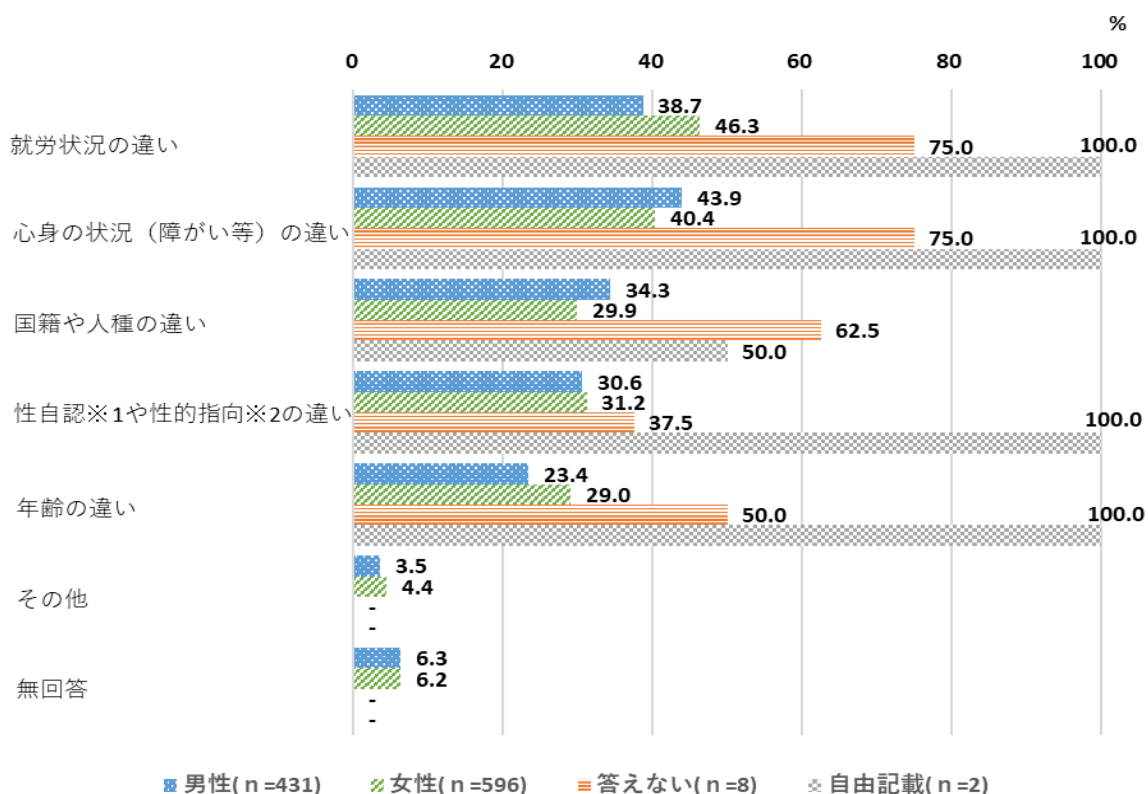
※1 性自認 : 自分の性別をどう認識しているかということ

※2 性的指向 : どのような性別を恋愛や性愛の対象とするのかということ

多様性のうち、社会的に尊重されていないと感じることをたずねたところ、「就労状況の違い」(43.5%)が最も高く、次いで「心身の状況(障がい等)の違い」が42.2%、「国籍や人種の違い」が32.0%、「性自認や性的指向の違い」が31.1%などとなっている。

性別をみると、「就労状況の違い」では男性が38.7%、女性が46.3%となっており、女性が男性より7.6ポイント高くなっている。「心身の状況(障がい等)の違い」では男性が43.9%、女性が40.4%となっており、男性が女性より3.5ポイント高くなっている。

図表 10-1 多様性の尊重(性別)

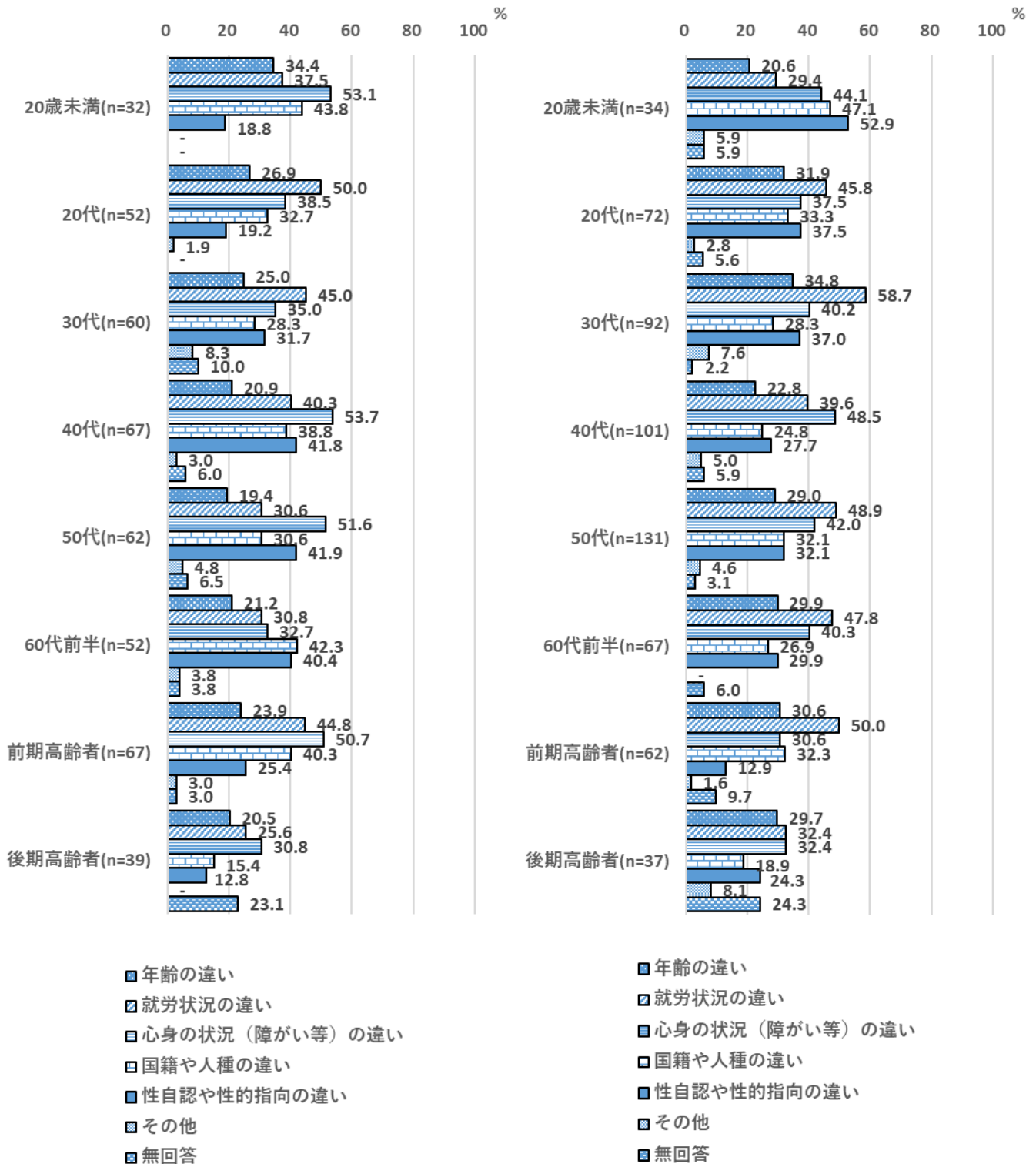


性・年代別をみると、第1位の「就労状況の違い」は男性で20代（50.0%）、女性で30代（58.7%）が最も高くなっている。第2位の「心身の状況（障がい等）の違い」は男性で40代（53.7%）、女性で40代（48.5%）が最も高くなっている。第3位の「国籍や人種の違い」は男性で20歳未満（43.8%）、女性で20歳未満（47.1%）が最も高くなっている。

図表 10-2 多様性の尊重（性・年代）

【男 性】

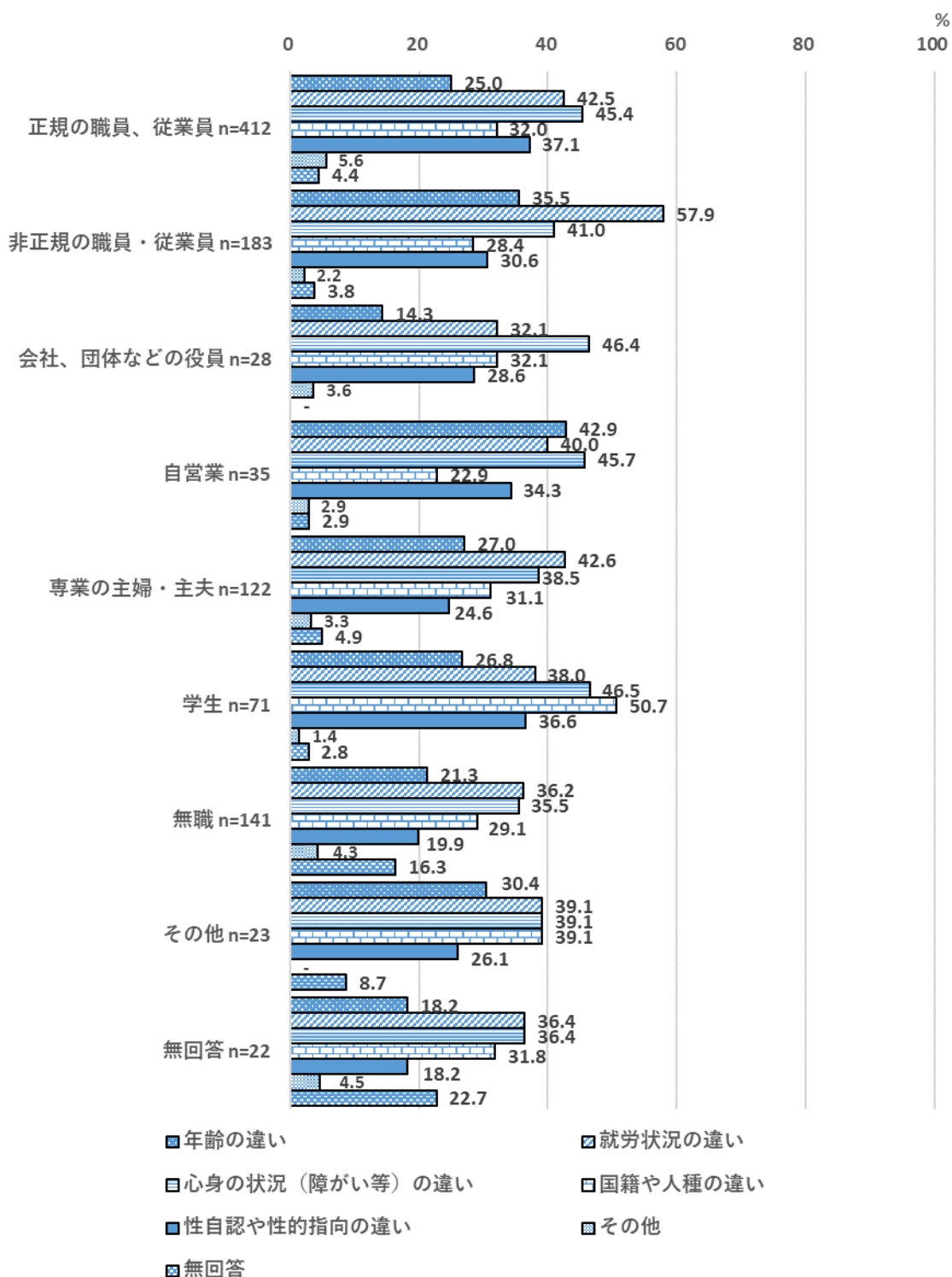
【女 性】





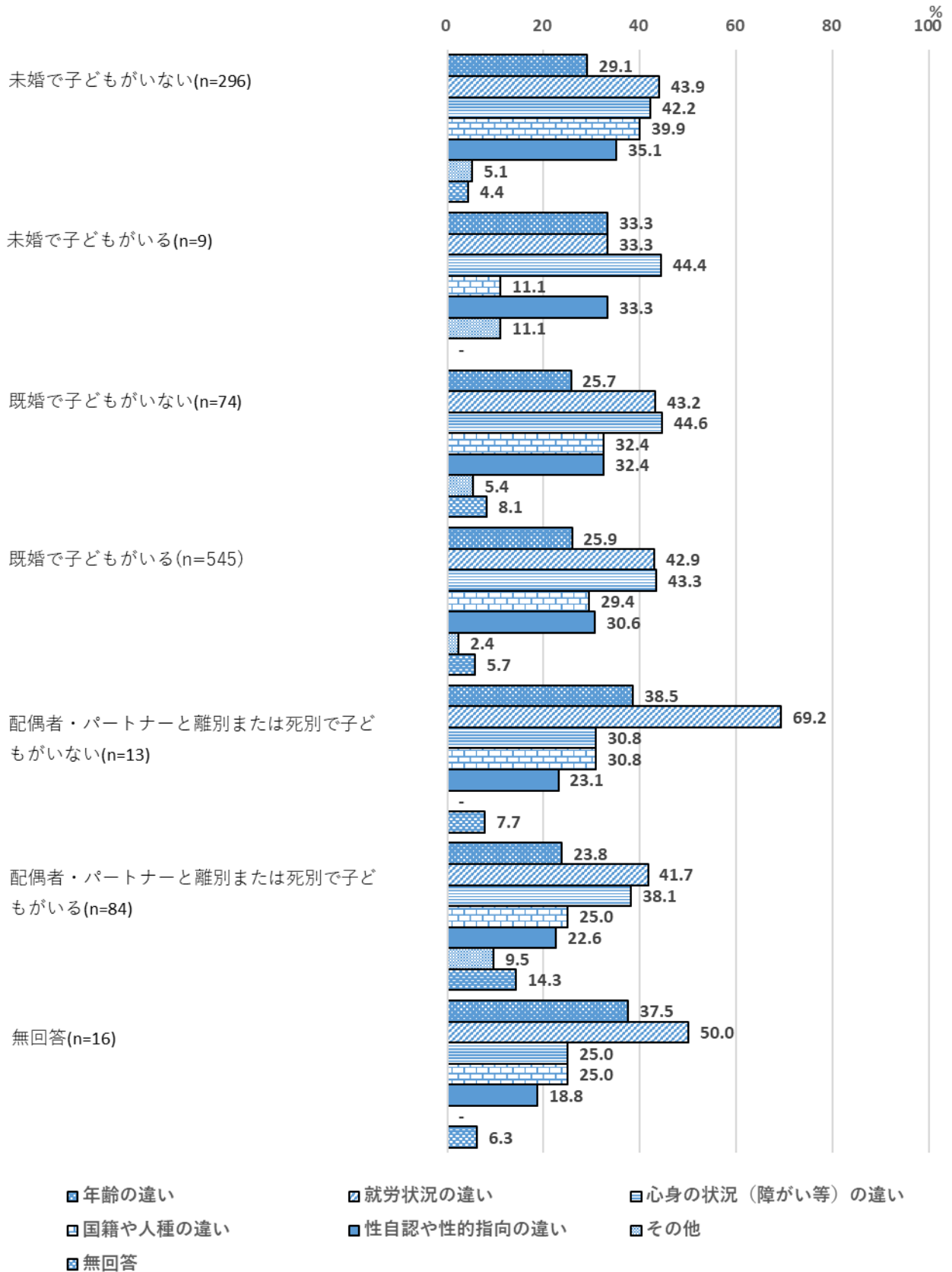
職業をみると、第1位の「就労状況の違い」は非正規の職員・従業員（57.9%）が最も高く、約6割となっている。第2位の「心身の状況（障がい等）の違い」は学生（46.5%）が最も高くなっている。第3位の「国籍や人種の違い」は学生（50.7%）が最も高く、5割を超えている。

図表 10-3 多様性の尊重（職業）



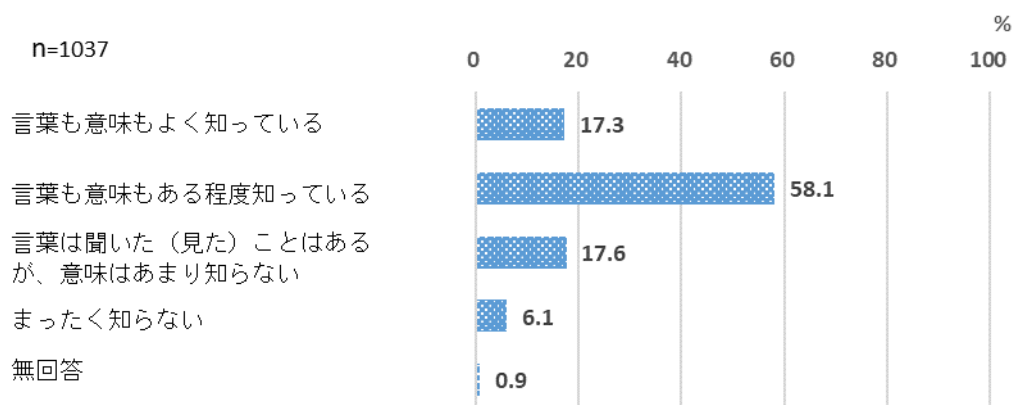
婚姻別をみると、第1位の「就労状況の違い」は配偶者・パートナーと離別または死別で子どもがいない(69.2%)が最も高くなっている。第2位の「心身の状況(障がい等)の違い」は既婚で子どもがいない(44.6%)が最も高くなっている。第3位の「国籍や人種の違い」は未婚で子どもがいない(39.9%)が最も高くなっている。

図表 10-4 多様性の尊重(婚姻別)



## (2) L G B T Q

問11 あなたは、L G B T Q※3 などセクシュアル・マイノリティ（性的少数者）※4 という言葉を知っていますか。次のうちから1つ選んでください。



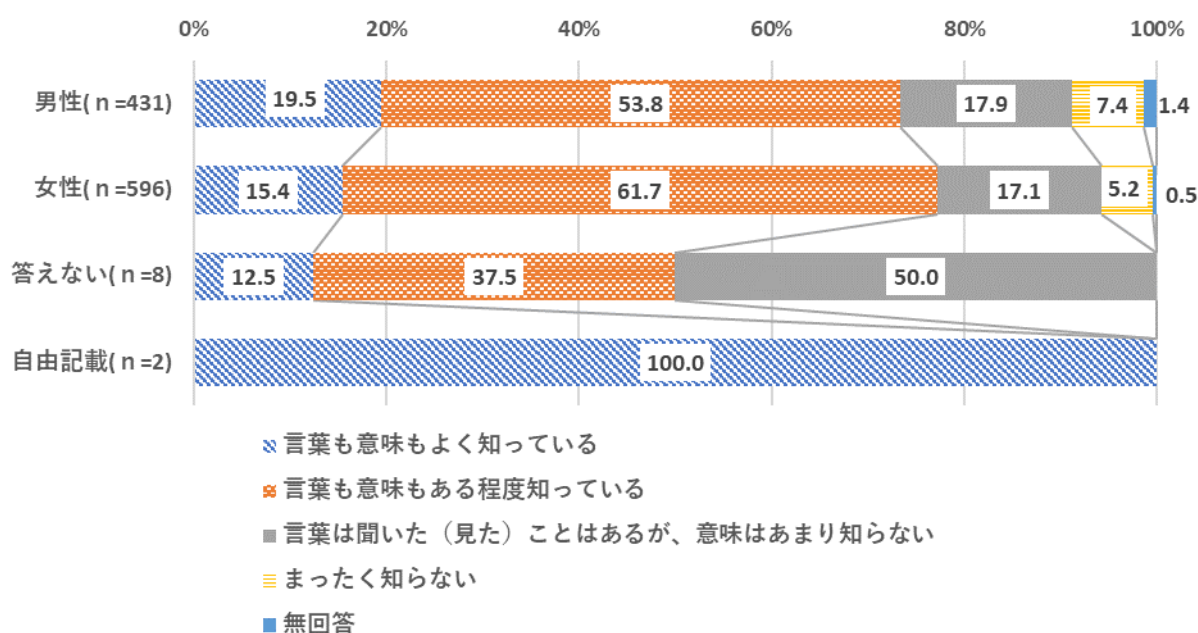
※3 L G B T Q L（レズビアン＝女性の同性愛者）、G（ゲイ＝男性の同性愛者）、B（バイセクシュアル＝両性愛者）  
 T（トランスジェンダー＝生まれた時に割り当てられた性別とは異なる性別を生きる人）  
 Q（クエスチョニング＝性的指向や性自認が明確でない人、定義づけたくないなど）  
 クィア＝「奇妙な、独自の」という意味の言葉で、性的少数者の総称の一つ。

※4 セクシュアル・マイノリティ：同性愛者、両性愛者、トランスジェンダーやその他の多様な性自認（自分自身の性別をどう認識しているか）や性的指向（いずれの性別を恋愛や性愛の対象とするか）を持つ人

L G B T Q などセクシュアル・マイノリティ（性的少数者）という言葉を知っているかたずねたところ、「言葉も意味もある程度知っている」（58.1%）が最も高く、「言葉は聞いた（見た）ことはあるが、意味はあまり知らない」が17.6%、「言葉も意味もよく知っている」が17.3%などと続いている。

性別をみると、「言葉も意味もよく知っている」が男性19.5%、女性15.4%で男性が4.1ポイント上回っている。「言葉も意味もある程度知っている」が男性53.8%、女性61.7%で女性が7.9ポイント上回っている。

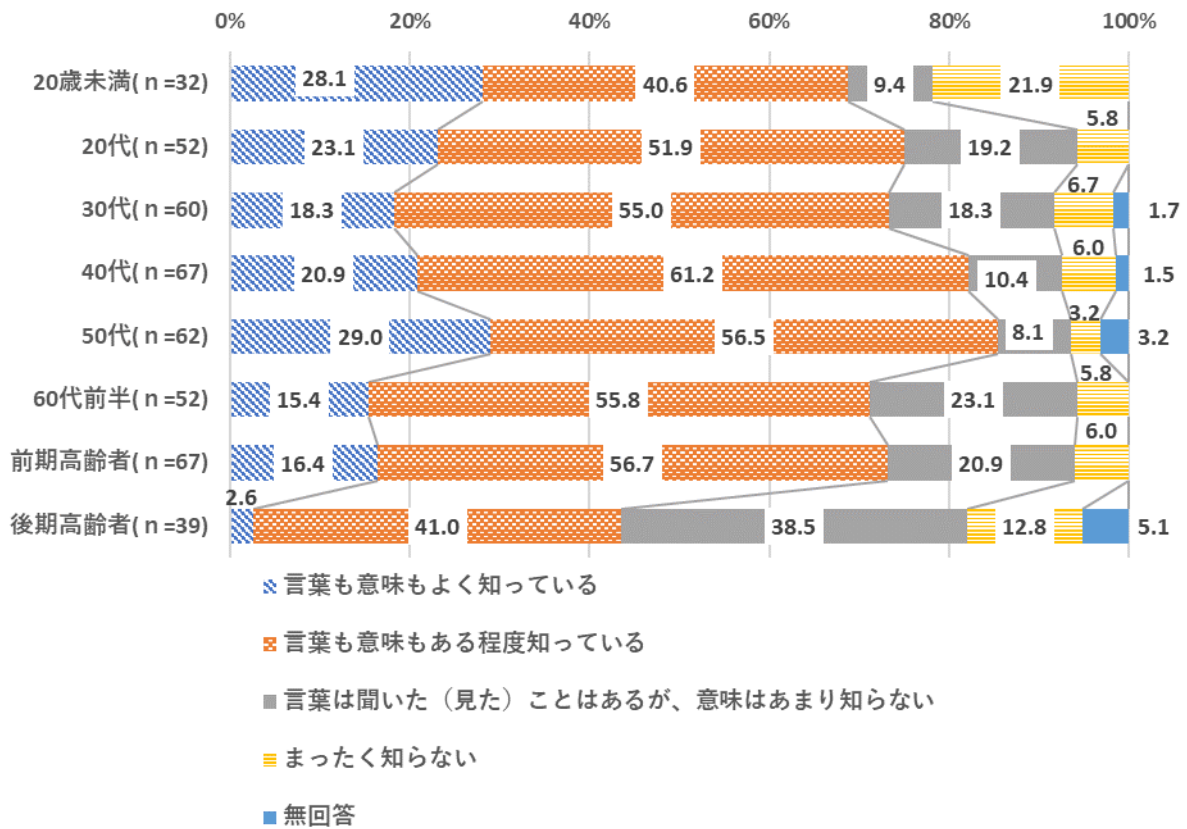
図表 11-1 L G B T Q の認知（性別）



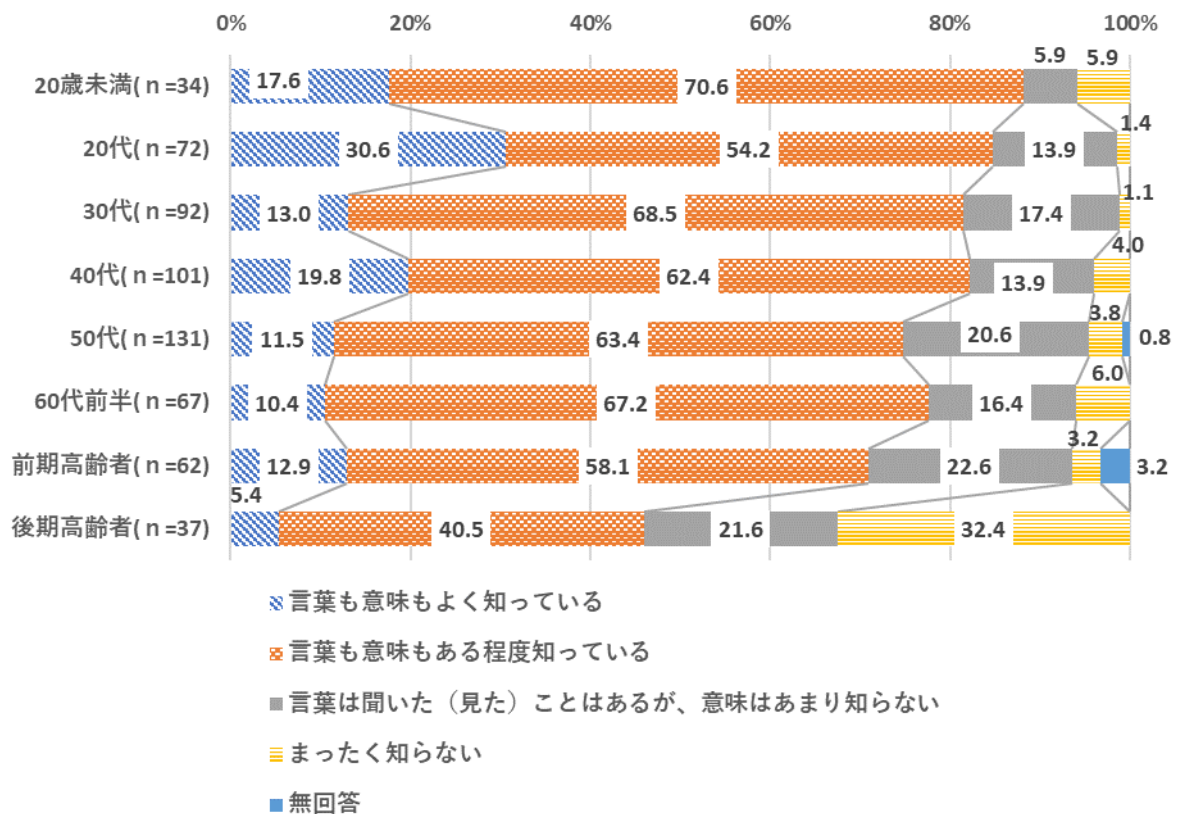
性・年代別をみると、「言葉も意味もよく知っている」は、男性では50代(29.0%)、女性では20代(30.6%)が最も高くなっている。「言葉も意味もよく知っている」、「ある程度知っている」を合わせると、男性では50代が85.5%、女性では20歳未満で88.2%となっている。

図表 11-2 LGBTQの認知（性・年代別）

【男性】

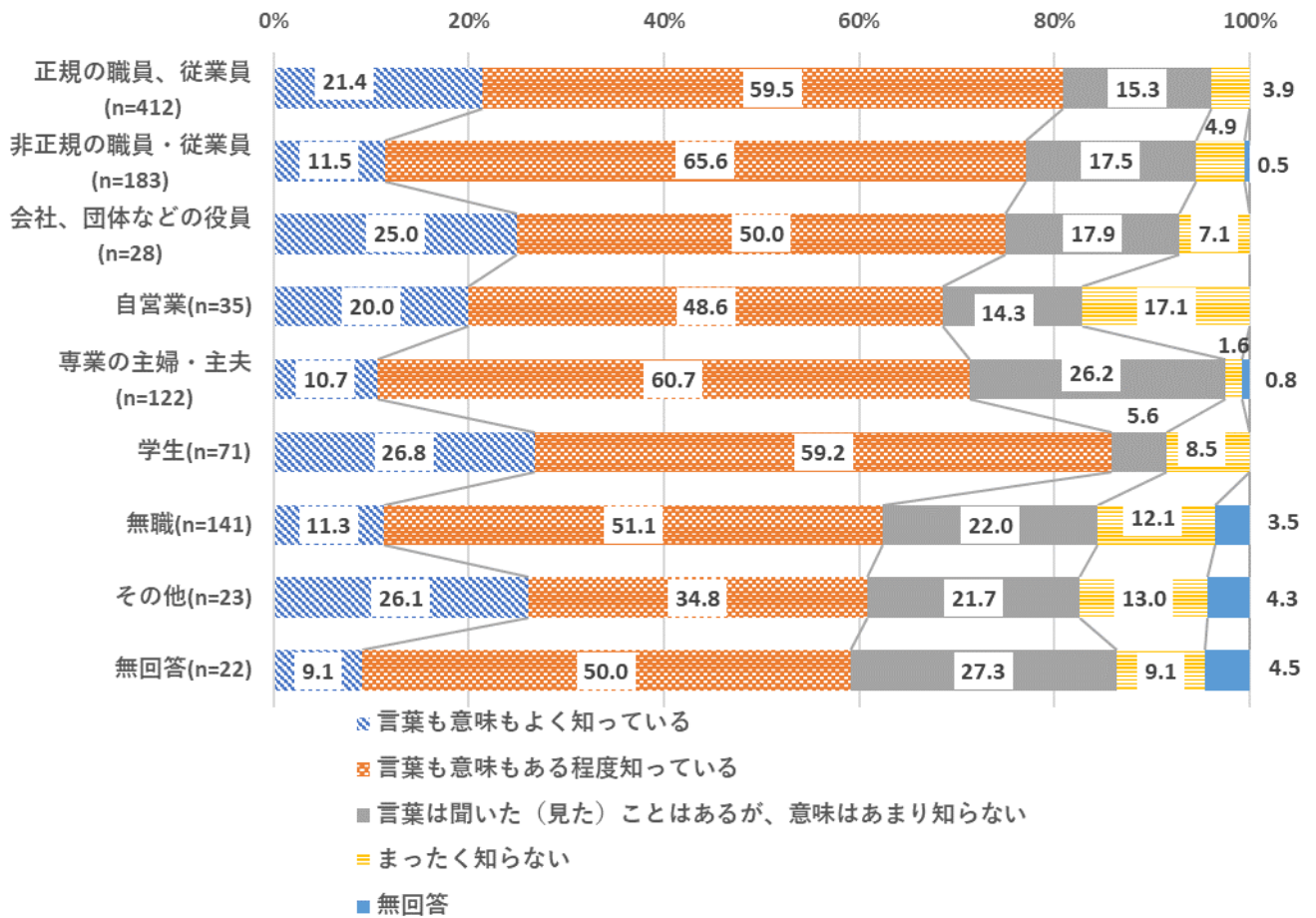


【女性】



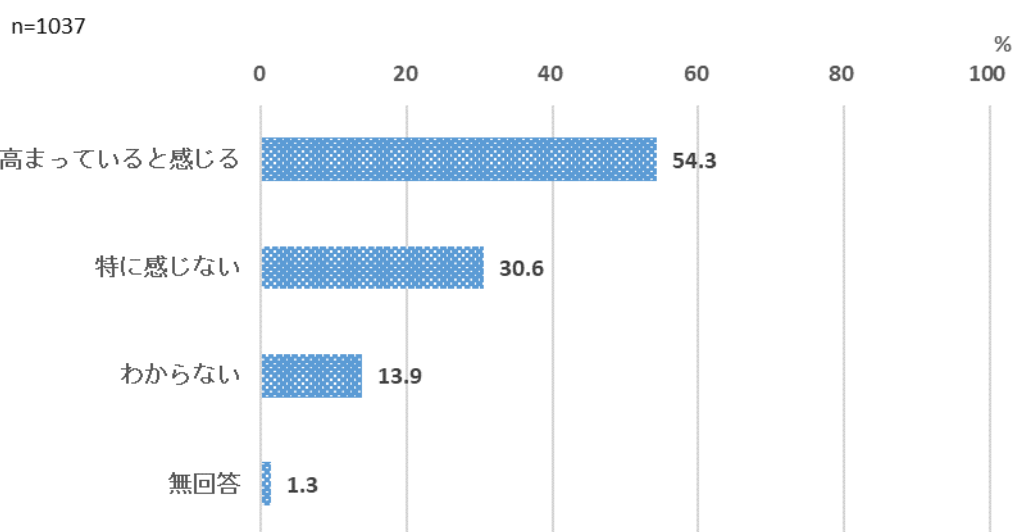
職業別をみると、「言葉も意味もよく知っている」は、学生（26.8%）が最も高く、その他（26.1%）、会社、団体などの役員（25.0%）などと続いている。「言葉も意味もよく知っている」と「言葉も意味もある程度知っている」を合わせた『知っている』の割合は、学生と正規の職員、従業員で8割を超えている。

図表 11-3 L G B T Q の認知（職業別）





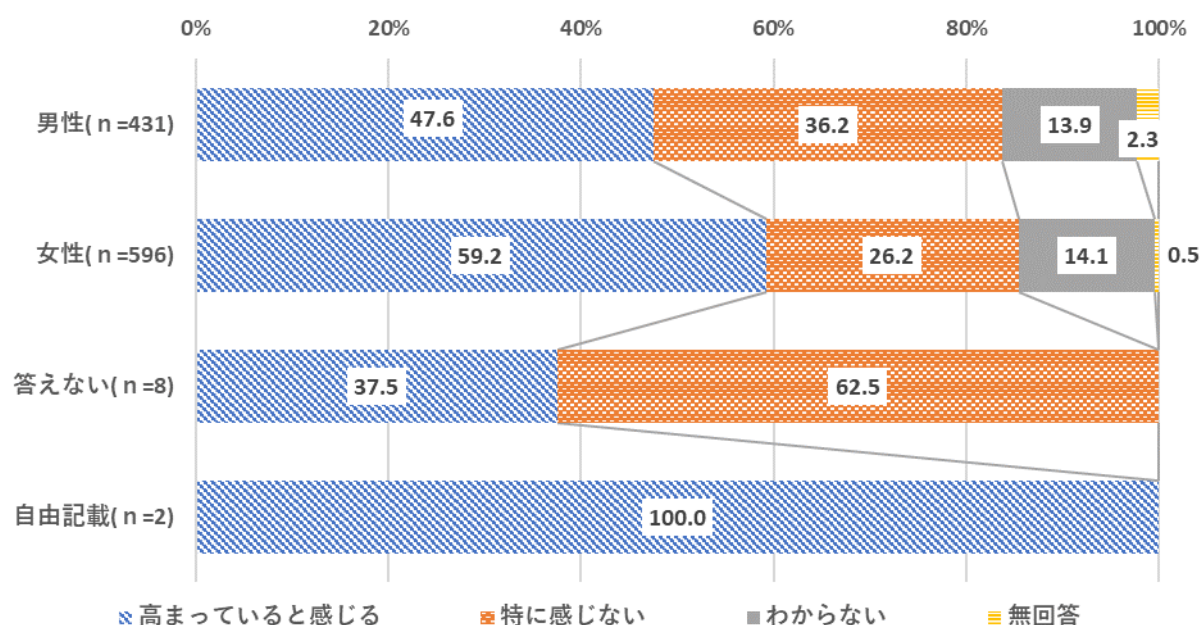
問12 あなたは、LGBTQなどセクシュアル・マイノリティ（性的少数者）について、社会的な関心が高まっていると感じますか。



社会的な関心が高まっているかをたずねたところ、「高まっていると感じる」（54.3%）が最も高く、次いで「特に感じない」が30.6%、「わからない」が13.9%となっている。

性別をみると、「高まっていると感じる」が男性で47.6%、女性で59.2%となっており、女性が11.6ポイント上回っている。

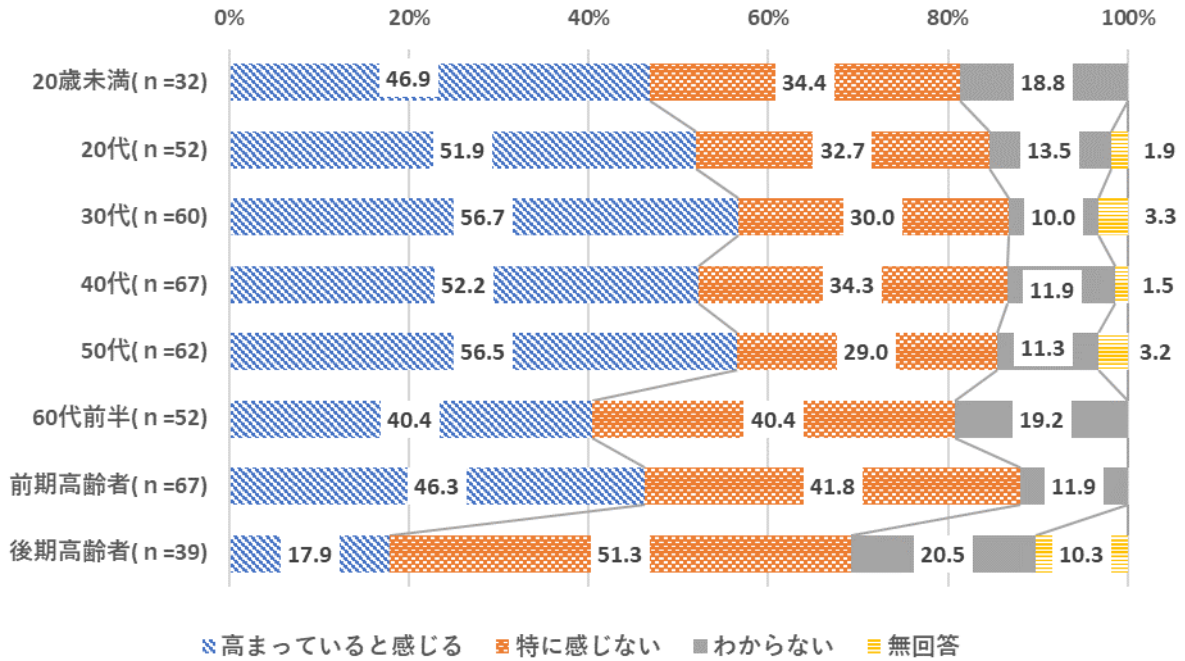
図表 12-1 LGBTQへの関心（性別）



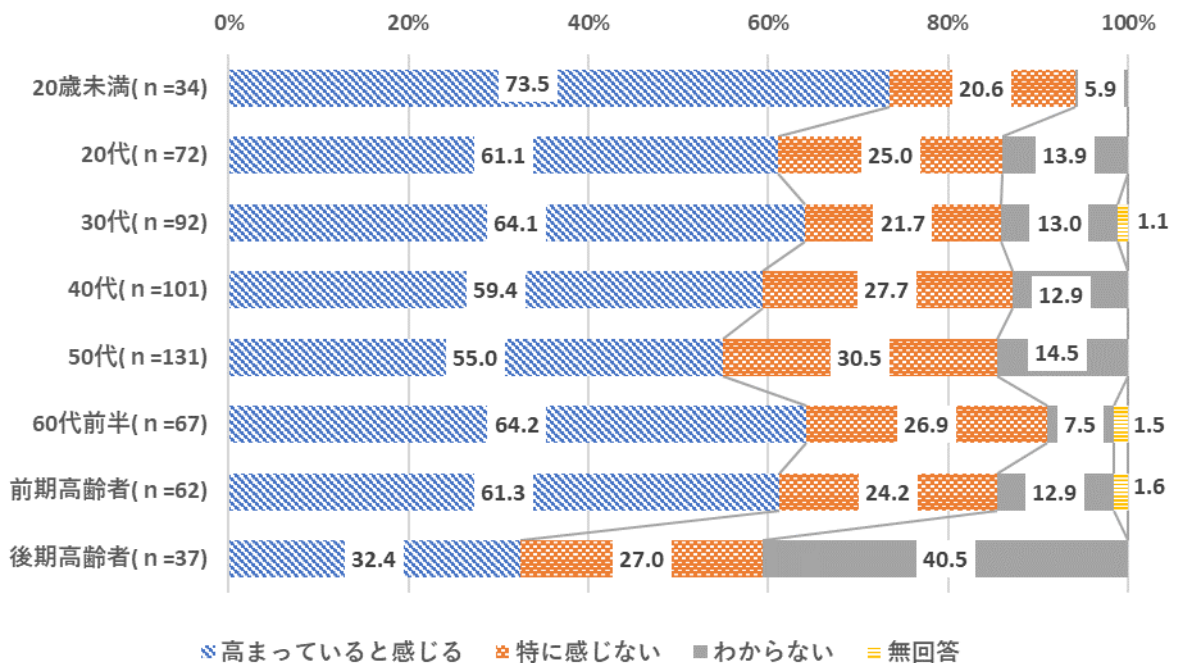
性・年代別をみると、「高まっていると感じる」が男性では30代(56.7%)、50代(56.5%)、女性では20歳未満(73.5%)が最も高くなっている。なお、男女ともに後期高齢者が「高まっていると感じる」が最も低くなっている。

図表 12-2 LGBTQへの関心(性・年代別)

【男性】

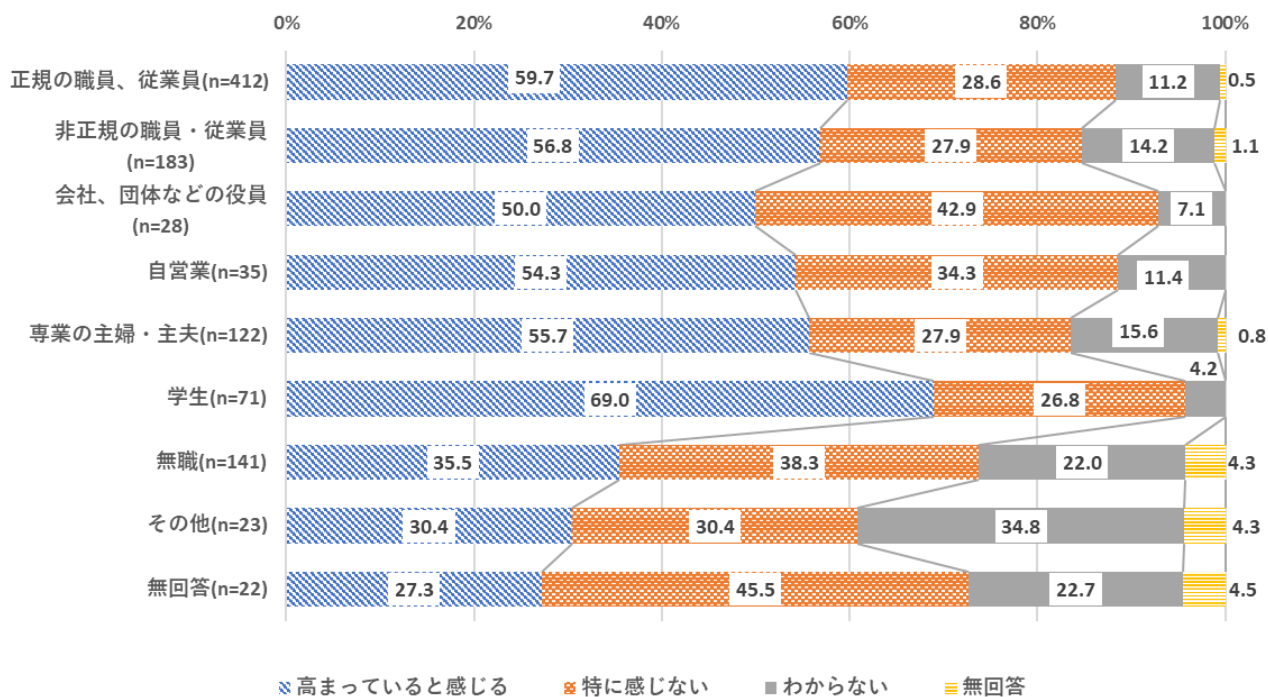


【女性】



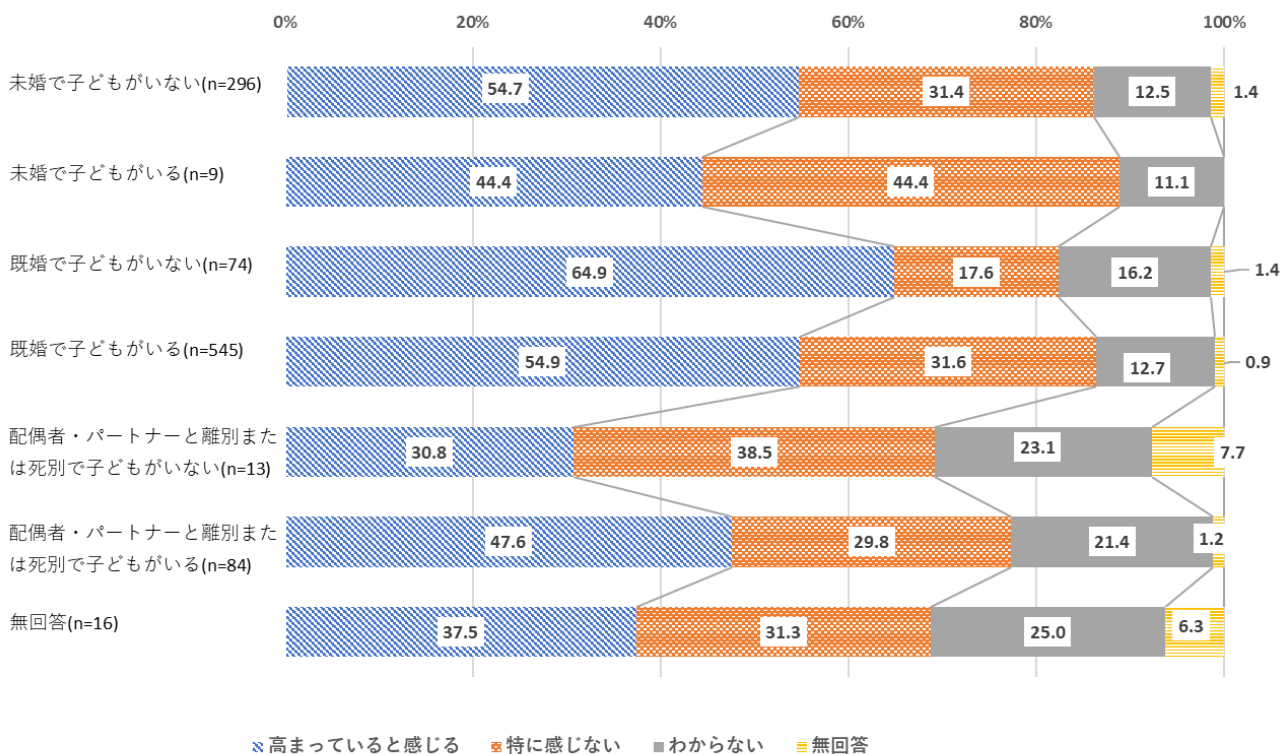
職業別をみると、「高まっていると感じる」は学生（69.0%）が最も高く、次いで、正規の職員、従業員（59.7%）、非正規の職員・従業員（56.8%）、非正規の職員・従業員（56.8%）などとなっている。

図表 12-3 LGBTQへの関心（職業別）



婚姻別をみると、「高まっていると感じる」は、既婚で子どもがいない（64.9%）が最も高く、既婚で子どもがいる（54.9%）、未婚で子どもがいない（54.7%）などと続いている。

図表 12-4 LGBTQへの関心（婚姻別）



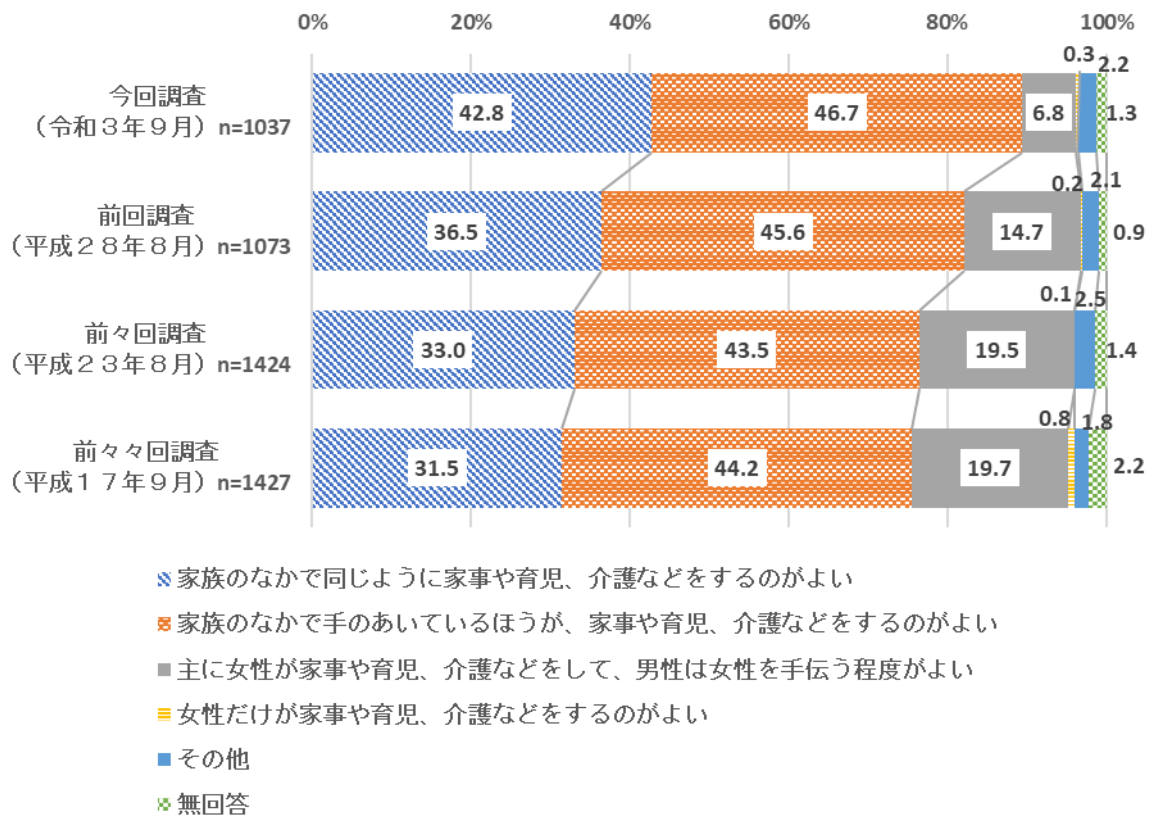


## 2 家庭生活について

### (1) 家庭内での男女の役割分担

問13 あなたは、家庭生活における役割分担について、どのようにお考えですか。  
次のうちから1つ選んでください。

【意識】



家庭生活における男女の役割分担について、日ごろの考え【意識】と実際の役割【実態】についてたずねた。

まず、【意識】としては、「家族のなかで手のあいているほうが、家事や育児、介護などをするのがよい」(46.7%)が最も高く、次いで、「家族のなかで同じように家事や育児、介護などをするのがよい」が42.8%、「主に女性が家事や育児、介護などをして、男性は女性を手伝う程度がよい」が6.8%などと続いている。

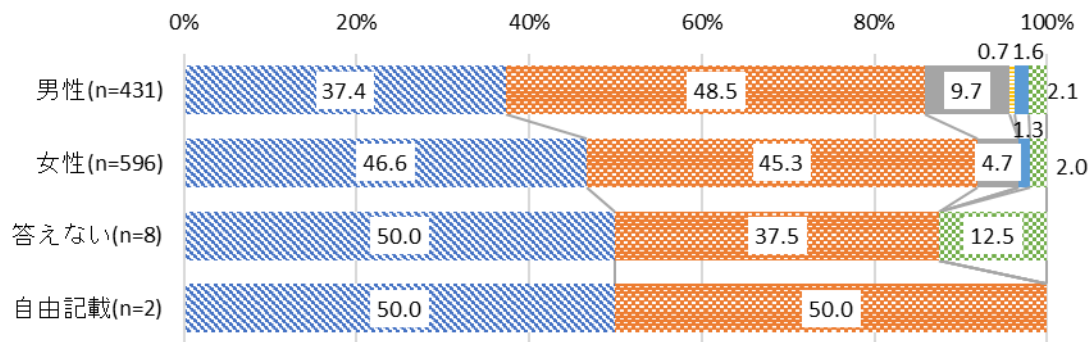
「家族のなかで同じように家事や育児、介護などをするのがよい」と「家族のなかで手のあいているほうが、家事や育児、介護などをするのがよい」を合わせた《家事協力派》は89.5%であり、平成28年度に行った「男女共生に関する市民生活調査」(以下「前回調査」という。)の82.1%よりも7.4ポイント増加している。

特に、「主に女性が家事や育児、介護などをして、男性は女性を手伝う程度がよい」が7.9ポイント減少しており、家事や育児、介護の役割分担への意識が高まっている。

また、《家事協力派》の割合は、平成17年度に行った「男女共生に関する市民生活調査」(以下「前々々回調査」という。)、平成23年度に行った「男女共生に関する市民生活調査」(以下「前々回調査」という。)と調査を重ねるにつれ、高まっていることが判明している。

性別にみると、《家事協力派》は男性が85.9%、女性が91.9%と、女性が男性を6.0ポイント上回っている。一方、「主に女性が家事や育児、介護などをして、男性は女性を手伝う程度がよい」との回答は、男性(9.7%)が女性(4.7%)を上回っており、家事や育児を共に担うべきとの意識が男性より女性の方に多くみられる。

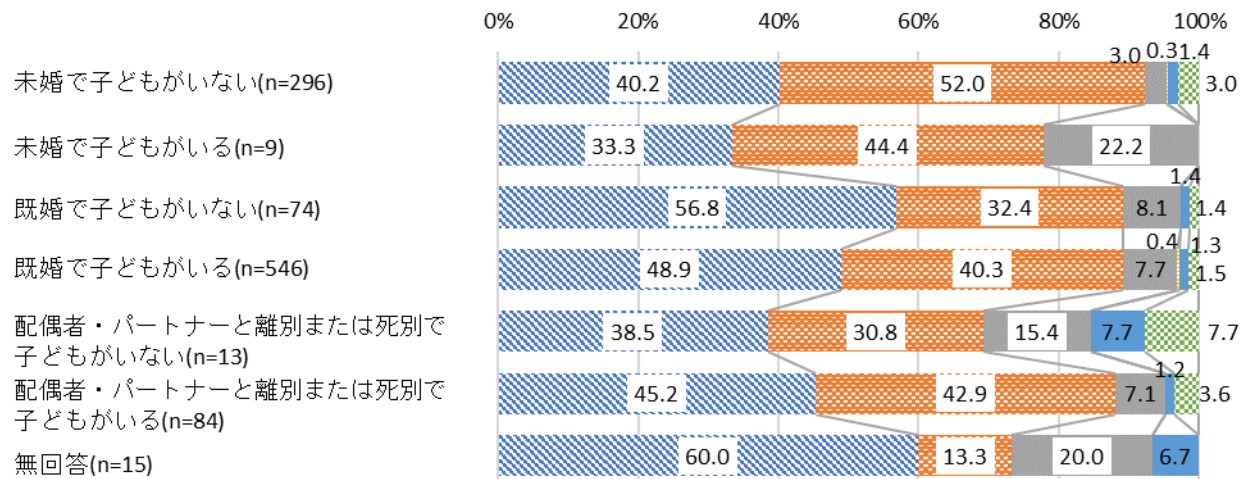
図表 13-1 家庭内での役割分担【意識】(性別)



- 家族のなかで同じように家事や育児、介護などをするのがよい
- 家族のなかで手のあいているほうが、家事や育児、介護などをするのがよい
- 主に女性が家事や育児、介護などをして、男性は女性を手伝う程度がよい
- 女性だけが家事や育児、介護などをするのがよい
- 無回答
- その他

婚姻別にみると、《家事協力派》は、「未婚で子どもがいない」が92.2%、「既婚で子どもがいない」と「既婚で子どもがいる」が89.2%などとなっている。

図表 13-2 家庭内での役割分担【意識】(婚姻別)



- 家族のなかで同じように家事や育児、介護などをするのがよい
- 家族のなかで手のあいているほうが、家事や育児、介護などをするのがよい
- 主に女性が家事や育児、介護などをして、男性は女性を手伝う程度がよい
- 女性だけが家事や育児、介護などをするのがよい
- 無回答
- その他

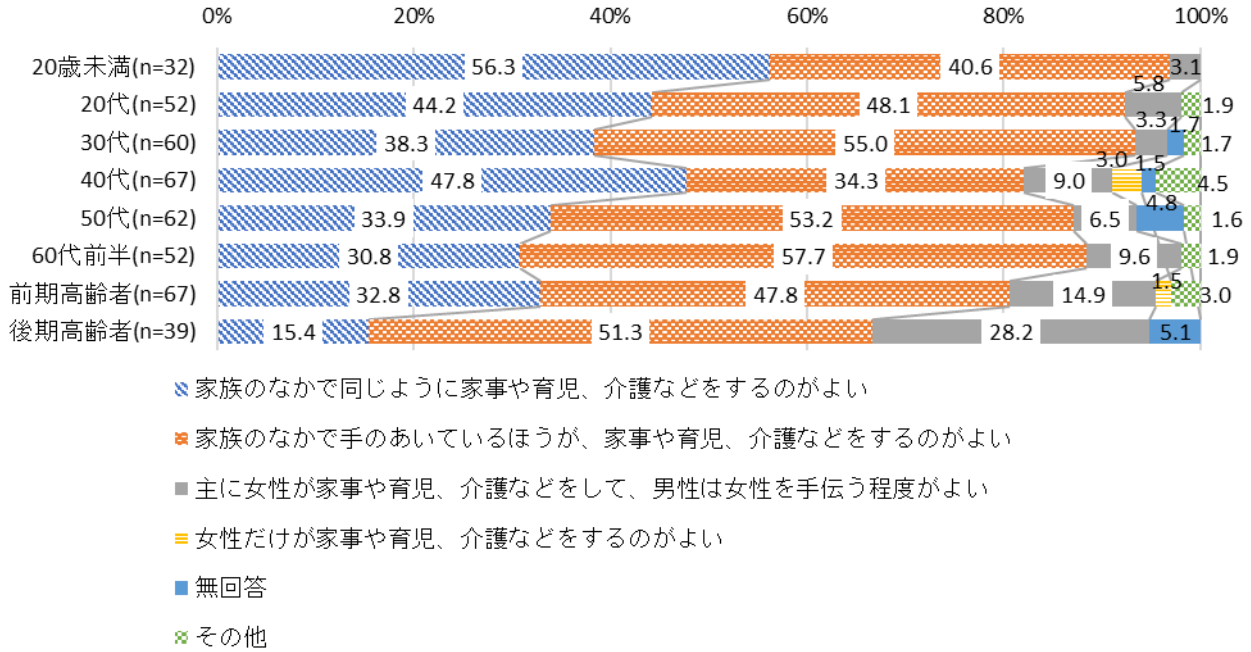


性・年代別にみると、「家族のなかで同じように家事や育児、介護などをするのがよい」との回答は男女ともに若年層に多い傾向がみられ、特に20代の女性で68.1%となっている。また《家事協力派》は、男女の「後期高齢者」を除く全ての年代で8割を超えている。

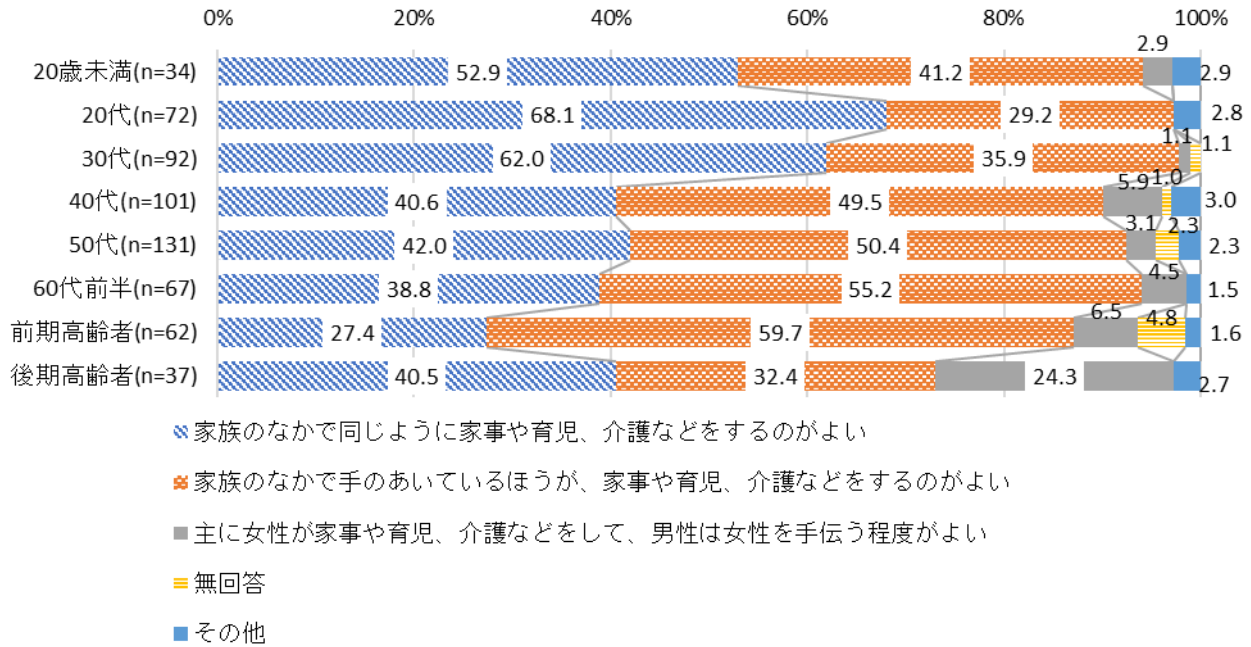
一方、「主に女性が家事や育児、介護などをして、男性は女性を手伝う程度がよい」は男女とも前期・後期高齢者で高い傾向がみられる。

図表 13-3 家庭内での役割分担【意識】（性・年代別）

【男 性】

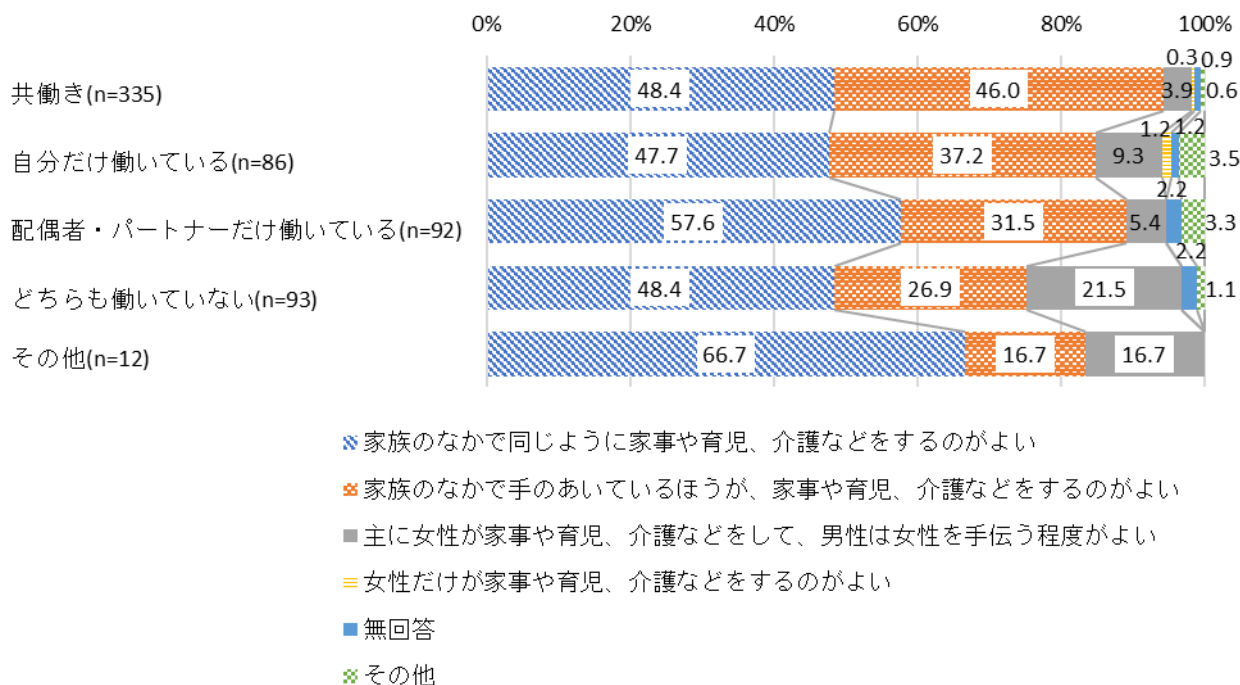


【女 性】



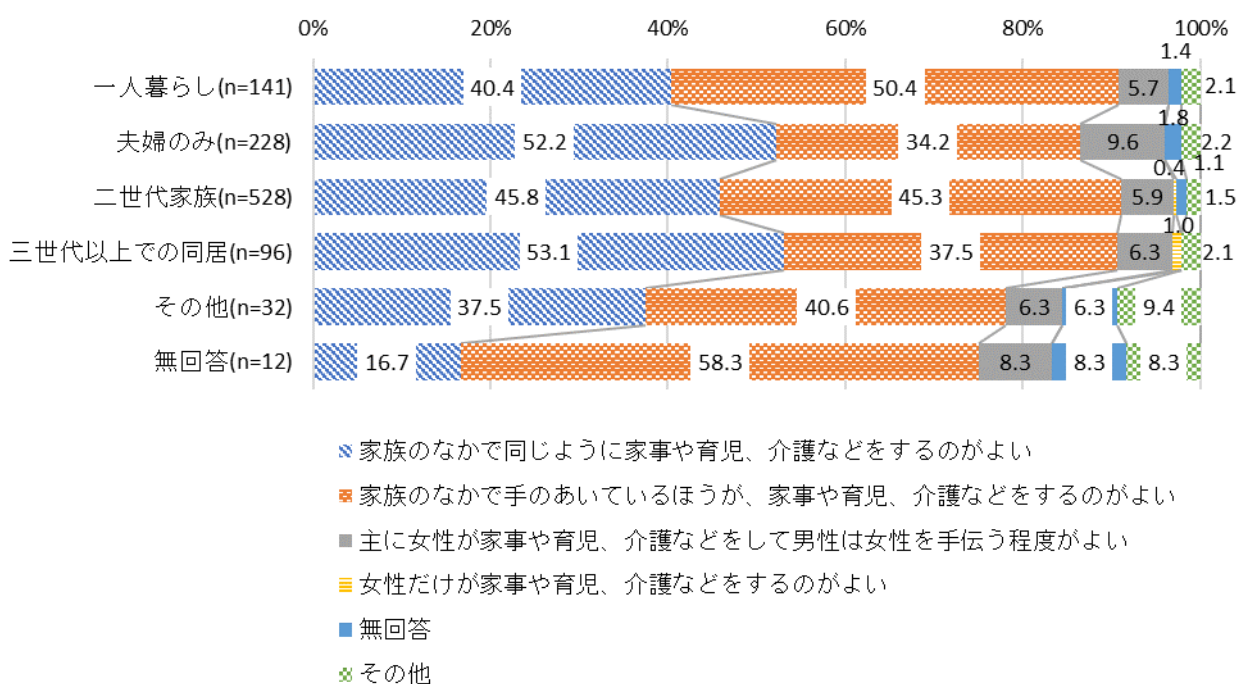
労働状況別にみると、『共働きである』の家庭では、「家族のなかで同じように家事や育児、介護などをするのがよい」（46.0%）、「家族のなかで手のあいているほうが、家事や育児、介護などをすればよい」（48.4%）の両方あわせた《家事協力派》は、約9割を超えており、『自分だけ働いている』と『配偶者・パートナーだけ働いている』家庭でも8割を超えている。『どちらも働いていない』の家庭では、「主に女性が家事や育児、介護などをして男性は女性を手伝う程度がよい」が約2割を占めて、他の家庭よりも高くなっている。

図表 13-4 家庭内での役割分担【意識】（労働状況別）



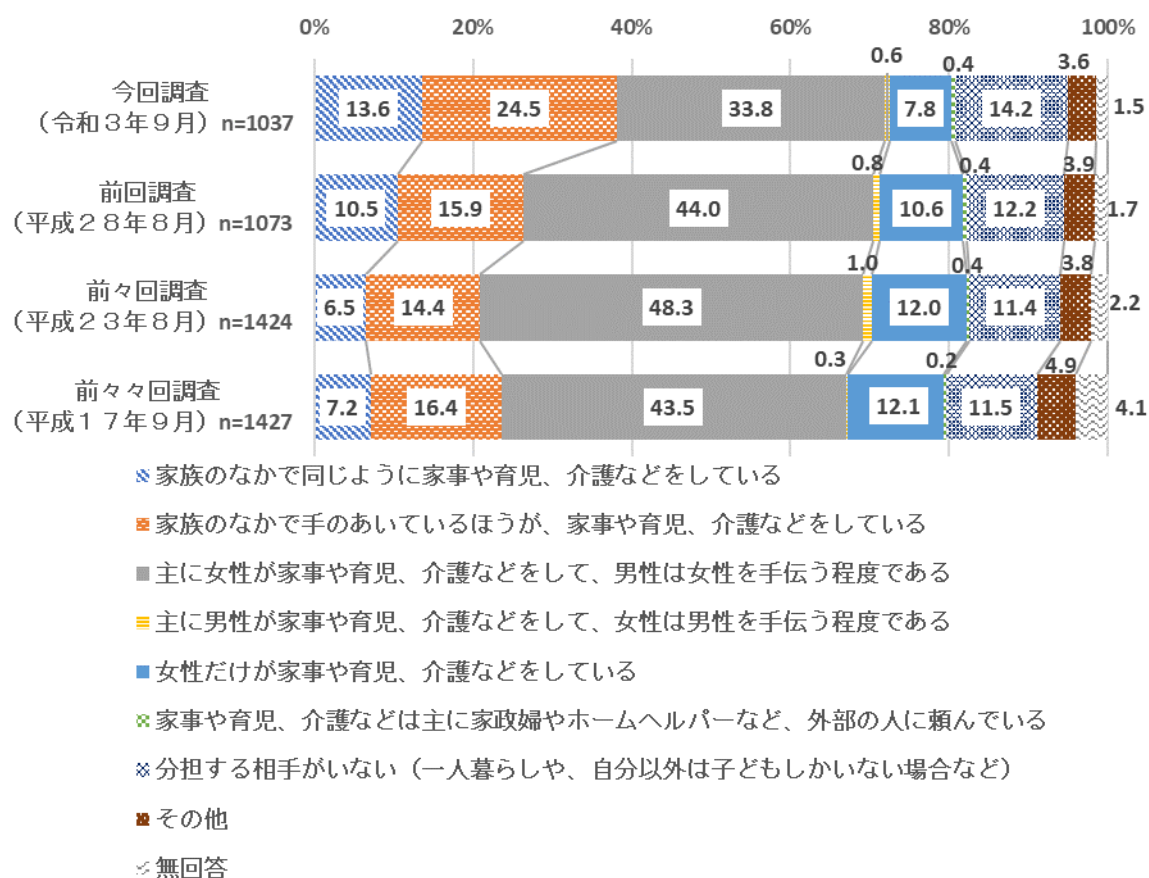
家族形態別にみると、《家事協力派》は、ほぼ全ての家族形態で7割を超えている。「家族のなかで手のあいているほうが、家事や育児、介護などをするのがよい」は、『三世代以上での同居』（53.1%）が最も高く、次いで、『夫婦のみ』（52.2%）、『二世世代家族』（45.8%）、『一人暮らし』（40.4%）となっている。

図表 13-5 家庭内での役割分担【意識】（家族形態別）



問14 あなたのご家庭の実際の役割分担はどのようになっていますか。次のうちから1つ選んでください。

【実態】



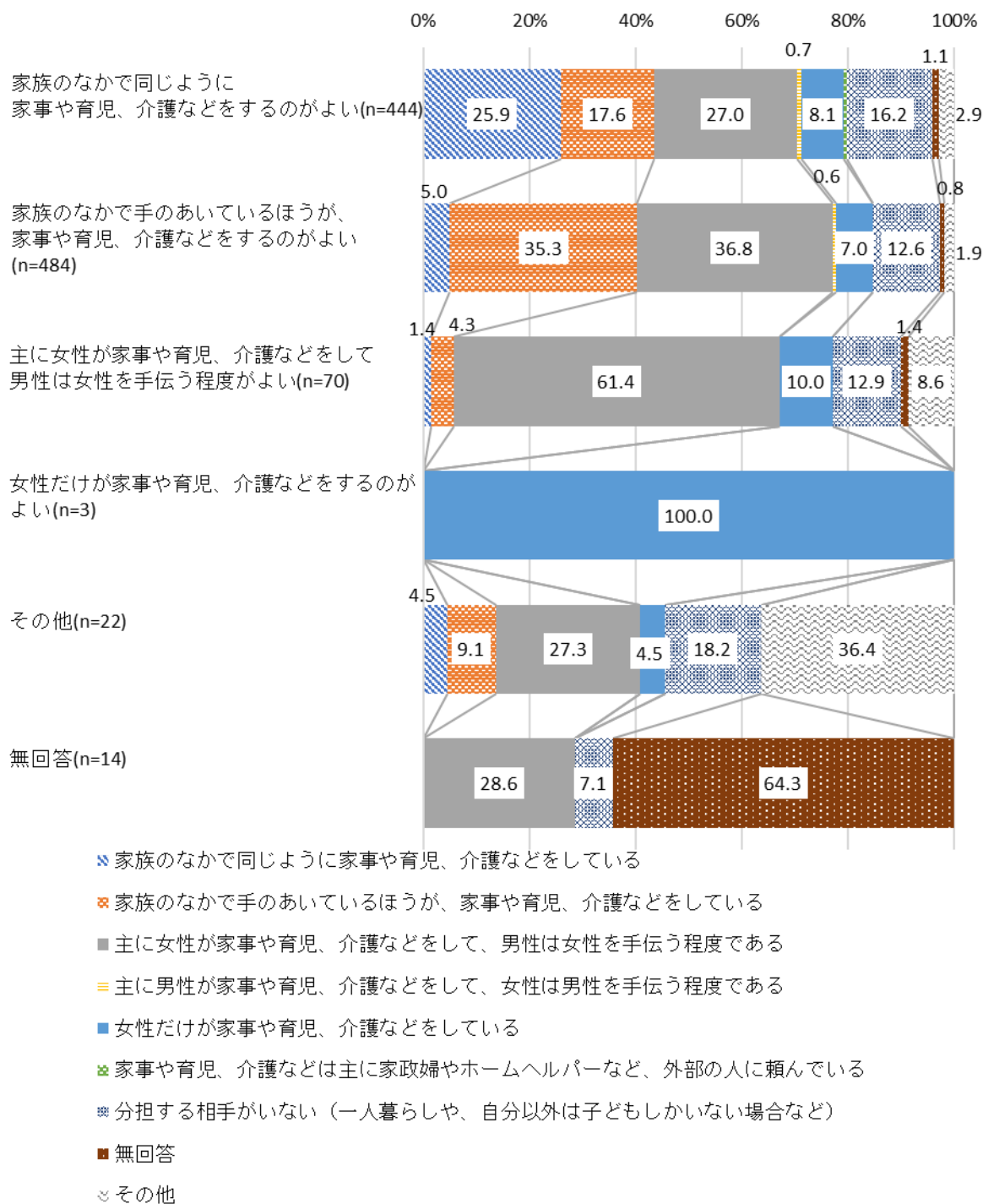
次に、【実態】としての役割分担をみると、「主に女性が家事や育児、介護などをして、男性は女性を手伝う程度である」(33.8%)が最も高く、次いで、「家族のなかで手のあいているほうが、家事や育児、介護などをしている」が24.5%、「分担する相手がいない。(一人暮らしや、自分以外は子どもしかいない場合など)」が14.2%、「家族のなかで同じように家事や育児、介護などをしている」は13.6%、「女性だけが家事や育児、介護などをしている」は7.8%などと続いている。

前回調査と比較すると「家族のなかで同じように家事や育児、介護などをしてしている」では、3.1ポイント増加している。

また、「家族のなかで同じように家事や育児、介護などをしてしている」と「家族のなかで手のあいているほうが、家事や育児、介護などをしてしている」を合わせた《家事協力派》は38.1%で、前回調査の26.4%から11.7ポイント、前々回調査から17.2ポイント、前々々回調査から14.5ポイント増加している。

前問の【意識】における回答別（以下「性別役割分担意識別」という。）に【実態】をみると、【意識】において「家族のなかで同じように家事や育児、介護などをするのがよい」と回答していたが、「主に女性が家事・育児、介護などをして男性は女性を手伝う程度がよい」が27.0%となっている。【意識】において「家族のなかで手のあいているほうが、家事や育児、介護などをするのがよい」と回答していたが、「主に女性が家事・育児、介護などをして男性は女性を手伝う程度がよい」が36.8%となっている。

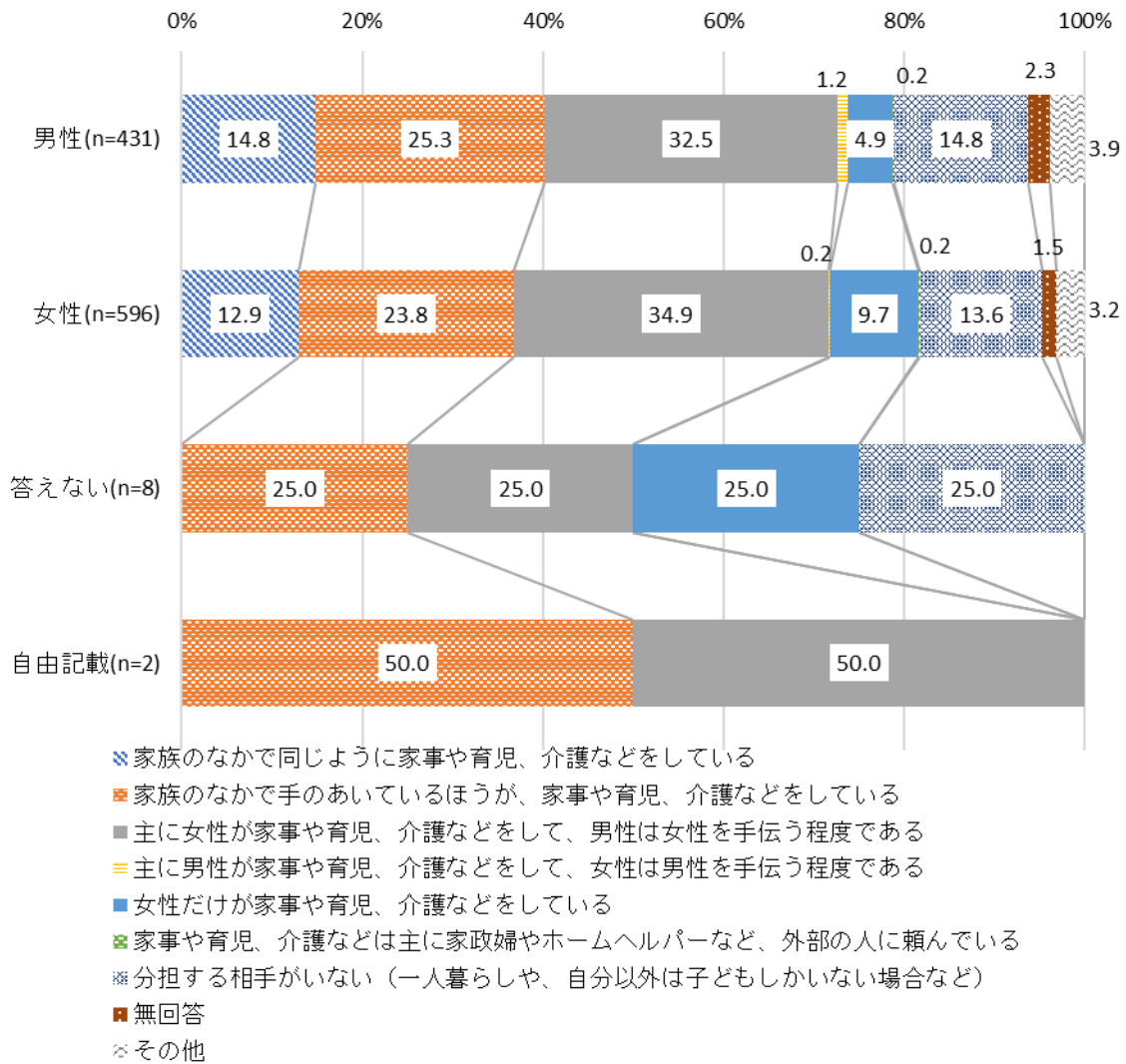
図表 14-1 家庭内での役割分担【実態】（性別役割分担意識別）





性別にみると、男性では《家事協力派》は40.1%であるが、女性では36.7%となっている。一方、「女性だけが家事や育児、介護などをしている」との回答は、男性は4.9%であるが、女性は9.7%となっており、家庭における役割分担の実態認識に差がみられる。

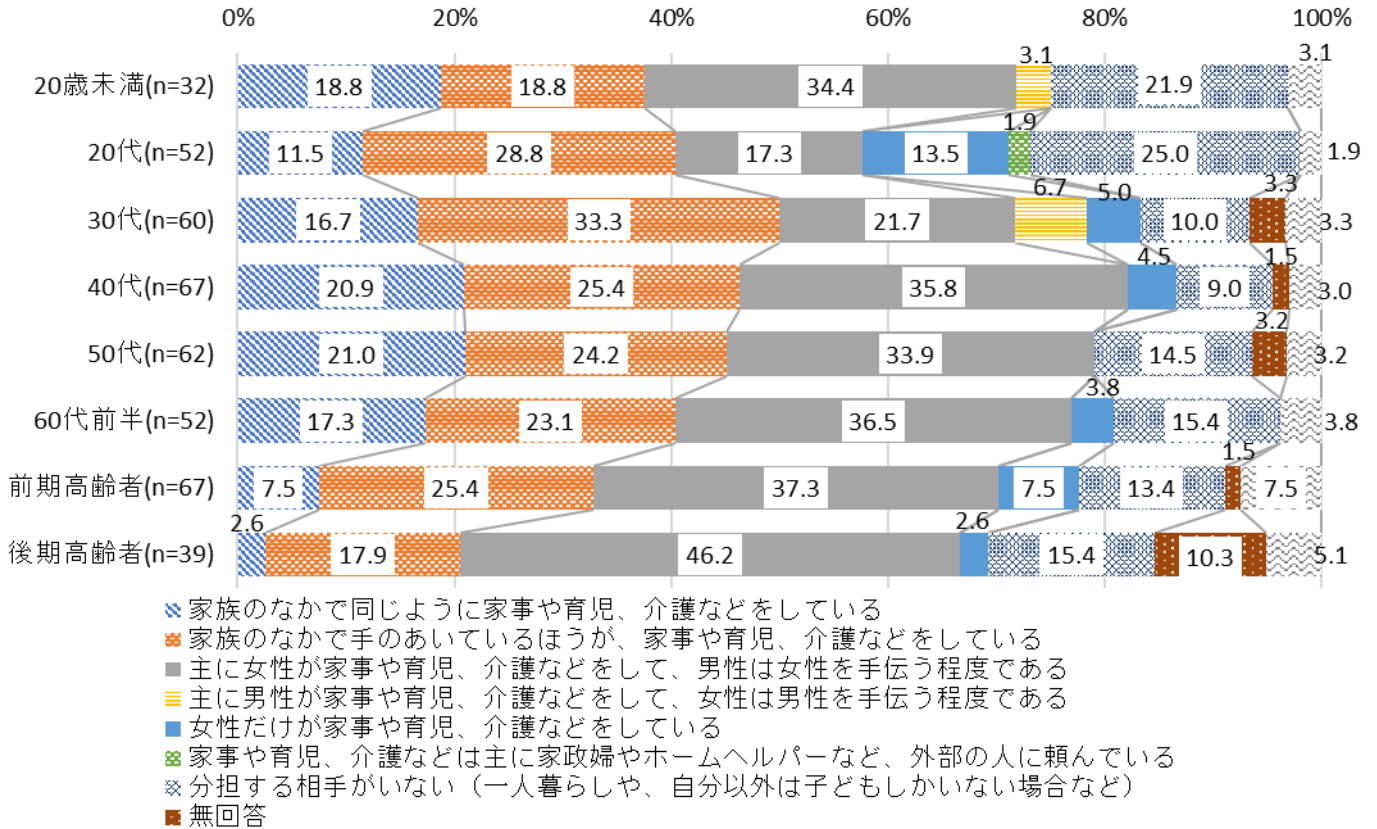
図表 14-2 家庭内での役割分担【実態】(性別)



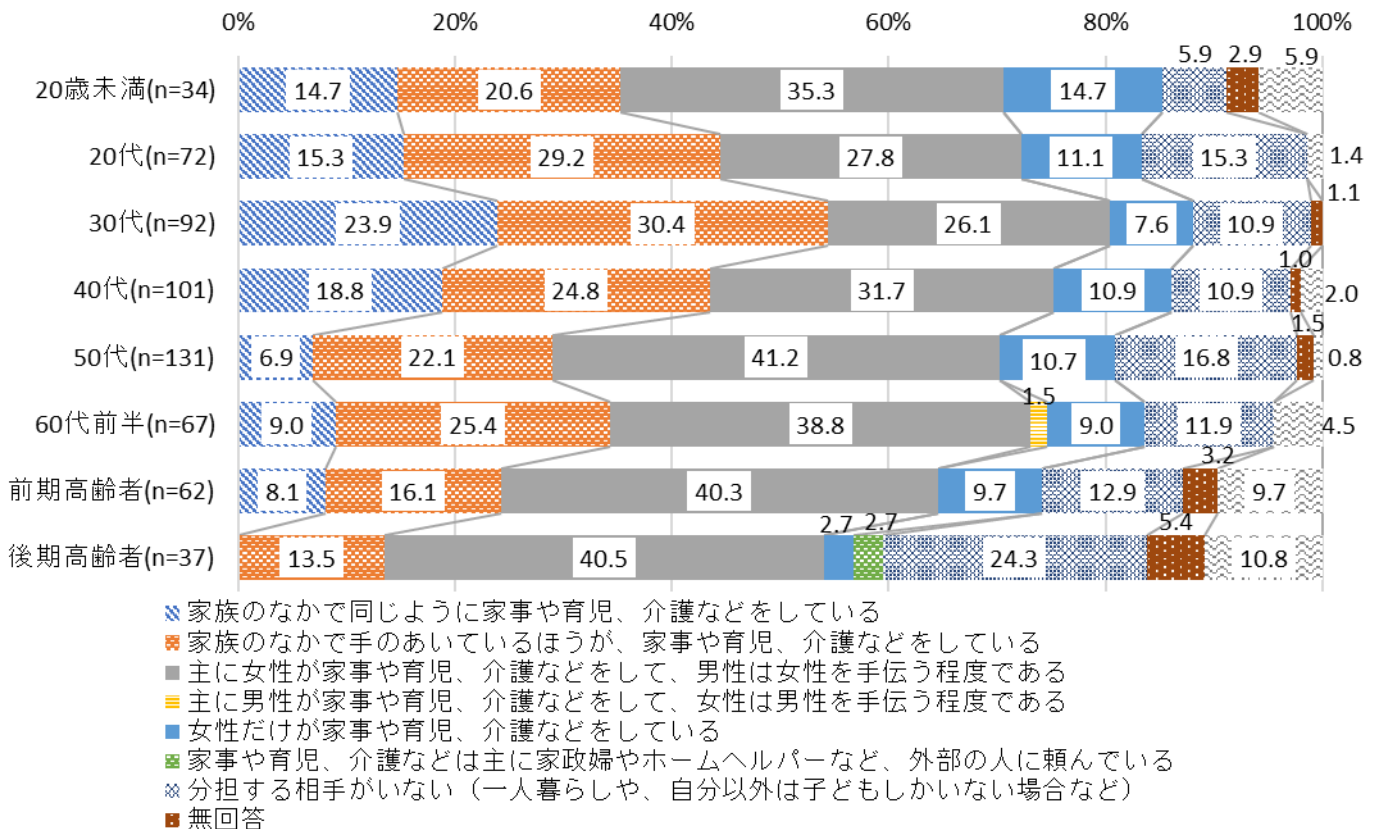
性・年代別にみると、《家事協力派》は、男性の30代（50.0%）が他の年代に比べ高くなっている。  
 また、「主に女性が家事や育児、介護などをして、男性は女性を手伝う程度である」では、男性の後期高齢者（46.2%）、女性の50代（41.2%）が他の年代に比べ高くなっている。  
 一方「女性だけが家事や育児、介護などをしている」では、男性の20代（13.5%）が他の年代に比べ高く、女性では20歳未満（14.7%）が最も高くなっている。

図表 14-3 家庭内での役割分担【実態】（性・年代別）

【男性】

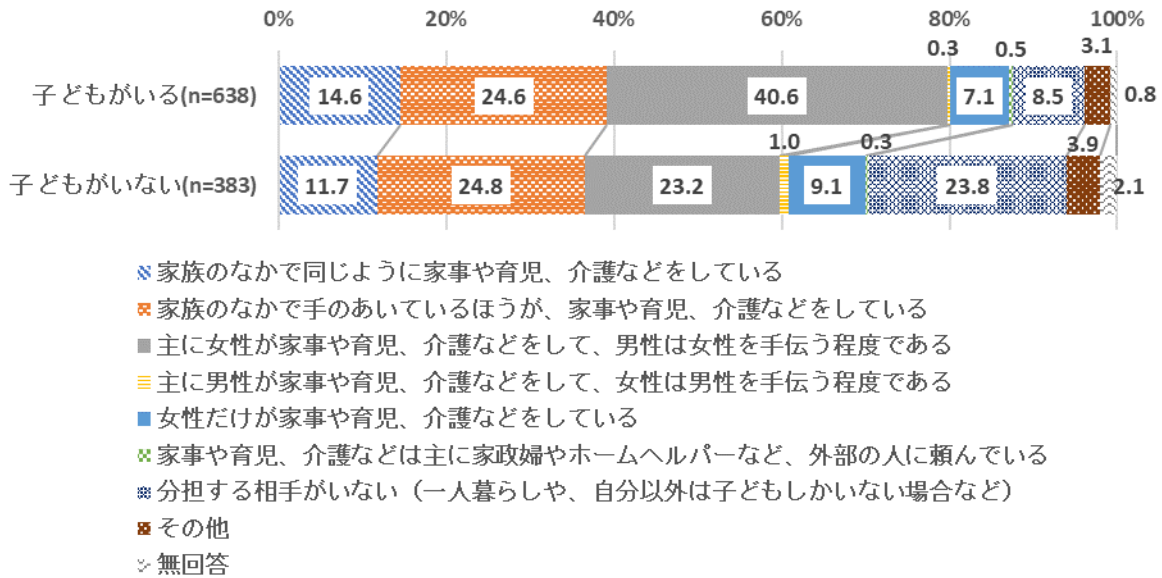


【女性】



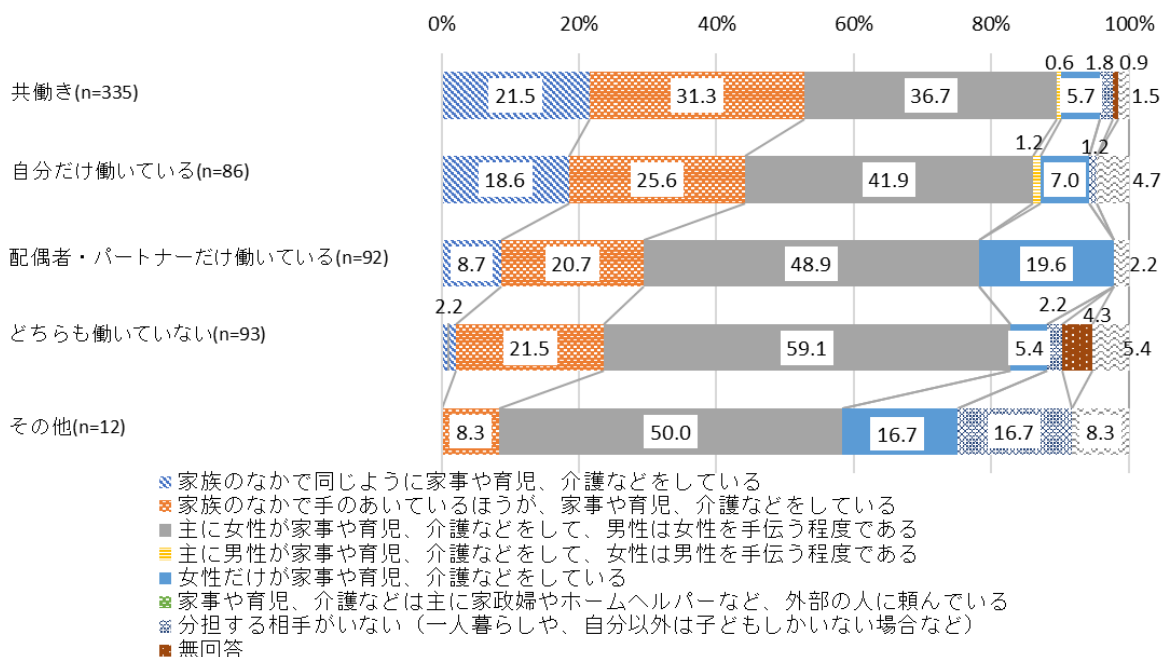
子どもの有無別にみると、「子どもがいる」では、「主に女性が家事や育児、介護などをして、男性は女性を手伝う程度である」が 40.6%で最も高く、次いで「家族のなかで手のあいているほうが、家事や育児、介護などをしている」が 24.6%などとなっている。「子どもがいない」では、「家族のなかで手のあいているほうが、家事や育児、介護などをしている」が 24.8%で最も高く、次いで「分担する相手がいない（一人暮らしや、自分以外は子どもしかいない場合など）」が 23.8%などとなっている。

図表 14-4 家庭内での役割分担【実態】（子どもの有無別）



労働状況別にみると、「家族のなかで同じように家事や育児、介護などをしている」との回答は、『共働き』（21.5%）が最も高く、次いで、『自分だけ働いている』（18.6%）、『配偶者・パートナーだけ働いている』（8.7%）と続いている。《家事協力派》については、『共働きである』（52.8%）が最も多く、次いで『自分だけ働いている』（44.2%）などと続いている。一方、「主に女性が家事や育児、介護などをして、男性は女性を手伝う程度である」と「女性だけが家事や育児、介護などをしている」合わせた《女性主体派》の回答は、『配偶者・パートナーだけ働いている』（68.5%）が最も高く、次いで『どちらも働いていない』（64.5%）となっており、全ての労働状況において、主として女性が家事や育児、介護を担っている家庭《女性主体派》が高くなっている。

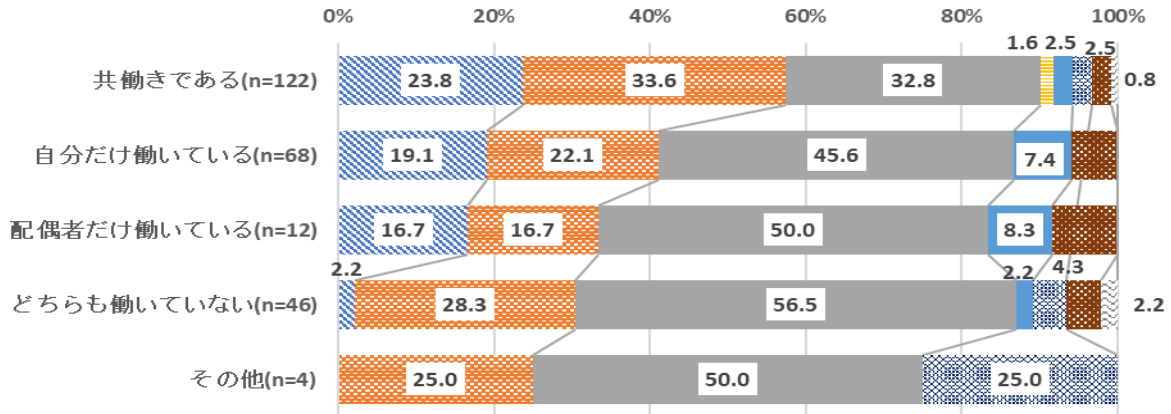
図表 14-5 家庭内での役割分担【実態】（労働状況別）



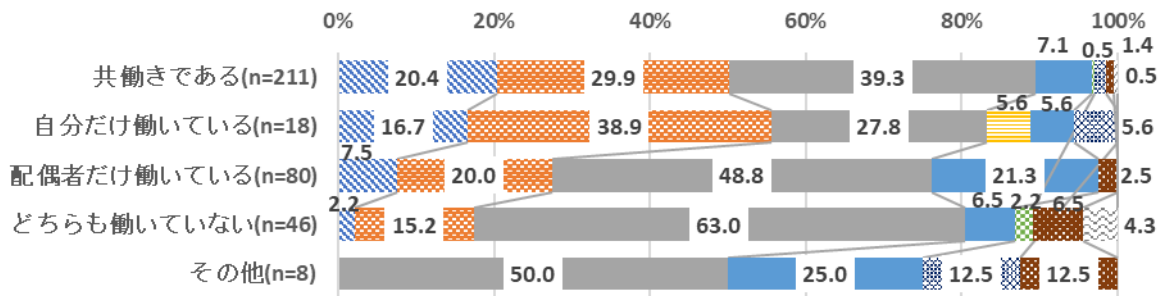
労働状況別・性別をみると、『共働きである』と回答した男性で「女性だけが家事や育児、介護などをしている」が 2.5%となっている。また、『共働きである』と回答した女性で「女性だけが家事や育児、介護などをしている」が 7.1%となっており、男女差がみられる。

図表 14-6 家庭内での役割分担【実態】（労働状況別・性別）

【男性】



【女性】

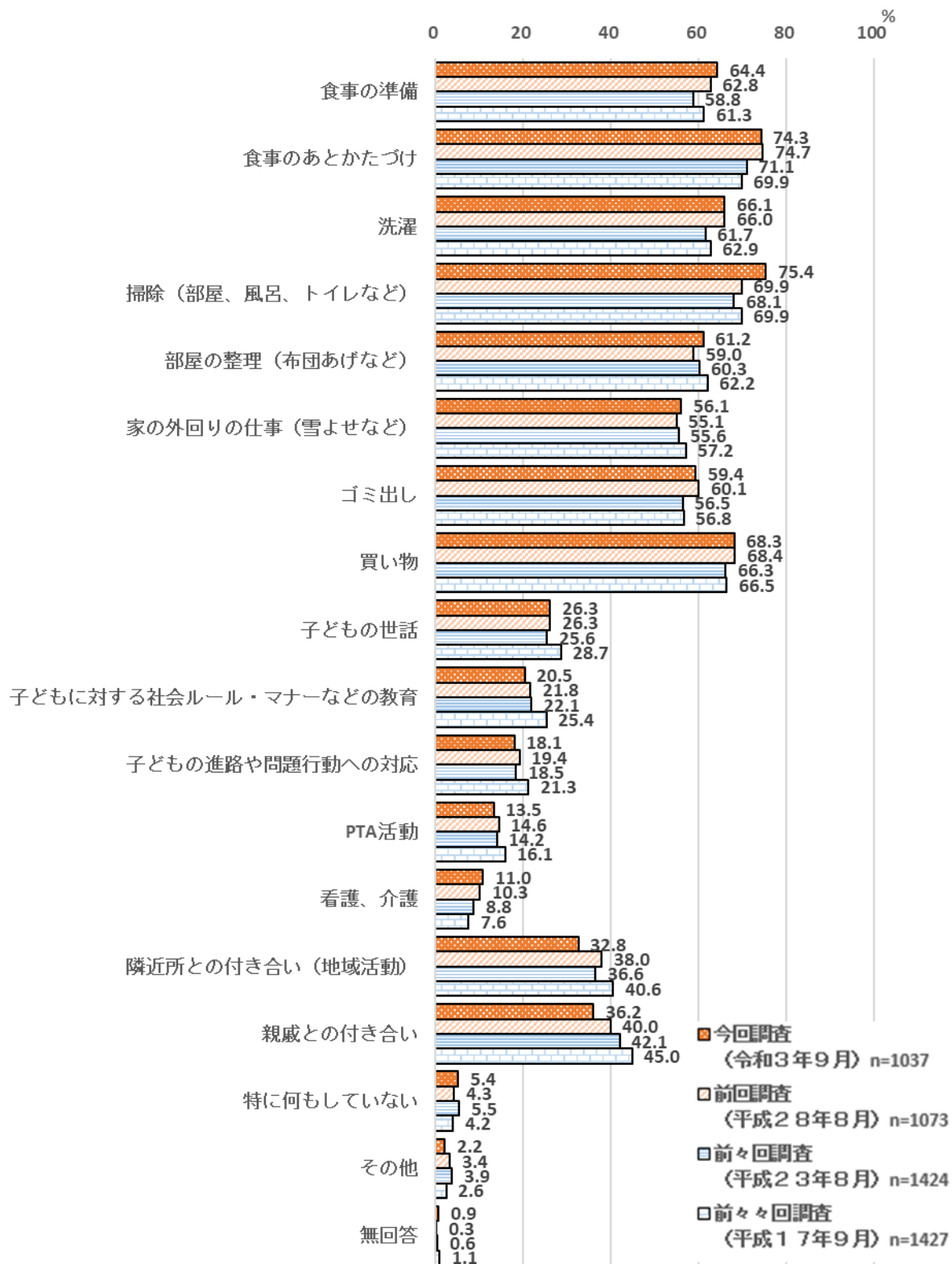


- ※ 家族のなかで同じように家事や育児、介護などをしている
- ※ 家族のなかで手のあいているほうが、家事や育児、介護などをしている
- 主に女性が家事や育児、介護などをして、男性は女性を手伝う程度である
- 主に男性が家事や育児、介護などをして、女性は男性を手伝う程度である
- 女性だけが家事や育児、介護などをしている
- ※ 家事や育児、介護などは主に家政婦やホームヘルパーなど、外部の人に頼んでいる
- ※ 分担する相手がいない（一人暮らしや、自分以外は子どもしかいない場合など）
- その他
- ※ 無回答



## (2) 家庭内の仕事

問15 あなたが普段行っている家庭の仕事はどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。



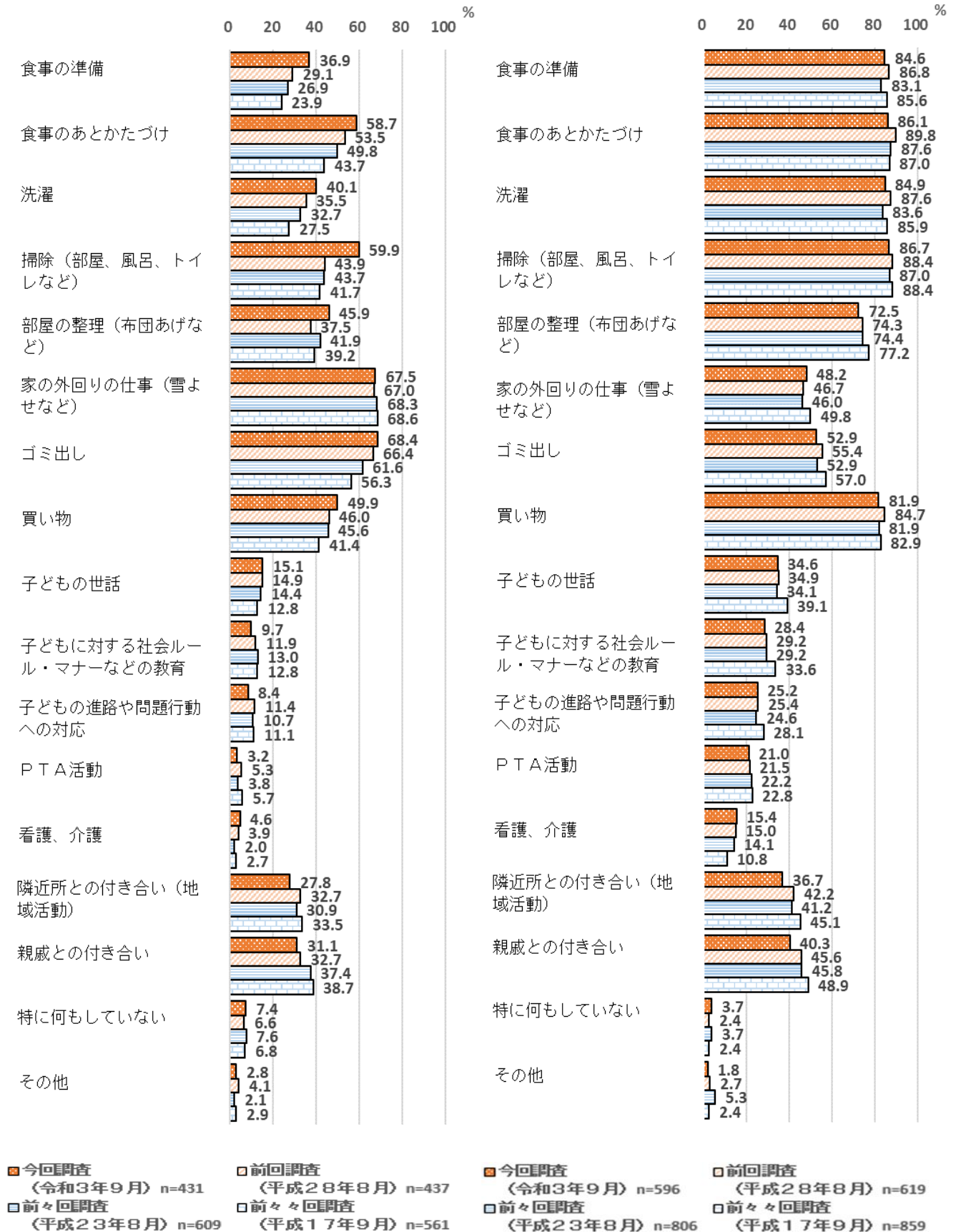
普段行っている家庭の仕事をたずねたところ、「掃除 (部屋、風呂、トイレなど) (75.4%) が最も高く、次いで「食事のあとかたづけ」が74.3%、「買い物」が68.3%となっている。上位3項目をみると、「掃除 (部屋、風呂、トイレなど) は前回調査から5.5ポイント、前々回調査から7.3ポイント上昇している。「食事のあとかたづけ」は前回調査から0.4ポイント減少、前々回調査から3.2ポイント上昇している。「買い物」は前回調査から0.1ポイント減少、前々回調査から2.0ポイント上昇している。

性別をみると、男性では、「ゴミ出し」が68.4%と最も高く、次いで「家の外回りの仕事（雪よせなど）」が67.5%、「掃除（部屋、風呂、トイレなど）」が59.9%などとなっている。女性では、「掃除（部屋、風呂、トイレなど）」、「食事のあとかたづけ」、「洗濯」、「食事の準備」、「買い物」が8割を超えている。

図表 15-1 家庭内の仕事（性別）

【男性】

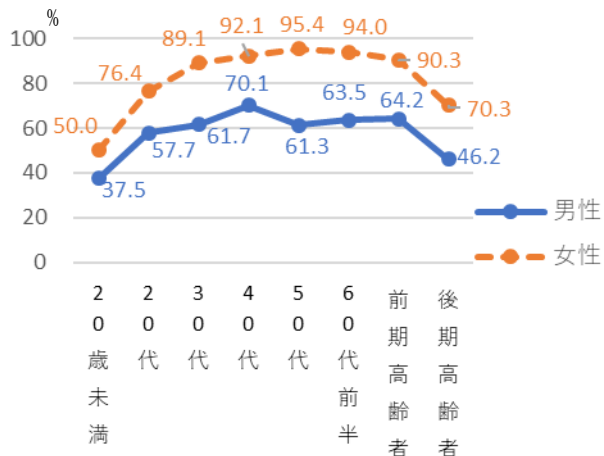
【女性】



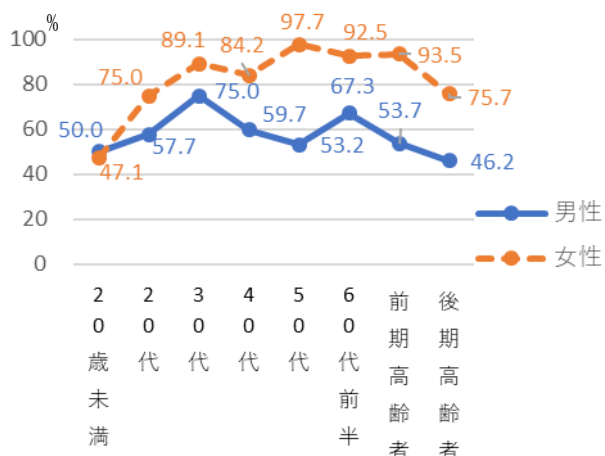
上位6項目について性・年代別にみると、第1位の「掃除（部屋、風呂、トイレなど）」、第4位の「洗濯」、第6位の「部屋の整理（布団あげなど）」は、全ての年代で女性が男性を上回っている。第2位の「食事のあとかたづけ」、第3位の「買い物」、第5位の「食事の準備」は20歳未満で男性が女性を上回っているが、他の年代では女性が男性を上回っている。

図表 15-2 家庭内の仕事（性・年代別）

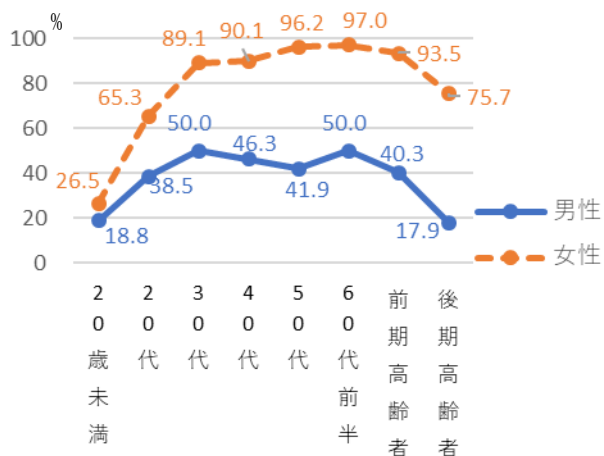
<1位> 掃除（部屋、風呂、トイレなど）



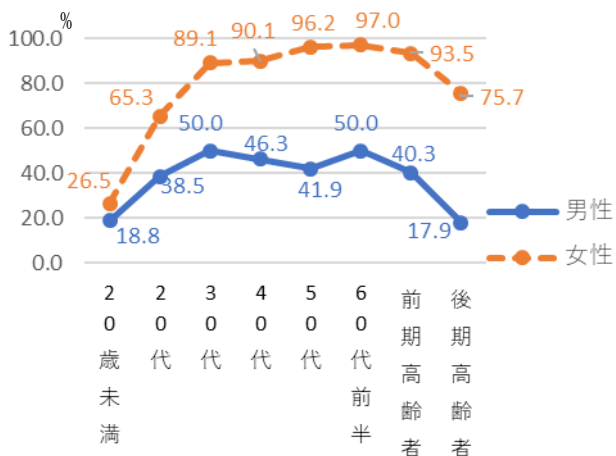
<2位> 食事のあとかたづけ



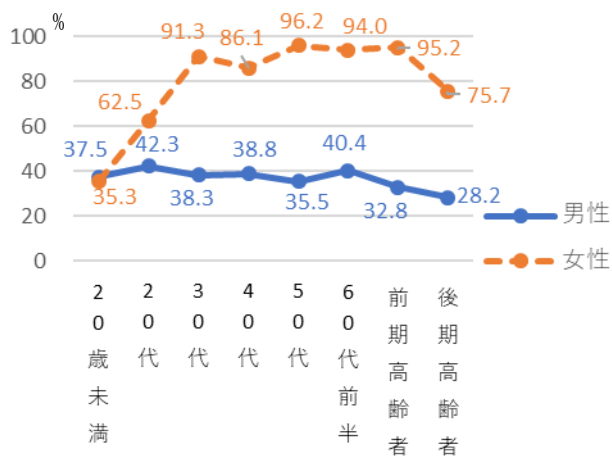
<3位> 買い物



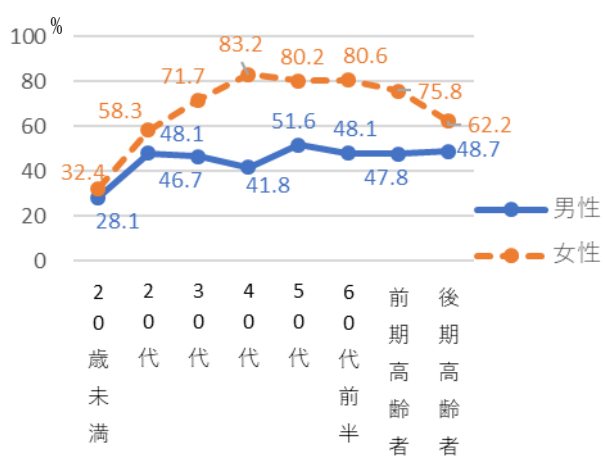
<4位> 洗濯



<5位> 食事の準備



<6位> 部屋の整理（布団あげなど）



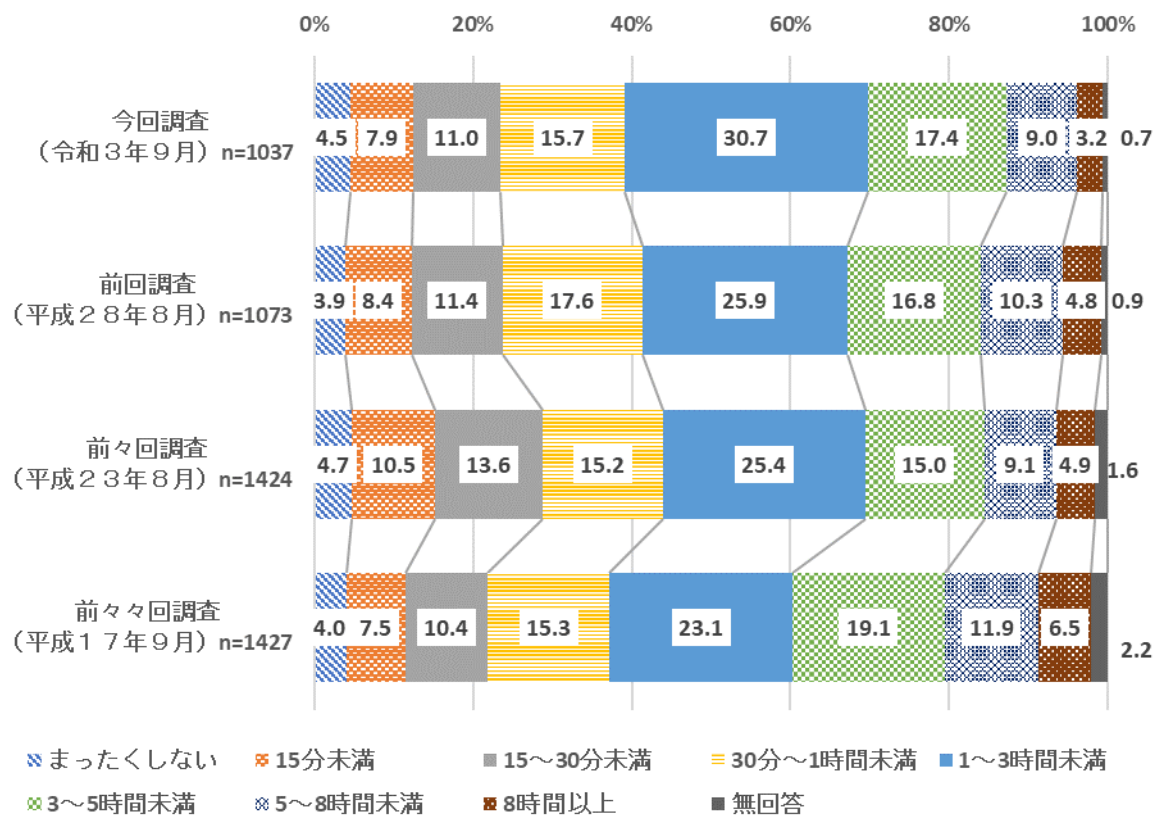
男性 (N=12) (N=30) (N=37) (N=47) (N=38) (N=33) (N=43) (N=18)

女性 (N=17) (N=55) (N=82) (N=93) (N=125) (N=63) (N=56) (N=26)

※上位6項目のみ

### (3) 家事従事時間

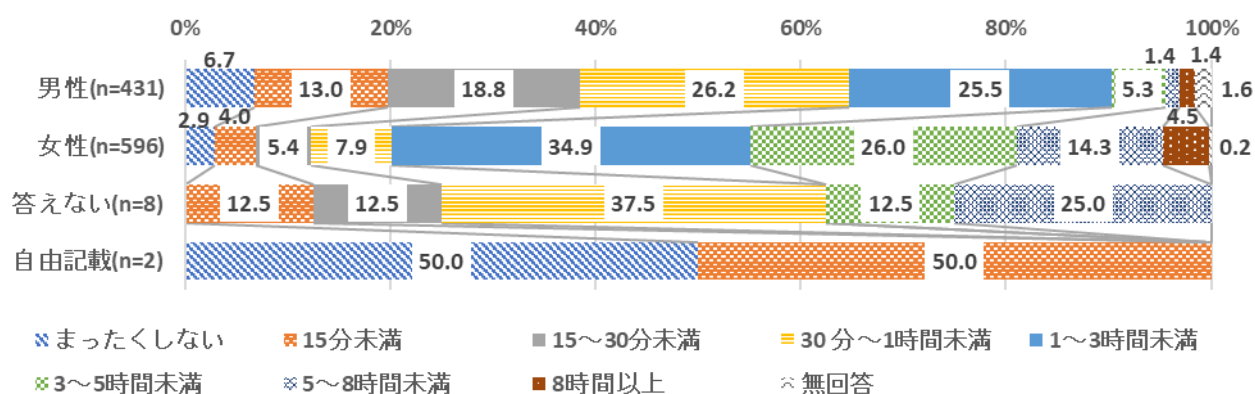
問16 あなたは普段、1日のうちどれくらい家庭の仕事をしていますか。次のうちから1つ選んでください。



家事従事時間についてたずねたところ、「1時間～3時間未満」が30.7%で最も高く、次いで、「3時間～5時間未満」が17.4%、「30分～1時間未満」が15.7%、「15分～30分未満」が11.0%、「5時間～8時間未満」が9.0%と続いている。前回調査と比較すると、「1時間～3時間未満」が4.8ポイント、「3時間～5時間未満」が0.6ポイント増加した。前々回調査と比較すると、「1時間～3時間未満」が5.3ポイント、「3時間～5時間未満」が2.4ポイント増加した。

性別にみると、男性は「30分～1時間未満」が26.2%で最も高く、「1時間～3時間未満」、「15分～30分未満」と続いている。女性では「1時間～3時間未満」が34.9%で最も高く、「3時間～5時間未満」が26.0%、「5時間～8時間未満」が14.3%となっている。「まったくしない」、「15分未満」、「15分～30分未満」「30分～1時間未満」を合わせた《1時間未満》の割合は、男性では64.7%となっているが、女性では20.2%となっており、女性の家事従事時間が長い傾向がみられる。

図表 16-1 家事従事時間（性別）

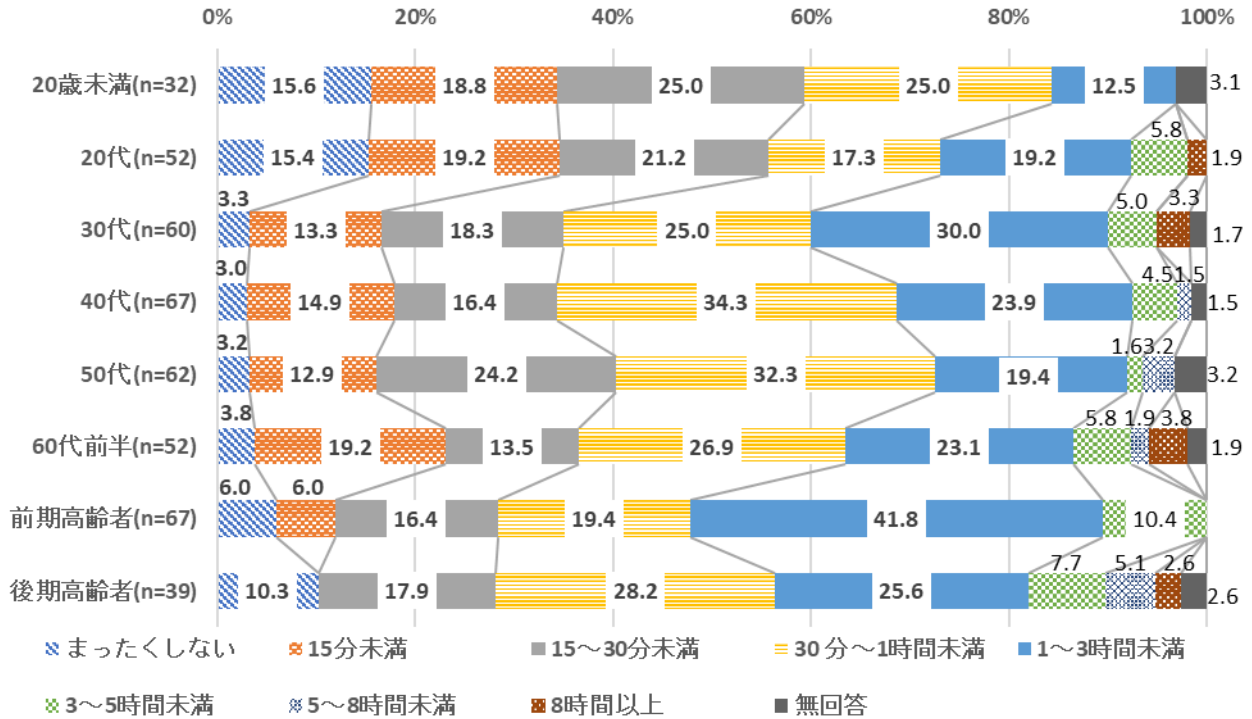




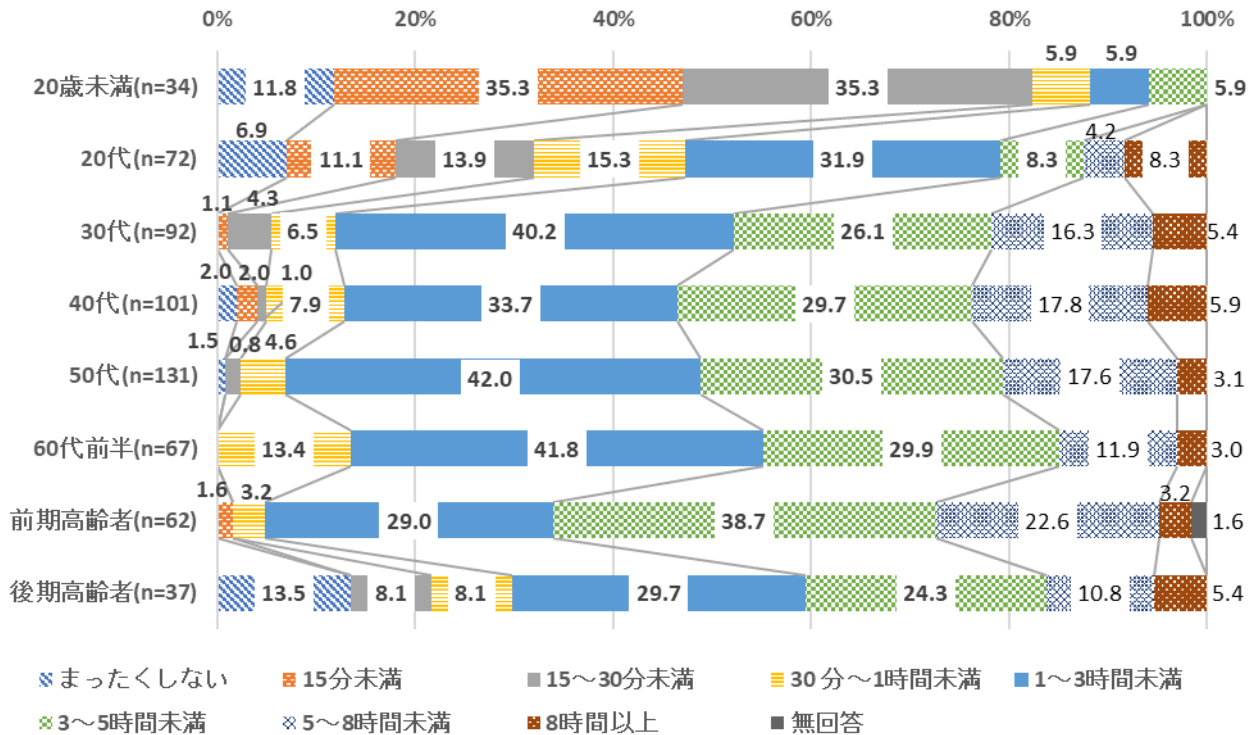
性・年代別にみると、男性では「30分～1時間未満」は40代(34.3%)が最も高く、次いで50代(32.3%)、などと続いており、「1時間～3時間未満」は前期高齢者(41.8%)が最も高くなっている。女性では、「1時間～3時間未満」は50代(42.0%)、60代前半(41.8%)、30代(40.2%)で4割を超えている。また、「3時間～5時間未満」の割合は30代から後期高齢者まで2～4割となっている。

図表 16-2 家事従事時間（性・年代別）

【男性】



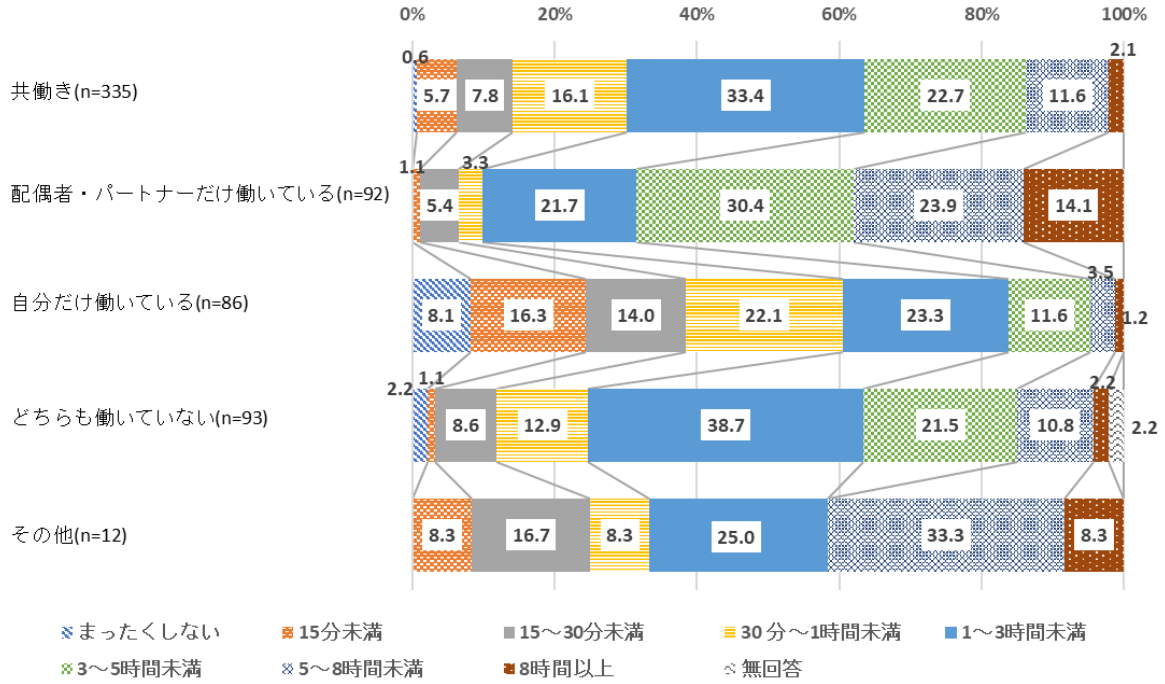
【女性】



労働状況別にみると、『自分だけ働いている』では「1～3時間未満」(23.3%)が最も高いが、6割が「1時間未満である」と回答している。『共働きである』と『どちらも働いていない』では「1時間～3時間未満」が3割を超えている。また、『配偶者・パートナーだけ働いている』では「1時間未満である」が9.8%と少なく、約9割が「1時間以上である」と回答している。その内「8時間以上」家事に従事している人が14.1%となっている。

労働状況別をさらに男女別でみると、『自分だけ働いている』と回答した男性の72.0%が「1時間未満である」のに対し、『自分だけ働いている』と回答した女性の「1時間未満である」は16.7%と低く、家事従事時間に大きな差がみられる。

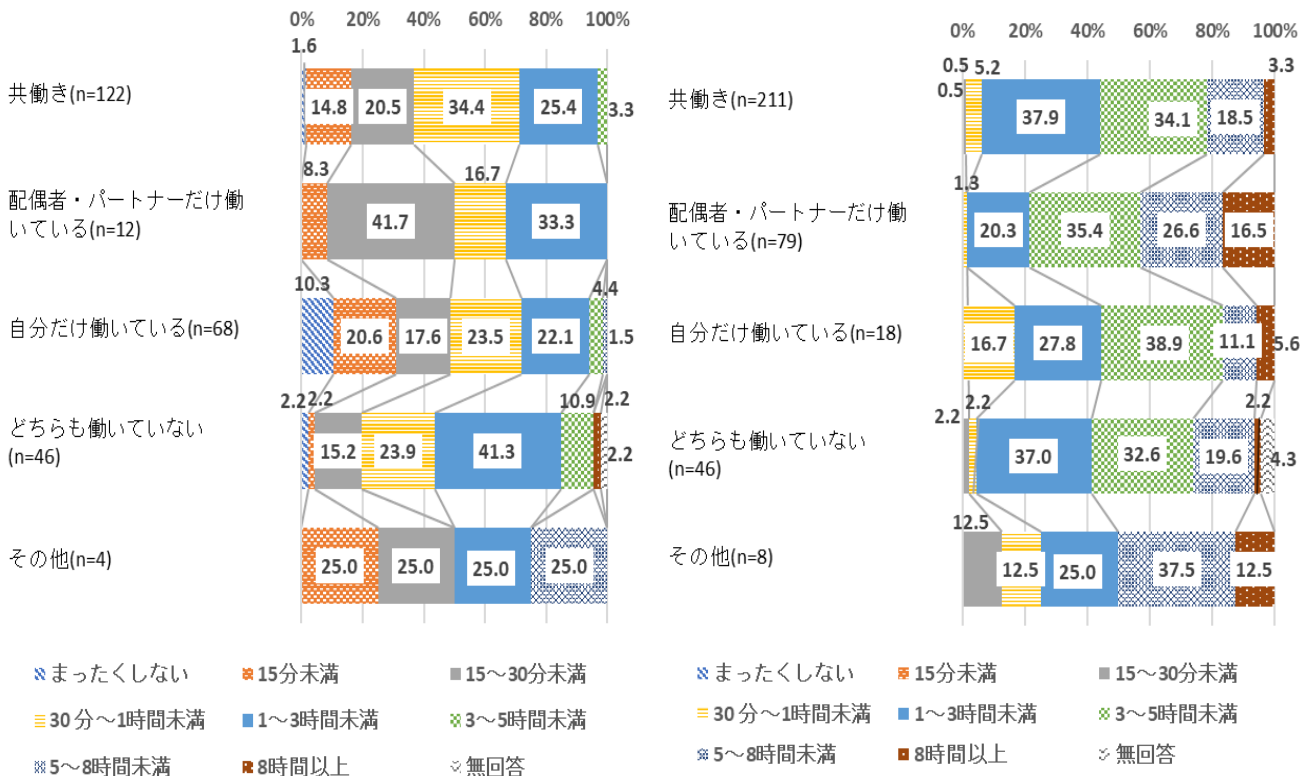
図表16-3 家事従事時間（労働状況別）



図表16-4 家事従事時間（労働状況・男女別）

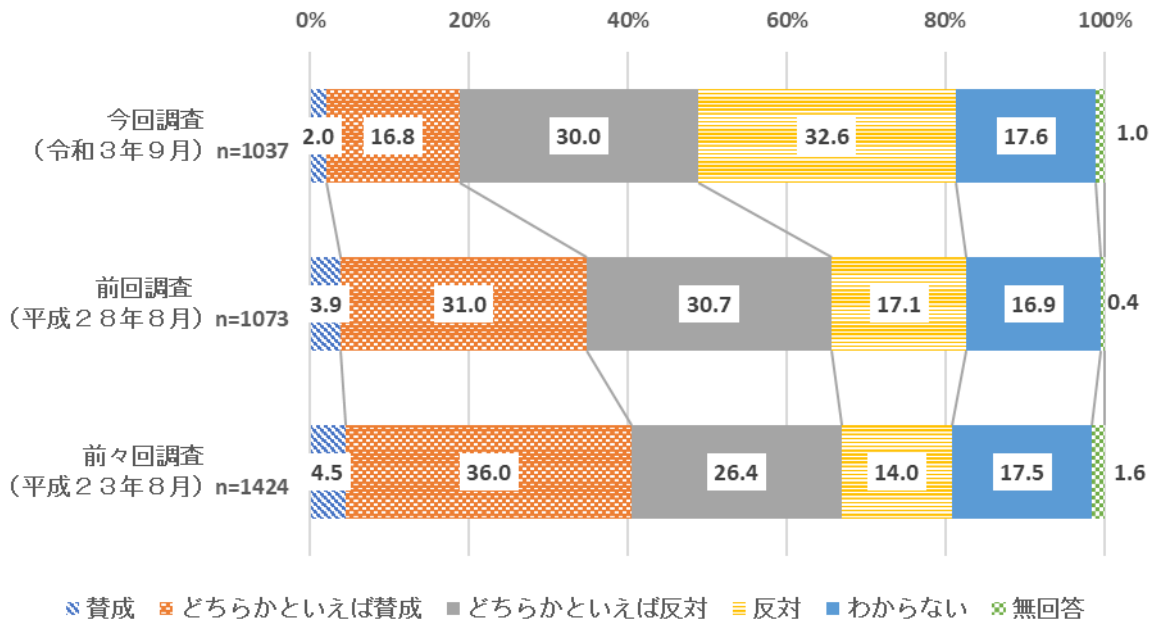
【男性】

【女性】



(4) 性別役割分担

問17 「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」という考え方がありますが、あなたはこれについてどのように思いますか。次のうちから1つ選んでください。

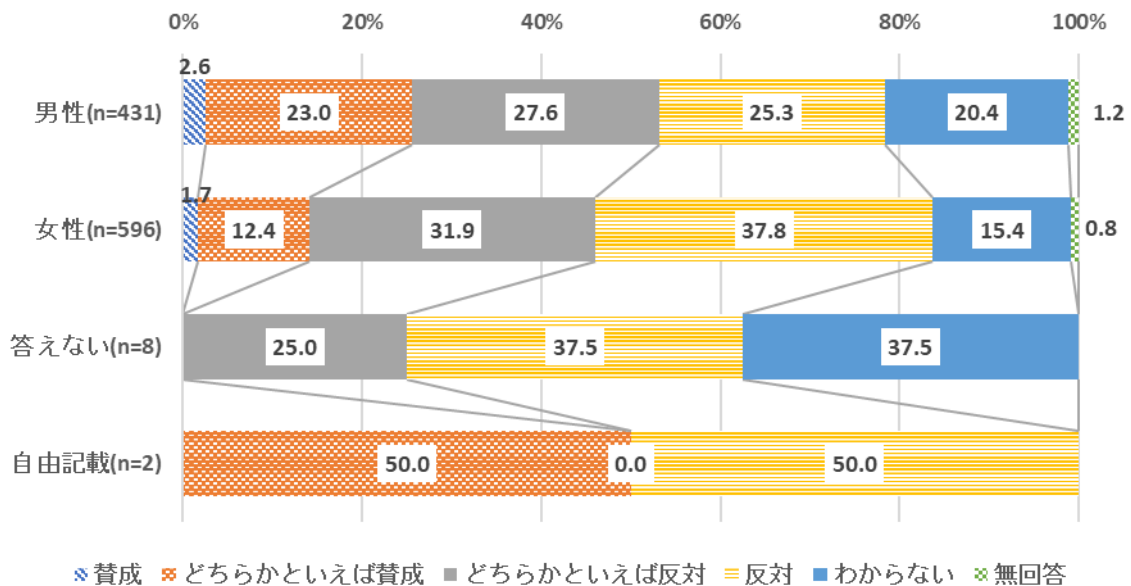


性別役割分担についてたずねたところ、「反対」が32.6%で最も高く、次いで、「どちらかといえば反対」が30.0%、「わからない」が17.6%、「どちらかといえば賛成」が16.8%、「賛成」が2.0%と続いている。「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた《反対派》が62.6%、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた《賛成派》は18.8%となっている。

前回調査と比較すると、《賛成派》が低下(34.9%→18.8%)し、《反対派》が上昇(47.8%→62.6%)して、《反対派》と《賛成派》の差が広がっている。

性別にみると、男性は「どちらかといえば反対」が27.6%で最も高く、「反対」が25.3%、「わからない」が20.4%となっている。女性においては「反対」が37.8%、「どちらかといえば反対」が31.9%、「わからない」が15.4%となっている。男性は性別役割分担について《反対派》が《賛成派》を27.3ポイント上回っており、女性は55.6ポイント上回っている。

図表 17-1 性別役割分担(性別)

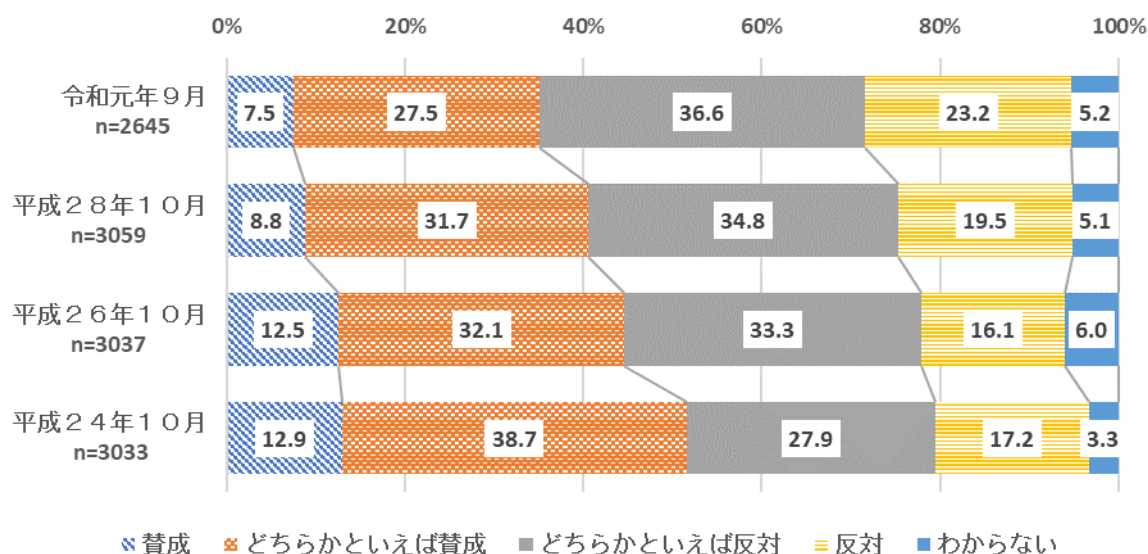


令和元年度に行なった『内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」』（参考Ⅰ）では、「どちらかといえば反対」が36.6%で最も高く、次いで、「どちらかといえば賛成」が27.5%、以下、「反対」が23.2%、「賛成」が7.5%となっている。《反対派》（59.8%）が《賛成派》（35.0%）を上回る結果となった。平成28年度調査に続き《反対派》が《賛成派》を上回っており、調査を重ねるごとに《反対派》が占める割合が高くなっている。

また、（参考Ⅱ）で性別にみると、《賛成派》の割合は、男性（39.4%）が女性（31.1%）を上回る結果となっている。女性では「どちらかといえば反対」が38.5%で最も高く、次いで「反対」が24.9%、「どちらかといえば賛成」が24.6%などとなっている。男性では「どちらかといえば反対」が34.4%で最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」が30.8%などとなっている。

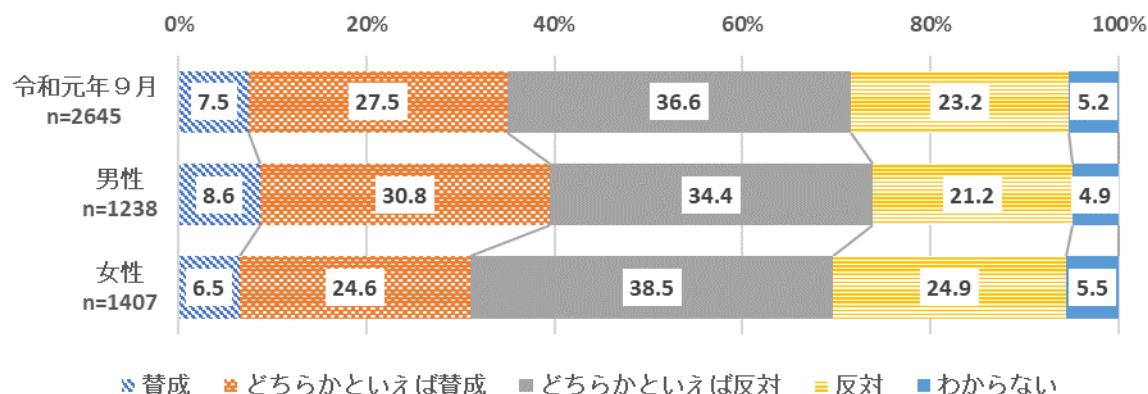
参考Ⅰ 令和元年度 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成24年度～)

Q6 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどうお考えですか。  
この中から1つだけお答えください。



参考Ⅱ 令和元年度 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」

Q6 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどうお考えですか。  
この中から1つだけお答えください。



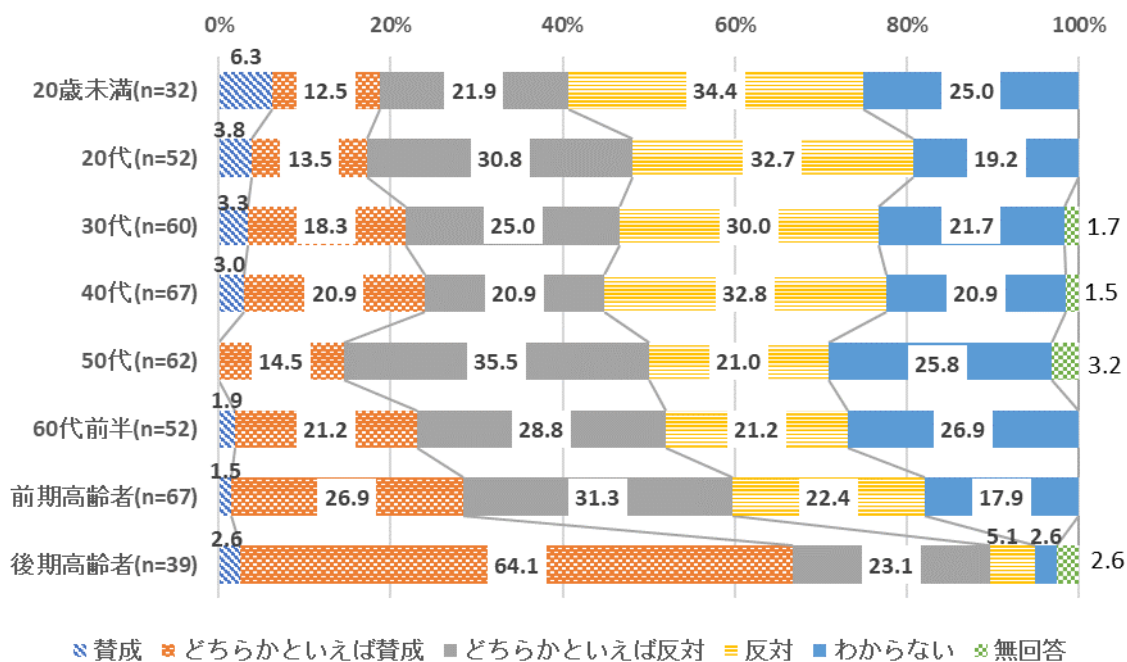


性・年代別にみると、「どちらかといえば賛成」は、男性では後期高齢者（64.1%）が最も高く、次いで前期高齢者が26.9%となっている。女性では前期高齢者（24.2%）で最も高く、年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。一方、「どちらかといえば反対」は、男性で50代（35.5%）が最も高く、他の年代も2～3割で推移している。女性では前期高齢者（41.9%）が最も高く、20歳未満を除く全ての年代で2～3割で推移している。

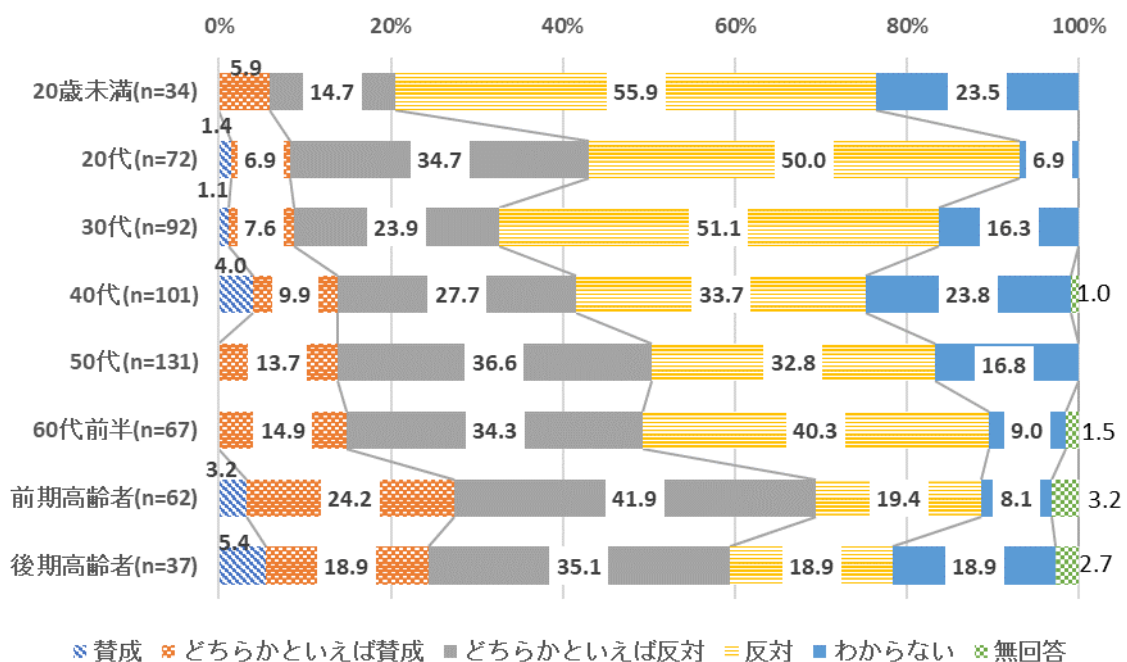
「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合わせた《賛成派》と「反対」、「どちらかといえば反対」を合わせた《反対派》を比べてみると、男性では、後期高齢者のみ《賛成派》で、その他の年代では《反対派》が多くなっており、女性ではあらゆる世代で《反対派》が多くなっている。

図表 17-2 性別役割分担（性・年代別）

【男性】

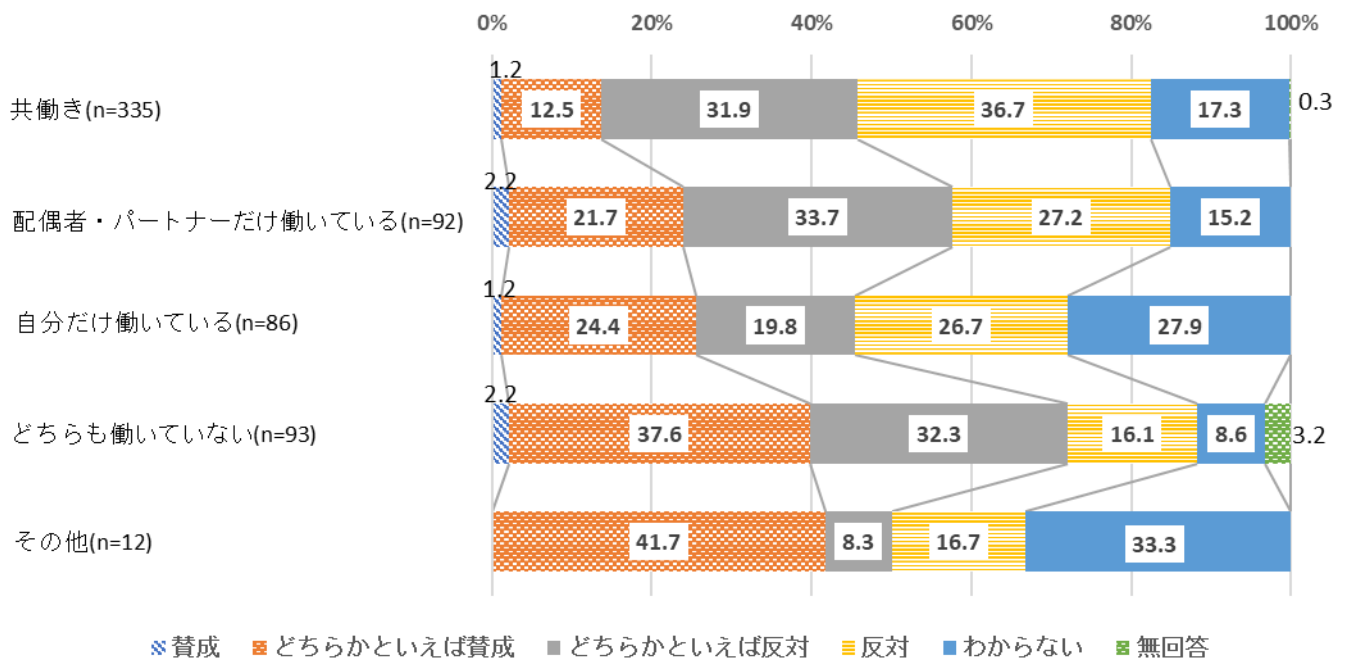


【女性】



労働状況別にみると、『共働きである』では「反対」が 36.7%で他の労働状況より割合が高く、《反対派》が約7割となっている。また、『配偶者・パートナーだけ働いている』では《反対派》が約6割となっている。

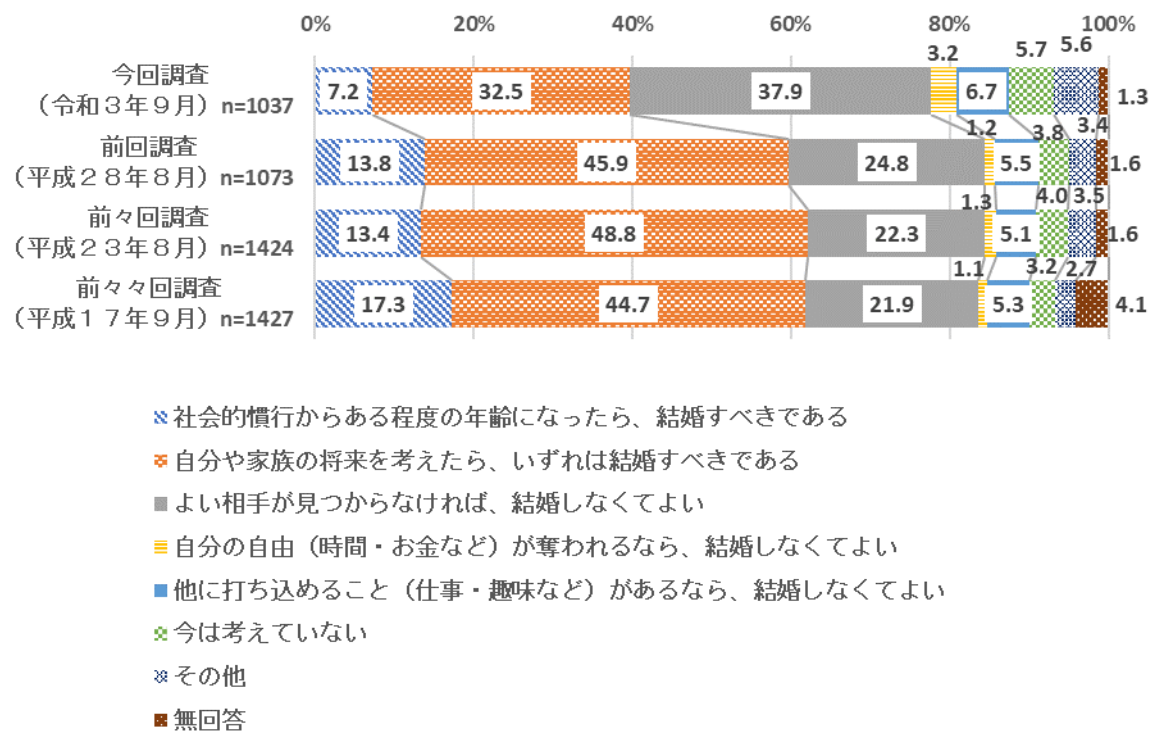
図表 17-3 性別役割分担（労働状況別）



### 3 結婚（事実婚に対する法律婚）について

#### (1) 結婚観

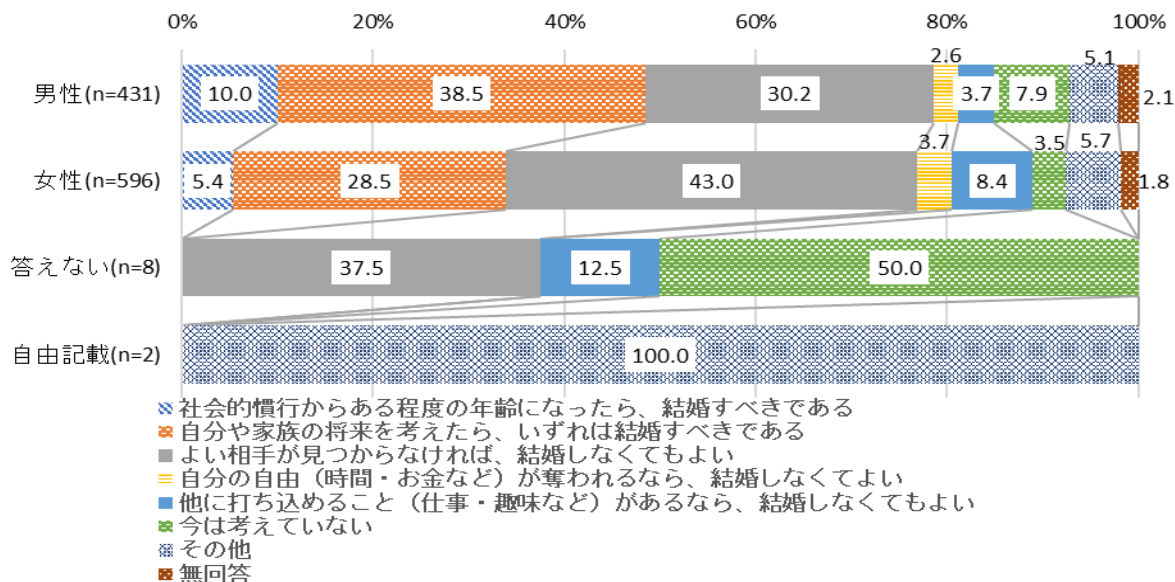
問18 結婚（事実婚に対する法律婚）について、あなたの考えに近いものを、次のうちから1つ選んでください。



結婚観についてたずねたところ、「よい相手が見つからなければ、結婚しなくてよい」(37.9%)が最も高く、次いで、「自分や家族の将来を考えたら、いずれは結婚すべきである」が32.5%、「社会的慣行からある程度の年齢になったら、結婚すべきである」が7.2%、「他に打ち込めること（仕事・趣味など）があるなら、結婚しなくてよい」が6.7%、「今は考えていない」が5.7%と続いている。

性別にみると、「結婚すべき」と答えた人は、男性が48.5%、女性が33.9%であり、男性が女性よりも14.6ポイント高い。「結婚しなくてもよい」と答えた女性が55.1%で男性が36.5%となっており、18.6ポイント高く、結婚観による相違がみられる。

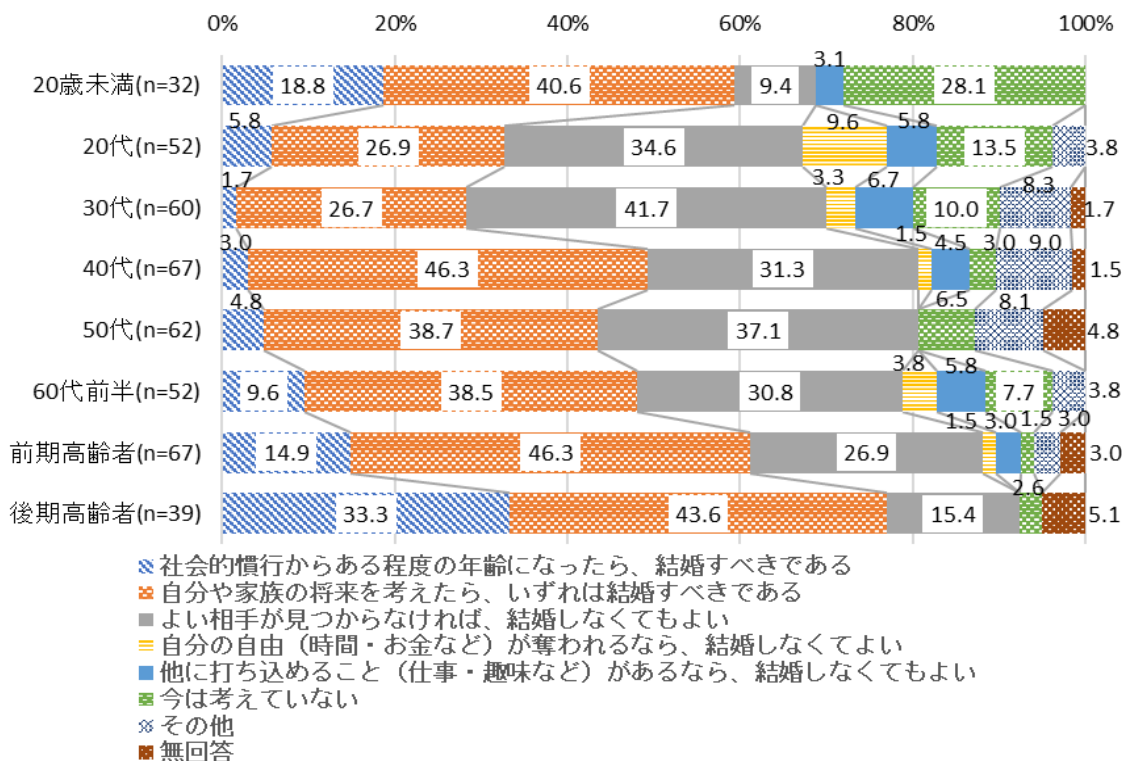
図表 18-1 結婚観（性別）



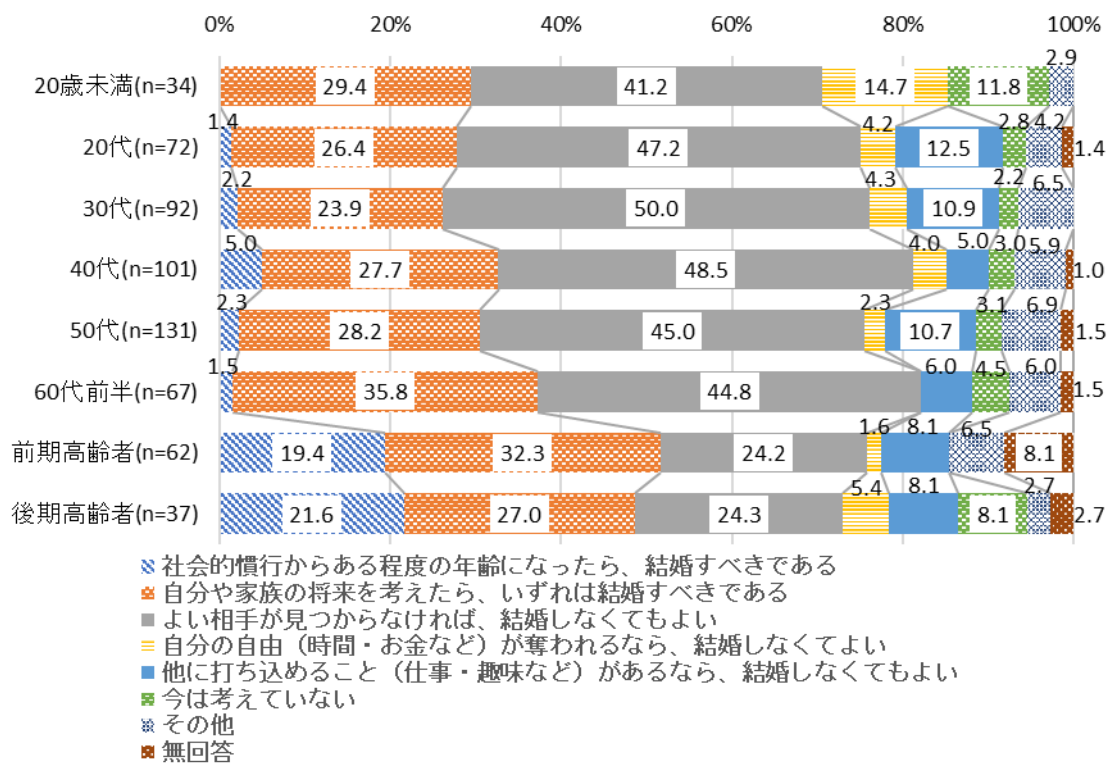
性・年代別にみると、男性では《結婚すべき》と答えた人は後期高齢者（76.9%）が最も高く、前期高齢者で61.2%となっている。一方、20代～30代では《結婚しなくてもよい》の割合が他の年代よりも多くなっている。女性では《結婚すべき》と答えた人は前期～後期高齢者が約5割となっているが、その他の世代は低くなっている。一方、《結婚しなくてもよい》と答えた人は、20歳未満～60代前半で5割を超えている。

図表 18-2 結婚観（性・年代別）

【男性】



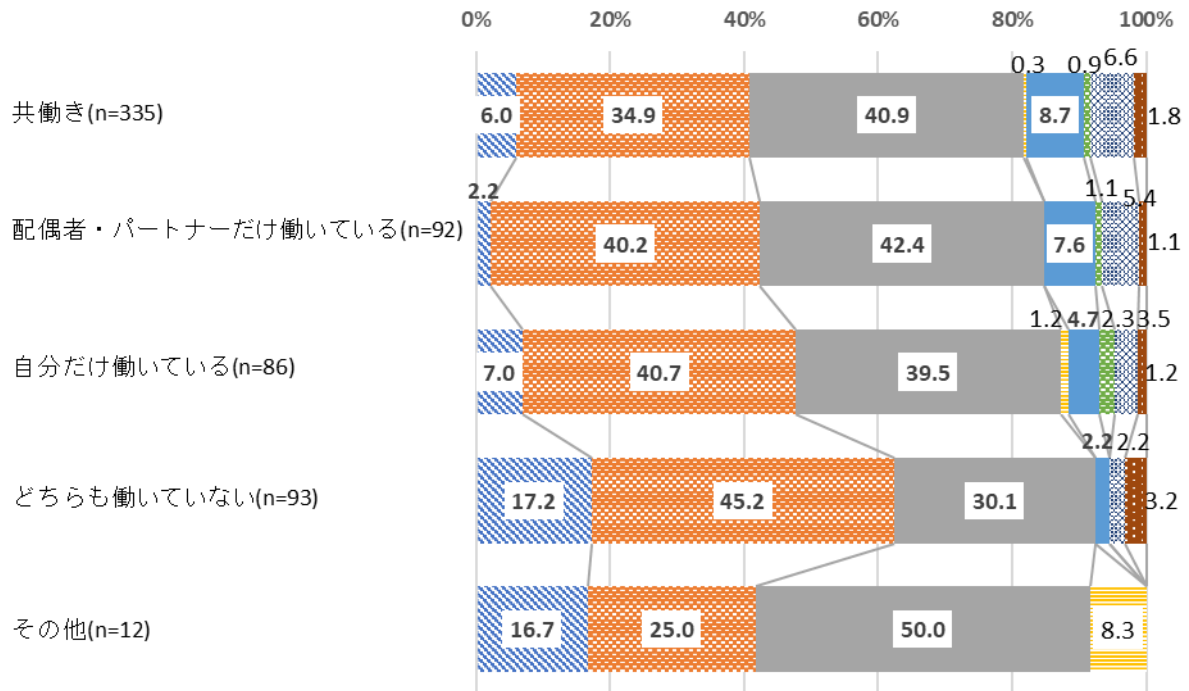
【女性】





労働状況別にみると、《結婚すべき》と答えた人は、『どちらも働いていない』(62.4%)が最も多く、次いで『自分だけが働いている』(47.7%)、『配偶者・パートナーだけ働いている』(42.4%)となっている。『自分だけが働いている』では《結婚すべき》と《結婚しなくてもよい》がほぼ半々となっている。また、『共働きである』でも《結婚しなくてもよい》が約5割となっている。

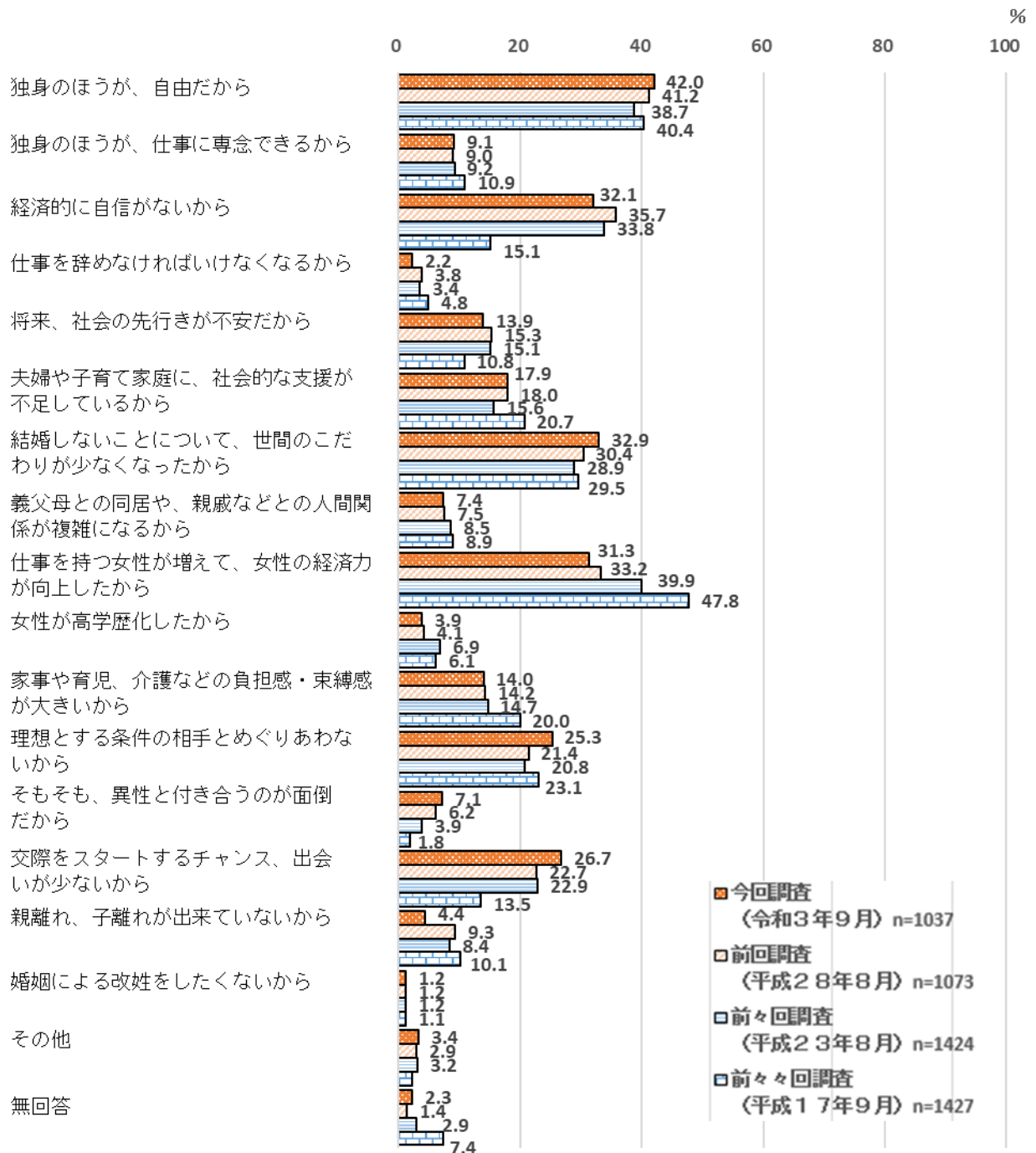
図表 18-3 結婚観（労働状況別）



- ※ 社会的慣行からある程度の年齢になったら、結婚すべきである
- ※ 自分や家族の将来を考えたら、いずれは結婚すべきである
- よい相手が見つからなければ、結婚しなくてもよい
- ≡ 自分の自由（時間・お金など）が奪われるなら、結婚しなくてよい
- 他に打ち込めること（仕事・趣味など）があるなら、結婚しなくてもよい
- 今は考えていない
- ※ その他
- 無回答

## (2) 晩婚化や未婚化の理由

問19 あなたは、晩婚化や未婚化の原因をどのようにお考えですか。次のうちから3つまで選んでください。

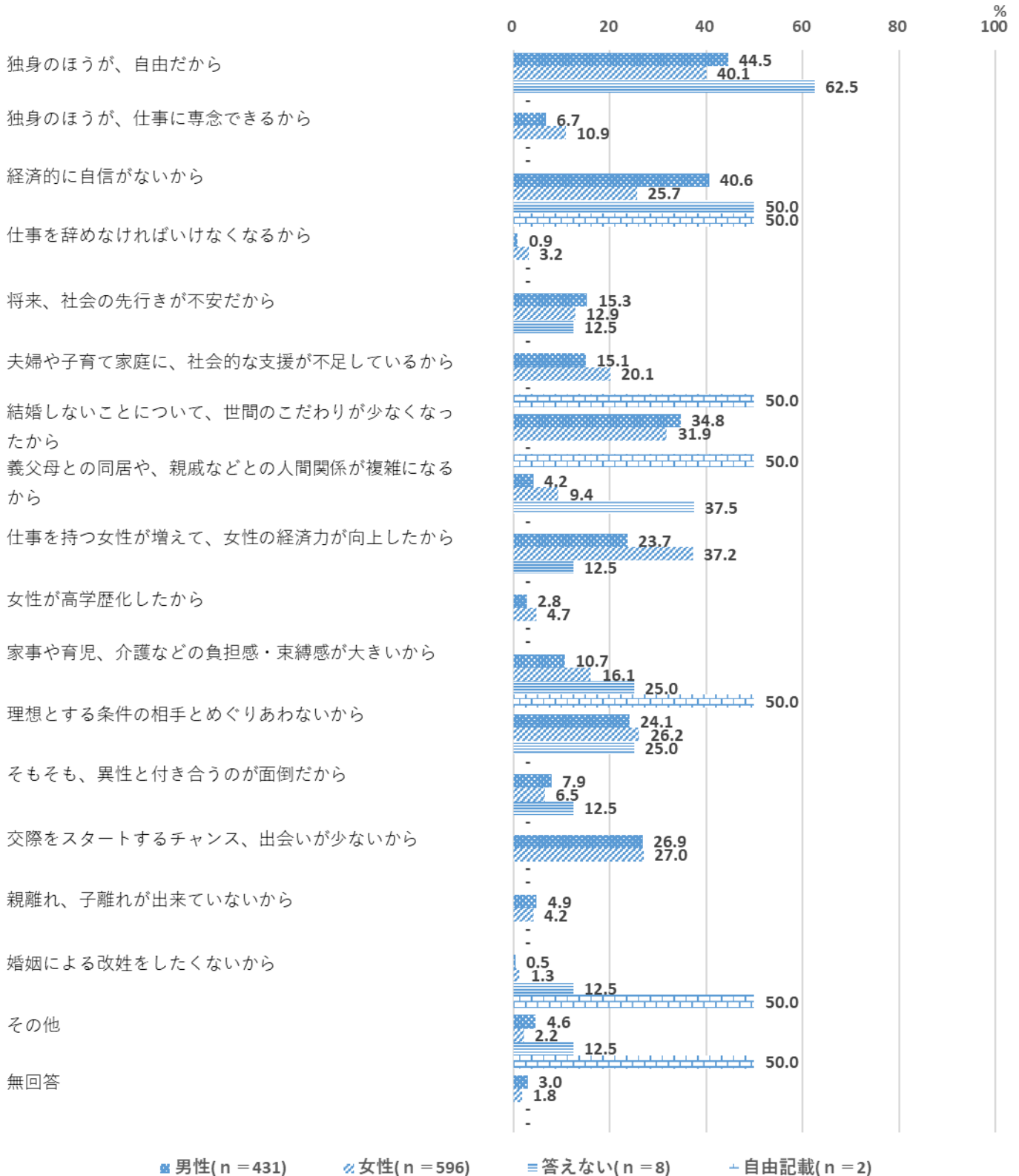


晩婚化や未婚化の理由としては、「独身のほうが、自由だから」(42.0%)が最も高く、次いで、「結婚しないことについて、世間のこだわりが少なくなったから」が32.9%、「経済的に自信がないから」が32.1%、「仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上したから」が31.3%、「交際をスタートするチャンス、出会いが少ないから」が26.7%と続いている。

上位の回答を前回調査等と比較すると、第1位の「独身のほうが、自由だから」は、前回調査、前々回調査でも4割前後で大きな変化はみられない。第2位の「結婚しないことについて、世間のこだわりが少なくなったから」は、前回調査からは2.5ポイント増加、前々回調査からは4.0ポイント増加している。第3位の「経済的に自信がないから」は、前回調査からは3.6ポイント、前々回調査からは1.7ポイント減少している。

性別をみると、「独身のほうが、自由だから」は、男性（44.5%）が女性（40.1%）を4.4ポイント上回っている。「結婚しないことについて、世間のこだわりが少なくなったから」は、男性（34.8%）が女性（31.9%）を上回っている。「経済的に自信がないから」は、男性（40.6%）が女性（25.7%）を14.9ポイント上回っており、大きな差がみられる。

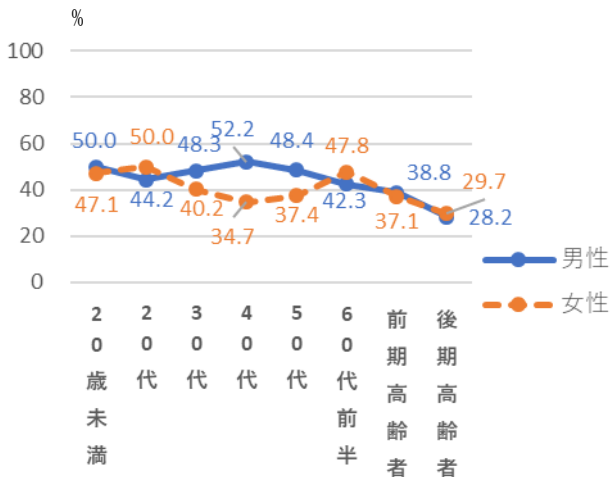
図表 19-1 晩婚化や未婚化の理由（性別）



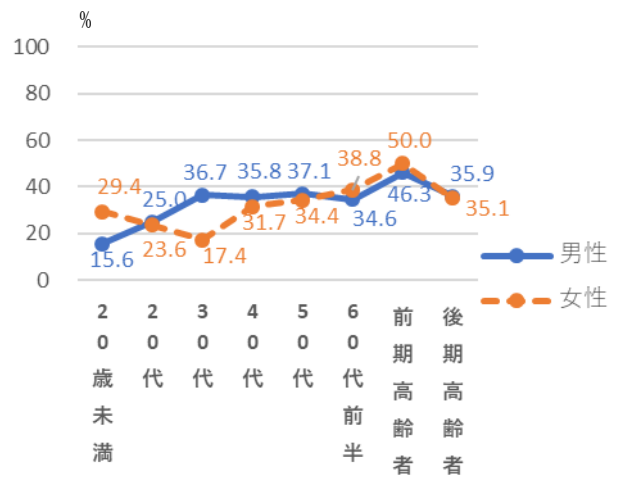
上位4項目について性・年代別にみると、第1位の「独身のほうが、自由だから」は40代で男性(52.2%)、女性(34.7%)となっており、17.5ポイントの差がみられる。第2位の「結婚しないことについて、世間のこだわりが少なくなったから」では、30代で男性(36.7%)、女性(17.4%)となっており、19.3ポイントの差がみられる。第3位の「経済的に自信がないから」では、すべての年代で男性が女性を上回っている。第4位の「仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上したから」では、すべての年代で女性が男性を上回っている。

図表 19-2 晩婚化や未婚化の理由(性・年代別)

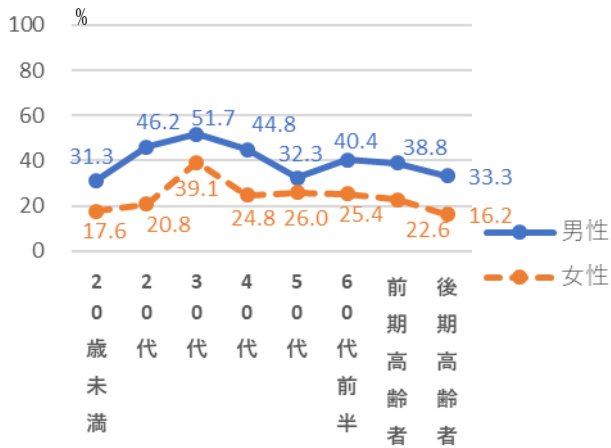
<1位> 独身のほうが、自由だから



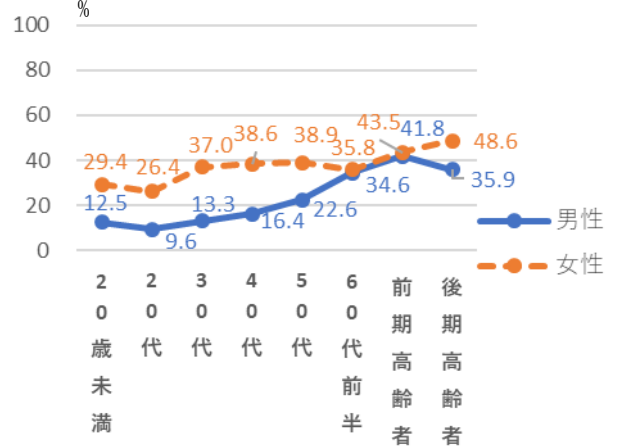
<2位> 結婚しないことについて、世間のこだわりが少なくなったから



<3位> 経済的に自信がないから



<4位> 仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上したから



男性(N=32)(N=52)(N=60)(N=67)(N=62)(N=52)(N=67)(N=39)  
 女性(N=34)(N=72)(N=92)(N=101)(N=131)(N=67)(N=62)(N=37)

※上位4項目のみ

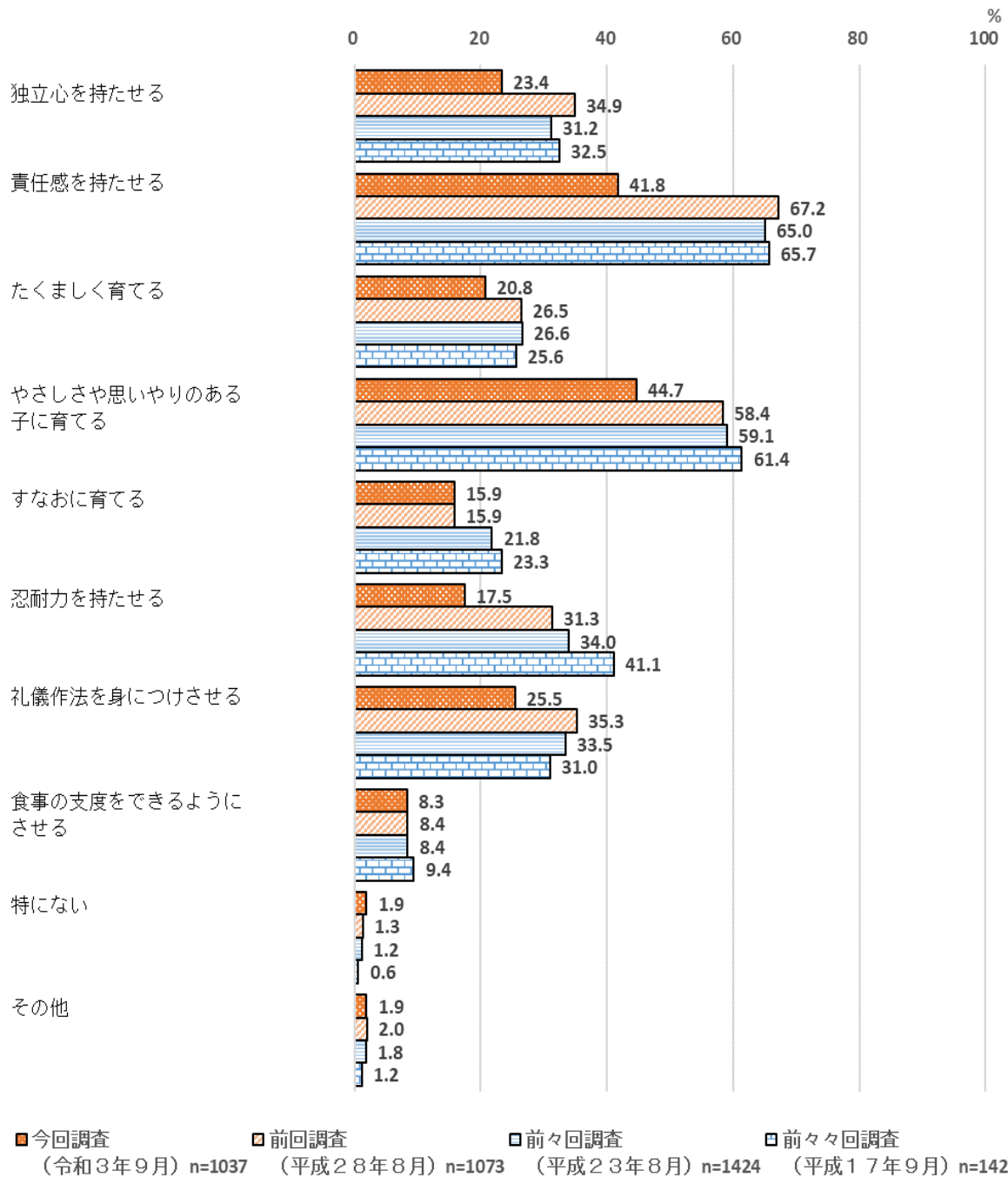


## 4 教育について

### (1) 性別による子育て

問20 あなたは、どんなことに気をつけて、子育てをしたらよいと思いますか。特に男の子、特に女の子、子ども（性別かかわらず）のそれぞれについて、あてはまるものを3つまで選んでください。

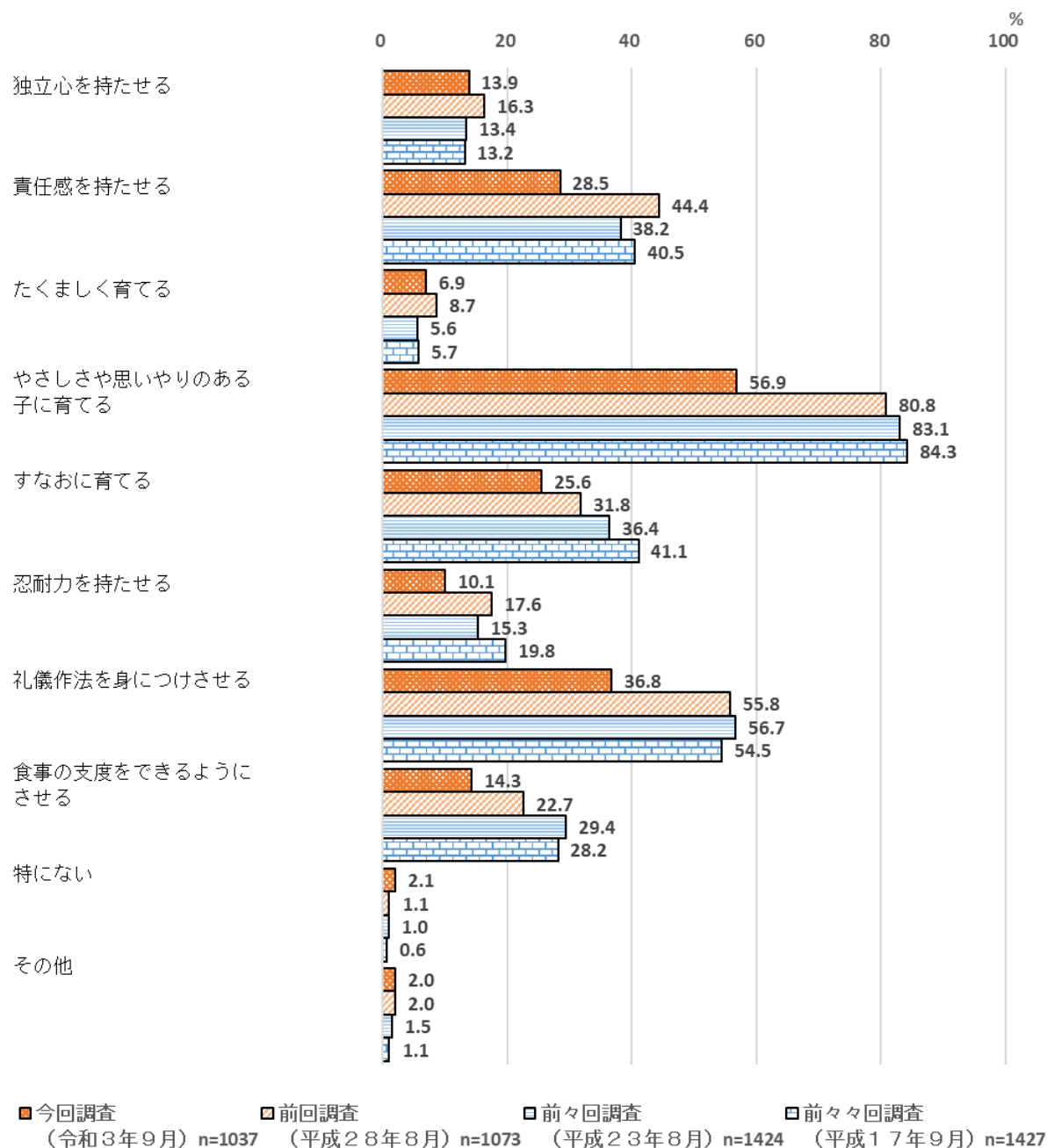
#### 【男の子】



性別による“子育て”に対する考え方を【男の子】、【女の子】、【子ども】それぞれについてたずねた。  
 【男の子】の子育てとしては、「やさしさや思いやりのある子に育てる」(44.7%)が最も高く、前回調査から13.7ポイント低下した。次いで、「責任感を持たせる」が41.8%で、前回調査から25.4ポイント低下した。「礼儀作法を身につけさせる」が25.5%で、前回調査から9.8ポイント低下した。

問20 あなたは、どんなことに気をつけて、子育てをしたらよいと思いますか。特に男の子、特に女の子、子ども（性別かかわらず）のそれぞれについて、あてはまるものを3つまで選んでください。

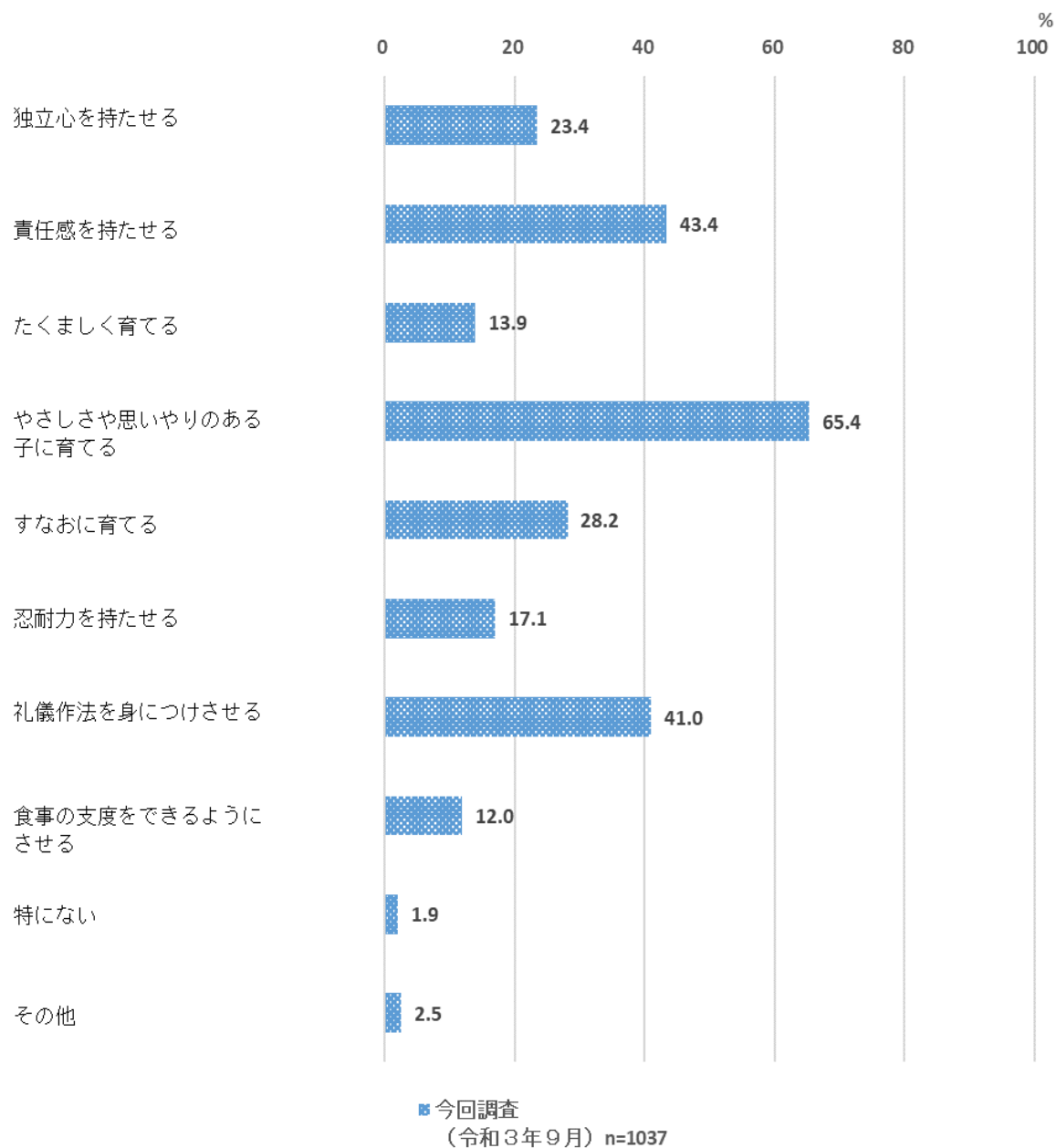
【女の子】



【女の子】の子育てとしては、「やさしさや思いやりのある子に育てる」(56.9%)が最も高いが、前回調査から23.9ポイント低下した。「礼儀作法を身につけさせる」が36.8%で、前回調査から19.0ポイント低下した。「責任感を持たせる」が28.5%で、前回調査から15.9ポイント低下した。

問20 あなたは、どんなことに気をつけて、子育てをしたらよいと思いますか。特に男の子、特に女の子、子ども（性別かかわらず）のそれぞれについて、あてはまるものを3つまで選んでください。

【子ども】



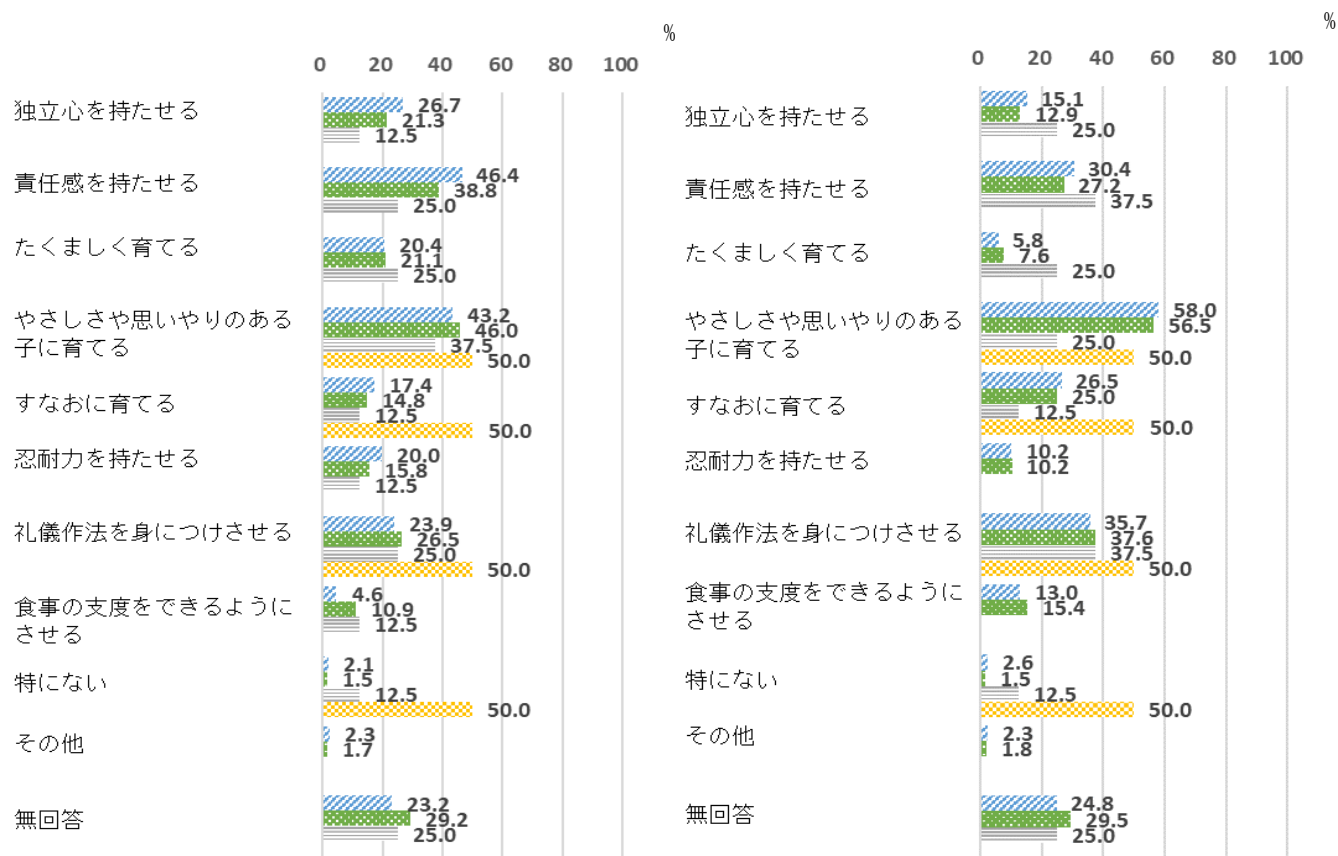
【男の子】、【女の子】という性別を問わず、子育て全般における考え方をたずねる趣旨から【子ども】の設問を設けている。【子ども】の子育てとしては、「やさしさや思いやりのある子に育てる」(65.4%)が最も高く、次いで「責任感を持たせる」(43.4%)、「礼儀作法を身につけさせる」(41.0%)、「すなおに育てる」(28.2%)の順となった。

性別をみると、男の子では「責任感を持たせる」が男性 46.4%、女性 38.8%で 7.6 ポイントの差がみられた。女の子では「責任感を持たせる」が男性 30.4%、女性 27.2%で 3.2 ポイントの差がみられた。子どもでは「やさしさや思いやりのある子に育てる」と「すなおに育てる」が男女で 4.9 ポイントの差がみられた。

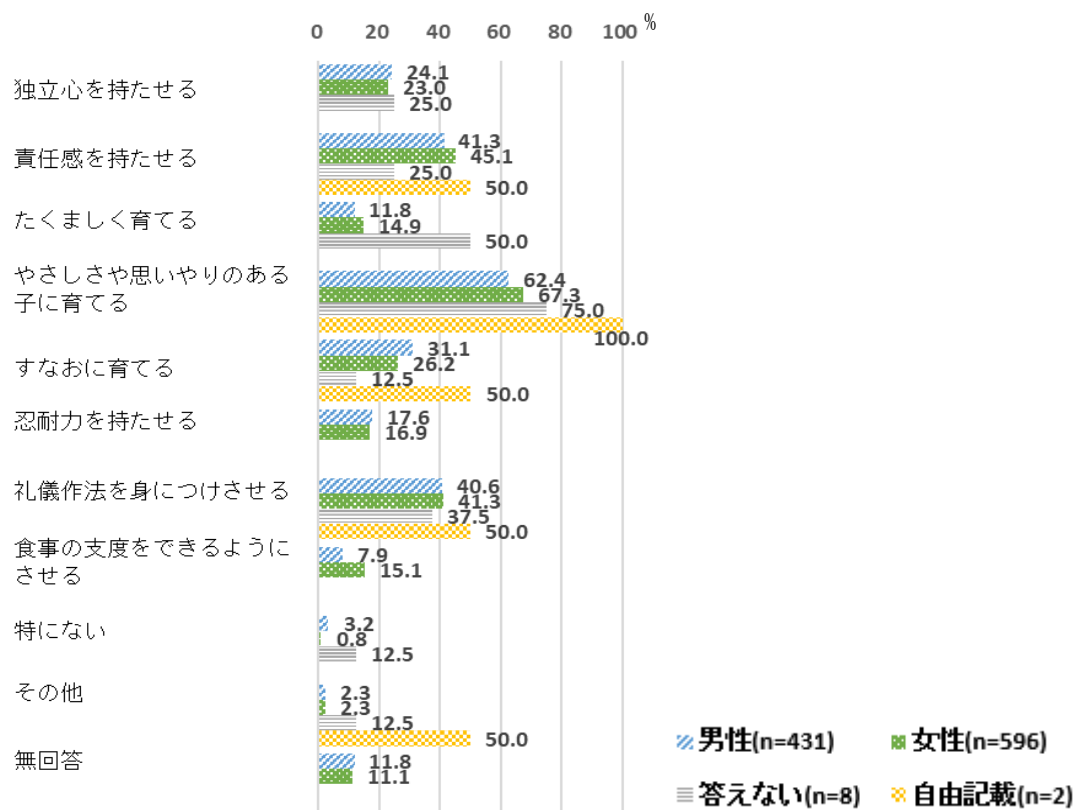
図表 20-1 性別による子育て（性別）

【男の子】

【女の子】



【子ども】





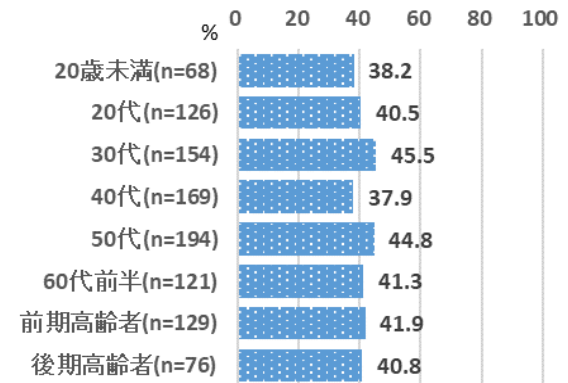
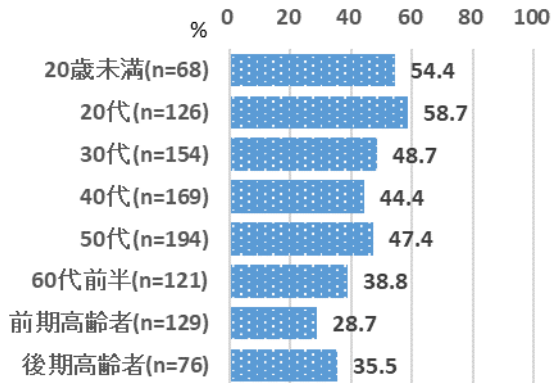
上位4項目を年代別にみると、第1位の「やさしさや思いやりのある子に育てる」では20代(58.7%)が最も高く、20歳未満(54.4%)、30代(48.7%)などと続いている。第2位の「責任感を持たせる」では30代(45.5%)、50代(44.8%)、前期高齢者(41.9%)などと続いている。第3位の「礼儀作法を身につけさせる」では、20歳未満(45.6%)、20代(39.7%)、30代(35.1%)などと続いている。第4位の「独立心を持たせる」では、前期高齢者(33.3%)、後期高齢者(31.6%)、50代(25.3%)などと続いている。

図表 20-2 性別による子育て【男の子】(年代別)

【男の子】

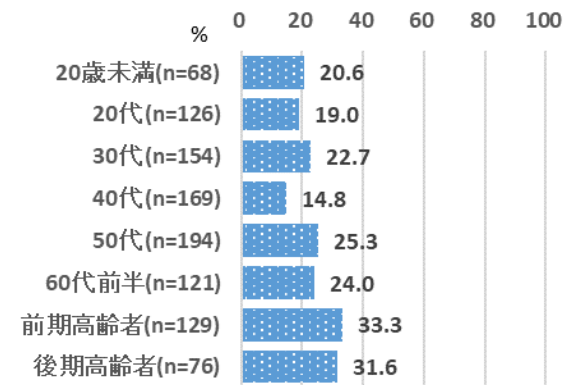
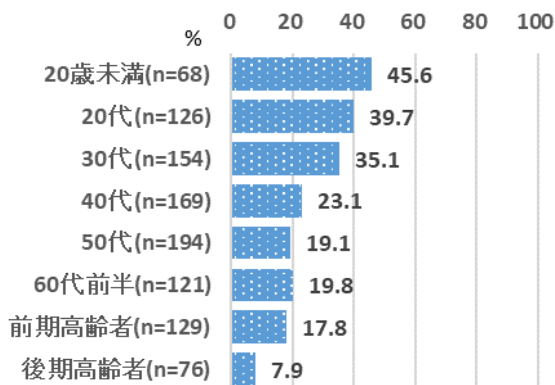
<1位>やさしさや思いやりのある子に育てる

<2位>責任感を持たせる



<3位>礼儀作法を身につけさせる

<4位>独立心を持たせる



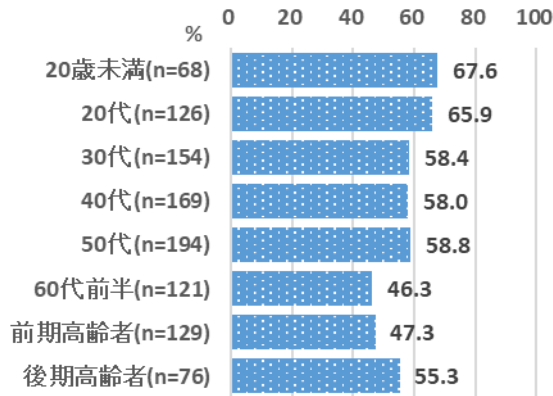
※上位4項目のみ

上位4項目を年代別にみると、第1位の「やさしさや思いやりのある子に育てる」では20歳未満(67.6%)が最も高く、20代(65.9%)、50代(58.8%)などと続いている。第2位の「礼儀作法を身につけさせる」では20歳未満(52.9%)、20代(49.2%)、30代(44.8%)などと続いている。第3位の「責任感を持たせる」では、20歳未満(33.8%)、30代(31.2%)、後期高齢者(30.3%)などと続いている。第4位の「すなおに育てる」では、30代(29.9%)、20歳未満と50代(29.4%)などと続いている。

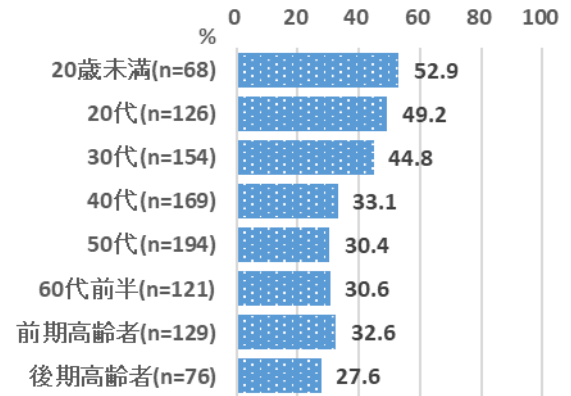
図表 20-3 性別による子育て【女の子】(年代別)

【女の子】

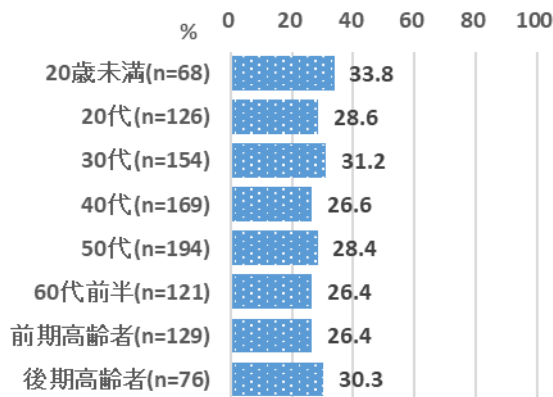
<1位>やさしさや思いやりのある子に育てる



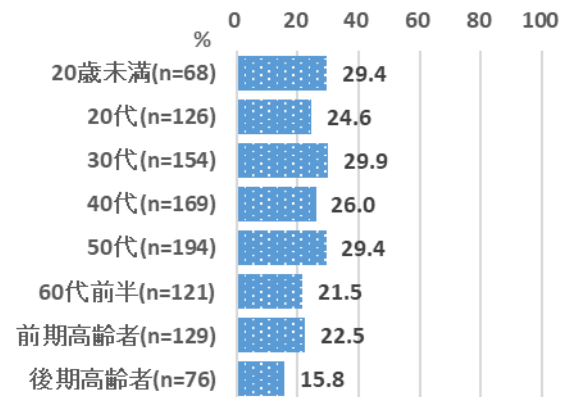
<2位>礼儀作法を身につけさせる



<3位>責任感を持たせる



<4位>すなおに育てる



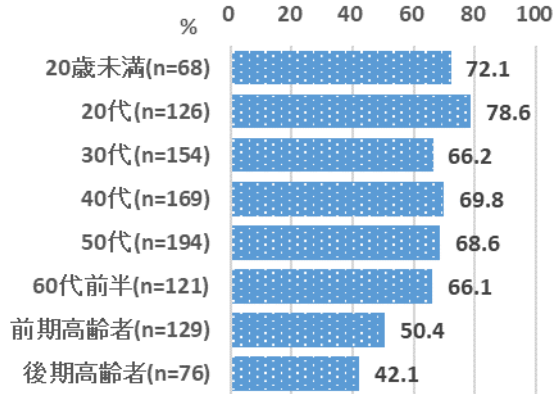
※上位4項目のみ

上位4項目を年代別にみると、第1位の「やさしさや思いやりのある子に育てる」では20代(78.6%)が最も高く、20歳未満(72.1%)、40代(69.8%)などと続いている。第2位の「責任感を持たせる」では60代前半(54.5%)、50代(47.4%)、30代(44.8%)などと続いている。第3位の「礼儀作法を身につけさせる」では、20歳未満(64.7%)、20代(59.5%)、30代(48.7%)などと続いている。第4位の「すなおに育てる」では、20代(36.5%)、20歳未満(33.8%)、40代(32.0%)などと続いている。

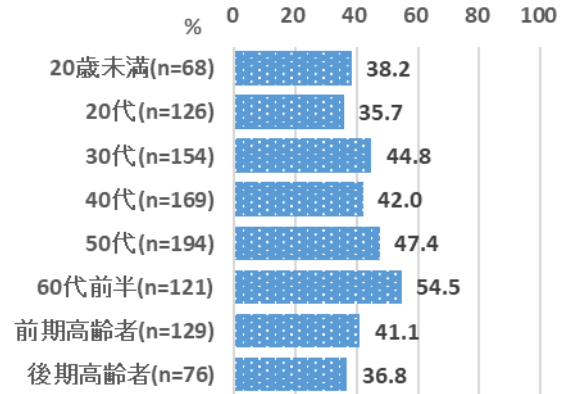
図表 20-4 性別による子育て【子ども】(年代別)

【子ども】

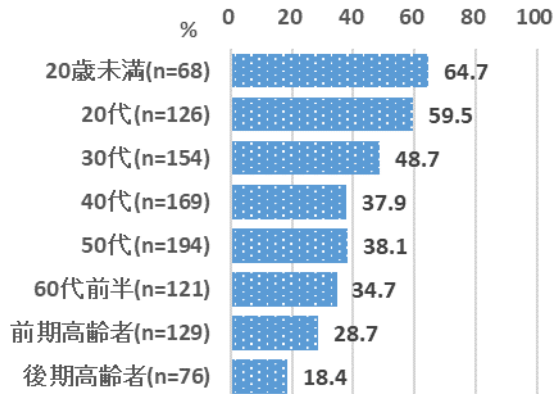
<1位>やさしさや思いやりのある子に育てる



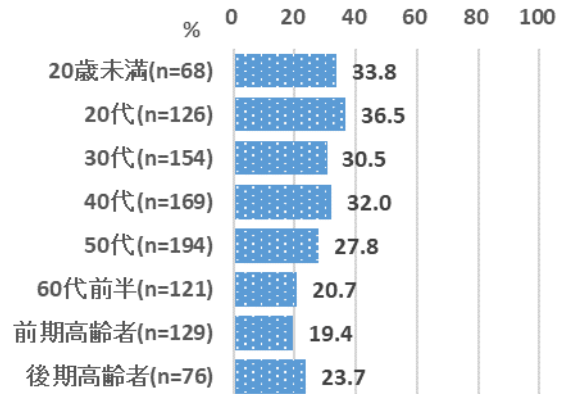
<2位>責任感を持たせる



<3位>礼儀作法を身につけさせる



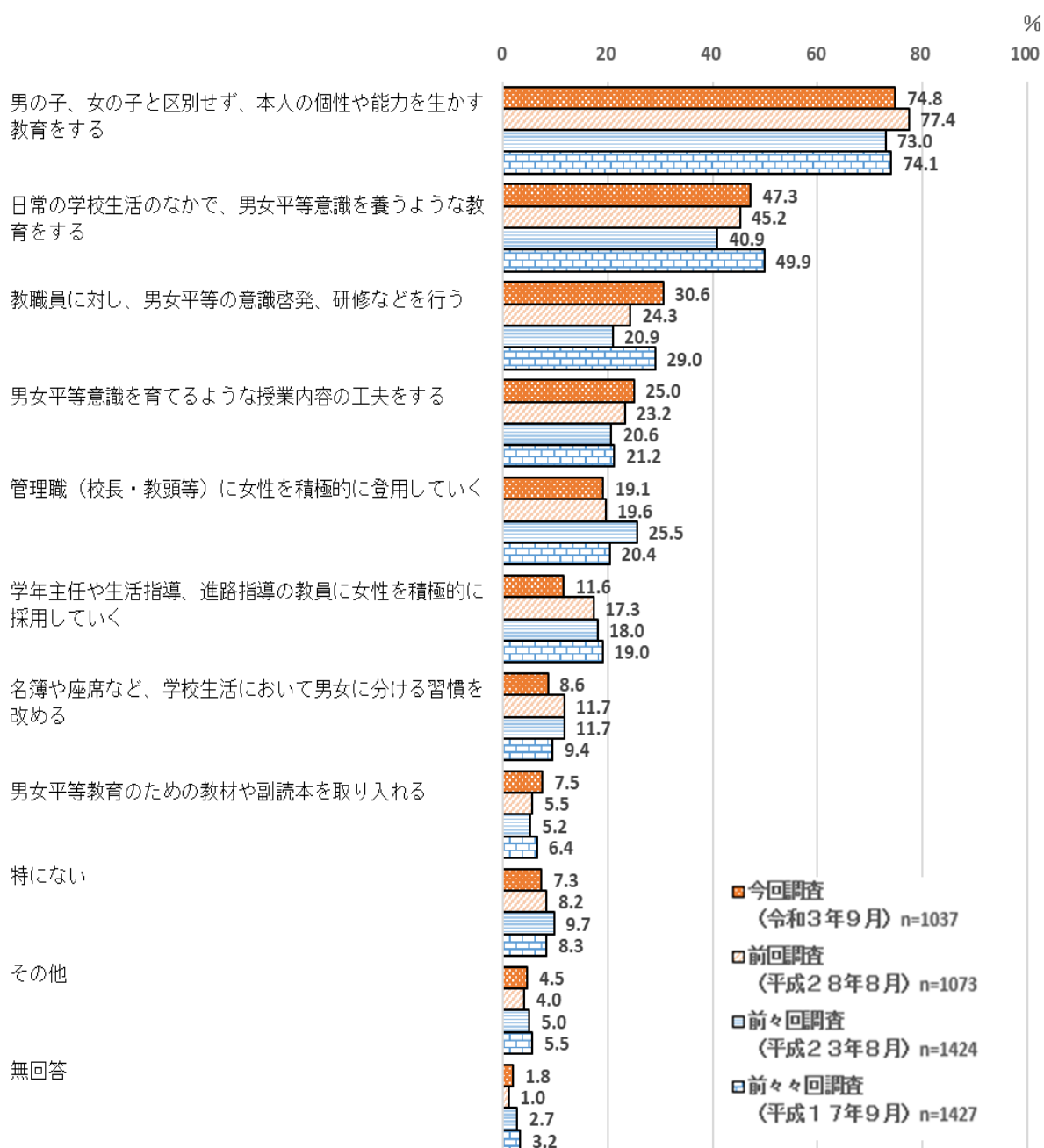
<4位>すなおに育てる



※上位4項目のみ

## (2) 学校教育への要望

問21 男女平等の視点で学校教育を進めるうえで、あなたが取り入れてほしいことや力を入れてほしいと思うことは何ですか。次のうちから3つまで選んでください。

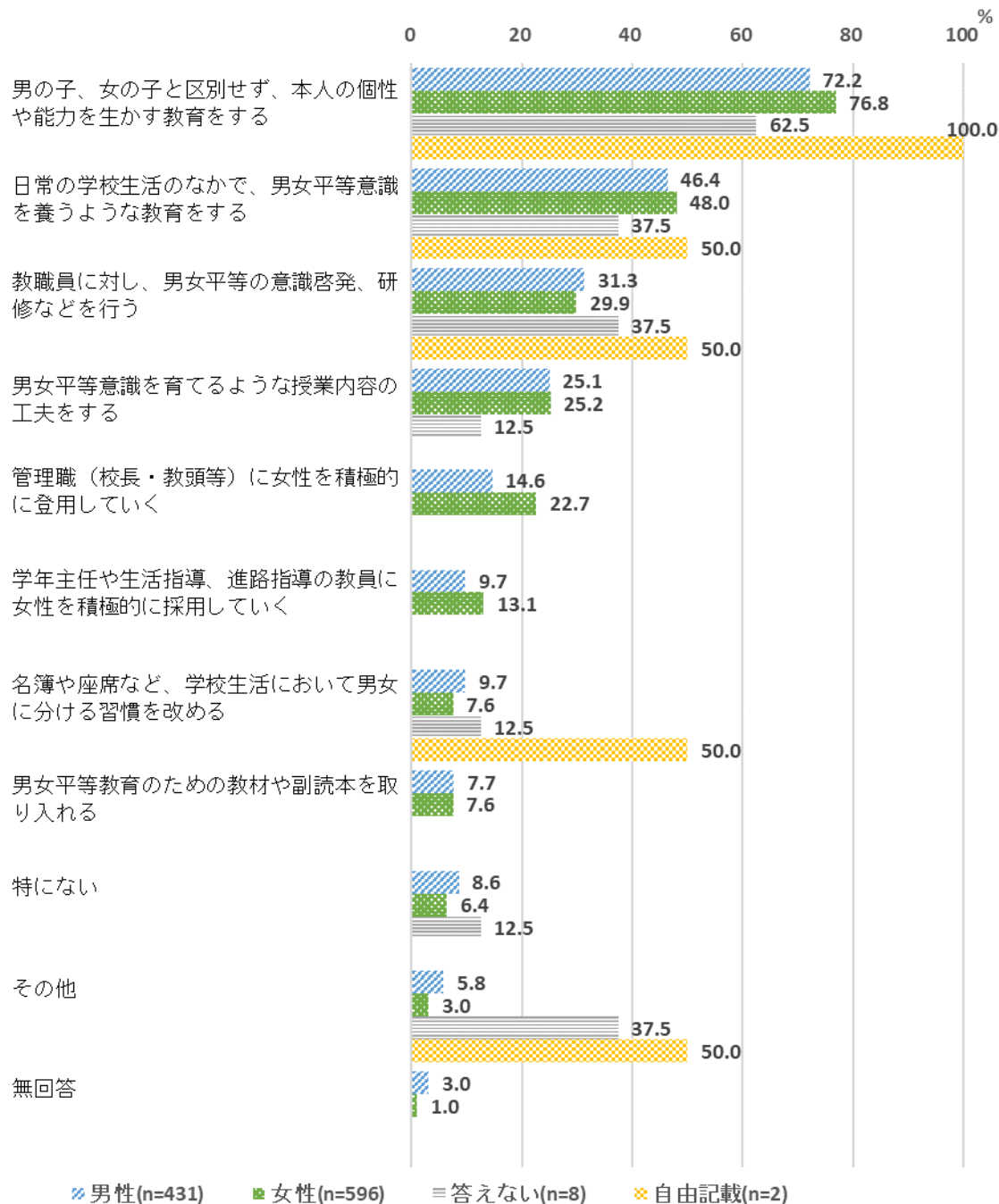


学校教育への要望としては、「男の子、女の子と区別せず、本人の個性や能力を生かす教育をする」(74.8%)が最も高く、次いで、「日常の学校生活のなかで、男女平等意識を養うような教育をする」が47.3%、「教職員に対し、男女平等の意識啓発、研修などを行う」が30.6%、「男女平等意識を育てるような授業内容の工夫をする」が25.0%、「管理職(校長や教頭)に女性を積極的に登用していく」が19.1%と続いている。

上位回答を前回調査等と比較すると、上位3項目に順位の変動はなく、第1位の「男の子、女の子と区別せず、本人の個性や能力を生かす教育をする」は、前回調査から2.6ポイント低下、前々回調査からは1.8ポイント増加となっている。第2位の「日常の学校生活のなかで、男女平等意識を養うような教育をする」は前回調査から2.1ポイント、前々回調査からは6.4ポイント増加している。第3位の「教職員に対し、男女平等の意識啓発、研修などを行う」は、前回調査から6.3ポイント、前々回調査からは9.7ポイント増加している。

性別をみると、第1位の「男の子、女の子と区別せず、本人の個性や能力を生かす教育をする」では、男性が72.2%、女性が76.8%となっており、女性が4.6ポイント上回っている。第2位の「日常の学校生活のなかで、男女平等意識を養うような教育をする」では、男性が46.4%、女性が48.0%となっており、女性が1.6ポイント上回っている。第3位の「教職員に対し、男女平等の意識啓発、研修などを行う」では、男性が31.3%、女性が29.9%となっており、男性が1.4ポイント上回っている。

図表 21-1 学校教育への要望（性別）

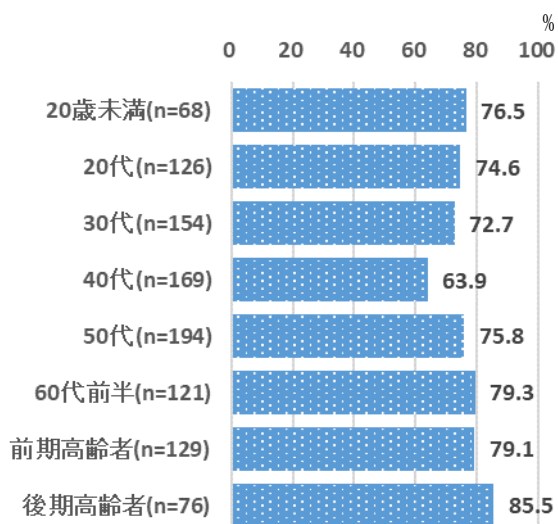




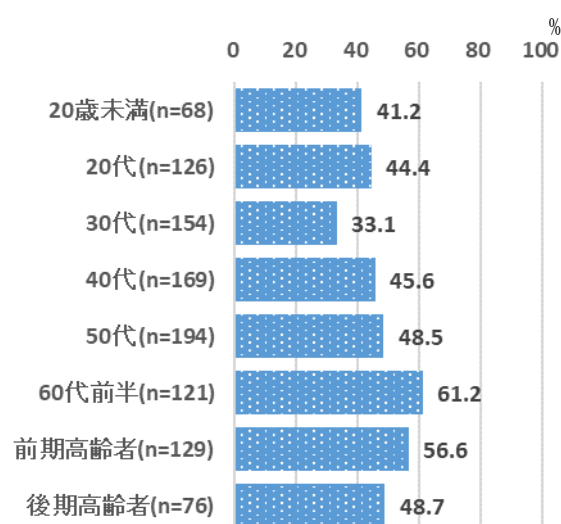
上位4項目について年代別にみると、第1位の「男の子、女の子と区別せず、本人の個性や能力を生かす教育をする」は、40代以外の全ての年代で7割を超え、後期高齢者(85.5%)が最も高くなっている。第2位の「日常の学校生活のなかで、男女平等意識を養うような教育をする」は30代以外の全ての年代で4割を超えている。第3位の「教職員に対し、男女平等の意識啓発、研修などを行う」は20代(34.1%)が最も高く、全ての年代で2~3割となっている。第4位の「男女平等意識を育てるような授業内容の工夫をする」は20歳未満(19.1%)を除き、全ての年代で2割を超えている。

図表 21-2 学校教育への要望（年代別）

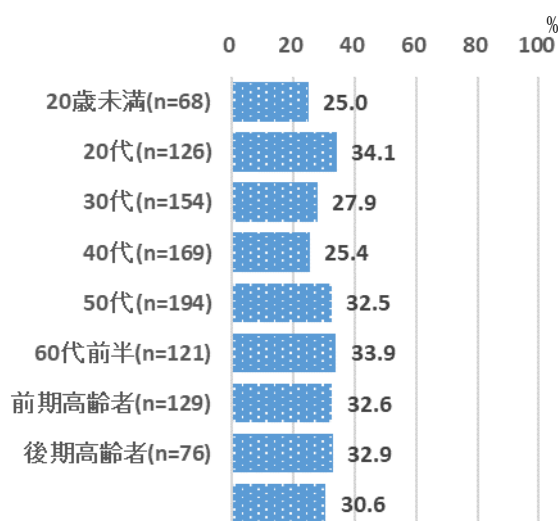
<1位> 男の子、女の子と区別せず、本人の個性や能力を生かす教育をする



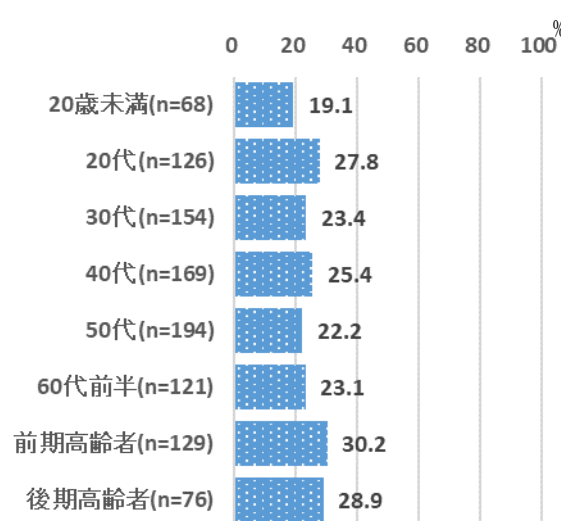
<2位> 日常の学校生活のなかで、男女平等意識を養うような教育をする



<3位> 教職員に対し、男女平等の意識啓発、研修などを行う



<4位> 男女平等意識を育てるような授業内容の工夫をする

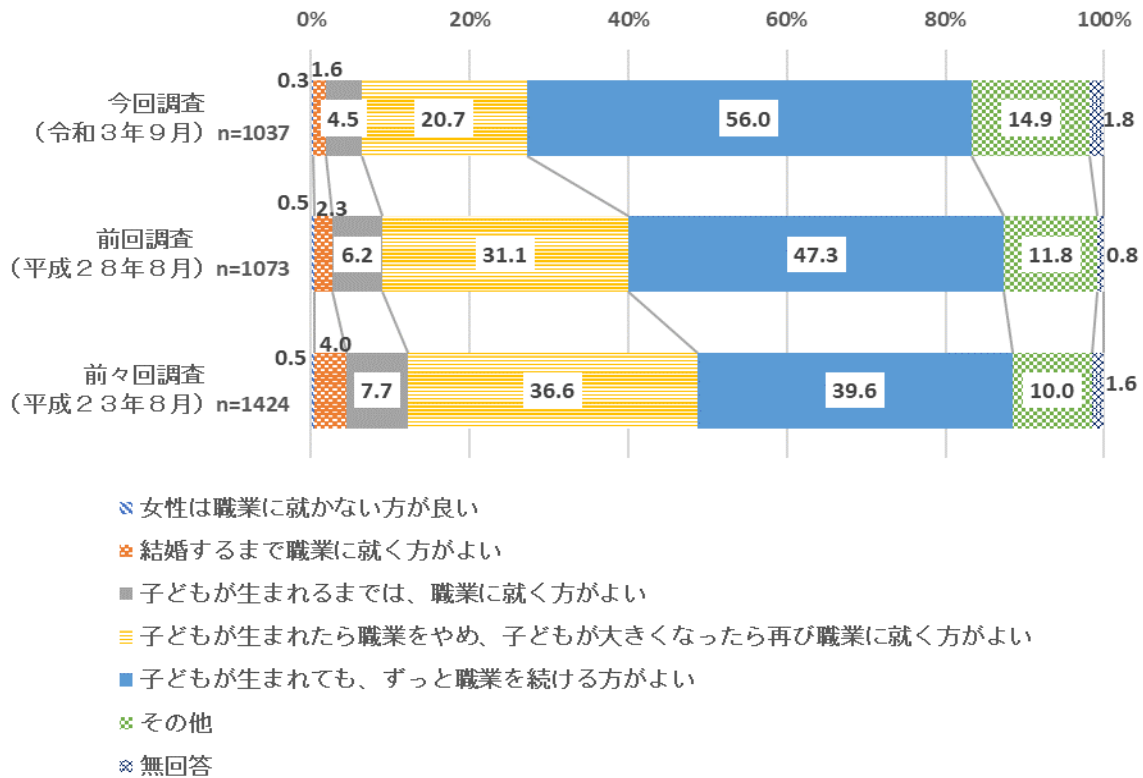


※上位4項目のみ

## 5 仕事と家庭について

### (1) 女性の就労

問 2 2 女性が職業に就くことについて、あなたはどのようにお考えですか。次のうちから1つ選んでください。



女性が職業に就くことについてたずねたところ、「子どもが生まれても、ずっと職業を続ける方がよい」(56.0%)が最も高く、次いで、「子どもが生まれたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業に就く方がよい」が20.7%、「その他」が14.9%、「子どもが生まれるまでは、職業に就く方がよい」が4.5%と続いている。

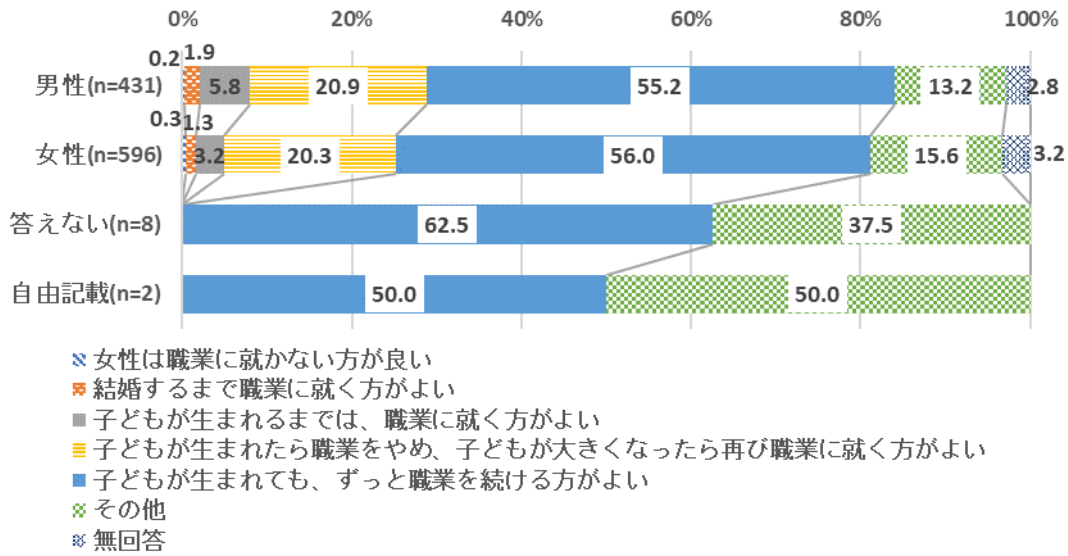
女性が職業に就くことについて肯定的な回答が多く、否定的な意見「女性には職業に就かない方がよい」は0.3%と非常に少ない。

上位3項目をみると、順位に変動はみられない。第1位の「子どもが生まれても、ずっと職業を続ける方がよい」が前回調査から8.7ポイント、前々回調査から16.4ポイント増加している。第2位の「子どもが生まれたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業に就く方がよい」が前回調査から10.4ポイント、前々回調査から15.9ポイント減少しており、1位と2位の差が拡大している。また、「女性には職業に就かない方がよい」は前回調査、前々回調査から0.2ポイント減少、「結婚するまで職業に就く方がよい」が前回調査の2.3%、前々回調査の4.0%から1.6%に減少している。

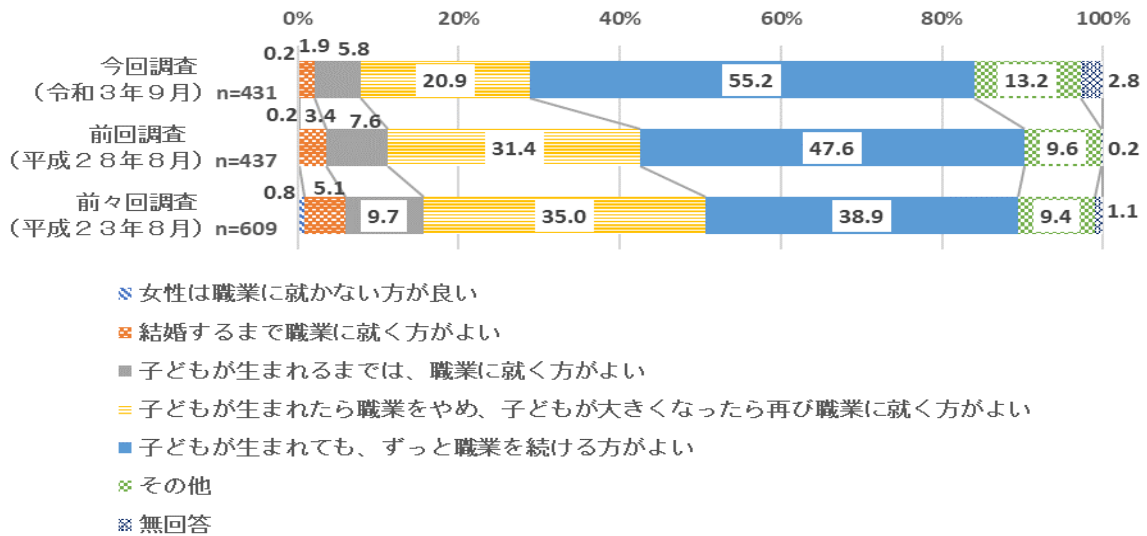
女性が職業に就くことについての考え方は、“結婚や出産を機に離職する”から“結婚や出産をしても離職せず継続したい”へ大きく変化している傾向が続いている。

性別にみると、「女性は職業に就かない方がよい」で女性(0.3%)が男性(0.2%)を上回った。性差が大きい項目は「子どもが生まれるまでは、職業に就く方がよい」で男性(5.8%)が女性(3.2%)を2.6ポイント上回り、他の項目は0.1~0.8ポイントと差は小さい。

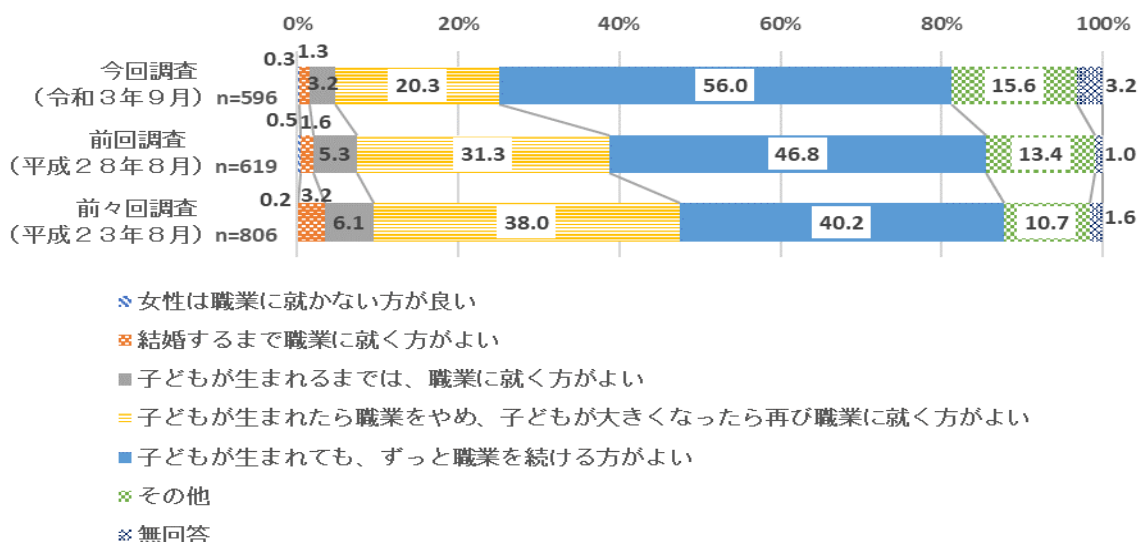
図表 22-1 女性の就労（性別）



【男性】



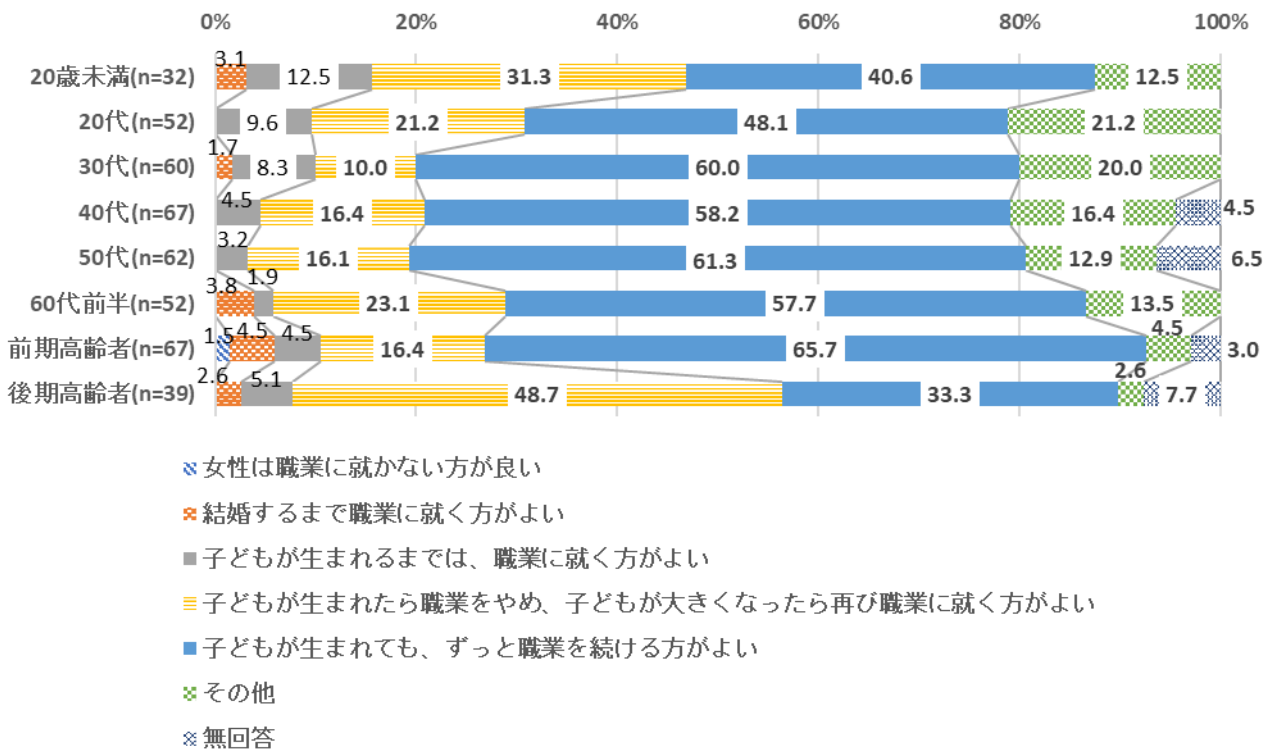
【女性】



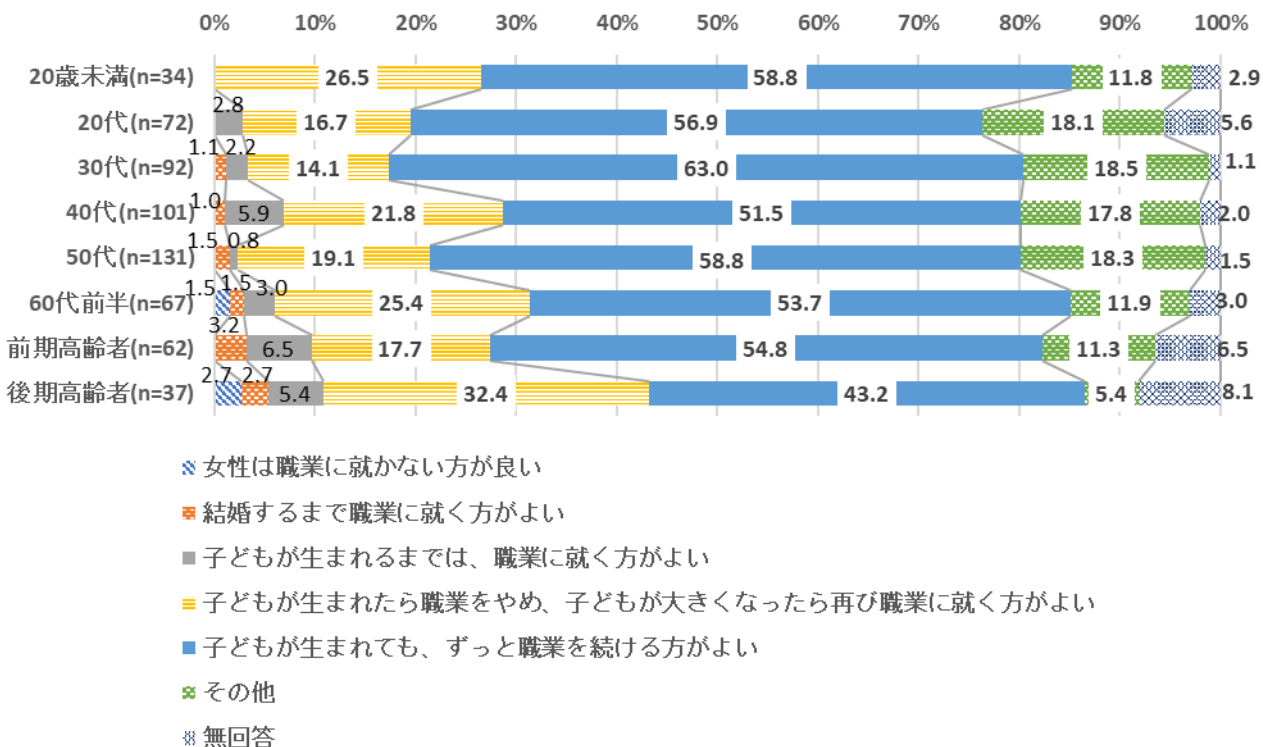
性・年代別をみると、「子どもが生まれても、ずっと職業を続ける方がよい」との回答は、男性では前期高齢者（65.7%）が最も高く、30代と50代が6割を超えている。女性では30代（63.0%）が最も高く、次いで20歳未満、50代が約6割となっている。「子どもが生まれたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業に就く方がよい」は、男性では後期高齢者で約5割、女性では後期高齢者が3割となっている。

図表 22-2 女性の就労（性・年代別）

【男性】

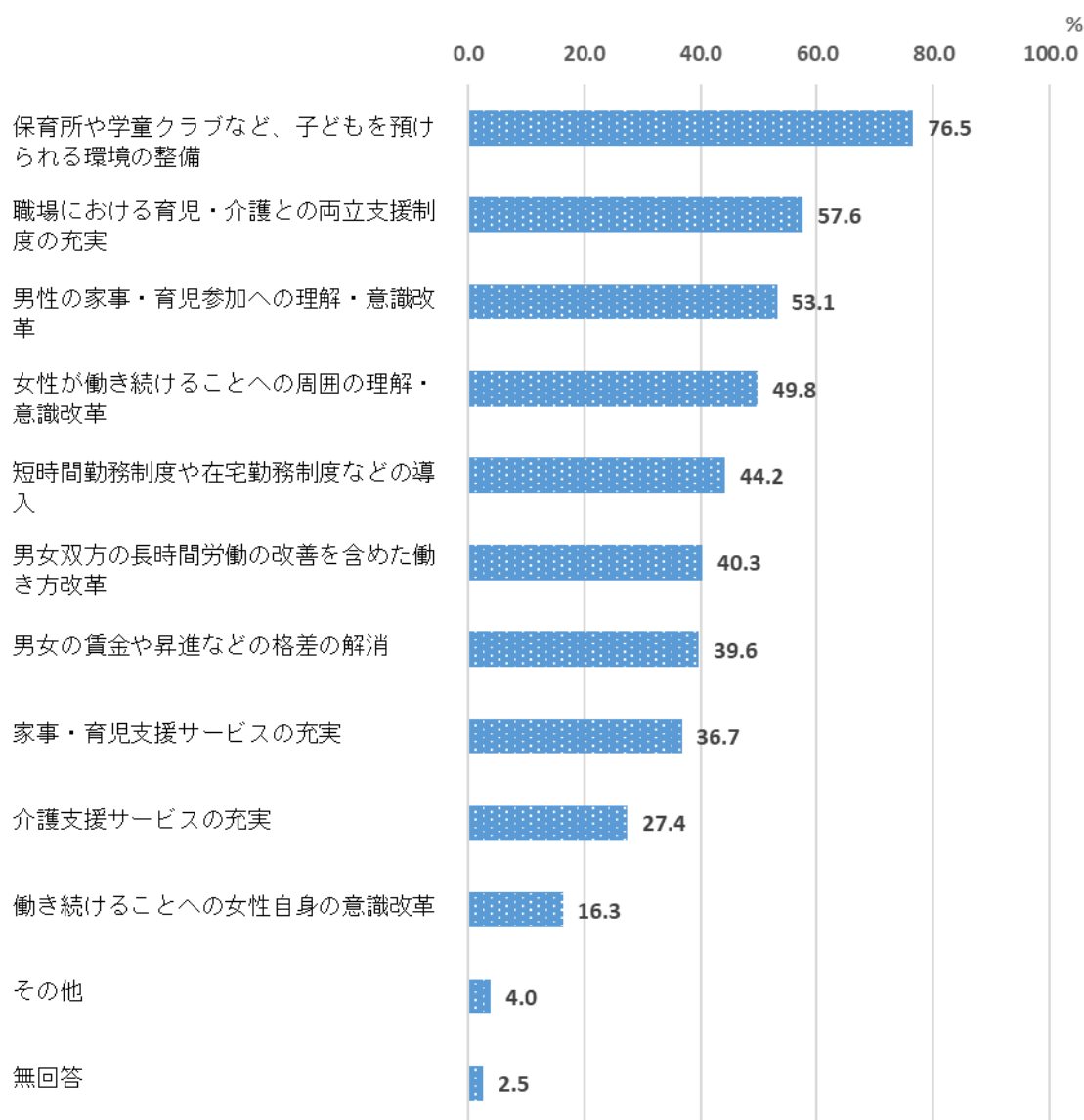


【女性】



## (2) 出産後の復職

問23 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。



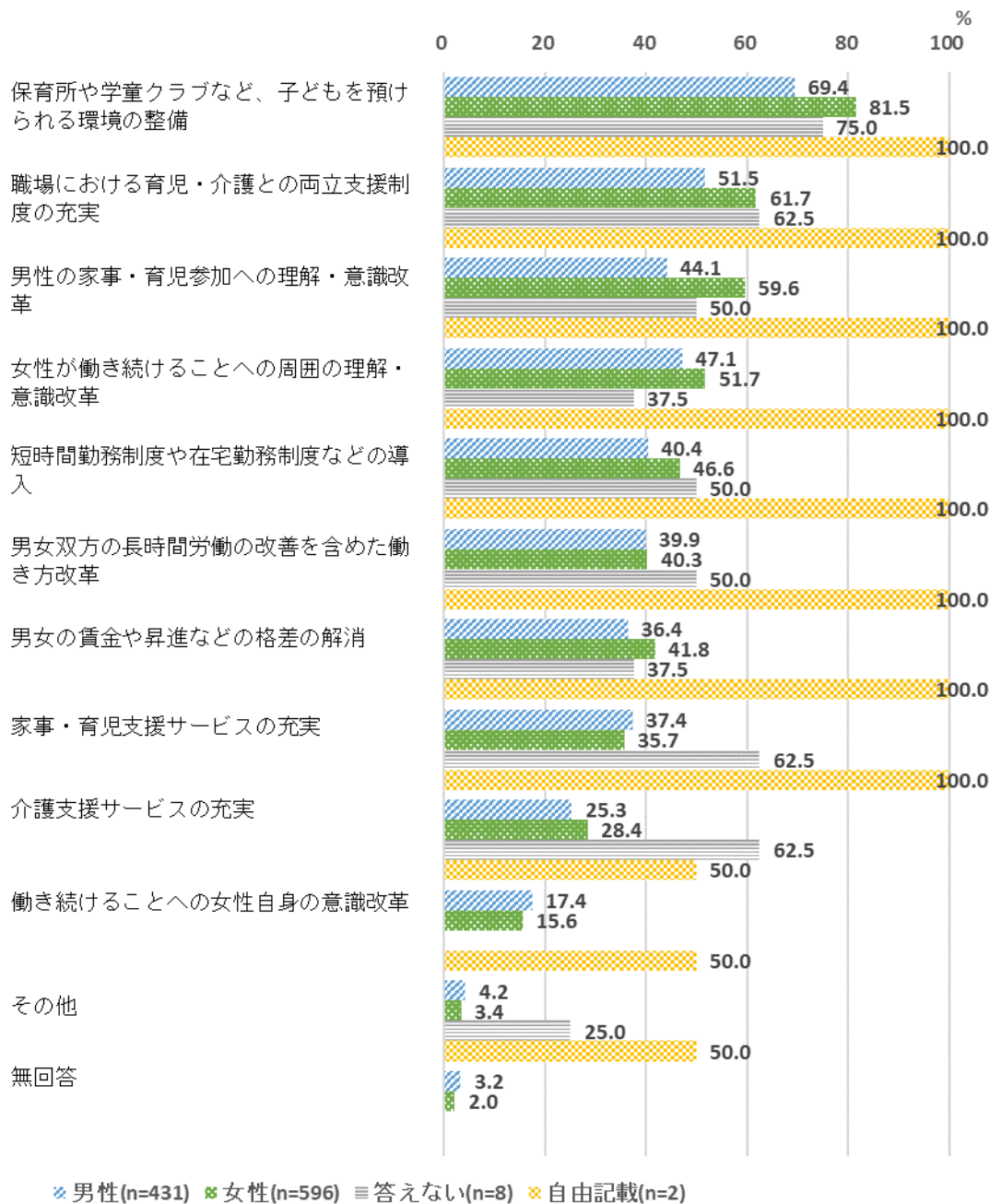
■ 今回調査  
(令和3年9月) n=1037

女性が出産後も離職せずに働き続けるのに必要なことをたずねたところ、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」(76.5%)が最も高く、次いで、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が57.6%、「男性の家事・育児参加への理解・意識改革」が53.1%、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」が49.8%となっている。



性別にみると、ほとんどの項目で女性の回答が男性を上回っている。「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が男性で69.4%、女性で81.5%と12.1ポイントの差がみられる。「男性の家事・育児参加への理解・意識改革」が男性で44.1%、女性で59.6%と15.5ポイントの差がみられる。「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が男性で51.5%、女性で61.7%と10.2ポイントの差がみられる。

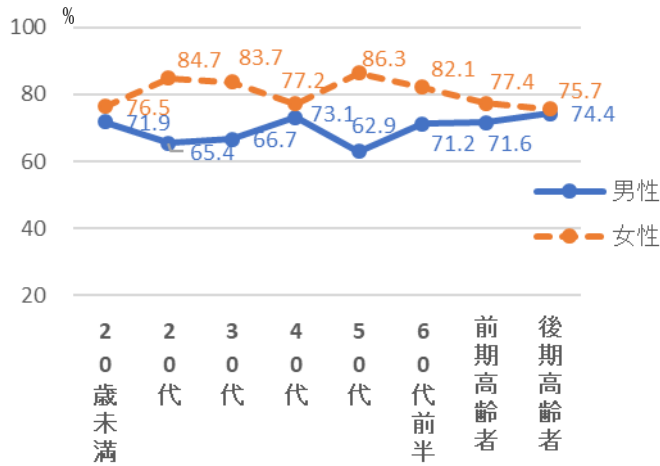
図表 23-1 出産後の復職（性別）



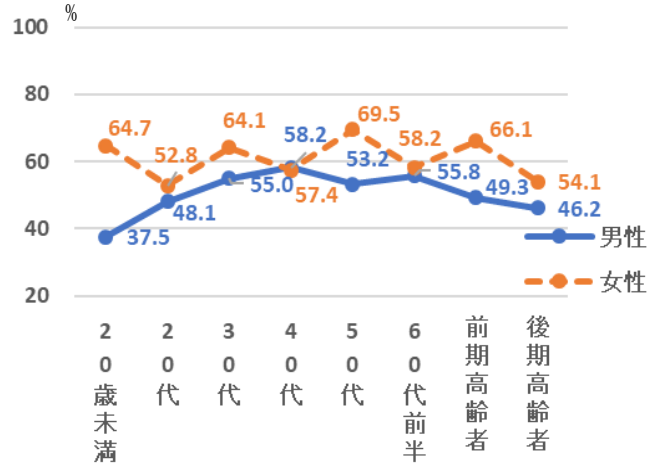
上位4項目について性・年代別にみると、第1位の「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」は、女性ではすべての世代において7割以上で推移しており、男性は6割から7割で推移している。第2位の「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」では、50代で女性(69.5%)と男性(53.2%)で16.3ポイントの差がみられた。第3位の「男性の家事・育児参加への理解・意識改革」では、20歳未満以外の世代で女性が男性を上回っている。第4位の「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」では、前期高齢者女性(66.1%)が最も高く、すべての世代で女性が男性を上回っている。

図表 23-1 出産後の復職（性・年代別）

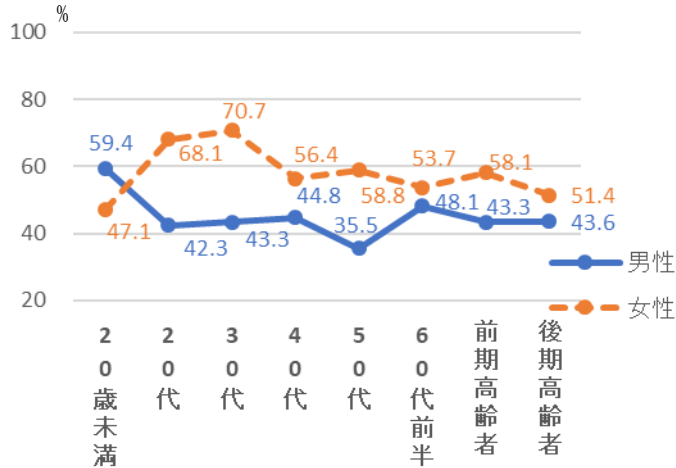
<1位> 保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備



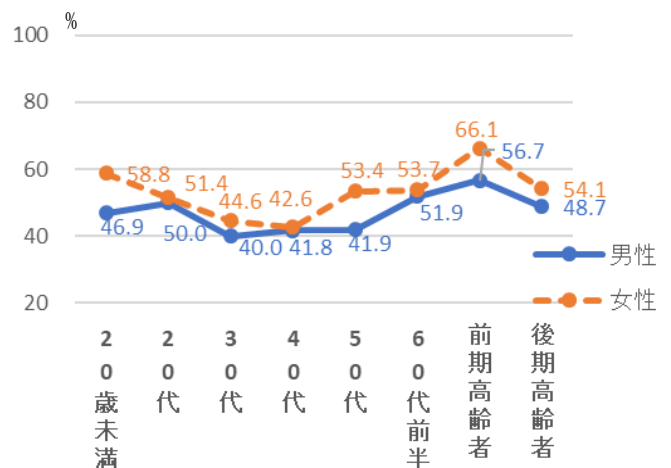
<2位> 職場における育児・介護との両立支援制度の充実



<3位> 男性の家事・育児参加への理解・意識改革



<4位> 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革

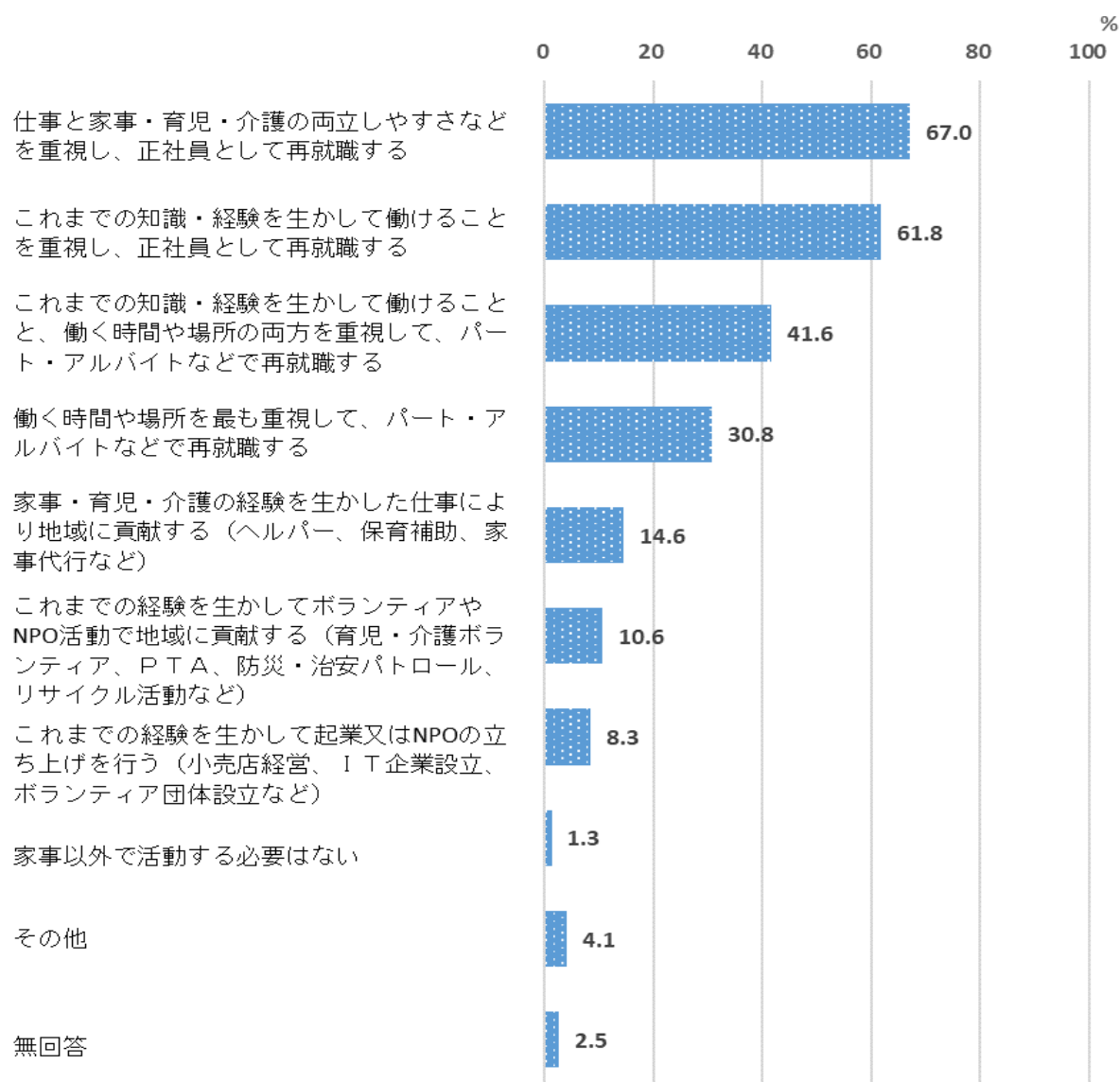


男性(N=32) (N=52) (N=60) (N=67) (N=62) (N=52) (N=67) (N=39)  
 女性(N=34) (N=72) (N=92) (N=101) (N=131) (N=67) (N=62) (N=37)

※上位4項目のみ

### (3) 離職した女性の社会活躍の仕方

問24 出産・介護などでいったん離職した女性が、再び社会で活動する仕方として、あなたがいいと思うものは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

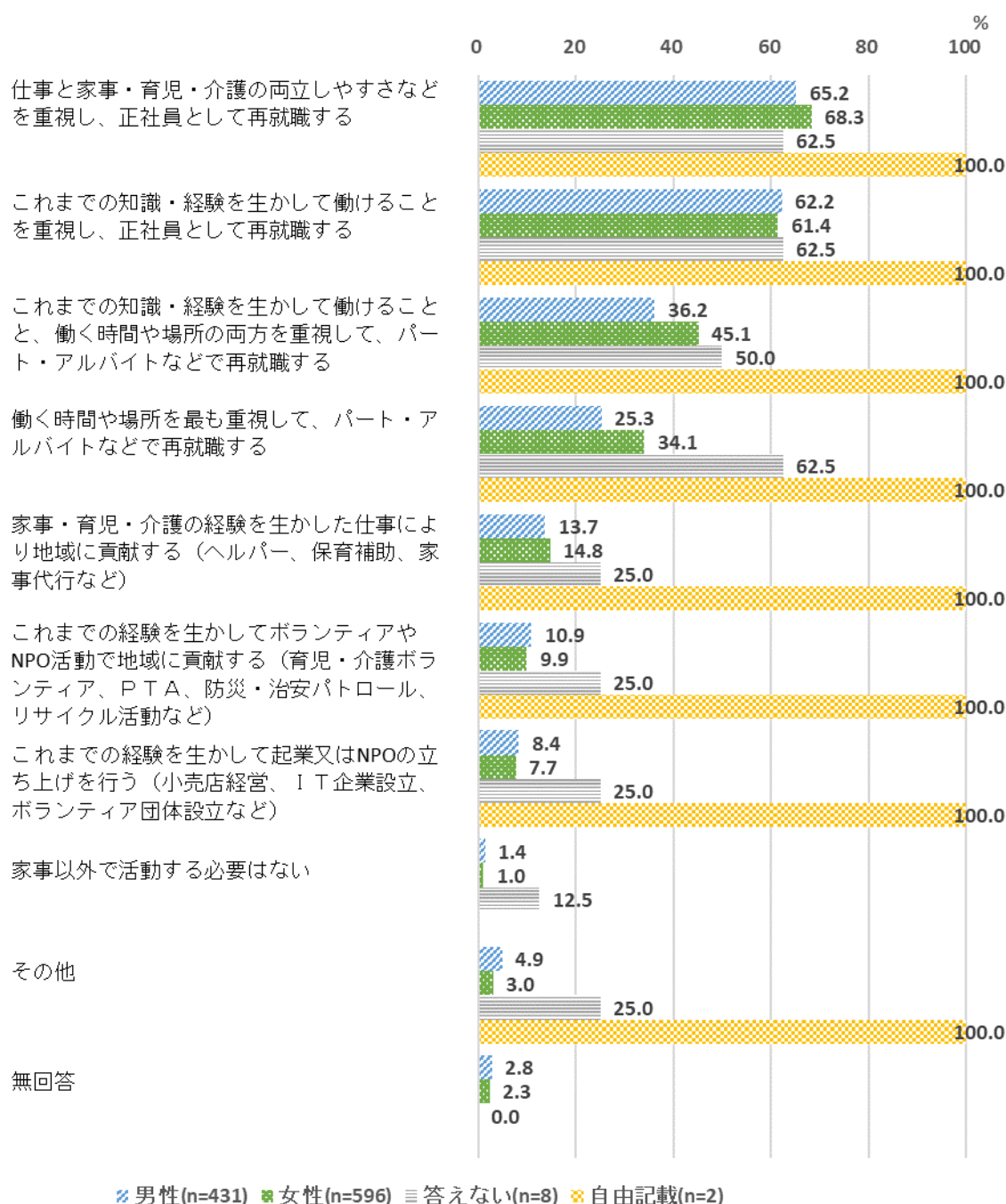


■ 今回調査  
(令和3年9月) n=1037

離職した女性が、再び社会で活動する仕方をたずねたところ、「仕事と家事・育児・介護の両立しやすさなどを重視し、正社員として再就職する」(67.0%)が最も高く、次いで、「これまでの知識・経験を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する」が61.8%、「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」が41.6%、「働く時間や場所を最も重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」が30.8%、「家事・育児・介護の経験を生かした仕事により地域に貢献する。(ヘルパー、保育補助、家事代行など)」が14.6%と続いている。

性別にみると、半数の項目で女性の回答が男性を上回っている。残り半数で男性が女性を上回っている。「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」では、女性と男性で8.9ポイントの差がみられる。

図表 24-1 離職した女性の社会活躍の仕方（性別）

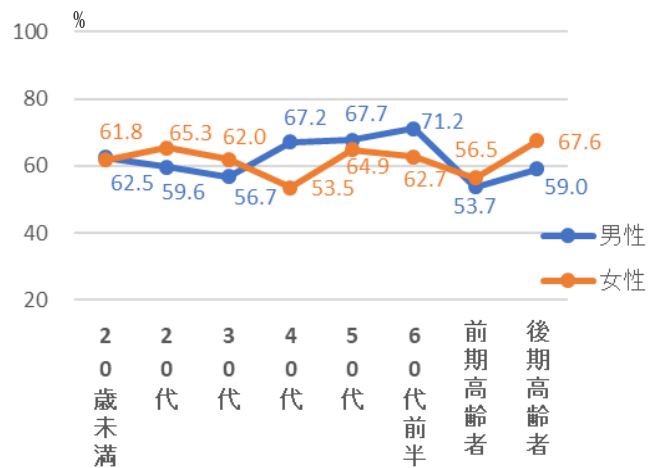
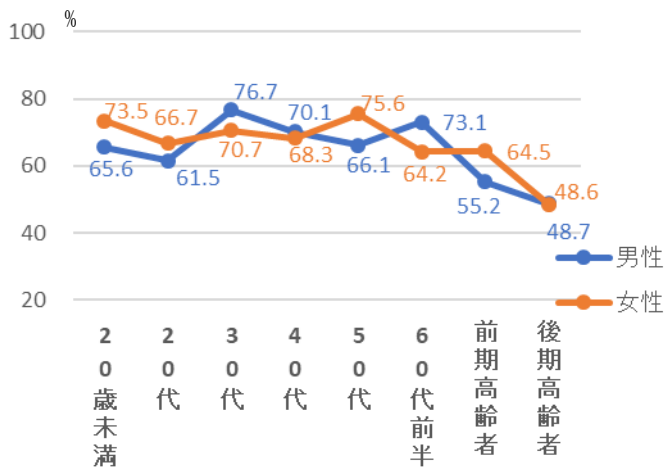


上位4項目について性・年代別にみると、第1位の「仕事と家事・育児・介護の両立しやすさなどを重視し、正社員として再就職する」では、30代男性(76.7%)、50代女性(75.6%)が最も高くなっている。第2位の「これまでの知識・経験を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する」では、60代前半男性(71.2%)が最も高く、50代男性(67.7%)、後期高齢者女性(67.6%)などとなっている。第3位の「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」では、20代から前期高齢者まで女性が男性を上回る回答となっている。第4位の「働く時間や場所を最も重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」では、20代から前期高齢者まで女性が男性を上回る回答となっている。

図表 24-2 離職した女性の社会活躍の仕方(性・年代別)

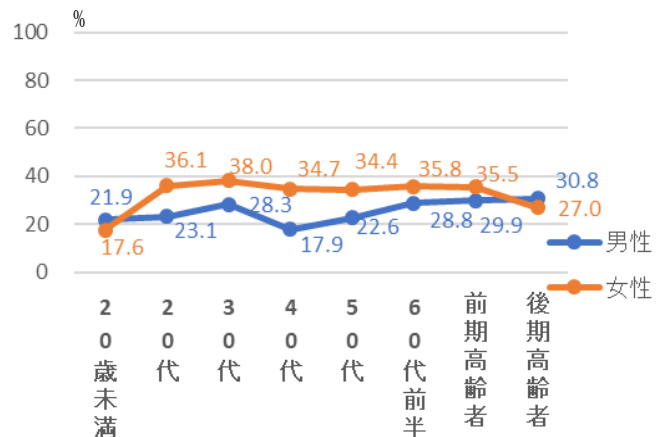
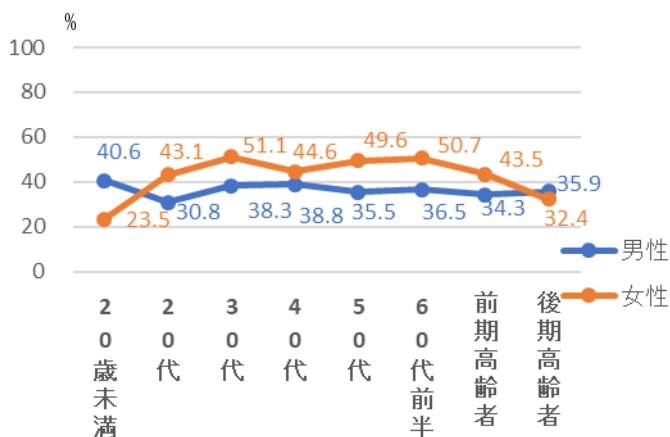
<1位> 仕事と家事・育児・介護の両立しやすさなどを重視し、正社員として再就職する

<2位> これまでの知識・経験を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する



<3位> これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する

<4位> 働く時間や場所を最も重視して、パート・アルバイトなどで再就職する



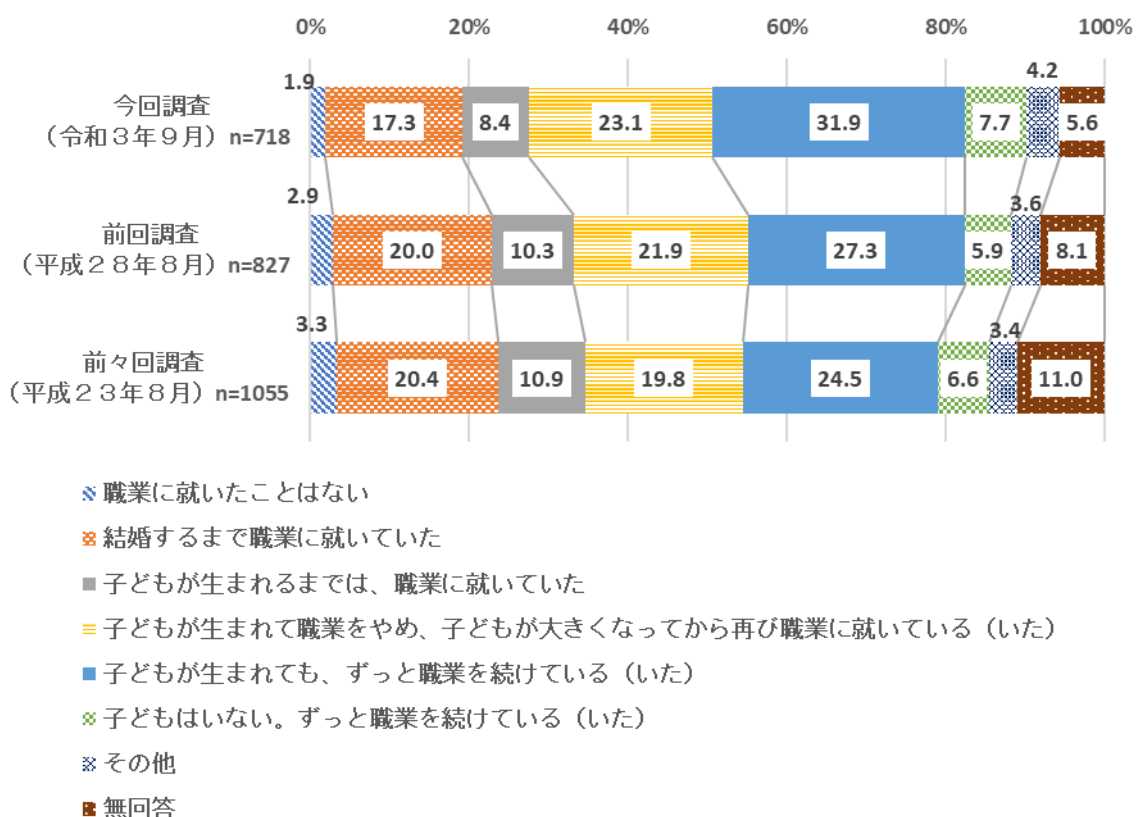
男性(N=32) (N=52) (N=60) (N=67) (N=62) (N=52) (N=67) (N=39)  
 女性(N=34) (N=72) (N=92) (N=101) (N=131) (N=67) (N=62) (N=37)

※上位4項目のみ



(4) 就労状況

問25 結婚（事実婚等を含む）している方にお尋ねします。あなたのご家庭の実際の状況はどのようになっていますか。あなたが女性の場合はあなた自身について、男性の場合はあなたのパートナーについて、あてはまるものを1つ選んでください。



就労状況についてたずねたところ、「子どもが生まれても、ずっと職業を続けている (いた)」(31.9%) が最も高く、次いで、「子どもが生まれて職業をやめ、子どもが大きくなってから再び職業に就いている (いた)」が23.1%、「結婚するまで職業に就いていた」が17.3%、「子どもが生まれるまでは、職業に就いていた」が8.4%、「子どもはいない。ずっと職業を続けている (いた)」が7.7%と続いている。

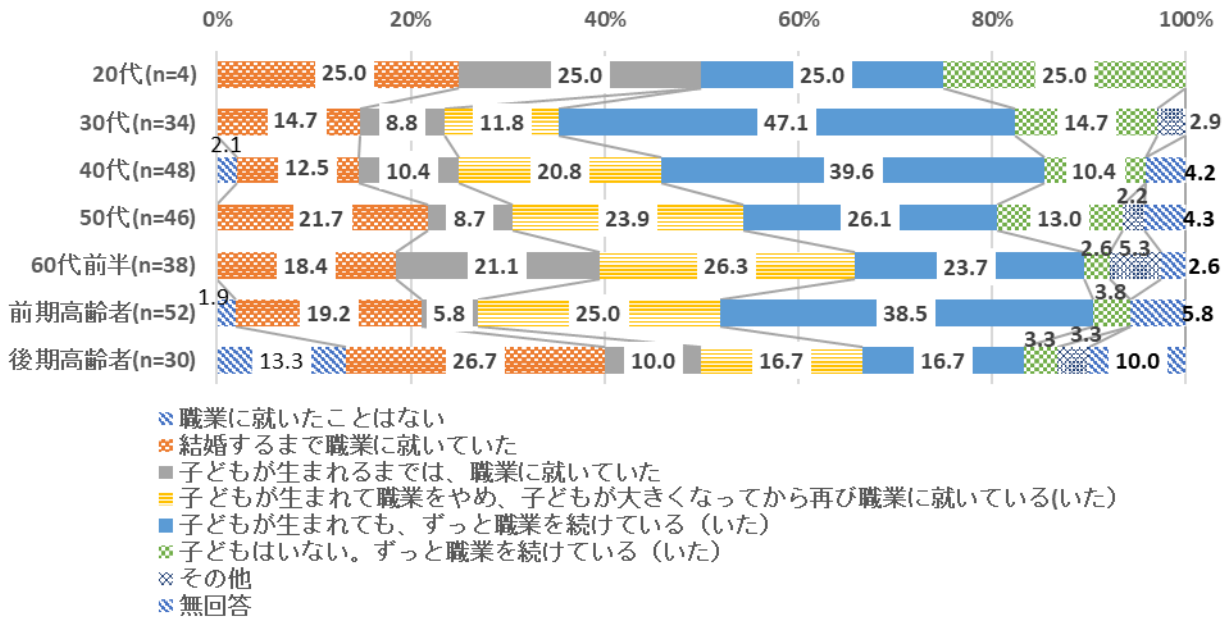
「職業に就いたことはない」は1.9%で、職業に就いた経験の無い女性は非常に少ない。

上位3項目をみると、前回調査から順位に変動はみられない。第1位の「子どもが生まれても、ずっと職業を続けている (いた)」が前回調査から4.6ポイント、前々回調査から7.4ポイント増加している。第2位の「子どもが生まれて職業をやめ、子どもが大きくなってから再び職業に就いている (いた)」が前回調査から1.2ポイント、前々回調査から3.3ポイント増加している。第3位の「結婚するまで職業に就いていた」が前回調査から2.7ポイント、前々回調査から3.1ポイント減少している。

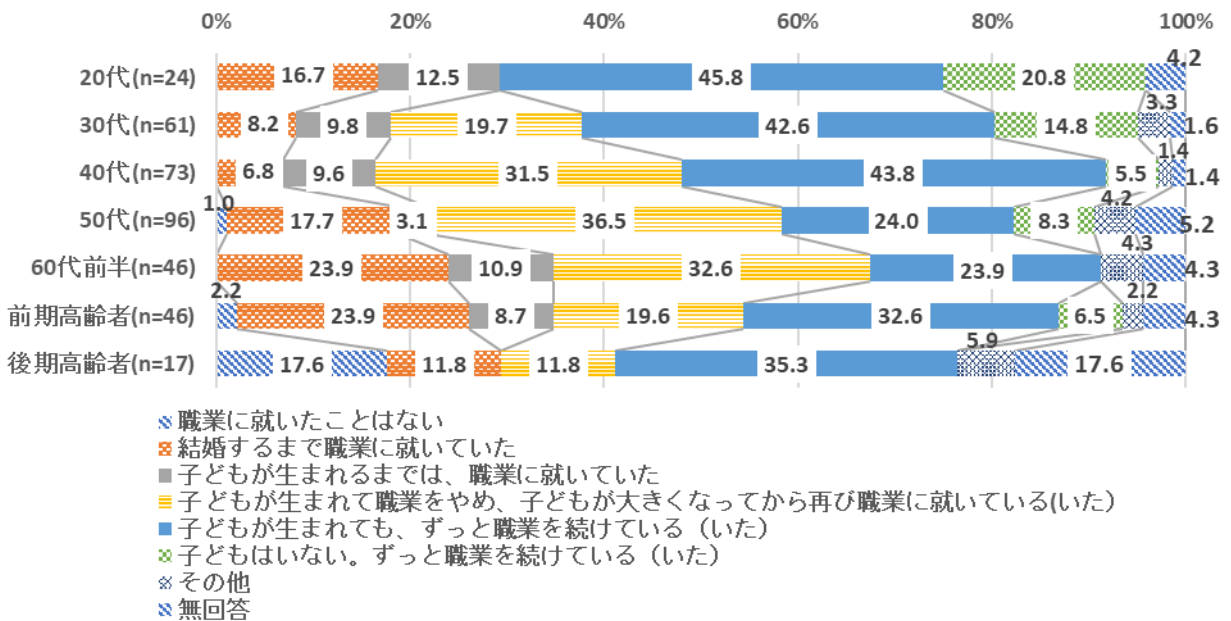
年代別をみると、男性ではほぼ全ての年代で「子どもが生まれても、ずっと職業を続けている（いた）」の割合が高い。30代（47.1%）が最も高く、40代（39.6%）、前期高齢者（38.5%）などと続いている。「子どもが生まれて職業をやめ、子どもが大きくなってから再び職業に就いている（いた）」は、60代前半（26.3%）が最も高く、前期高齢者 25.0%、50代 23.9%などが続いている。女性では50代、60代前半を除く年代で「子どもが生まれても、ずっと職業を続けている（いた）」が高い割合を示している。40代から60代前半は「子どもが生まれて職業をやめ、子どもが大きくなってから再び職業に就いている（いた）」が3割を超えている。

図表 25-1 就労状況（性・年代別）

【男 性】

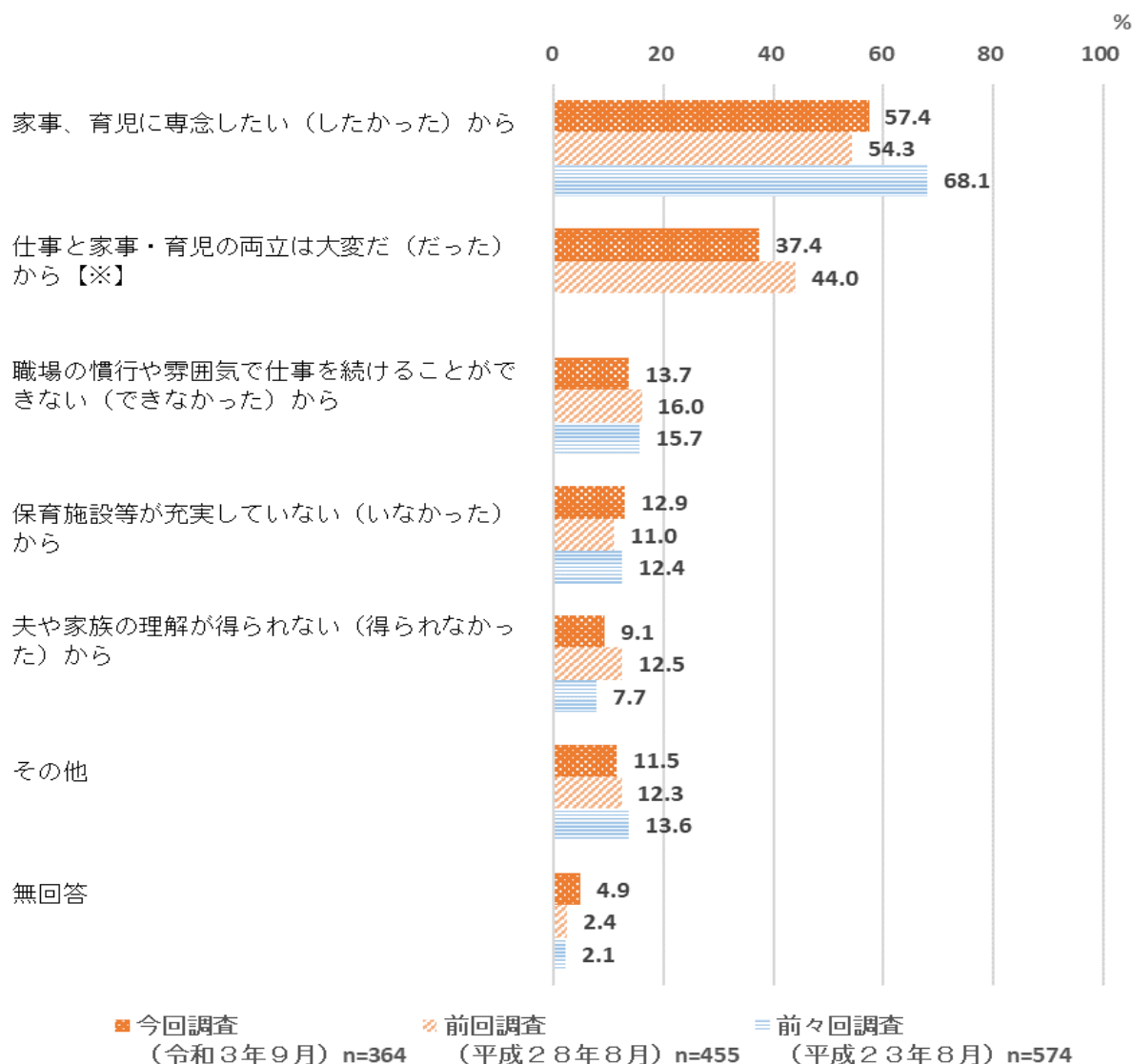


【女 性】



(5) 仕事をしていない理由

問26 問25で1～4を選んだ方だけにお尋ねします。その理由は何ですか。  
次のうちから3つまで選んでください。



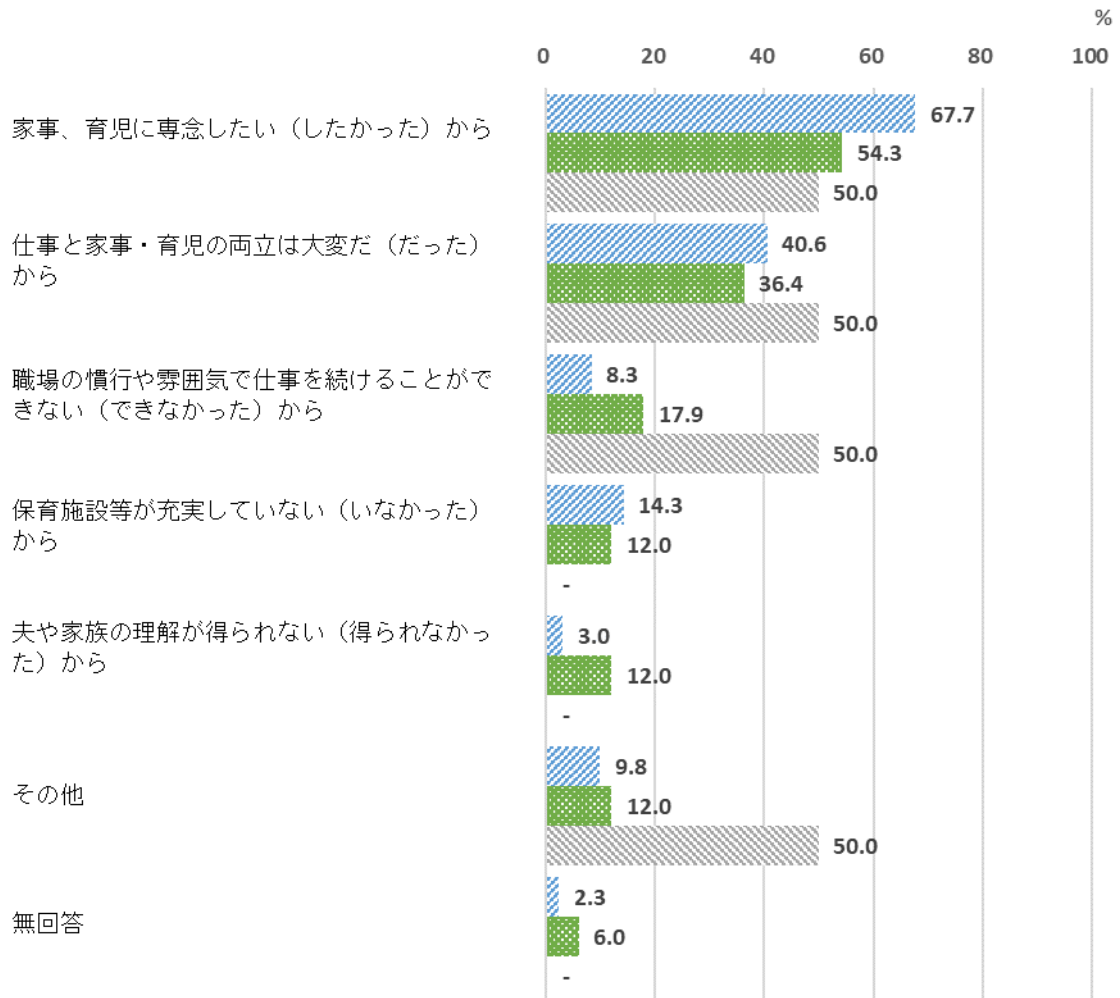
【※】(注意)平成28年度に追加した選択肢のため、前々回調査の比較値はありません。

仕事をしていない理由についてたずねたところ、「家事、育児に専念したい(したかった)から」(57.4%)が最も高く、次いで、「仕事と家事・育児の両立は大変だ(だった)から」が37.4%、「職場の慣行や雰囲気で仕事を続けることができない(できなかった)から」が13.7%、「保育施設等が充実していない(いなかった)から」が12.9%、「夫や家族の理解が得られない(得られなかった)から」が9.1%と続いている。

前々回調査は選択肢が一つ少なく一概に比較できないが、上位項目をみると、第1位の「家事、育児に専念したい(したかった)から」が前回調査から3.1ポイント増加、前々回調査から10.7ポイント減少している。第2位の「仕事と家事・育児の両立は大変だ(だった)から」が前回調査から6.6ポイント減少している。第3位の「職場の慣行や雰囲気で仕事を続けることができない(できなかった)から」が前回調査から2.3ポイント、前々回調査から2.0ポイント減少している。

性別にみると、「家事、育児に専念したい（したかった）から」は、男性（67.7%）が女性（54.3%）を13.4ポイント上回っている。一方、「夫や家族の理解が得られない（得られなかった）から」は女性（12.0%）が男性（3.0%）を9.0ポイント上回り大きな差がみられる。また、前回調査で追加した選択肢「仕事と家事・育児の両立は大変だ（だった）から」は男性で40.6%、女性で36.4%となった。

図表 26-1 仕事をしていない理由（性別）

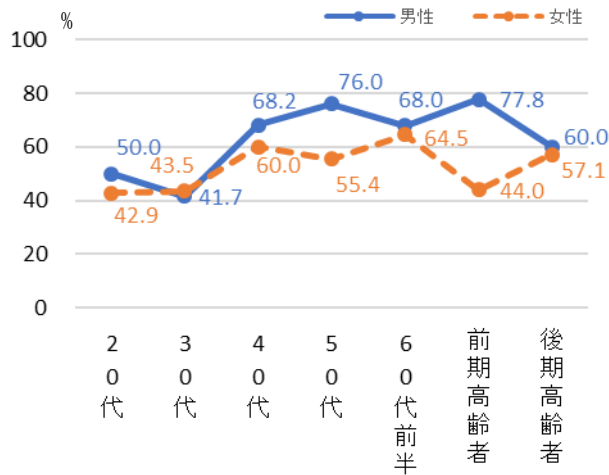


▨ 男性 (n=133)   ▨ 女性 (n=184)   ▨ 答えない (n=2)

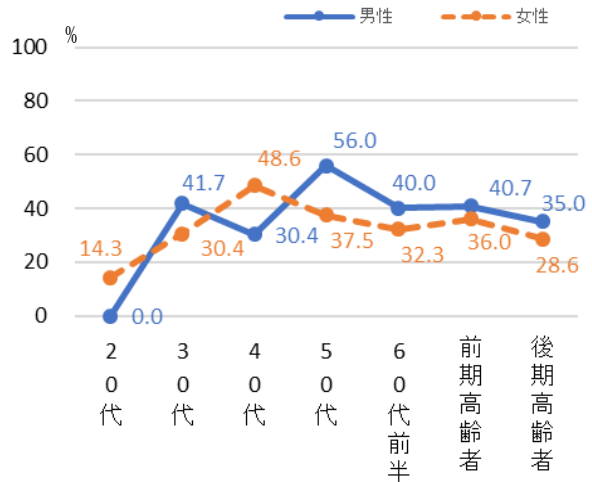
上位4項目について性・年代別にみると、第1位の「家事、育児に専念したい（したかった）から」では、40代以上の年代で男性が女性を上回り、前期高齢者で33.8ポイントの大きな差がみられる。第2位の「仕事と家事・育児の両立は大変だ（だった）から」は、男性では50代(56.0%)、女性では40代(48.6%)が最も高くなっている。また、第3位の「職場の慣行や雰囲気仕事を続けることができない（できなかった）から」は、40代と後期高齢者を除く全ての年代で女性が男性を上回っている。第4位の「保育施設等が充実していない（いなかった）から」は、男性で後期高齢者（30.0%）、50代（20.0%）、女性で前期高齢者（20.0%）が他の年代と比較すると高くなっている。

図表 26-2 仕事をしていない理由（性・年代別）

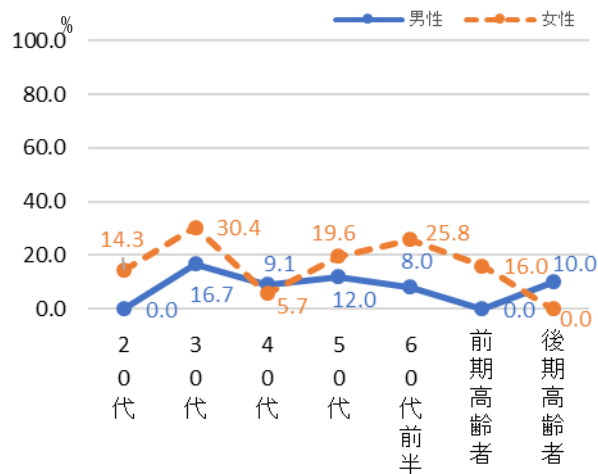
<1位> 家事、育児に専念したい（したかった）から



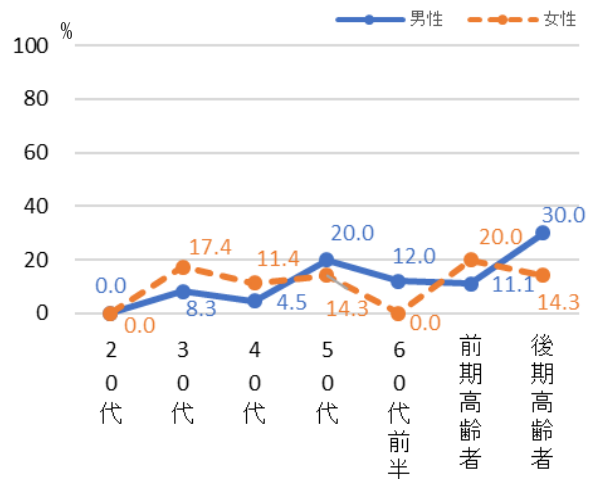
<2位> 仕事と家事・育児の両立は大変だ（だった）から



<3位> 職場の慣行や雰囲気仕事を続けることができない（できなかった）から



<4位> 保育施設等が充実していない（いなかった）から



男性 (N=2) (N=12) (N=22) (N=25) (N=25) (N=27) (N=20)

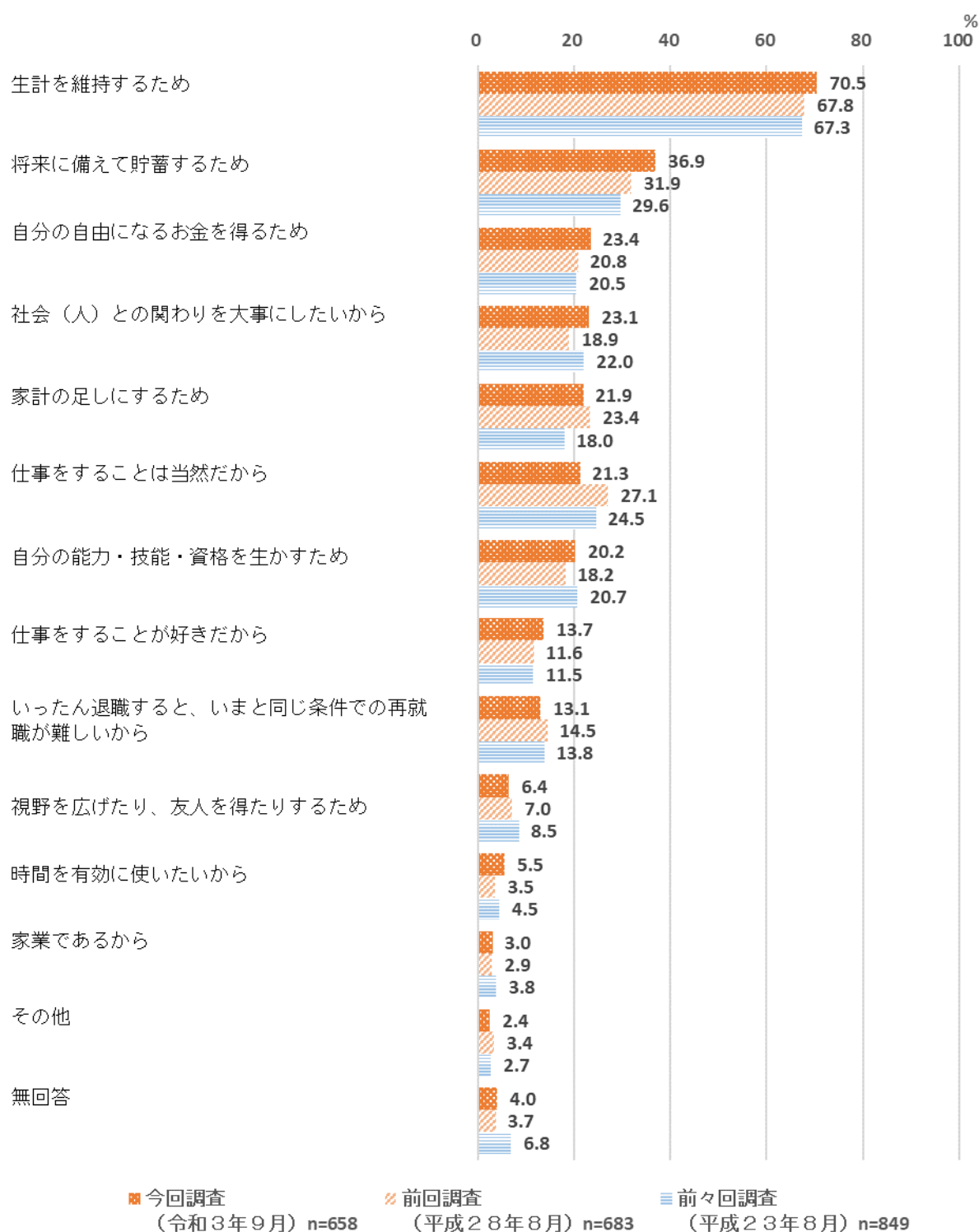
女性 (N=7) (N=23) (N=35) (N=56) (N=31) (N=25) (N=7)

※上位4項目のみ



## (6) 仕事をしている理由

問27 職業に就いている方にお尋ねします。あなたが仕事をしている理由は何ですか。次のうちから3つまで選んでください。

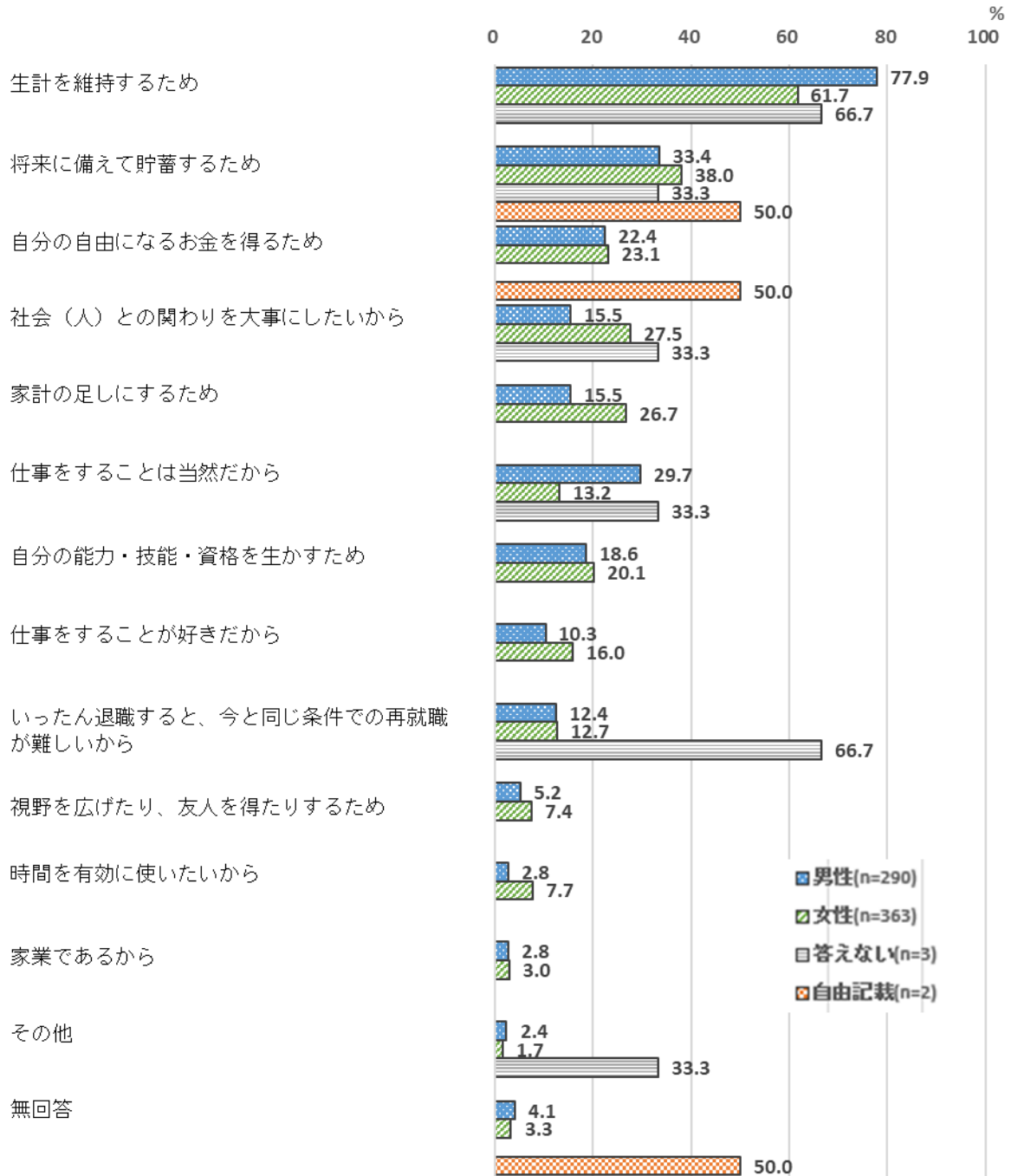


現在就労している人(658人)に、仕事をしている理由をたずねたところ、「生計を維持するため」(70.5%)が最も高く、次いで、「将来に備えて貯蓄するため」が36.9%、「自分の自由になるお金を得るため」が23.4%、「社会(人)との関わりを大事にしたいから」が23.1%と続いている。

上位項目をみると、「生計を維持するため」が前回調査から2.7ポイント、前々回調査から3.2ポイント増加している。「将来に備えて貯蓄するため」が前回調査から5.0ポイント、前々回調査から7.3ポイント増加している。

性別にみると、「生計を維持するため」と答えた人は、男性（77.9%）が女性（61.7%）を16.2ポイント上回っている。「将来に備えて貯蓄するため」が女性（38.0%）、男性（33.4%）で4.6ポイント上回っている。

図表 27-1 仕事をしている理由（性別）

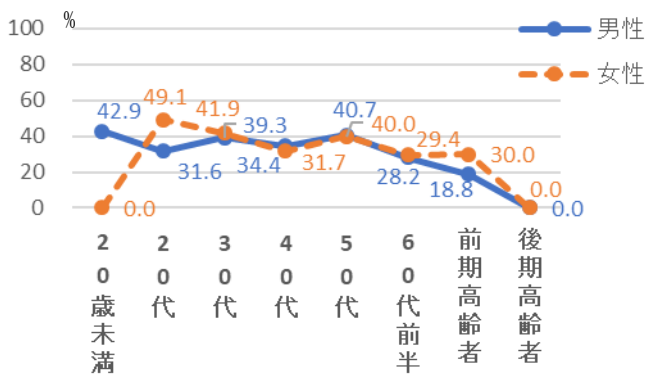
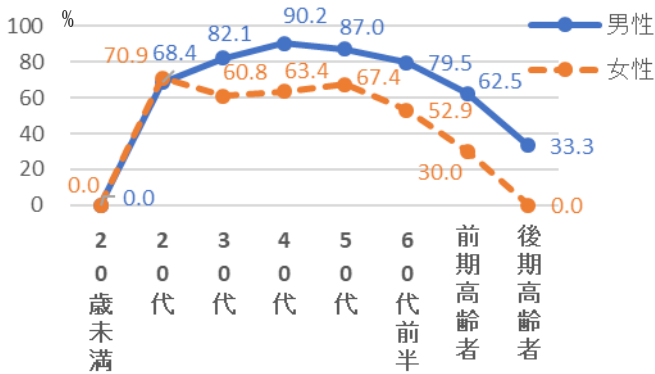


上位6項目は以下の通りで、性・年代別をみると、第1位の「生計を維持するため」では、30代～後期高齢者の男性が女性を上回っており、40代男性では9割を超えている。第2位の「将来に備えて貯蓄するため」では、20代の男性で31.6%、女性で49.1%と17.5ポイントの差がある。第3位の「自分の自由になるお金を得るため」では、40代までの年代で男性が女性を上回っている。第4位の「社会（人）との関わりを大事にしたいから」では、20歳未満と後期高齢者を除く年代で女性が男性を上回っている。第5位の「家計の足しにするため」は30代から前期高齢者まで女性が男性を上回っている。第6位の「仕事をすることが当然だから」では、20代から前期高齢者まで男性が女性を上回っている。

図表 27-2 仕事をしている理由（性・年代別）

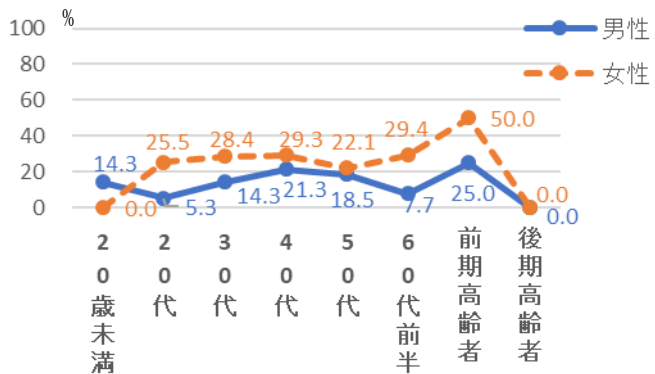
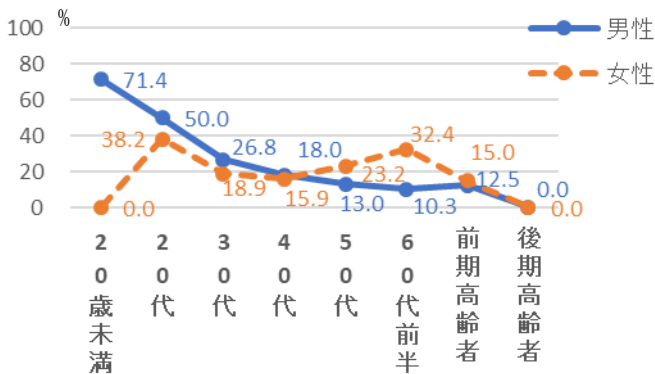
<1位> 生計を維持するため

<2位> 将来に備えて貯蓄するため



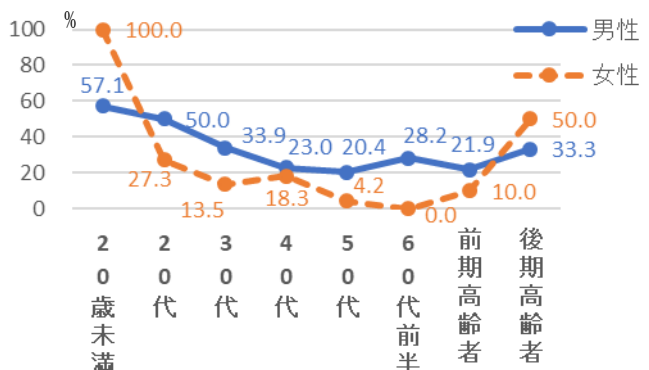
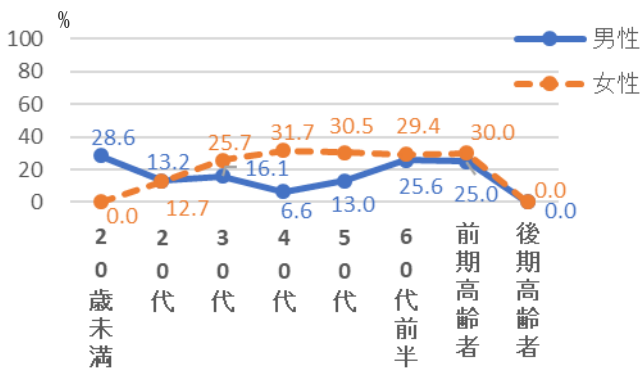
<3位> 自分の自由になるお金を得るため

<4位> 社会（人）との関わりを大事にしたいから



<5位> 家計の足しにするため

<6位> 仕事をすることが当然だから



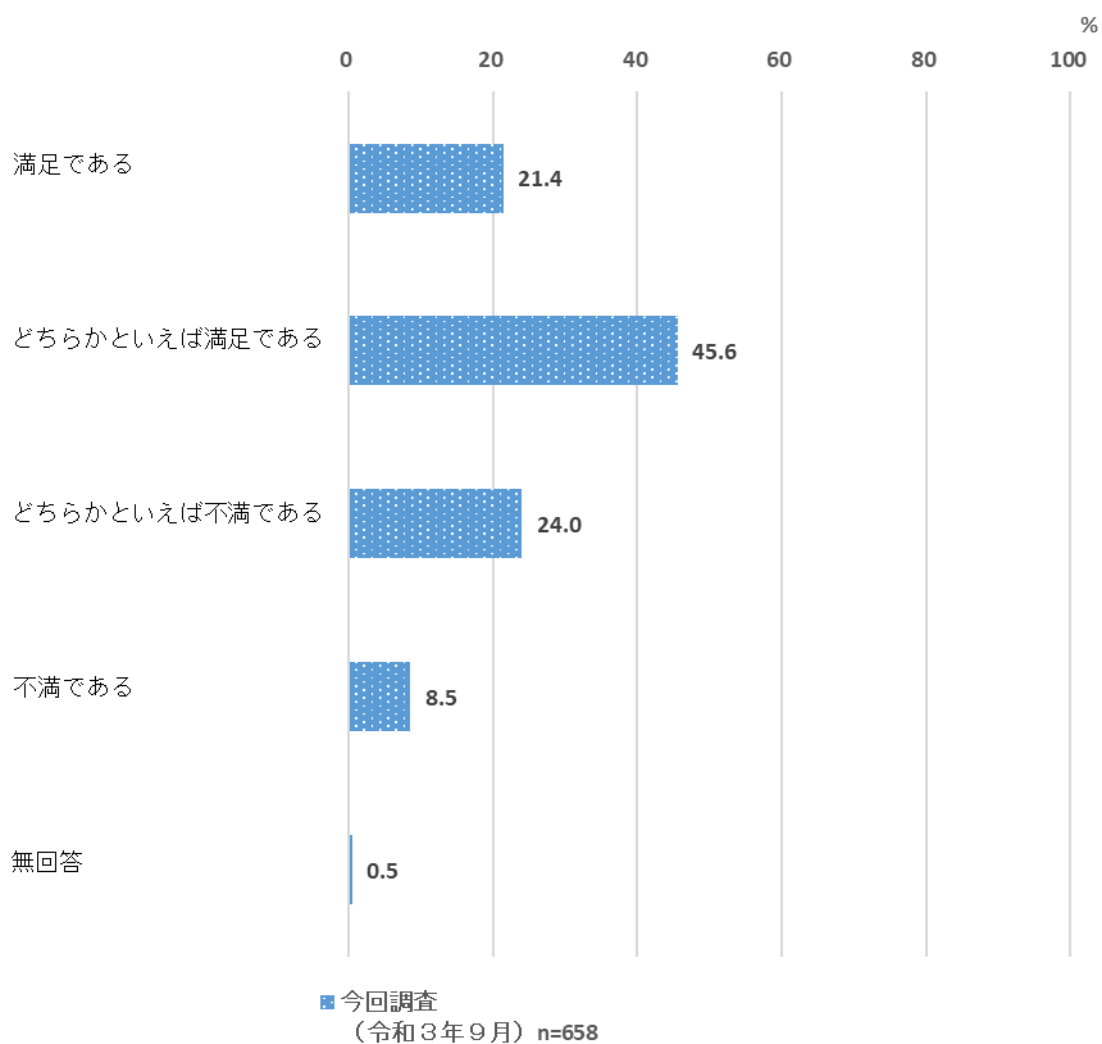
男性 (N=7) (N=38) (N=56) (N=61) (N=54) (N=39) (N=32) (N=3)

女性 (N=1) (N=55) (N=74) (N=82) (N=95) (N=34) (N=20) (N=2)

※上位6項目のみ

## (7) 勤務条件や職場環境の満足度

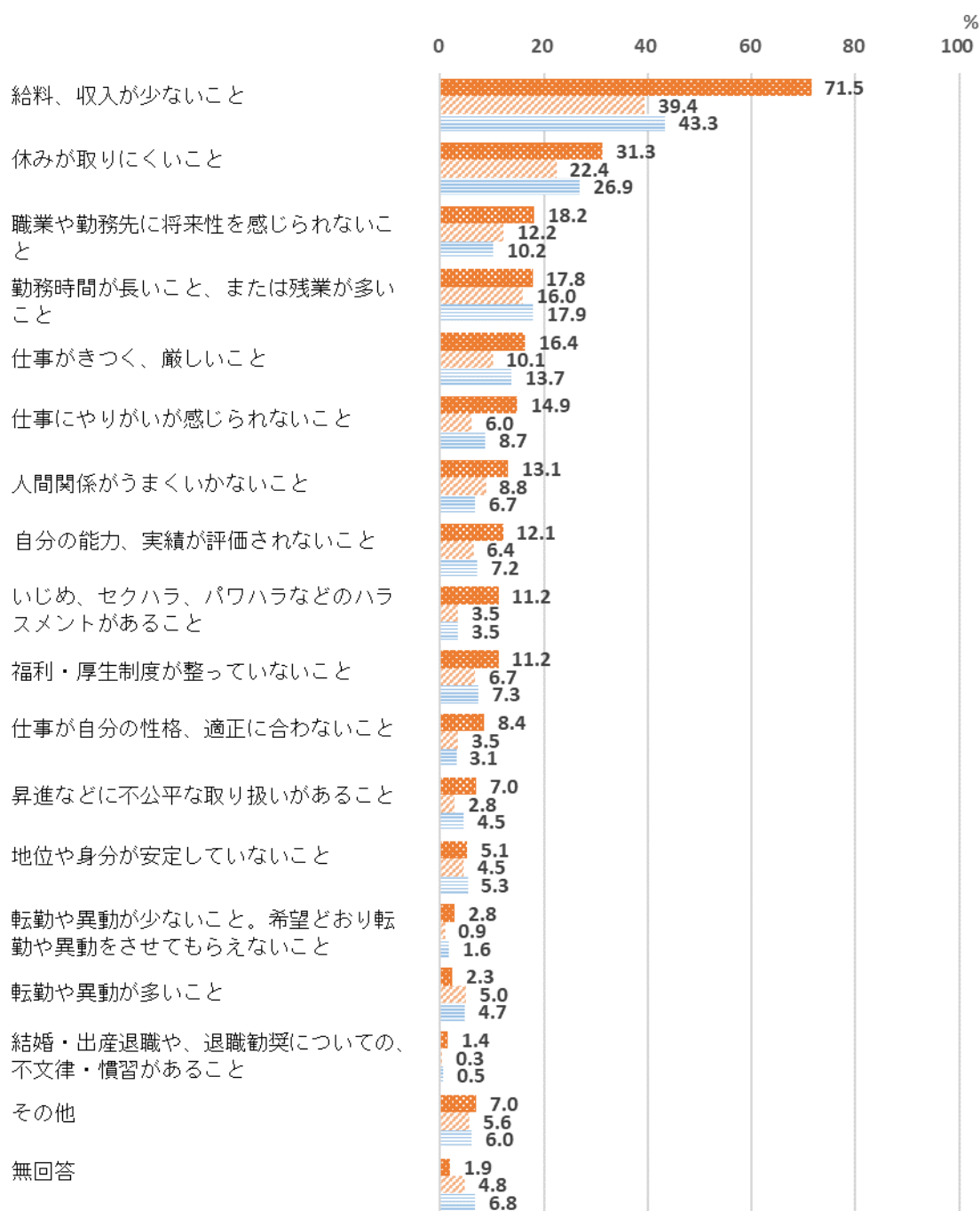
問28 職業に就いている方にお尋ねします。勤務条件や職場環境に関して現在どのように思っていますか。次のうちから1つ選んでください。



勤務条件や職場環境の満足度をたずねたところ、「どちらかといえば満足である」が45.6%で最も高く、「どちらかといえば不満である」が24.0%、「満足である」が21.4%、「不満である」が8.5%の順となった。

(8) 勤務条件等で困っていること

問29 問28で3、4を選んだ方だけにお尋ねします。その理由は何ですか。次のうちから3つまで選んでください。



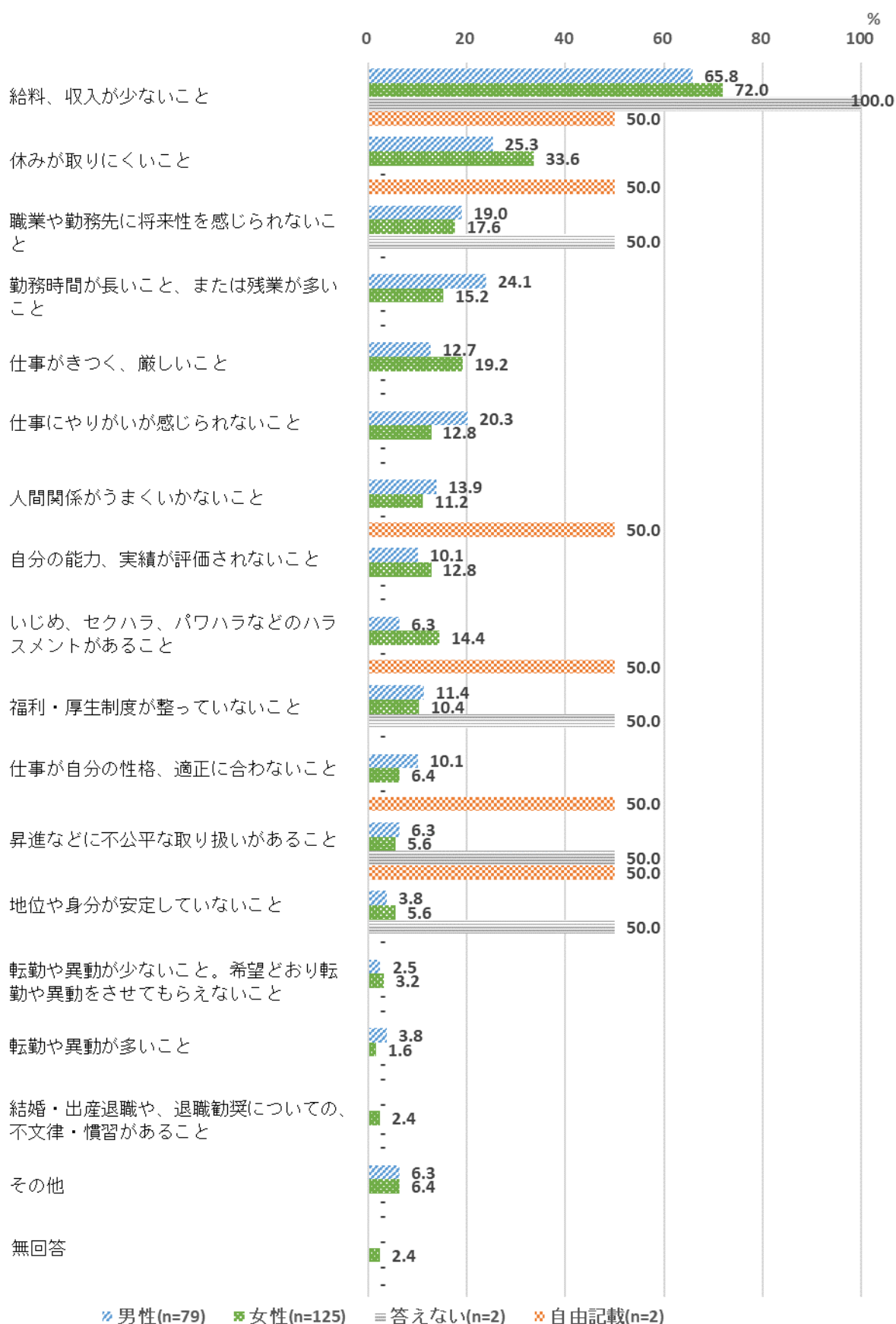
【※】(注意) 今回調査(令和3年9月)から問28の「どちらかといえば不満である」、「不満である」と回答した方を対象としたため、前回調査までと単純比較することはできない。

勤務条件等で困っていることをたずねたところ、「給料、収入が少ないこと」(71.5%)が最も高く、次いで、「休みが取りにくいこと」が31.3%、「職業や勤務先に将来性を感じられないこと」が18.2%、「勤務時間が長いこと、または残業が多いこと」が17.8%と続いている。前回調査までと対象が異なるため、単純比較はできないが、上位項目をみると、「給料、収入が少ないこと」が前回調査から32.1ポイント、前々回調査から28.2ポイント増加している。「休みがとりにくいこと」が前回調査から8.9ポイント、前々回調査から4.4ポイント増加している。



性別にみると、「給料、収入が少ないこと」では男性が 65.8%、女性が 72.0%、「休みが取りにくいこと」では男性が 25.3%、女性が 33.6%となっており、女性が男性を上回っている。「職業や勤務先に将来性を感じられないこと」では、男性が 19.0%、女性が 17.6%となっている。

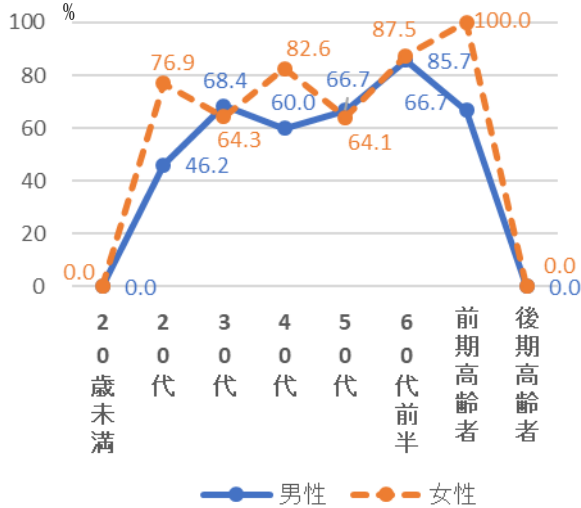
図表 29-1 勤務条件等で困っていること（性別）



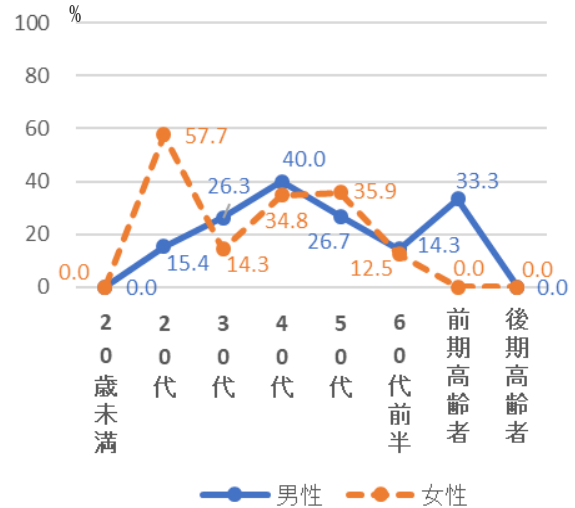
上位4項目について性・年代別にみると、第1位の「給料、収入が少ないこと」は、女性の20代(76.9%)、40代(82.6%)がこの年代の男性と比べて大きく上回っている。第2位の「休みが取りにくいこと」では、女性の20代(57.7%)が最も高く、この年代の男性と42.3ポイントと大きな差がみられる。第3位の「勤務時間が長いこと、または残業が多いこと」は、男性30代~60代前半で男性が女性を上回っており、特に30代から50代の男性で3割を超えている。第4位の「職業や勤務先に将来性を感じられないこと」では、男性の20代(23.1%)、30代(26.3%)とやや高い値を示している。

図表 29-2 勤務条件等で困っていること（性・年代別）

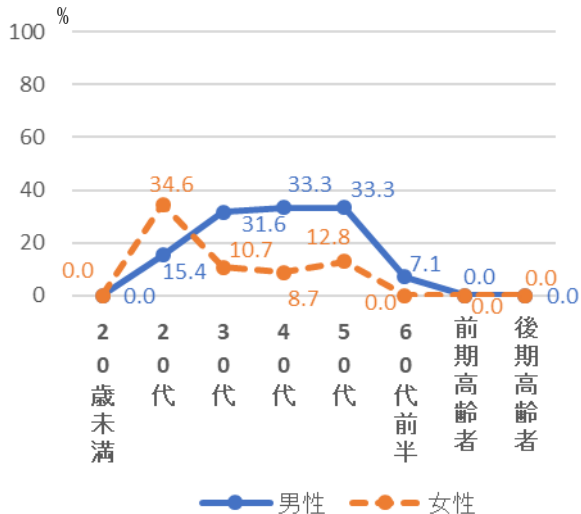
<1位> 給料、収入が少ないこと



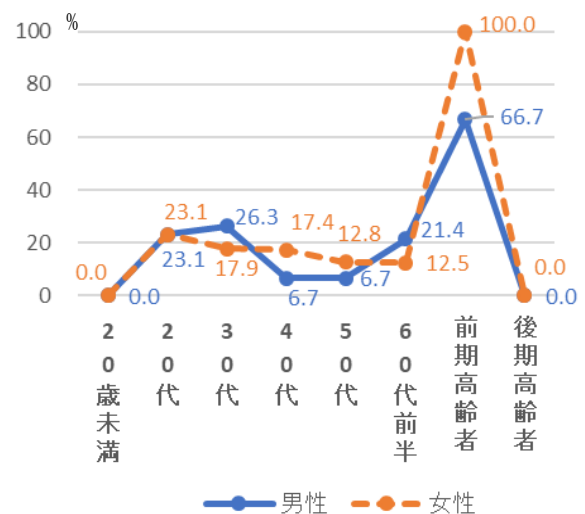
<2位> 休みが取りにくいこと



<3位> 勤務時間が長いこと、または残業が多いこと



<4位> 職業や勤務先に将来性を感じられないこと



男性(N=0) (N=13) (N=19) (N=15) (N=15) (N=14) (N=3) (N=0)

女性(N=0) (N=26) (N=28) (N=23) (N=39) (N=8) (N=1) (N=0)

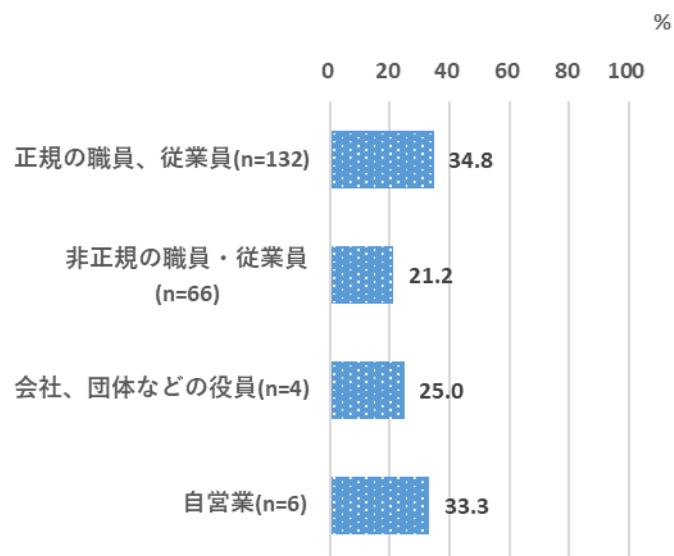
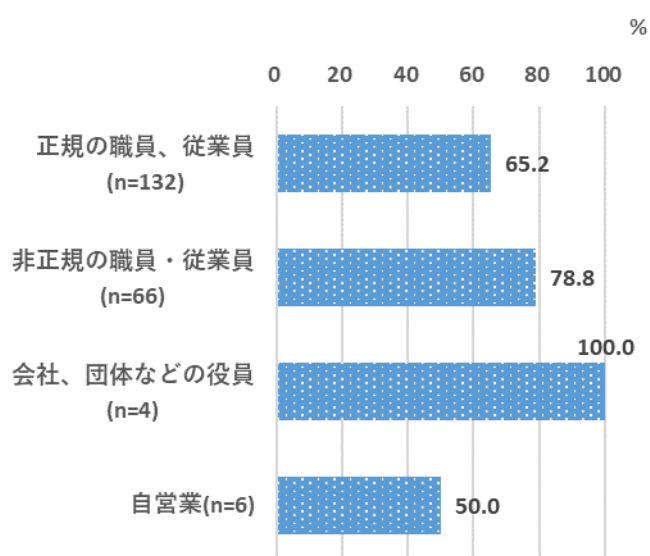
※上位4項目のみ

上位4項目について職業別にみると、第1位の「給料、収入が少ないこと」では、非正規の職員・従業員が78.8%と回答している。第2位の「休みが取りにくいこと」では、正規の職員、従業員が34.8%、自営業が33.3%と回答している。第3位の「勤務時間が長いこと、または残業が多いこと」では正規の職員、従業員が25.0%で最も高くなっている。第4位の「職業や勤務先に将来性が感じられないこと」では正規の職員、従業員が19.7%で最も高くなっている。

図表 29-3 勤務条件等で困っていること（職業別）

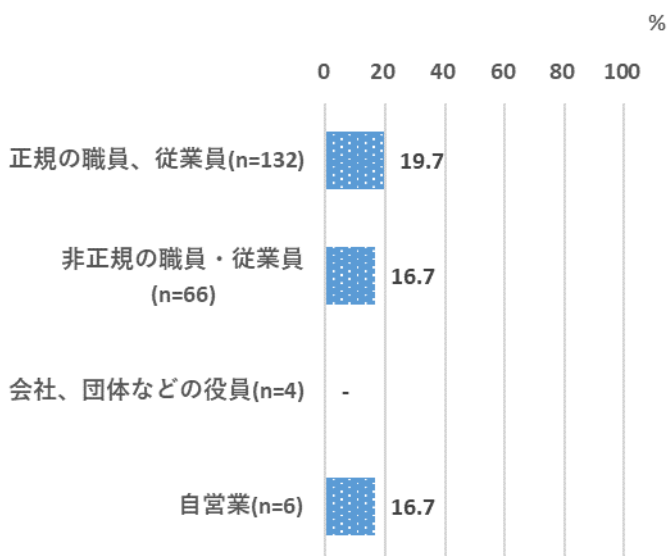
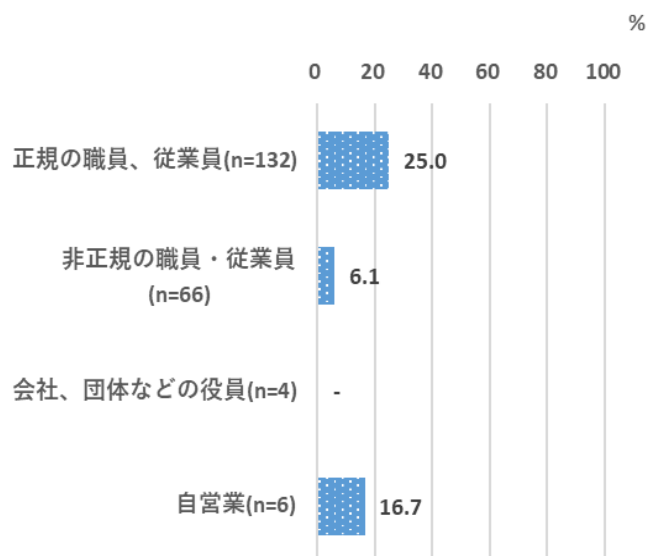
<1位> 給料、収入が少ないこと

<2位> 休みが取りにくいこと



<3位> 勤務時間が長いこと、または残業が多いこと

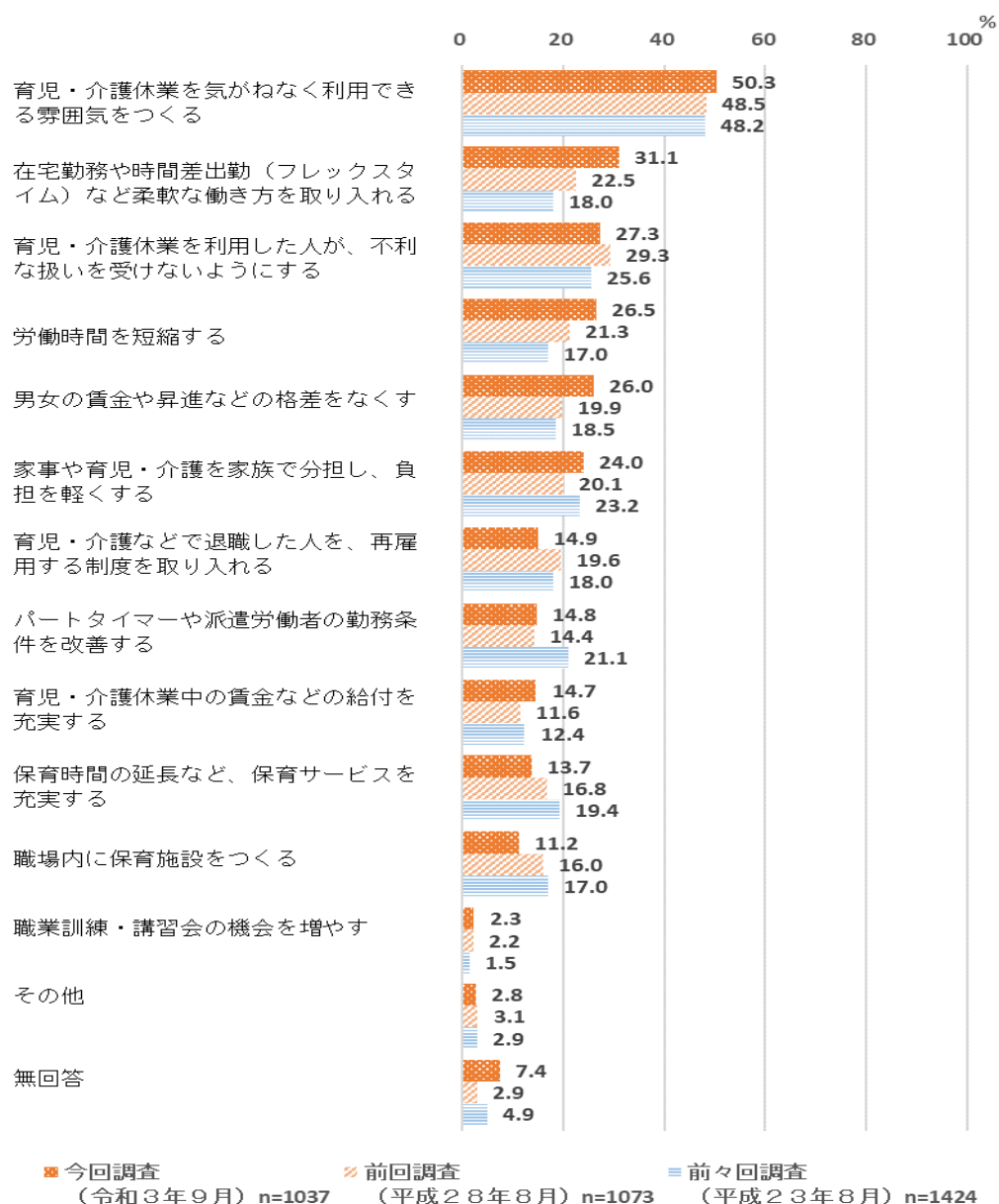
<4位> 職業や勤務先に将来性が感じられないこと



※上位4項目のみ

## (9) 仕事と家庭の両立に必要な条件

問30 仕事と家庭を両立するためには、どのような条件が必要だと思いますか。  
次のうちから3つまで選んでください。



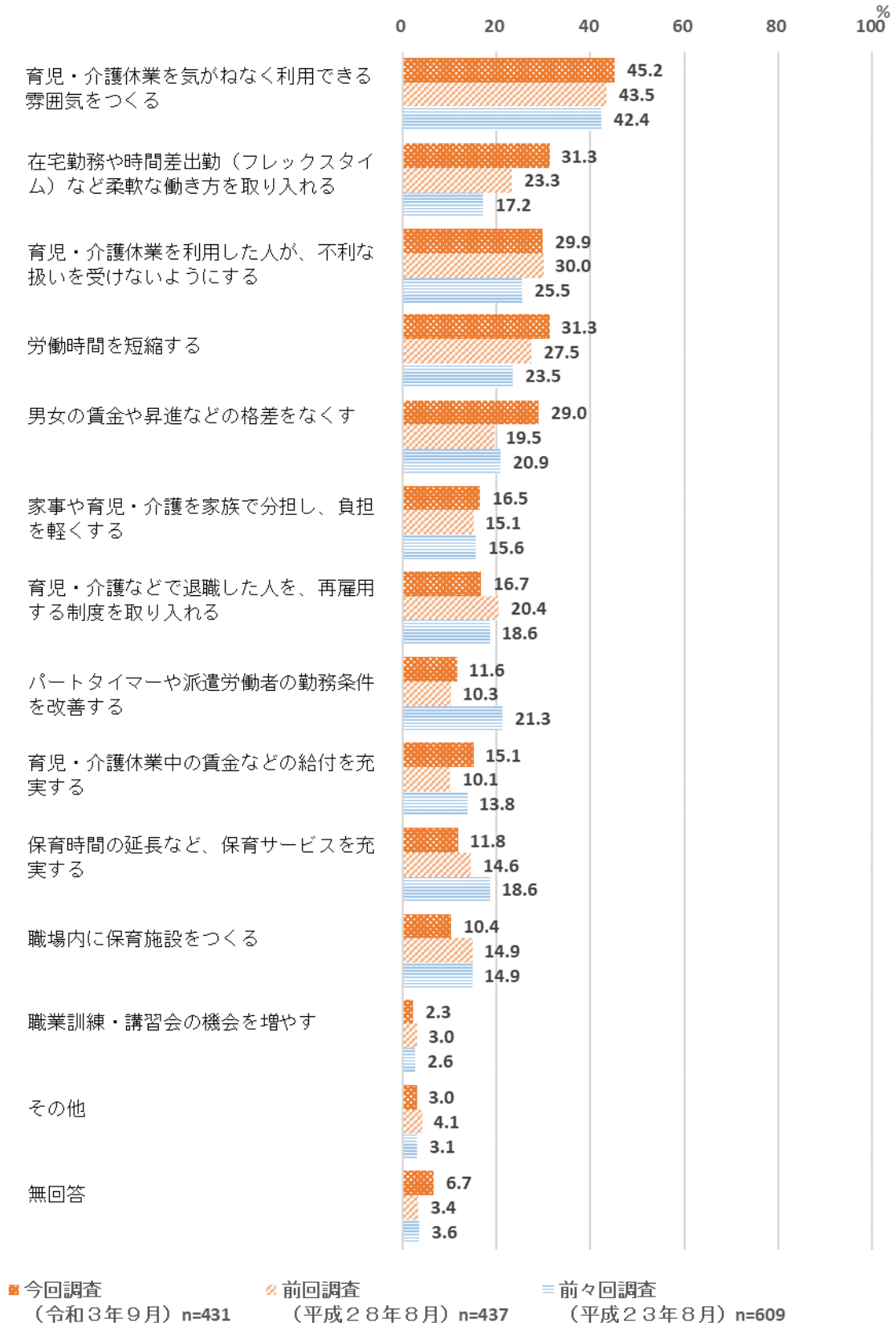
仕事と家庭の両立に必要な条件としては、「育児・介護休業を気がねなく利用できる雰囲気をつくる」(50.3%)が最も高く、次いで、「在宅勤務や時間差出勤（フレックスタイム）など柔軟な働き方を取り入れる」が31.1%、「育児・介護休業を利用した人が、不利な扱いを受けないようにする」が27.3%、「労働時間を短縮する」が26.5%と続いている。

上位項目をみると、「育児・介護休業を気がねなく利用できる雰囲気をつくる」が前回調査から1.8ポイント、前々回調査から2.1ポイント増加している。「在宅勤務や時間差出勤（フレックスタイム）など柔軟な働き方を取り入れる」が前回調査から8.6ポイント、前々回調査から13.1ポイント増加している。「育児・介護休業を利用した人が、不利な扱いを受けないようにする」が前回調査から2.0ポイント減少し、前々回調査から1.7ポイント増加している。

性別(男性)をみると、「育児・介護休業を気軽に利用できる雰囲気をつくる」が今回調査では45.2%と最も高く、前回調査から1.7ポイント上昇した。次いで「在宅勤務や時間差出勤(フレックスタイム)など柔軟な働き方を取り入れる」と「労働時間を短縮する」が今回調査では31.3%となっている。

図表 30-1 仕事と家庭の両立に必要な条件(性別)

【男性】

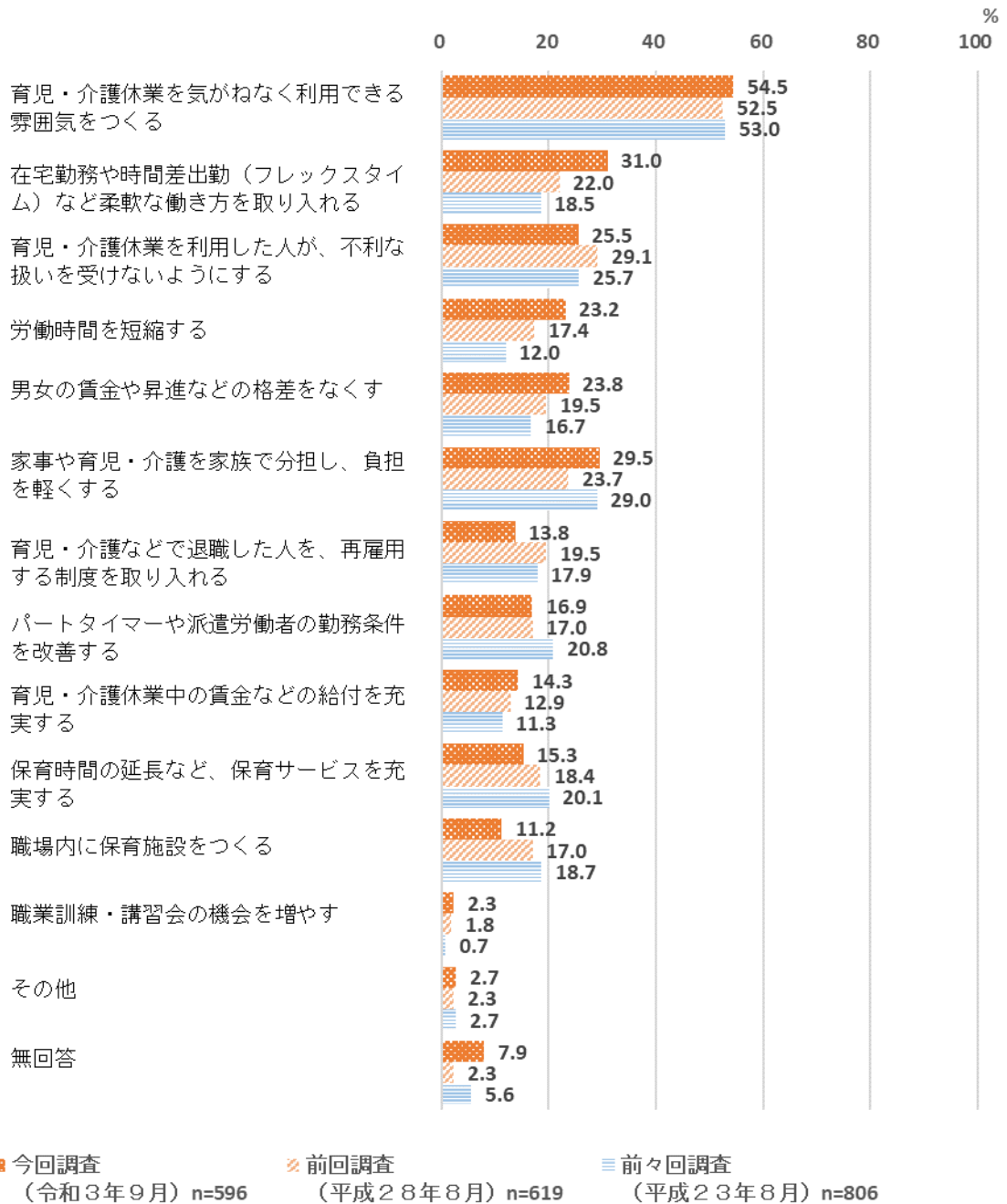




性別(女性)をみると、「育児・介護休業を気軽に利用できる雰囲気をつくる」が今回調査では54.5%と最も高く、前回調査から2.0ポイント上昇した。次いで「在宅勤務や時間差出勤(フレックスタイム)など柔軟な働き方を取り入れる」が今回調査では31.0%となっており、前回調査から9.0ポイント上昇した。

図表 30-1 仕事と家庭の両立に必要な条件(性別)

【女性】

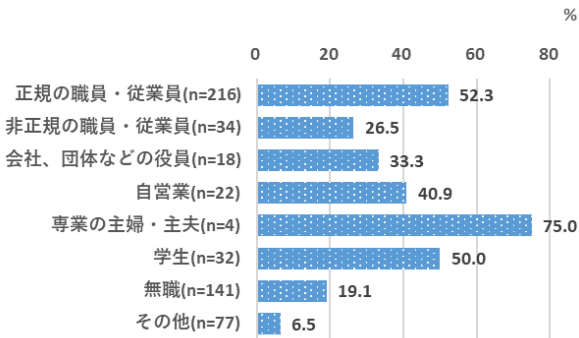


性・職業別（男性）を上位6項目でみると、第1位の「育児・介護休業を気軽に利用できる雰囲気をつくる」では、『専業主婦・主夫』が75.0%で最も高く、次いで『正規の職員、従業員』（52.3%）となっている。第2位の「在宅勤務や時間差出勤（フレックスタイム）など柔軟な働き方を取り入れる」では『正規の職員・従業員』が35.6%で最も高い。第3位の「育児・介護休業を利用した人が、不利な扱いを受けないようにする」では『学生』が最も高く、次いで『会社、団体などの役員』となっている。第4位以下の項目では、「労働時間を短縮する」、「男女の賃金や昇進などの格差をなくす」では、『専業主婦・主夫』が最も高くなっている。第6位の「家事や育児を家族で分担し、負担を軽くする」では、『会社、団体などの役員』が33.3%で最も高くなっている。

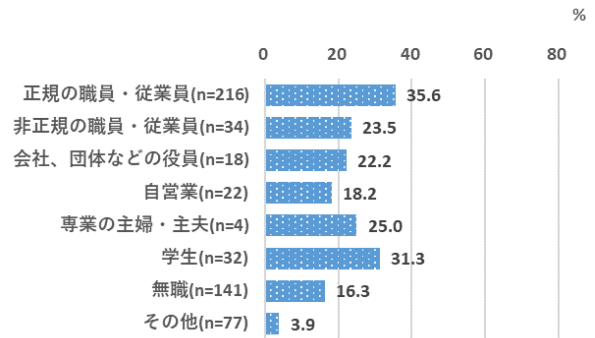
図表 30-2 仕事と家庭の両立に必要な条件（性・職業別）

【男性】

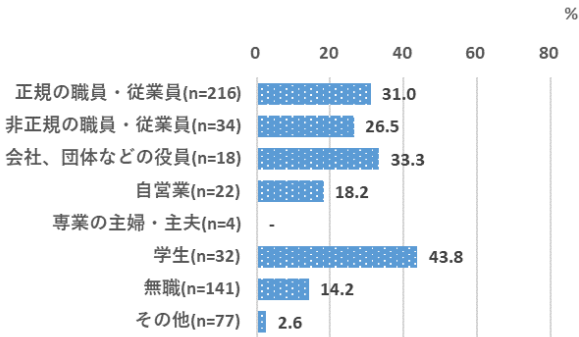
<1位> 育児・介護休業を気軽に利用できる  
雰囲気をつくる



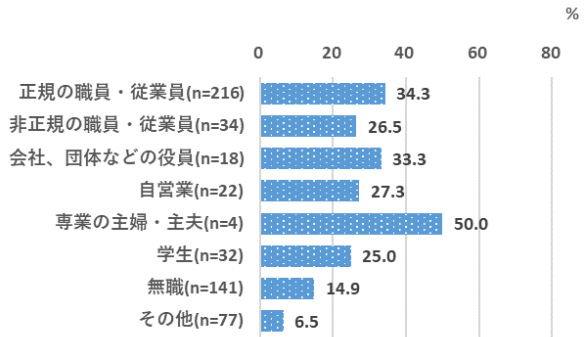
<2位> 在宅勤務や時間差出勤（フレックスタイム）など  
柔軟な働き方を取り入れる



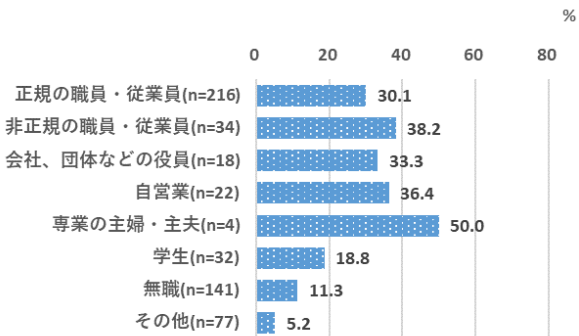
<3位> 育児・介護休業を利用した人が、不利な扱いを  
受けないようにする



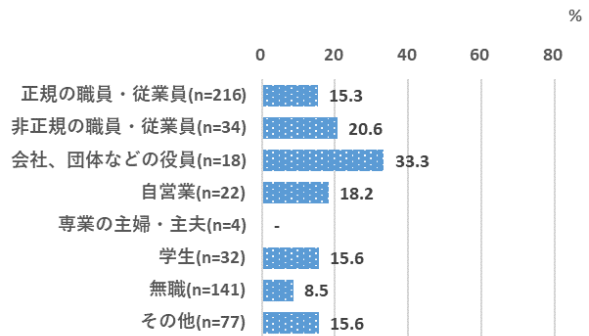
<4位> 労働時間を短縮する



<5位> 男女の賃金や昇進などの格差をなくす



<6位> 家事や育児・介護を家族で分担し、負担を軽くする



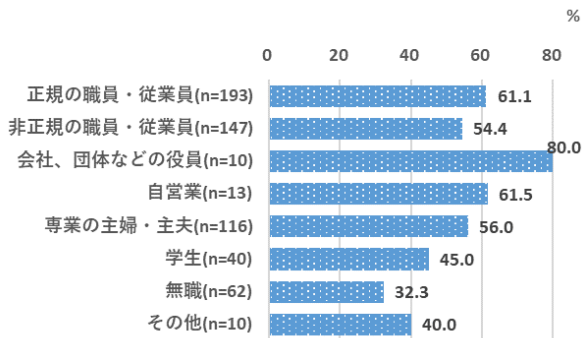
上位6項目のみ

性・職業別（女性）を上位6項目でみると、第1位の「育児・介護休業を気軽に利用できる雰囲気をつくる」では、『会社、団体などの役員』が80.0%で最も高く、次いで『自営業』（61.5%）となっている。第2位の「在宅勤務や時間差出勤（フレックスタイム）など柔軟な働き方を取り入れる」では『会社、団体などの役員』が60.0%で最も高い。第3位の「育児・介護休業を利用した人が、不利な扱いを受けないようにする」では『無職』が35.5%で最も高く、次いで『専業主婦・主夫』（26.7%）となっている。第4位の「労働時間を短縮する」では、『正規の職員・従業員』、第5位の「男女の賃金や昇進などの格差をなくす」では、『その他』が最も高くなっている。第6位の「家事や育児を家族で分担し、負担を軽くする」では、『会社、団体などの役員』が40.0%で最も高くなっている。

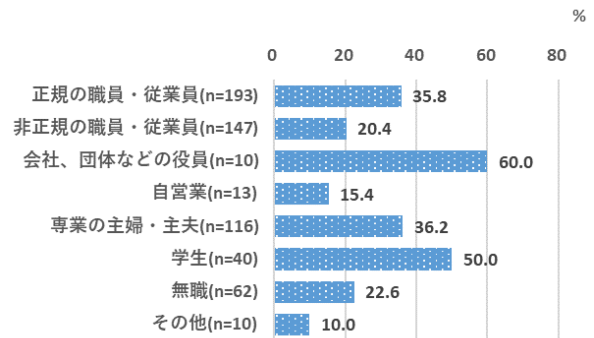
図表 30-3 仕事と家庭の両立に必要な条件（性・職業別）

【女性】

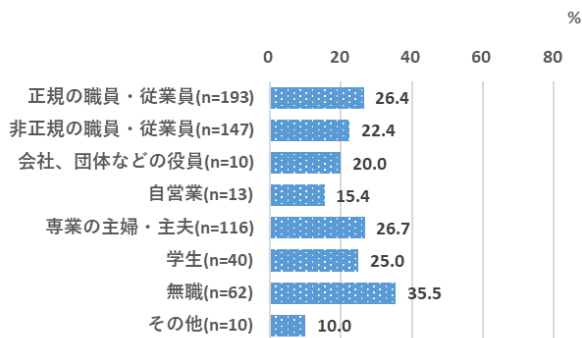
< 1位 > 育児・介護休業を気軽に利用できる  
雰囲気をつくる



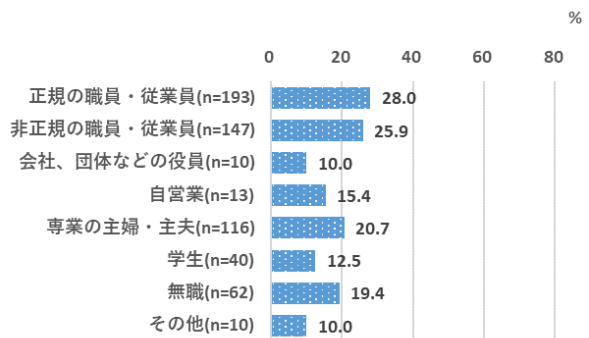
< 2位 > 在宅勤務や時間差出勤（フレックスタイム）など  
柔軟な働き方を取り入れる



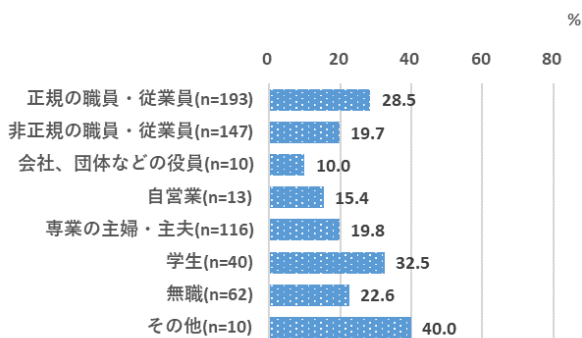
< 3位 > 育児・介護休業を利用した人が、不利な扱いを  
受けないようにする



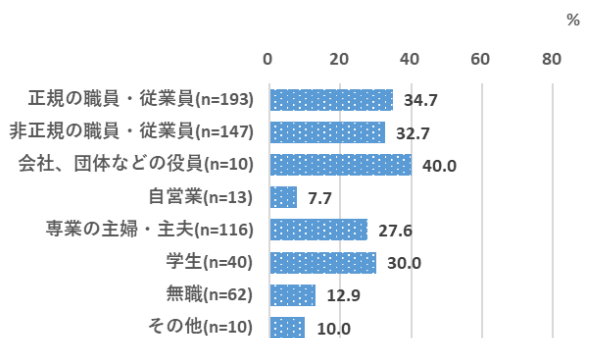
< 4位 > 労働時間を短縮する



< 5位 > 男女の賃金や昇進などの格差をなくす



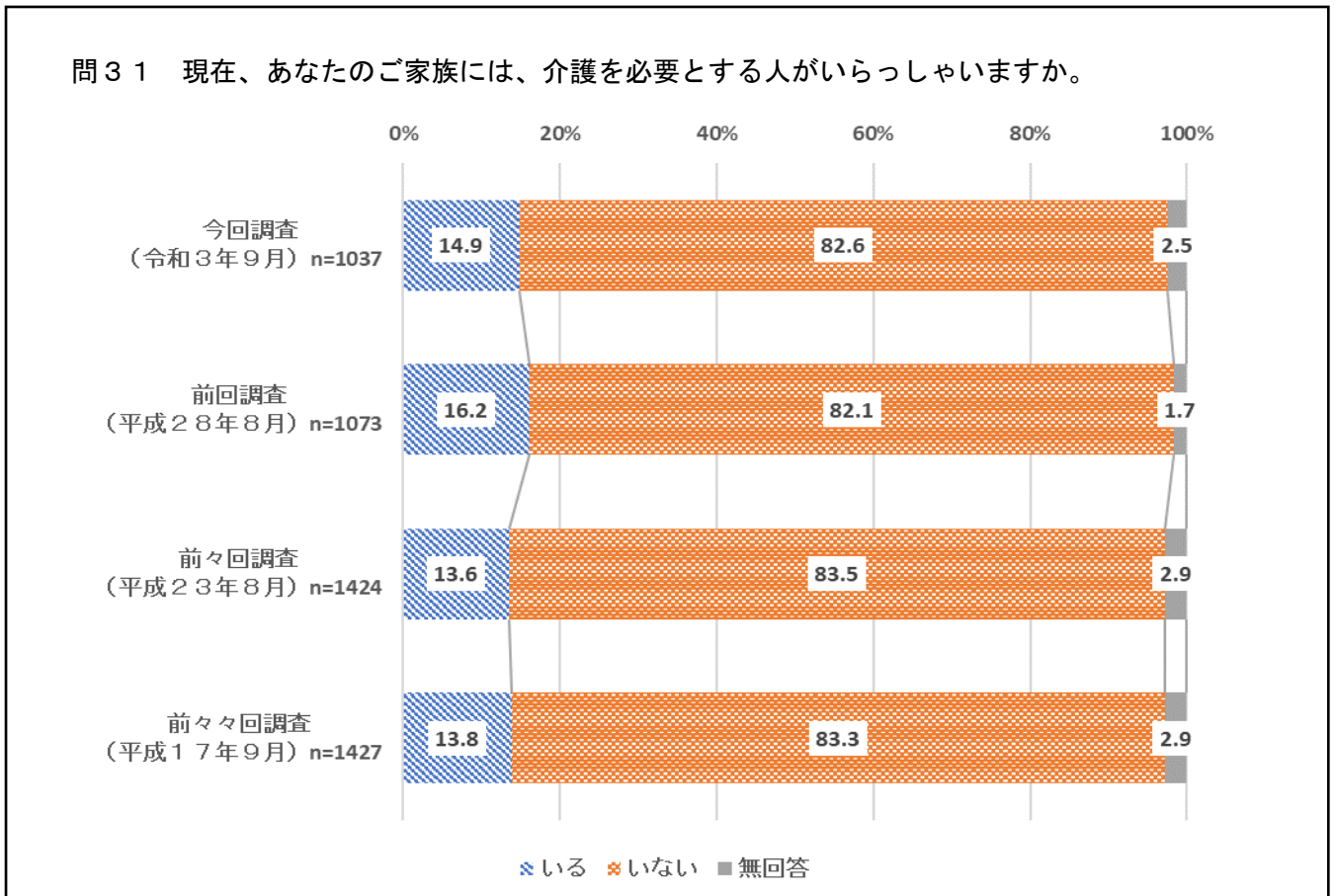
< 6位 > 家事や育児・介護を家族で分担し、負担を軽くする



上位6項目のみ

## 6 介護や老後について

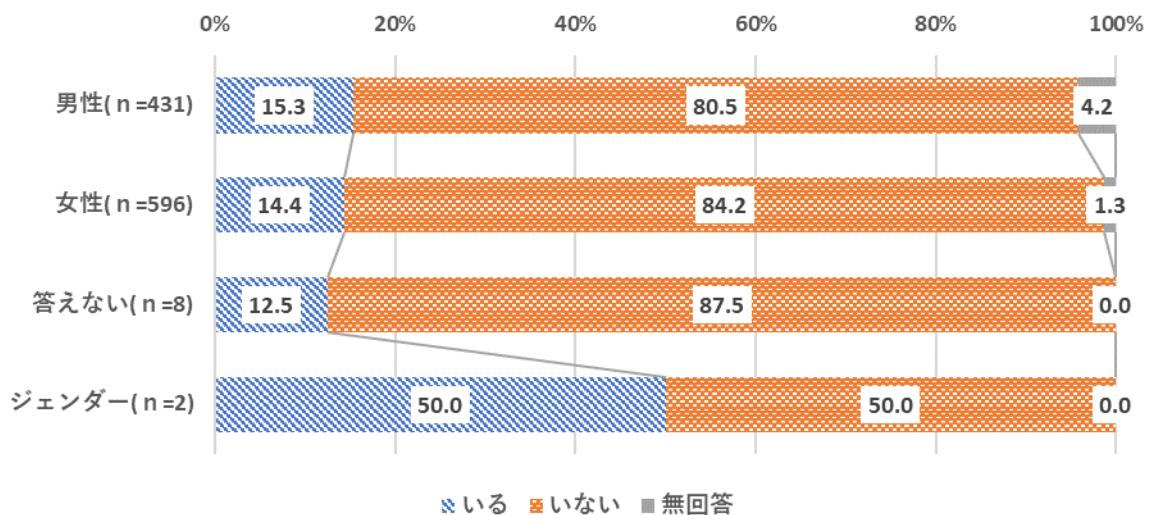
### (1) 要介護者の有無



家族に介護を必要とする人が「いる」と答えた人は14.9%であり、「いない」と答えた人は82.6%である。前回調査と比較すると、「いる」が1.3ポイント減少し、「いない」が0.5ポイント増加している。前々回調査と比較すると、「いる」が1.3ポイント増加し、「いない」が0.9ポイント減少している。前々々回調査と比較すると、「いる」が1.1ポイント増加、「いない」が0.7ポイント減少している。

性別をみると、「いる」との回答は、男性では15.3%、女性では14.4%となっている。「いない」の回答は、男性で80.5%、女性で84.2%となっており、8割を超えている。

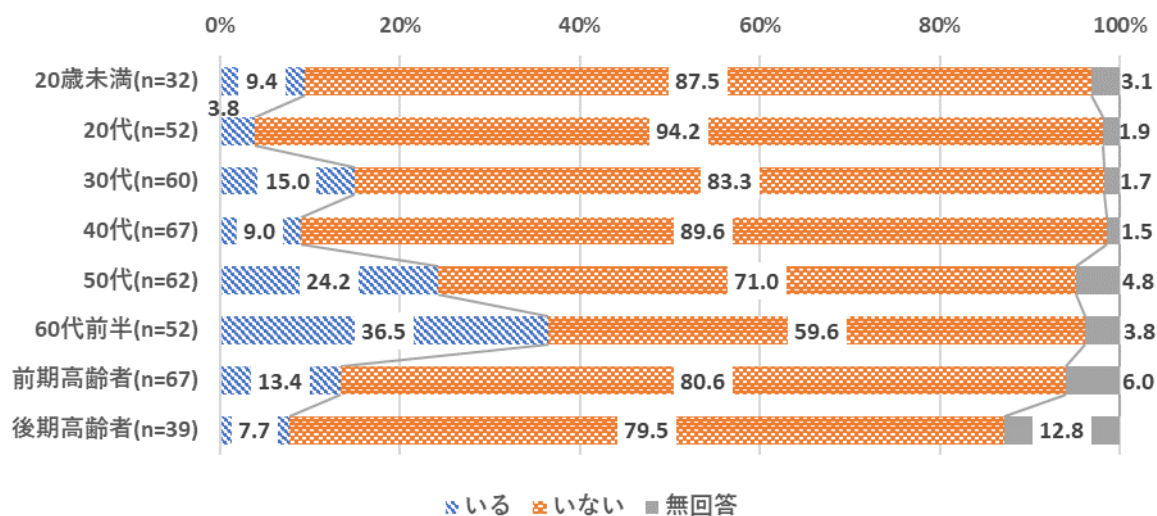
図表 31-1 要介護者の有無（性別）



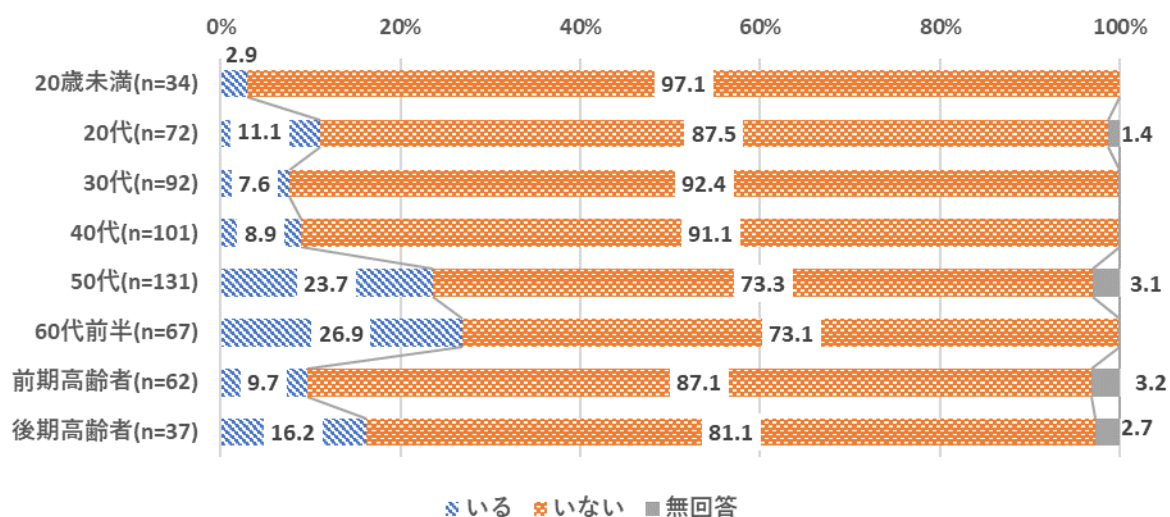
性・年代別をみると、「いる」との回答は、男性では60代前半が36.5%で最も高く、次いで50代が24.2%などと続いている。女性では60代前半が26.9%で最も高く、次いで50代が23.7%などと続いている。

図表 31-2 要介護者の有無（性・年代別）

【男性】



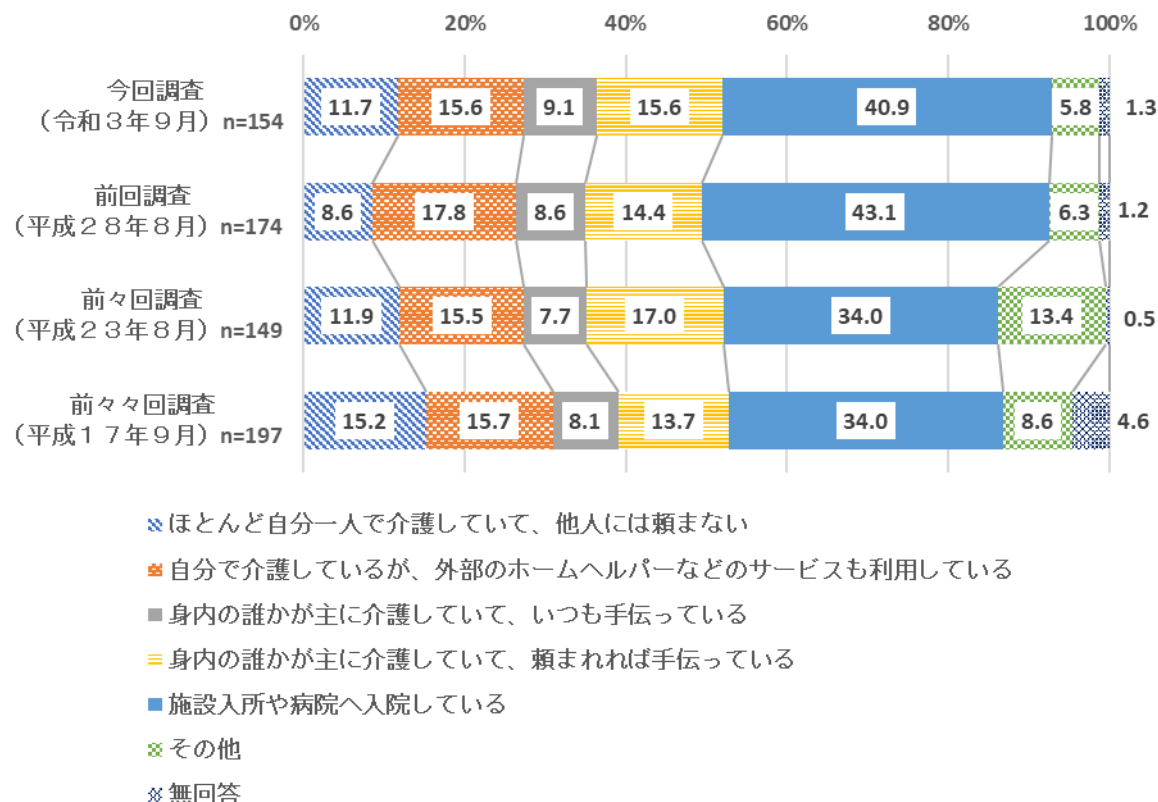
【女性】





## (2) 介護の方法

問32 介護を必要とする人がいる方だけにお尋ねします。あなたは、どのように介護をしていますか。次のうちから1つ選んでください。



介護を必要とする人が「いる」と答えた人（154人）に、介護の方法をたずねたところ、「施設入所や病院への入院」（40.9%）が最も高く、次いで、「自分で介護しているが、外部のホームヘルパーなどのサービスも利用している」と「身内の誰かが主に介護していて、頼まれれば手伝っている」が15.6%、「ほとんど自分一人で介護していて、他人には頼まない」が11.7%、「身内の誰かが主に介護していて、いつも手伝っている」が9.1%と続いている。

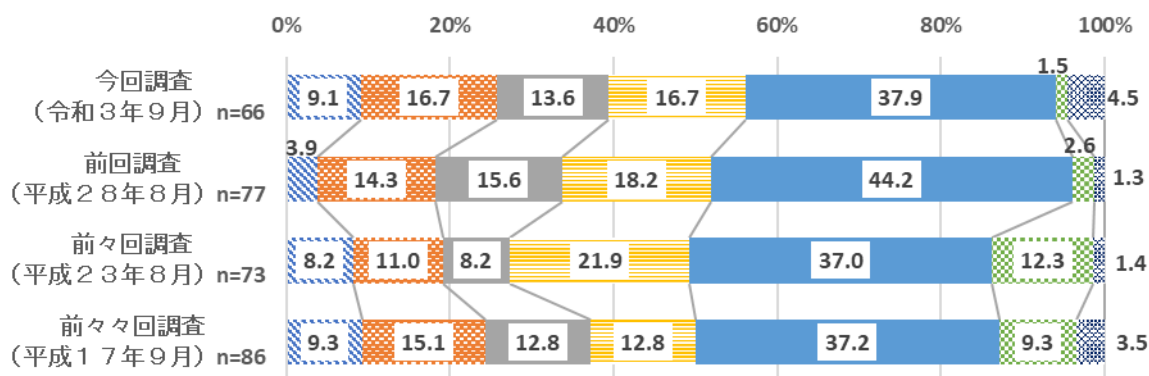
上位項目をみると、「施設入所や病院への入院」が前回調査から2.2ポイント減少、前々回調査から6.9ポイント増加している。「自分で介護しているが、外部のホームヘルパーなどのサービスも利用している」が前回調査から2.2ポイント減少、前々回調査から0.1ポイント増加している。「身内の誰かが主に介護していて、頼まれれば手伝っている」が前回調査より1.2ポイント増加、前々回調査から1.4ポイント減少している。

性別にみると、「身内の誰かが主に介護していて、いつも手伝っている」との回答は男性が 13.6%で、女性の 5.8%を 7.8 ポイント上回っている。「身内の誰かが主に介護していて、頼まれれば手伝っている」の回答も、男性が 16.7%で、女性の 15.1%を 1.6 ポイント上回っている。

一方、「ほとんど自分一人で介護していて、他人には頼まない」では、女性（12.8%）が男性（9.1%）を 3.7 ポイント上回っており、「施設入所や病院へ入院している」でも女性（44.2%）が男性（37.9%）を 6.3 ポイント上回っている。

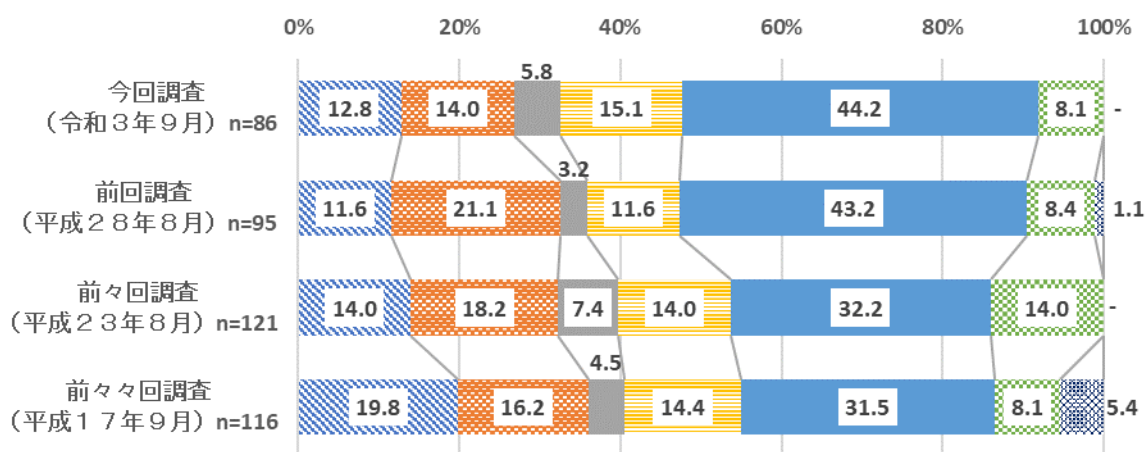
図表 32-1 介護の方法（性別）

【男性】



- ※ ほとんど自分一人で介護していて、他人には頼まない
- ※ 自分で介護しているが、外部のホームヘルパーなどのサービスも利用している
- 身内の誰かが主に介護していて、いつも手伝っている
- 身内の誰かが主に介護していて、頼まれれば手伝っている
- 施設入所や病院へ入院している
- その他
- ※ 無回答

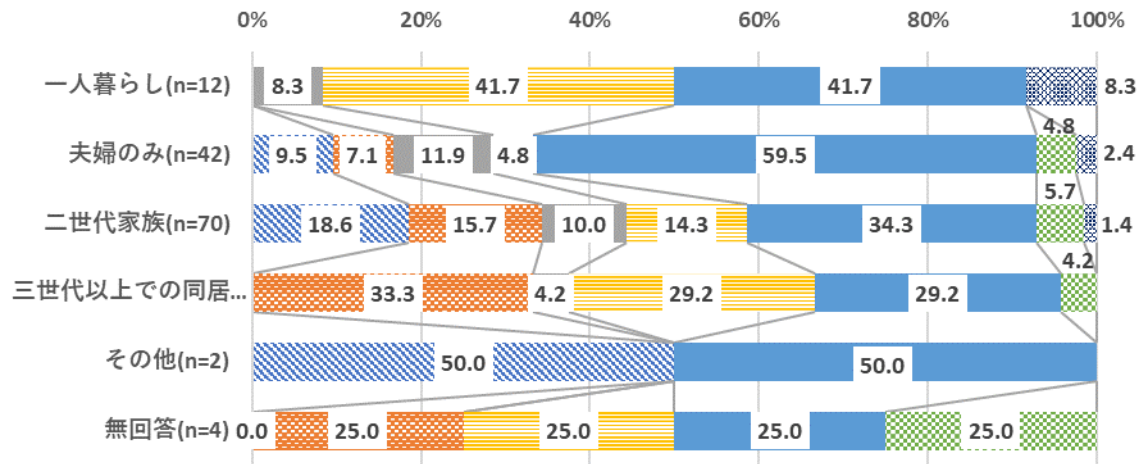
【女性】



- ※ ほとんど自分一人で介護していて、他人には頼まない
- ※ 自分で介護しているが、外部のホームヘルパーなどのサービスも利用している
- 身内の誰かが主に介護していて、いつも手伝っている
- 身内の誰かが主に介護していて、頼まれれば手伝っている
- 施設入所や病院へ入院している
- その他
- ※ 無回答

家族形態別をみると、「自分で介護しているが、外部のホームヘルパーなどのサービスも利用している」は、『三世代以上での同居』（33.3%）が最も高く、次いで、『二世代家族』（15.7%）となっている。「身内の誰かが主に介護していて、いつも手伝っている」は、『夫婦のみ』が最も高く、「身内の誰かが主に介護していて、頼まれれば手伝っている」は、『一人暮らし』が4割を超えている。一方、「施設入所や病院へ入院している」は、『夫婦のみ』が高く、約6割となっている。

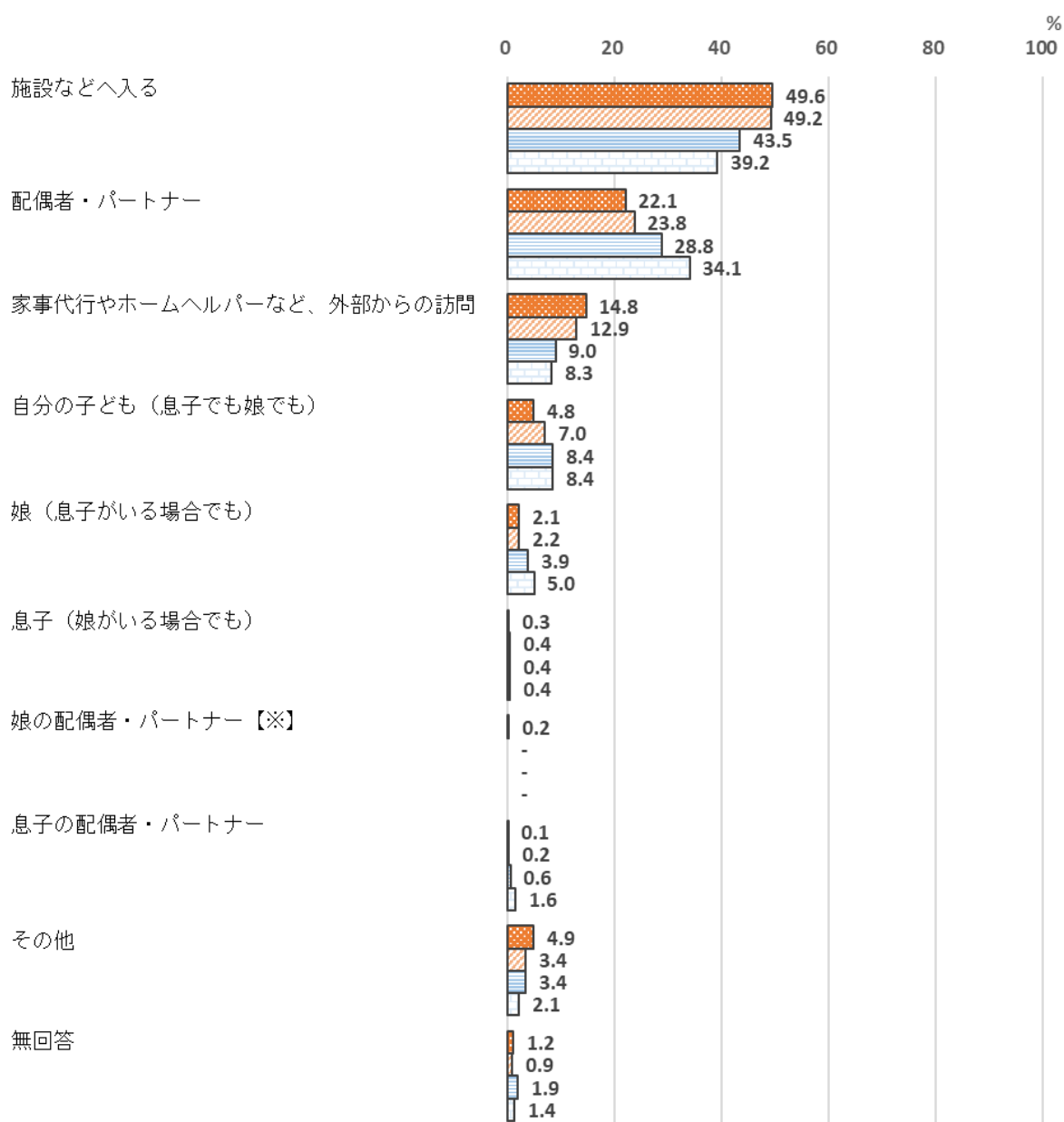
図表 32-2 介護の方法（家族形態別）



- ほとんど自分一人で介護していて、他人には頼まない
- 自分で介護しているが、外部のホームヘルパーなどのサービスも利用している
- 身内の誰かが主に介護していて、いつも手伝っている
- 身内の誰かが主に介護していて、頼まれれば手伝っている
- 施設入所や病院へ入院している
- その他
- 無回答

### (3) 身の回りの世話を頼みたい人

問33 あなたが年をとって寝たきりになったとしたら、身の回りの世話は誰に頼みたいですか。次のうちから1つ選んでください。



■ 今回調査 (令和3年9月) n=1037      ■ 前回調査 (平成28年8月) n=1073  
■ 前々前回調査 (平成23年8月) n=1424      ■ 前々々前回調査 (平成17年9月) n=1427

※ (注意) 平成28年度に追加した選択肢のため、前々回調査等の比較値はありません。

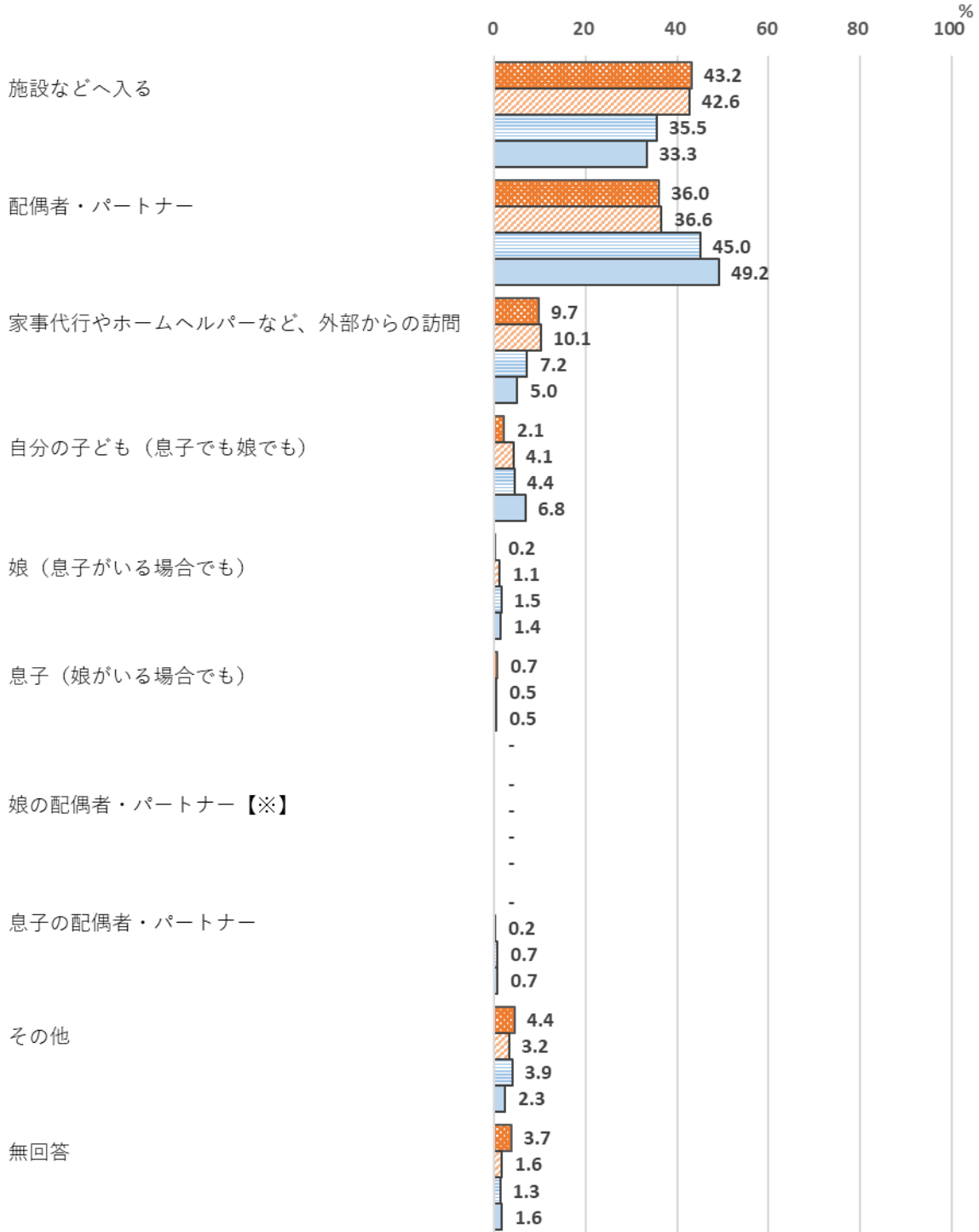
自身が寝たきりになった場合、身の回りの世話を頼みたい人として、「施設などへ入る」(49.6%)が最も高く、次いで、「配偶者・パートナー」が22.1%、「家事代行やホームヘルパーなど、外部からの訪問」が14.8%、「自分の子ども（息子でも娘でも）」が4.8%と続いている。

上位項目をみると、「施設などへ入る」が前々々回調査から増加している傾向に変わりはない。また、「家事代行やホームヘルパーなど、外部からの訪問」も前々々回調査から増加している傾向に変わりはないが、その一方で、「配偶者・パートナー」や「自分の子ども（息子でも娘でも）」は前々々回調査から減少している。

性別（男性）をみると、「施設などへ入る」が今回調査では43.2%と最も高く、前々々回調査から増加している傾向に変わりはない。次いで、「配偶者・パートナー」が36.0%となっており、前々々回調査から減少している傾向に変わりはない。

図表 33-1 身の回りの世話を頼みたい人（性別）

【男 性】



■ 今回調査（令和3年9月）（n=431）      □ 前回調査（平成28年8月）（n=437）  
 ■ 前々回調査（平成23年8月）（n=609）      □ 前々々回調査（平成17年9月）（n=561）

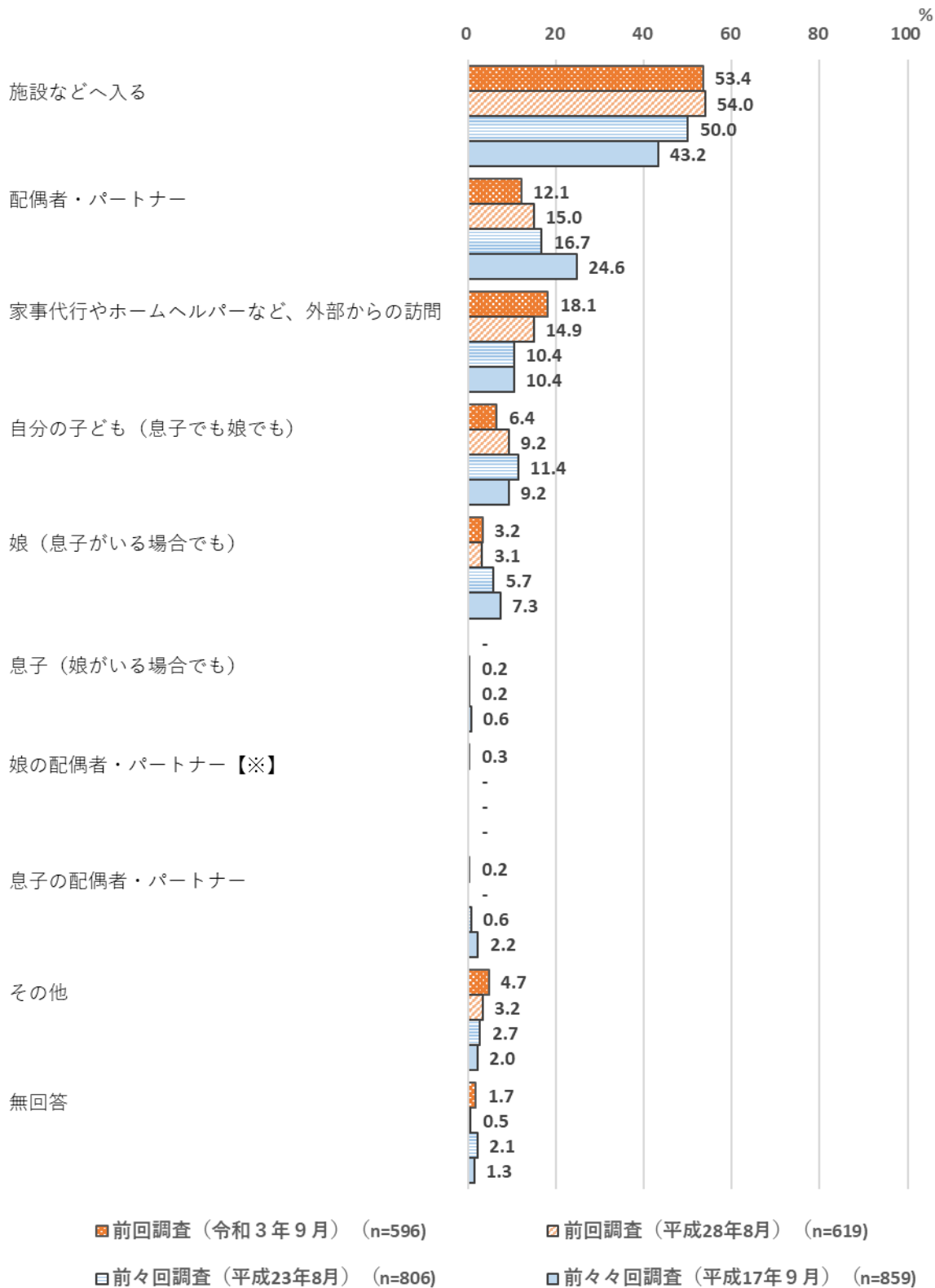
※（注意）平成28年度に追加した選択肢のため、前々回調査等の比較値はありません。



性別（女性）をみると、「施設などへ入る」が今回調査では53.4%と最も高い。次いで、「配偶者・パートナー」が12.1%となっており、前々々回調査から減少している傾向に変わりはない。また、「家事代行やホームヘルパーなど、外部からの訪問」は前々回調査から増加している傾向に変わりはない。

図表 33-1 身の回りの世話を頼みたい人（性別）

【女性】

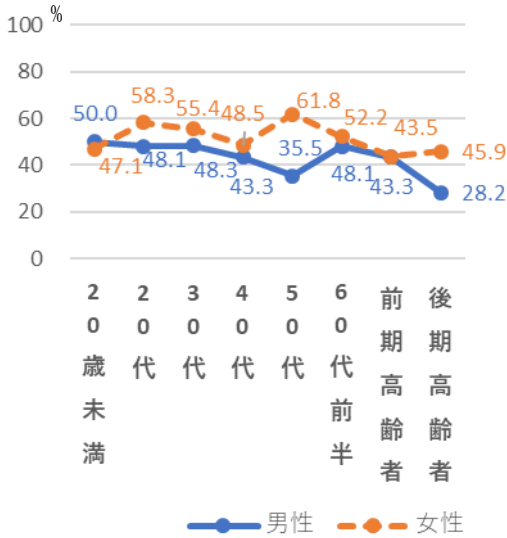


※（注意）平成28年度に追加した選択肢のため、前々回調査等の比較値はありません。

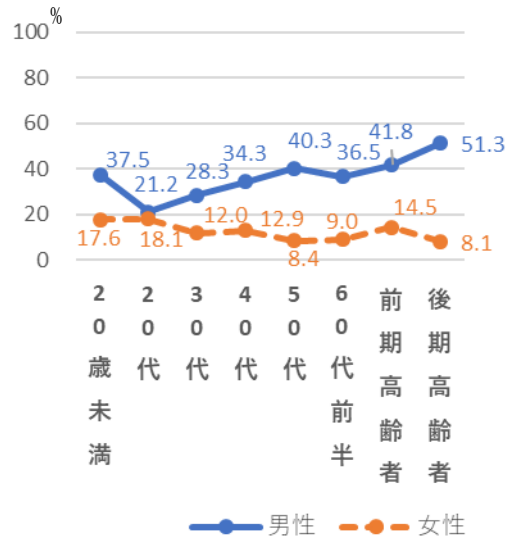
上位4項目について性・年代別にみると、第1位の「施設などへ入る」は、20歳未満を除く全ての年代で、女性が男性を上回っている。第2位の「配偶者・パートナー」は、全ての年代で、男性が女性を上回っている。第3位の「家事代行やホームヘルパーなど、外部からの訪問」については、60代前半から後期高齢者で大きな差がみられる。第4位の「自分の子ども（息子でも娘でも）」は、20歳未満の女性で17.6%と高いが、40代女性まで下がり続けている。前期高齢者、後期高齢者になると、女性の比率が再び高くなってきている。

図表 33-2 身の回りの世話を頼みたい人（性・年代別）

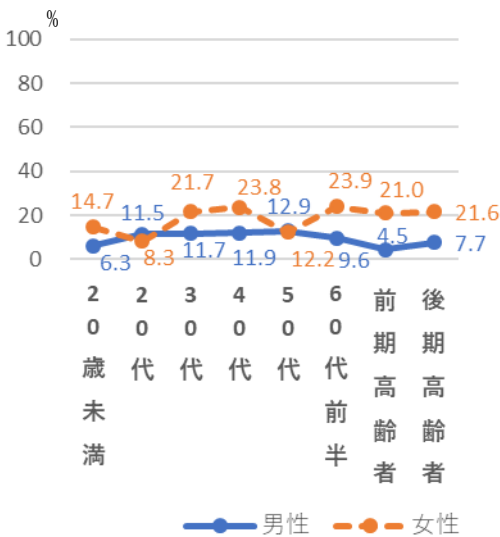
<1位> 施設などへ入る



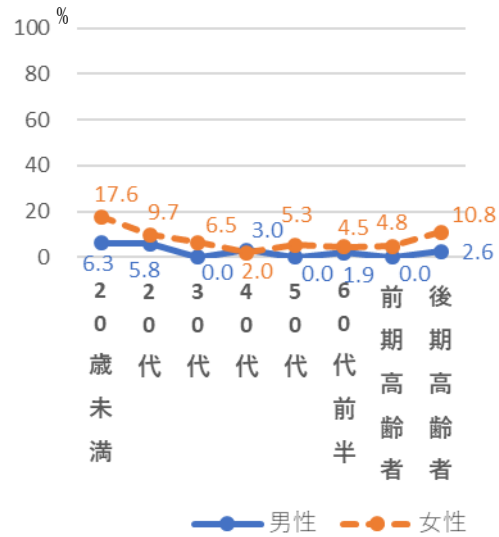
<2位> 配偶者・パートナー



<3位> 家事代行やホームヘルパーなど、外部からの訪問



<4位> 自分の子ども（息子でも娘でも）



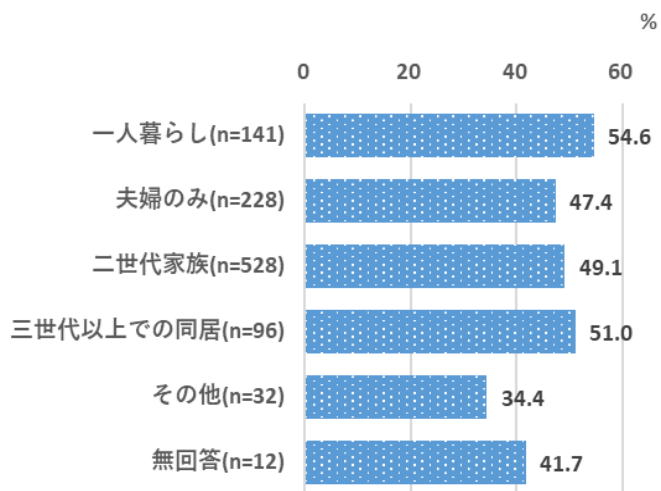
男性(N=32) (N=52) (N=60) (N=67) (N=62) (N=52) (N=67) (N=39)  
 女性(N=34) (N=72) (N=92) (N=101) (N=131) (N=67) (N=62) (N=37)

※上位4項目のみ

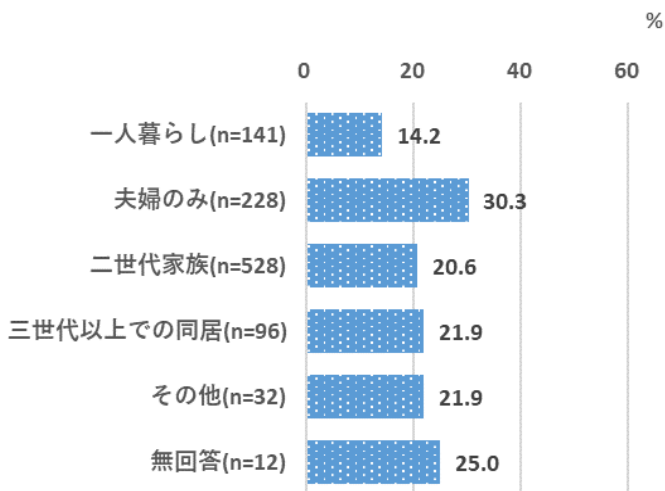
家族形態別にみると、第1位の「施設などへ入る」は、『一人暮らし』(54.6%)が最も高く、他の家族形態でも高い割合となっている。第2位の「配偶者・パートナー」は、『夫婦のみ』(30.3%)が最も高く、他の家族形態では3割に満たない。第3位の「家事代行やホームヘルパーなど、外部からの訪問」は、『二世世代家族』が15.9%となっている。第4位の「自分の子ども(息子でも娘でも)」では、『三世世代以上の同居』(6.3%)、『一人暮らし』で5.0%となっている。

図表 33-3 身の回りの世話を頼みたい人(家族形態別)

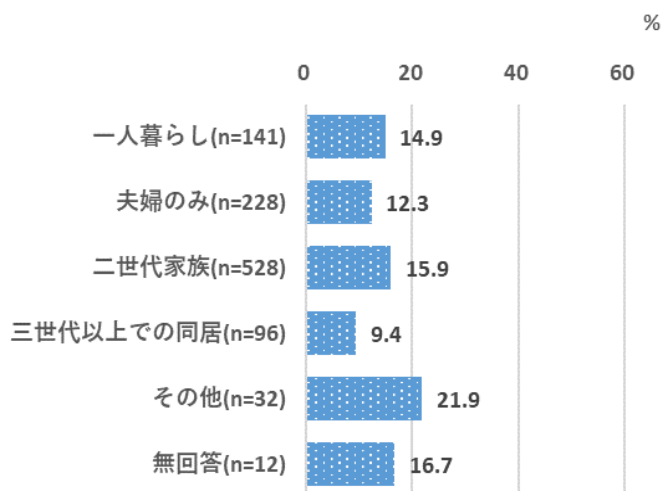
<1位> 施設などへ入る



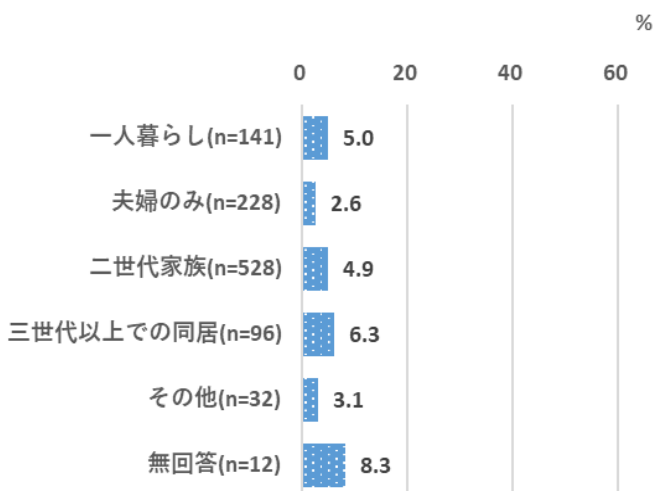
<2位> 配偶者・パートナー



<3位> 家事代行やホームヘルパーなど、外部からの訪問



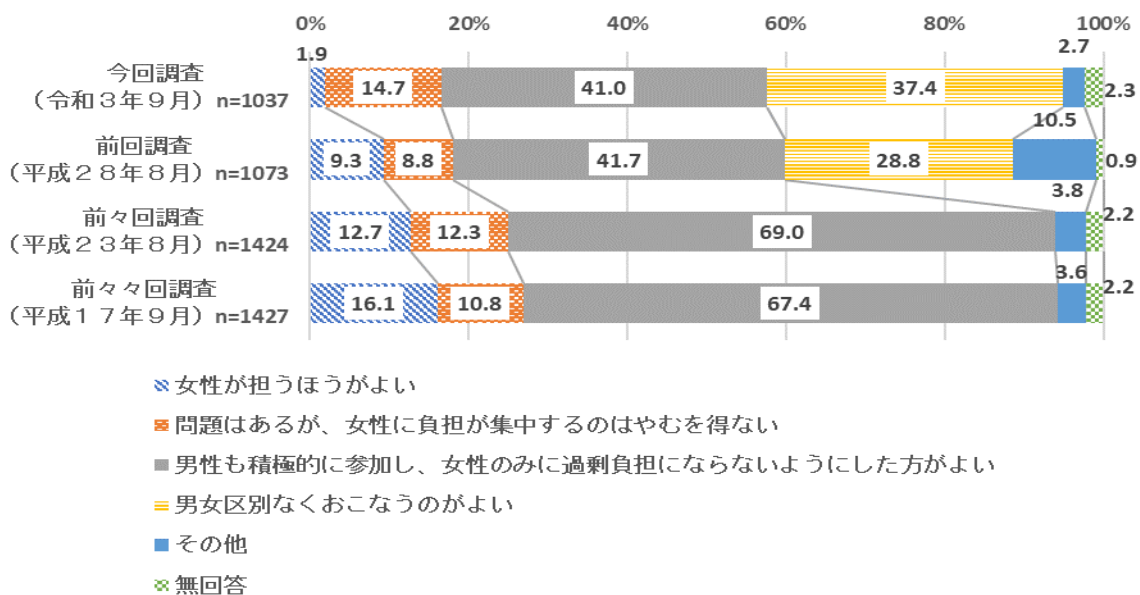
<4位> 自分の子ども(息子でも娘でも)



※上位4項目のみ

#### (4) 介護の担い手

問34 内閣府の令和元年度高齢社会白書によると、家族の介護の担い手は、66.0%が女性であるという報告（平成28年厚生労働省「国民生活基礎調査」）がありますが、あなたはどのように思いますか。次のうちから1つ選んでください。



※（注意）「男女区別なくおこなうのがよい」は、平成28年度に追加した選択肢のため、前々回調査等の比較値はありません。

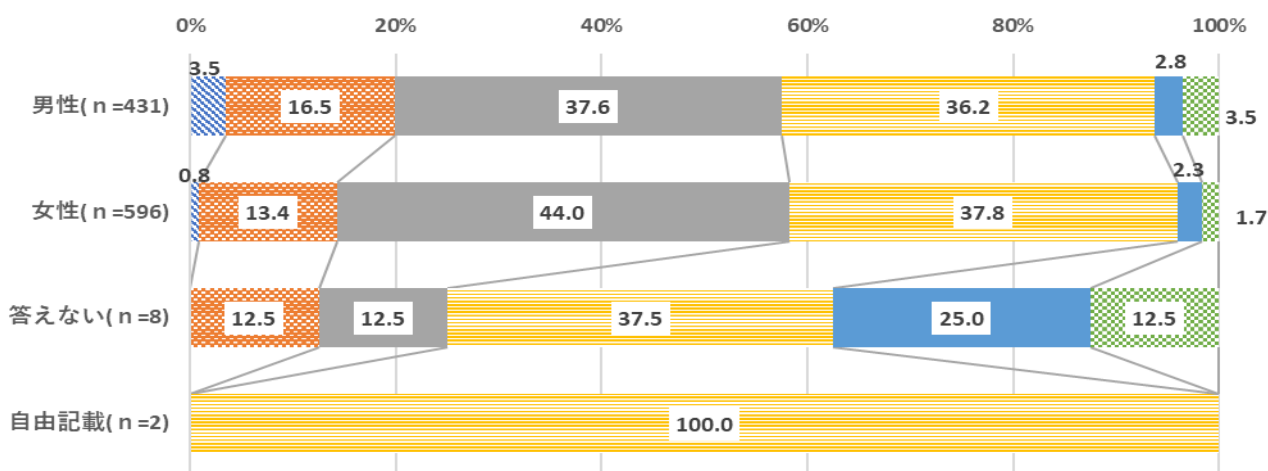
また、「女性が担うほうがよい」には前回調査、前々回、前々回調査の「女性として当然だと思う」と「女性が介護したほうがよい」を足している。前回調査のその他には、「男性が担う場合もあると思う」と「その他」を足している。

家族の介護を女性が担うことについては、「男性も積極的に参加し、女性だけに過剰負担にならないようにした方がよい」（41.0%）が最も高く、次いで、「男女区別なくおこなうのがよい」が37.4%、「問題はあるが、女性に負担が集中するのはやむを得ない」が14.7%と続いている。

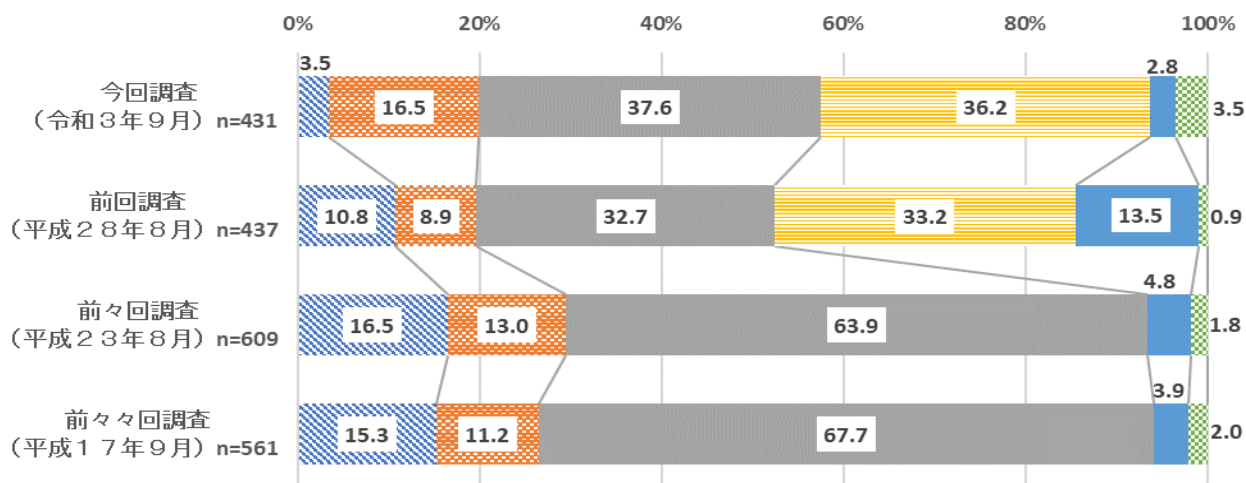
前回までの調査と選択肢が異なるため一概に比較することはできないが、前回調査で最も高い回答であった「男性も積極的に参加し、女性だけに過剰負担にならないようにした方がよい」が0.7ポイント減少した。その一方で、「男女区別なく行うのがよい」が8.6ポイント増加している。

性別をみると、「女性が担うほうがよい」と「問題はあるが、女性に負担が集中するのはやむを得ない」との回答は男性（20.0%）が女性（14.2%）を5.8ポイント上回っている。

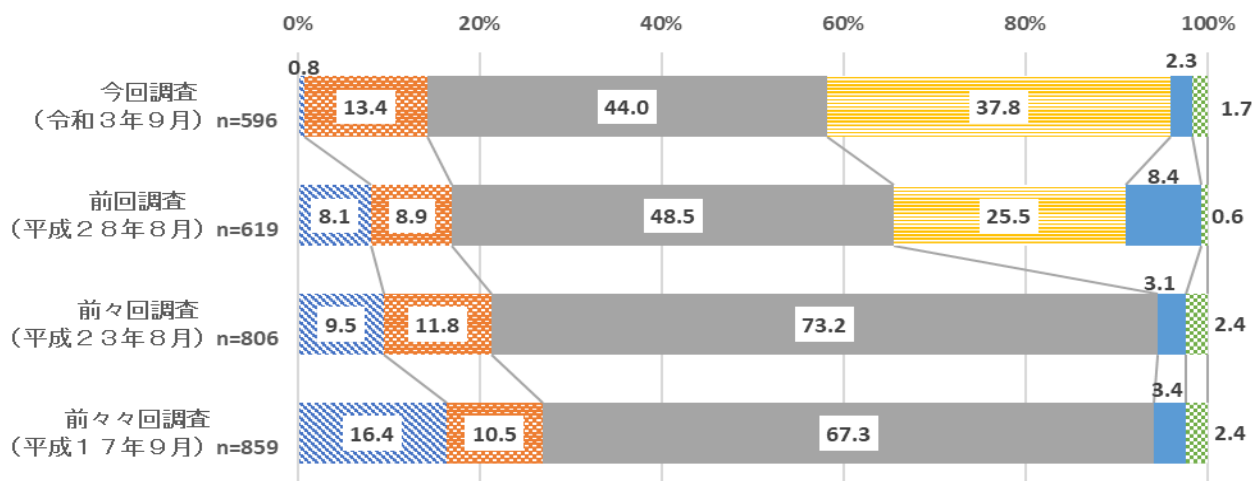
図表 34-1 介護の担い手（性別）



【男性】



【女性】



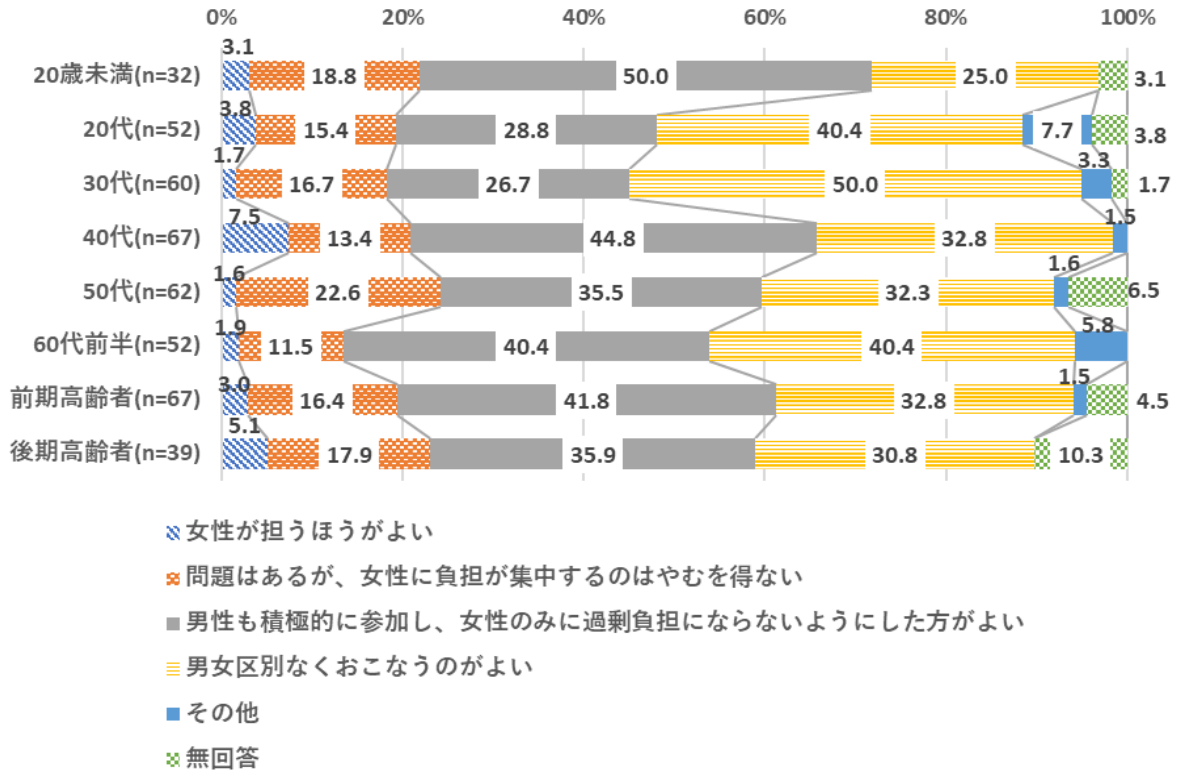
- ※ 女性が担うほうがよい
- ※ 問題はあるが、女性に負担が集中するのはやむを得ない
- 男性も積極的に参加し、女性だけに過剰負担にならないようにした方がよい
- 男女区別なくおこなうのがよい
- その他
- 無回答



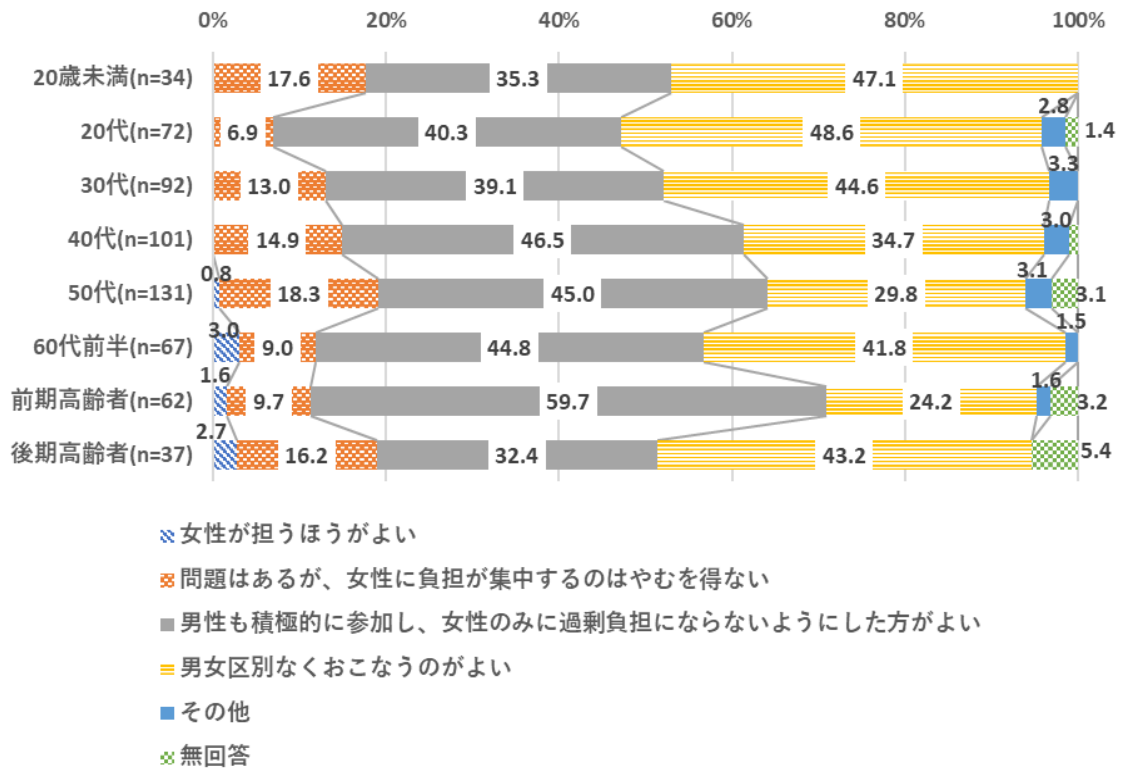
性・年代別をみると、「女性が担うほうがよい」と「問題はあるが、女性に負担が集中するのはやむを得ない」を合わせた回答は、全ての年代で男性が女性を上回っている。また、「男性も積極的に参加し、女性だけに過剰負担にならないようにした方がよい」では、男性が2割～5割、女性が3割～約6割と女性が男性を上回っている。

図表 34-2 介護の担い手（性・年代別）

【男 性】

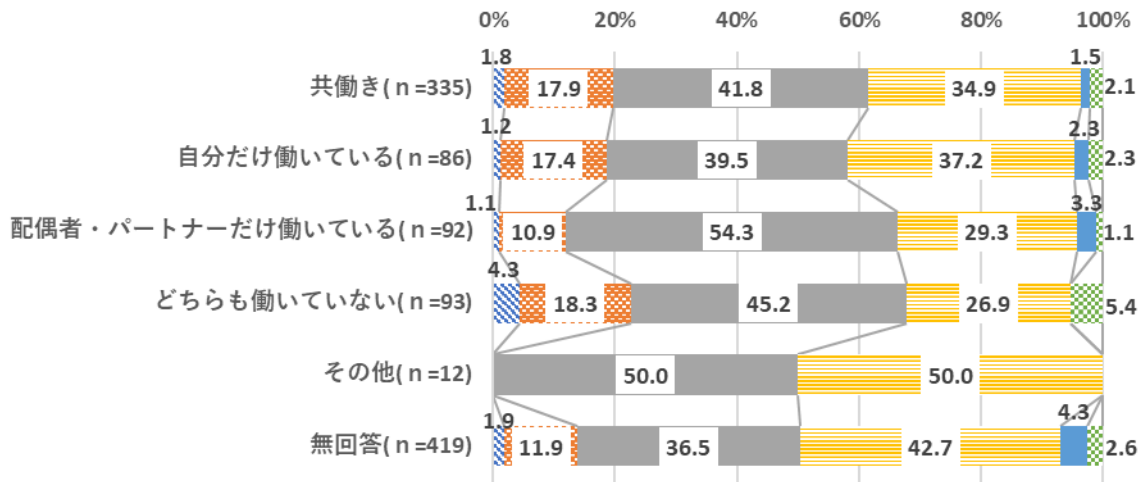


【女 性】



労働状況別にみると、「男性も積極的に参加し、女性だけに過剰負担にならないようにした方がよい」と「男女区別なくおこなうべきだと思う」は、全ての労働状況で合わせて7割を超えている。「問題はあるが、女性に負担が集中するのはやむを得ない」は、『どちらも働いていない』の18.3%が最も高くなっている。

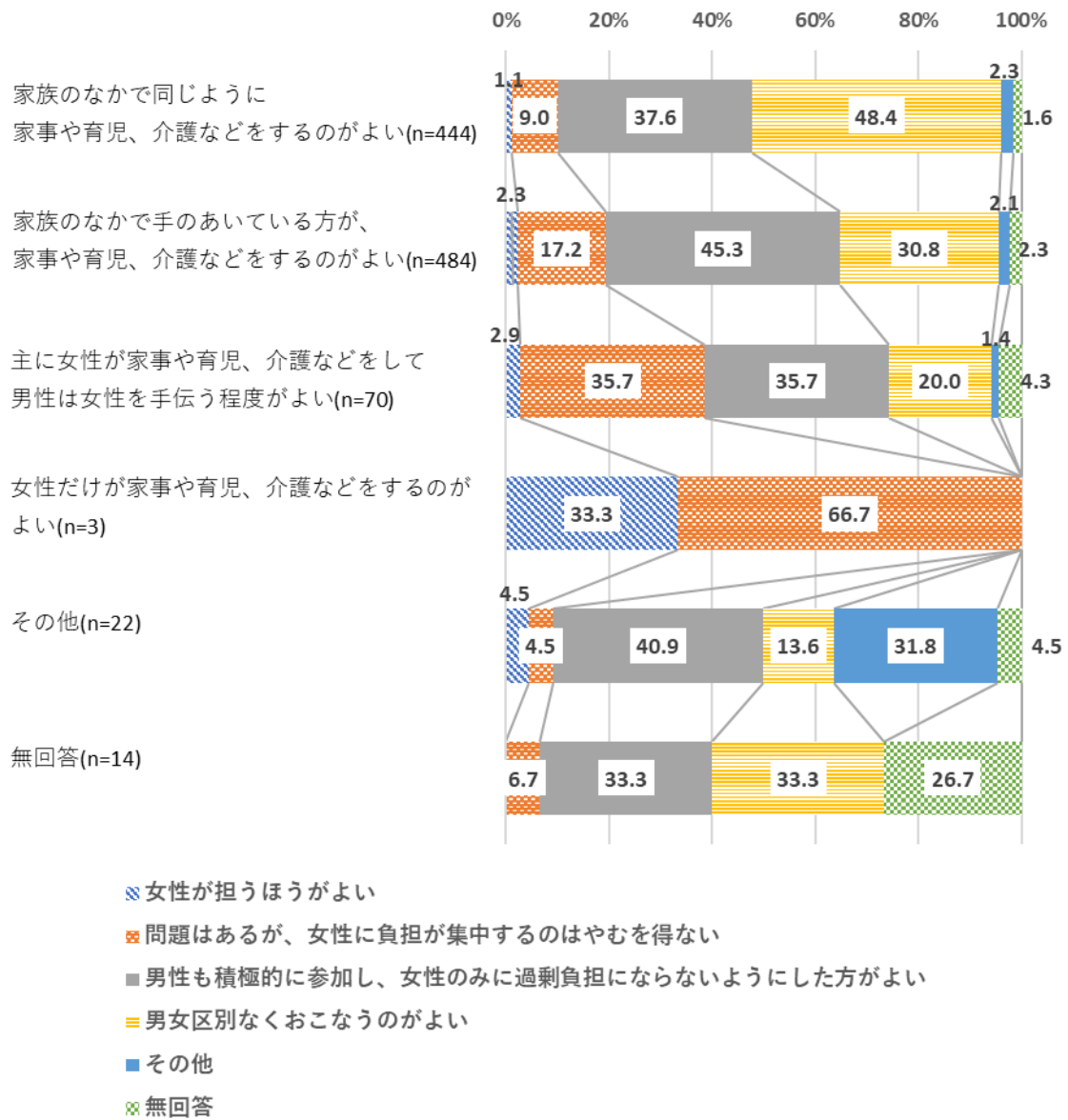
図表 34-3 介護の担い手（労働状況別）



- ☒ 女性が担うほうがよい
- ☒ 問題はあるが、女性に負担が集中するのはやむを得ない
- 男性も積極的に参加し、女性だけに過剰負担にならないようにした方がよい
- ▨ 男女区別なくおこなうのがよい
- その他
- ☒ 無回答

性別役割分担意識別にみると、「男性も積極的に参加し、女性だけに過剰負担にならないようにした方がよい」は、「家族のなかで同じように家事や育児、介護などをするのがよい」で 37.6%、「家族のなかで手のあいている方が、家事や育児、介護などをするのがよい」で 45.3%となっている。「男女区別なくおこなうのがよい」と合わせると、7割を超えている。「女性が担うほうがよい」と「問題はあるが、女性に負担が集中するにはやむを得ない」を合わせた回答は、「主に女性が家事や育児、介護などをして男性は女性を手伝う程度がよい」で 38.6%となっている。

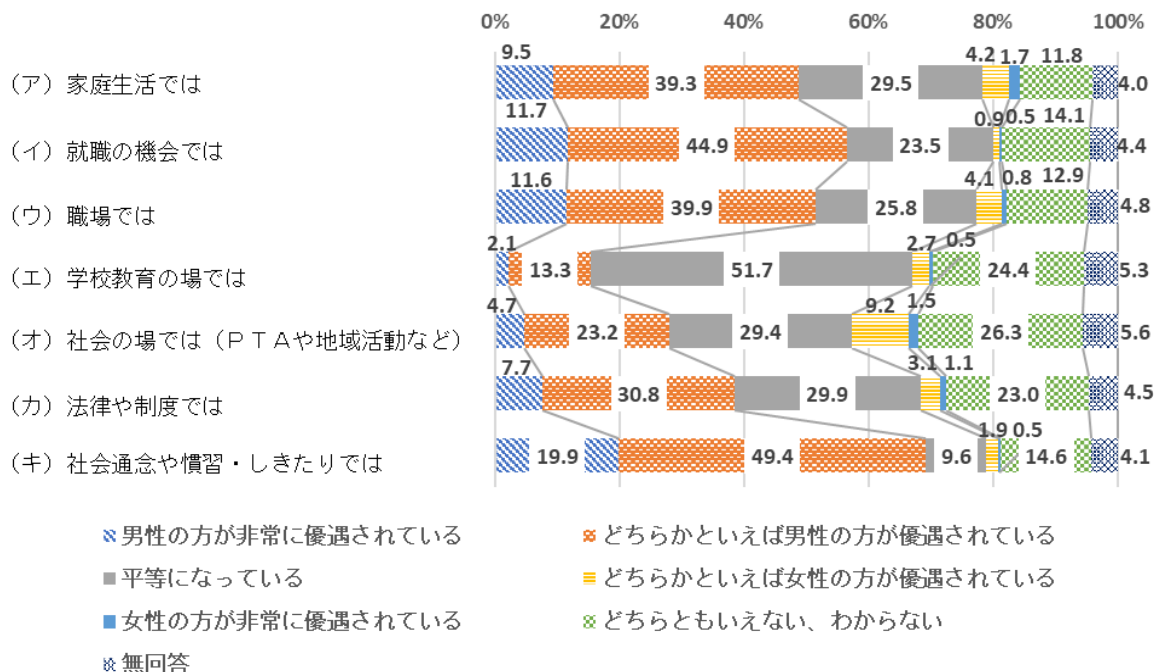
図表 34-4 介護の担い手（性別役割分担意識別）



## 7 男女の人権に関わる問題について

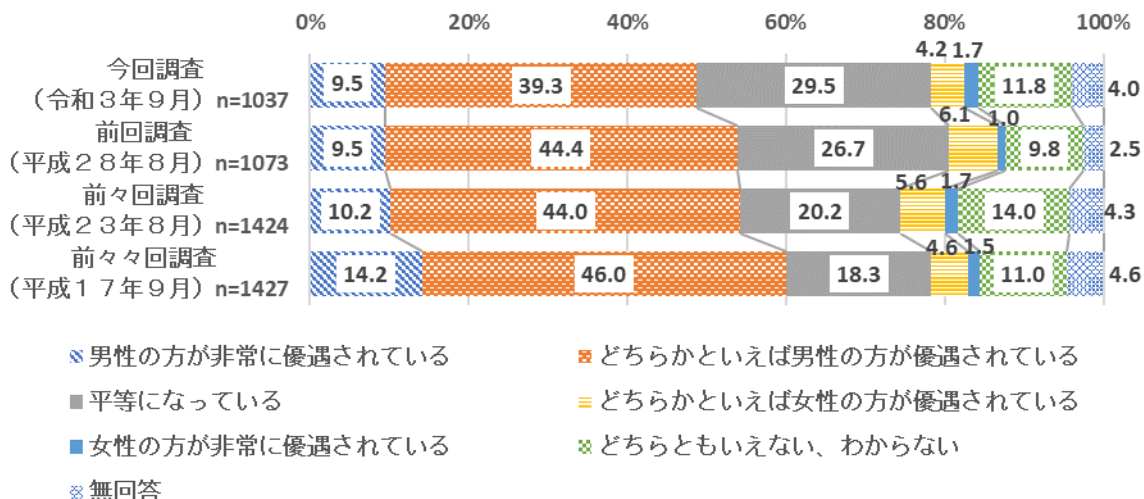
### (1) 男女の地位の平等感

問35 あなたは、次にあげる分野において男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア)から(キ)のそれぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んでください。



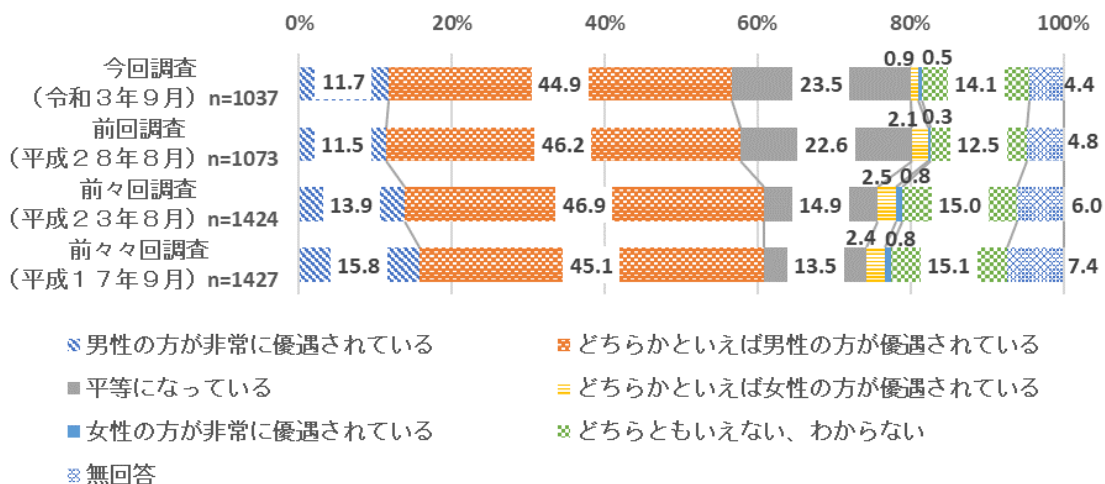
各分野における、男女の地位の平等感をたずねた。いずれの分野においても、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせた《女性優遇》の回答が低いことが特徴的である。いずれの分野でも「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた《男性優遇》の回答が《女性優遇》の回答を上回っている。

(ア) 家庭生活…「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(39.3%)が最も高く、「平等になっている」が29.5%と続き、「男性の方が非常に優遇されている」(9.5%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(39.3%)を合わせた《男性優遇》が48.8%で、「女性の方が非常に優遇されている」(1.7%)と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(4.2%)を合わせた《女性優遇》が5.9%となっており、《女性優遇》の割合が低い。前回調査と比較すると、「平等になっている」が前回調査より2.8ポイント増加している。



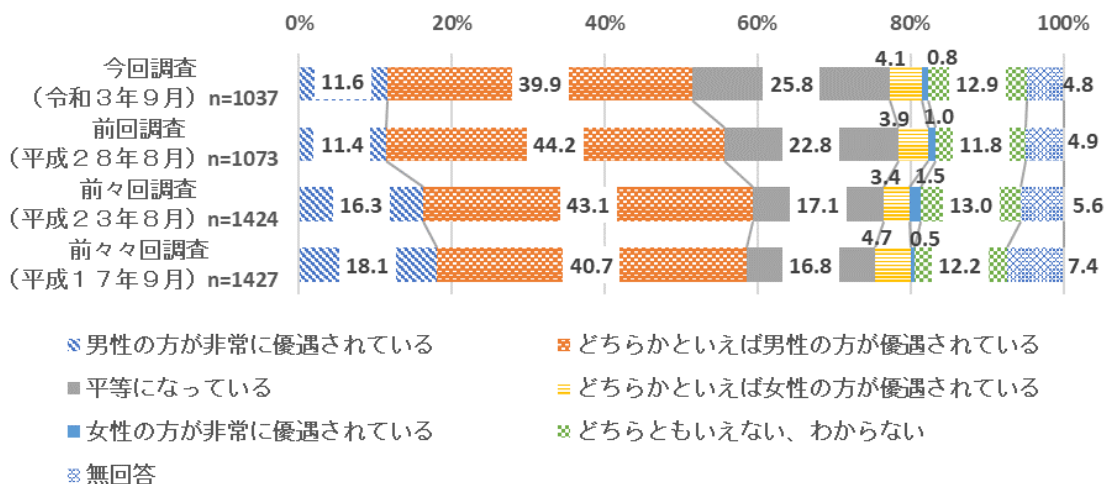
(イ) 就職の機会…「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(44.9%)が最も高く、「平等になっている」が23.5%と続き、《男性優遇》が56.6%、《女性優遇》が1.4%と低い。

前回調査と比較すると、「どちらともいえない、わからない」が前回調査より1.6ポイント増加している。

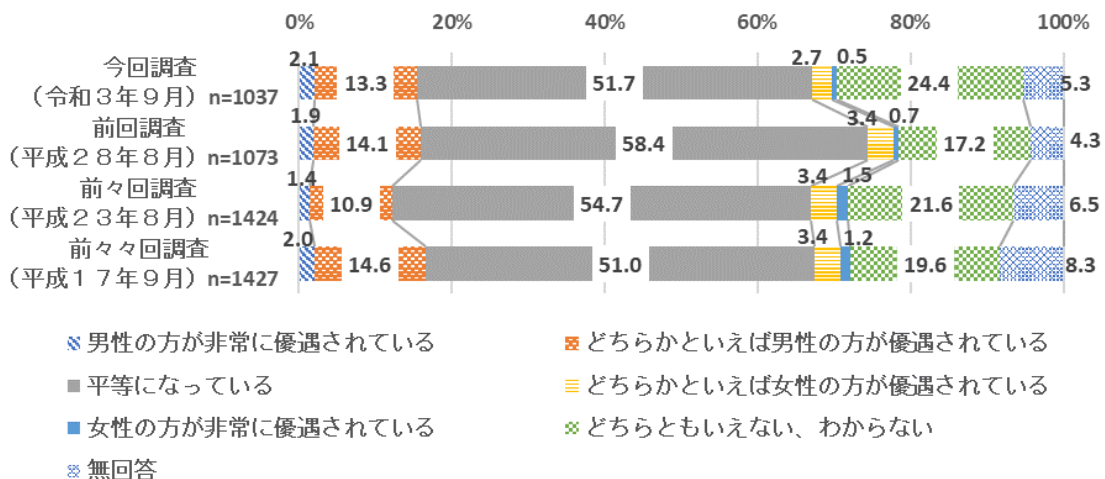


(ウ) 職場…「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(39.9%)が最も高く、「平等になっている」が25.8%と続き、《男性優遇》が51.5%で、《女性優遇》が4.9%と低い。

前回調査と比較すると、「平等になっている」が前回調査より3.0ポイント増加している。また、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が前回調査より4.3ポイント減少している。



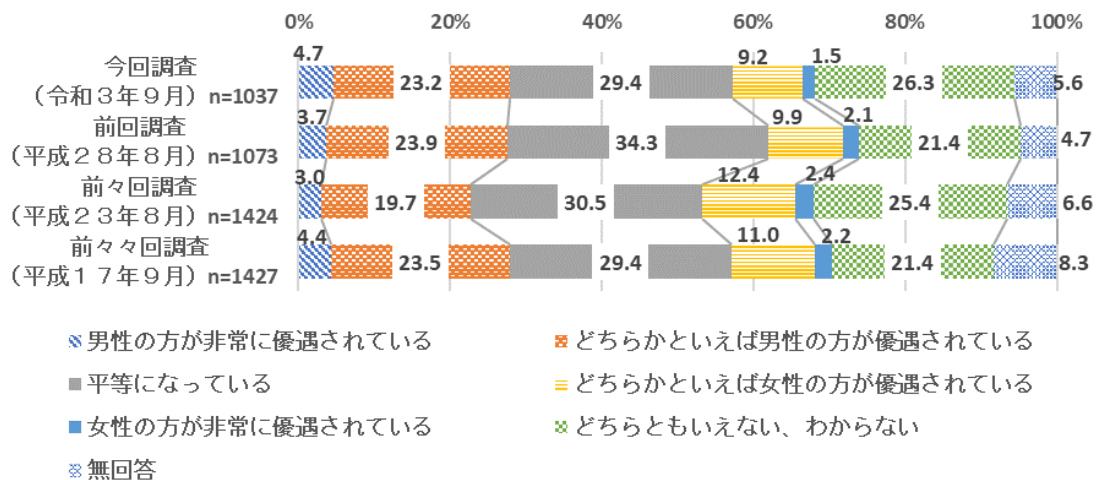
(エ) 学校教育の場…「平等になっている」(51.7%)が最も高く、「どちらともいえない、わからない」が24.4%と続き、《男性優遇》が15.4%で《女性優遇》が3.2%と低い。前回調査と比較すると、「どちらともいえない、わからない」が前回調査より7.2ポイント増加している。また、「平等になっている」が前回調査より6.7ポイント減少している。





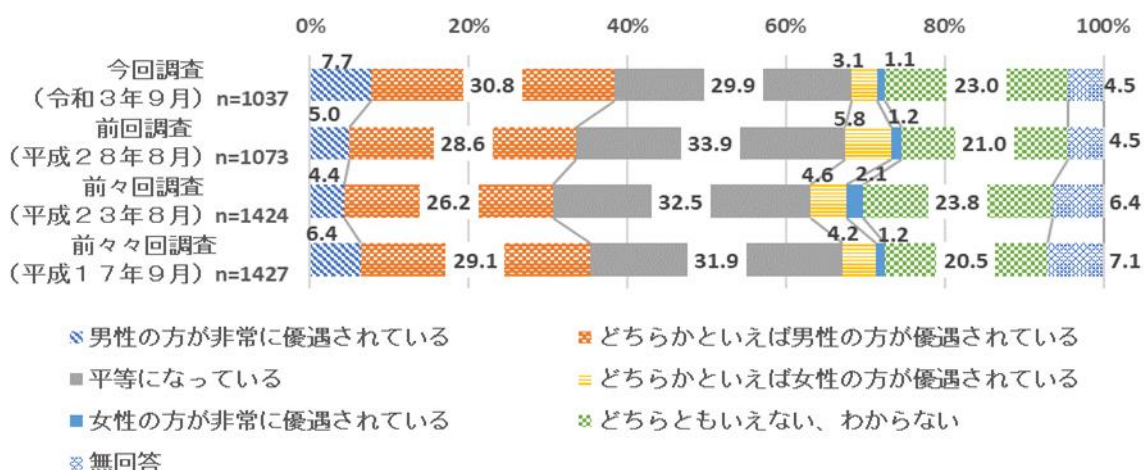
(オ) 社会の場合 …「平等になっている」(29.4%) が最も高く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が23.2%と続き、《男性優遇》が27.9%で、《女性優遇》が10.7%と低い。

前回調査と比較すると、「どちらともいえない、わからない」が前回調査より4.9ポイント増加している。また、「平等になっている」が前回調査より4.9ポイント減少している。

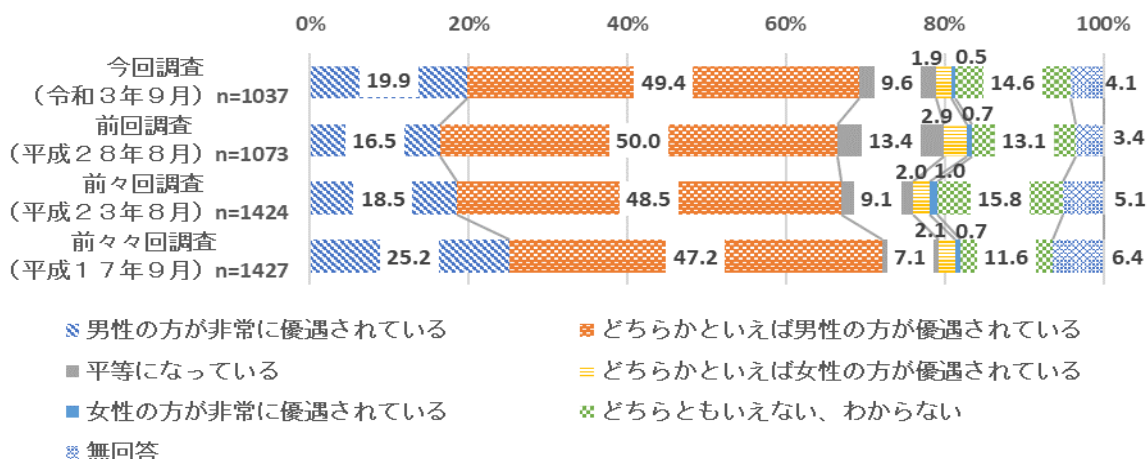


(カ) 法律や制度…「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(30.8%) が最も高く、「平等になっている」が29.9%と続き、《男性優遇》が38.5%で、《女性優遇》が4.2%と低い。

前回調査と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が前回調査より2.2ポイント増加している。



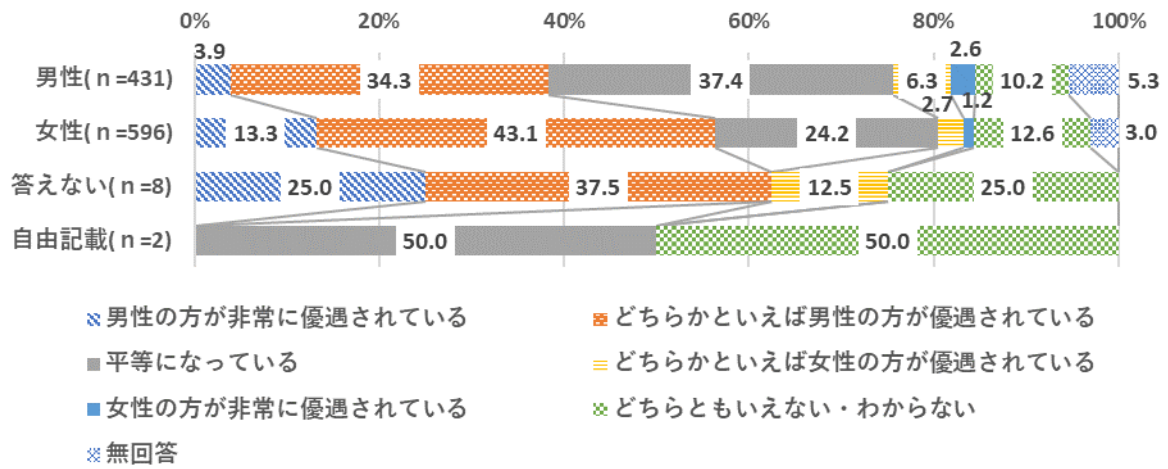
(キ) 社会通念や慣習・しきたり…「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(49.4%) が最も高く、「男性の方が非常に優遇されている」が19.9%と続き、《男性優遇》が69.3%で、《女性優遇》が2.4%と低い。前回調査と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」が、前回調査より3.4ポイント増加している。



(ア) 家庭生活では

家庭生活について性別にみると、《男性優遇》は男性が38.2%、女性が56.4%となっており、女性の回答が男性を18.2ポイント上回っている。また、「平等になっている」の回答は、男性(37.4%)が女性(24.2%)を13.2ポイント上回っている。

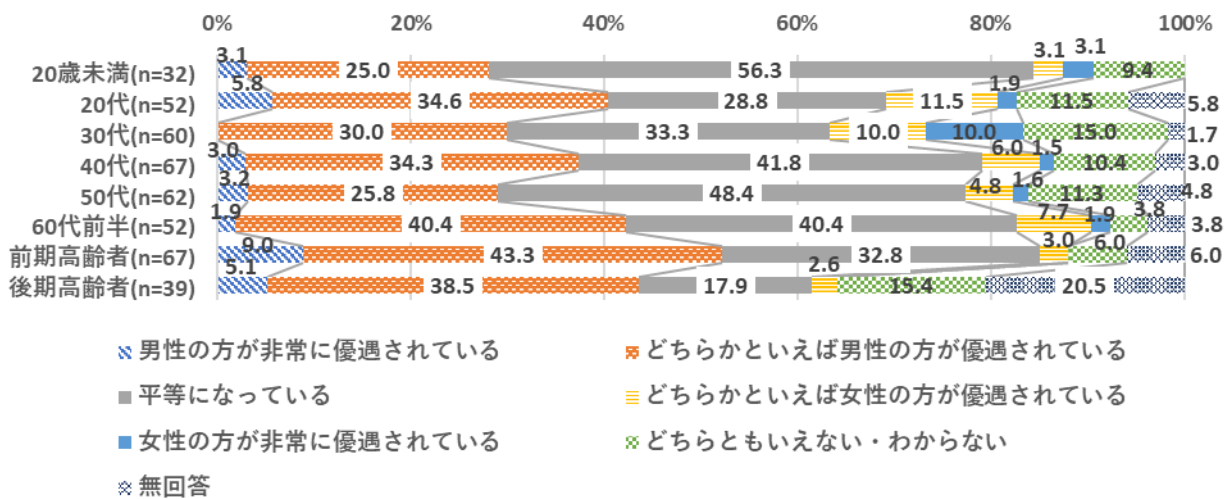
図表 35-1 ア) 男女の地位の平等感【家庭生活】(性別)



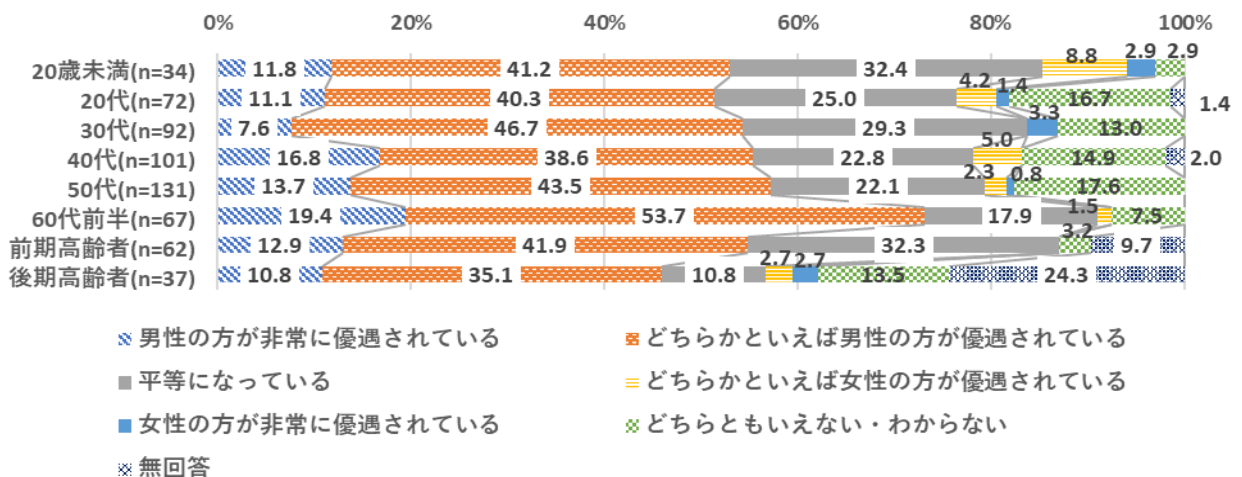
性・年代別にみると、《男性優遇》は、男性の前期高齢者で約5割、20代、60代前半と後期高齢者で約4割となっており、女性の60代前半では7割を超えている。

図表 35-2 ア) 男女の地位の平等感【家庭生活】(性・年代別)

【男性】



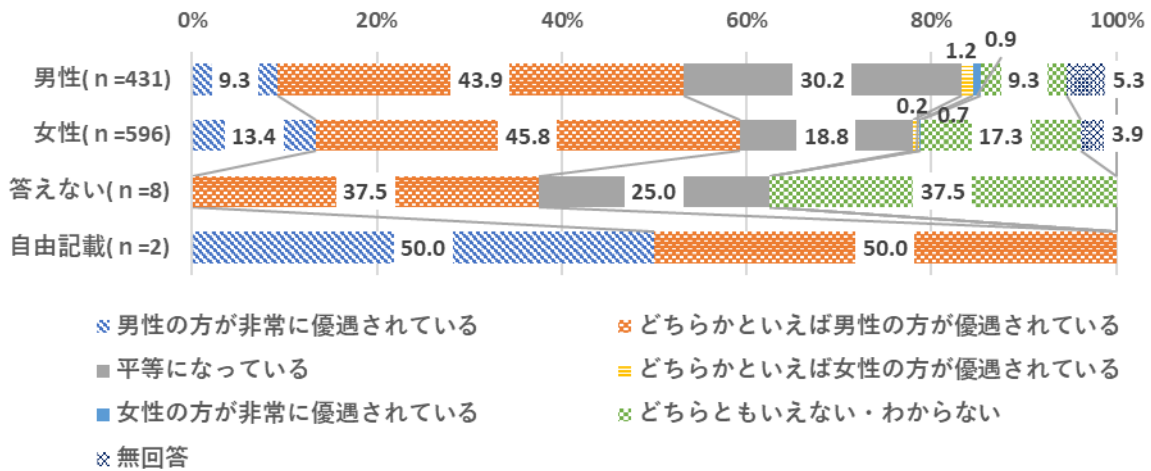
【女性】



(イ) 就職の機会では

就職の機会について性別にみると、《男性優遇》は男性が53.2%、女性が59.2%となっており、女性の回答が男性を6.0ポイント上回っている。また、「平等になっている」の回答は、男性(30.2%)が女性(18.8%)を11.4ポイント上回っている。

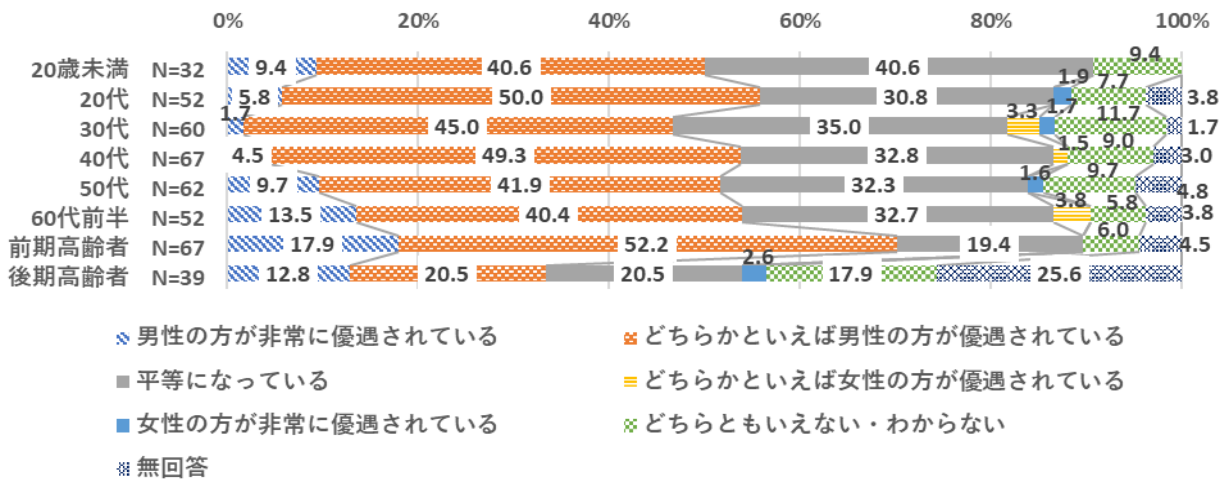
図表 35-1 イ) 男女の地位の平等感【就職の機会】(性別)



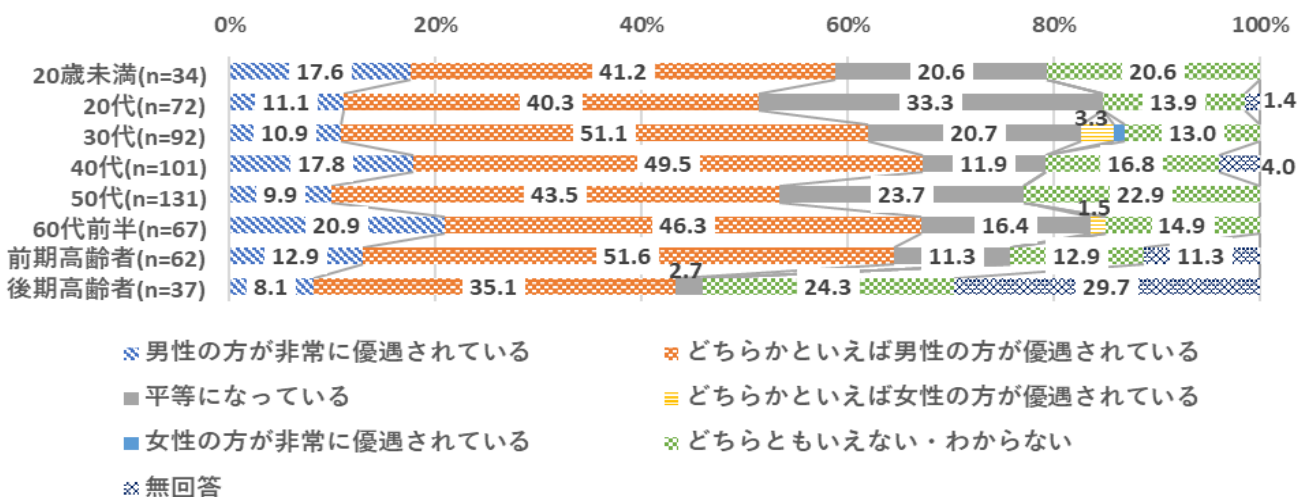
性・年代別にみると、《男性優遇》は、男性の前期高齢者(70.1%)が最も高く、次いで女性の40代が67.3%、女性の60代前半で67.2%となっている。

図表 35-2 イ) 男女の地位の平等感【就職の機会】(性・年代別)

【男性】



【女性】

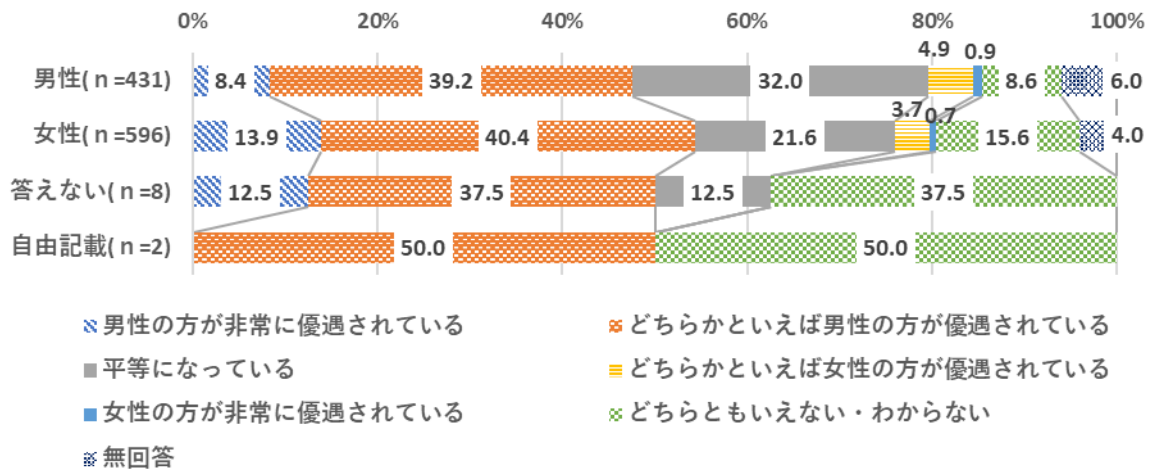




(ウ) 職場では

職場について性別にみると、《男性優遇》は男性が47.6%、女性が54.3%となっており、女性の回答が男性を6.7ポイント上回っている。また、「平等になっている」の回答は、男性(32.0%)が女性(21.6%)を10.4ポイント上回っている。

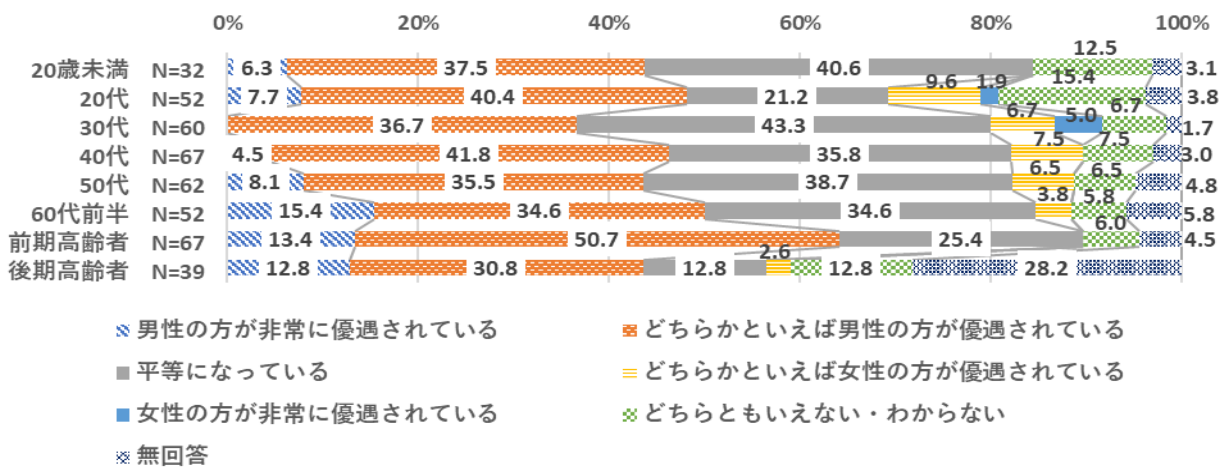
図表 35-1 ウ) 男女の地位の平等感【職場】(性別)



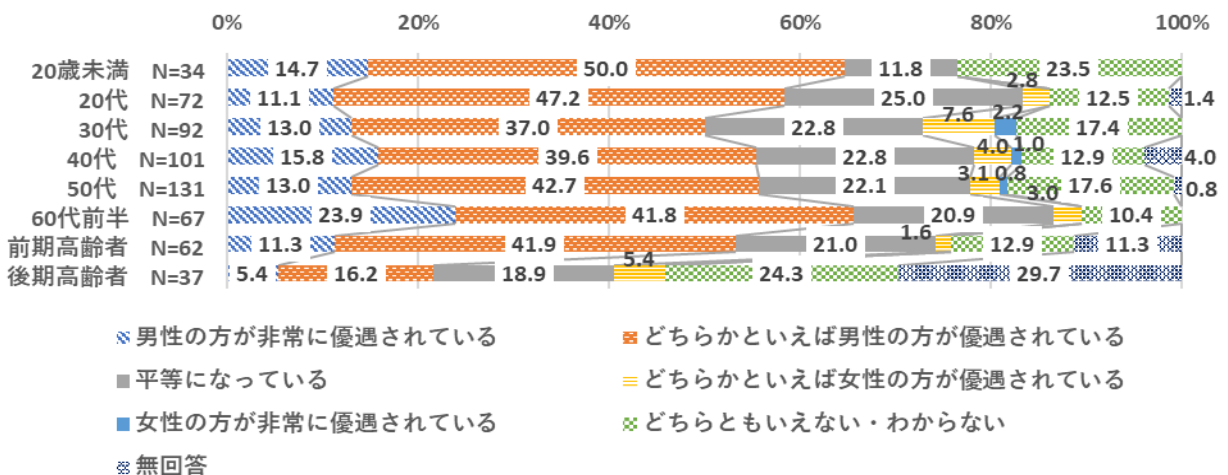
性・年代別にみると、女性では後期高齢者以外で約5割以上が《男性優遇》と回答している。中でも20歳未満と60代前半では6割を超えている。男性では、30代以外の年代において約4割以上が《男性優遇》と回答し、前期高齢者では6割と高くなっている。

図表 35-2 ウ) 男女の地位の平等感【職場】(性・年代別)

【男性】



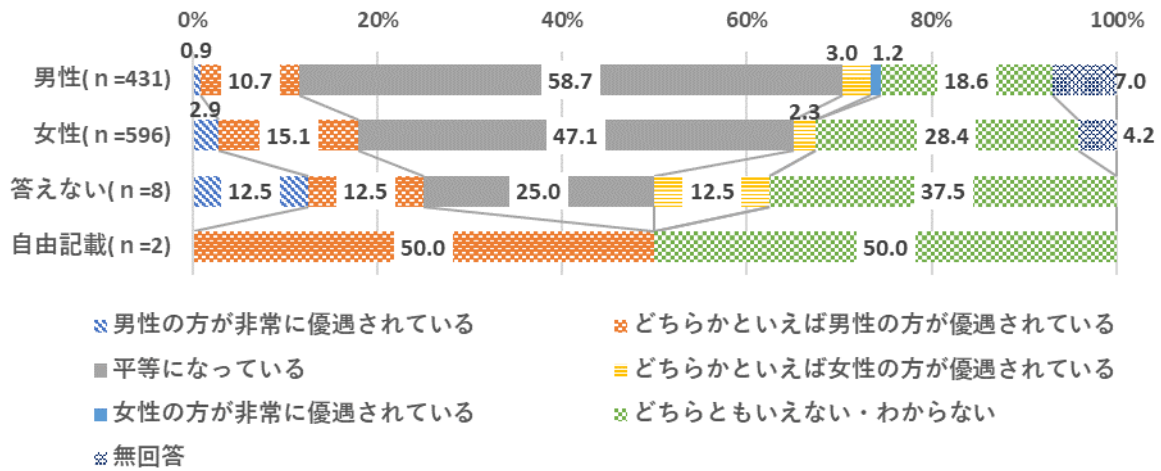
【女性】



(エ) 学校教育の場では

教育の場について性別にみると、《男性優遇》は男性が11.6%、女性が18.0%となっており、女性の回答が男性を6.4ポイント上回っている。また、「平等になっている」の回答は、男性が58.7%、女性が47.1%で男性の回答が女性より11.6ポイント上回っている。

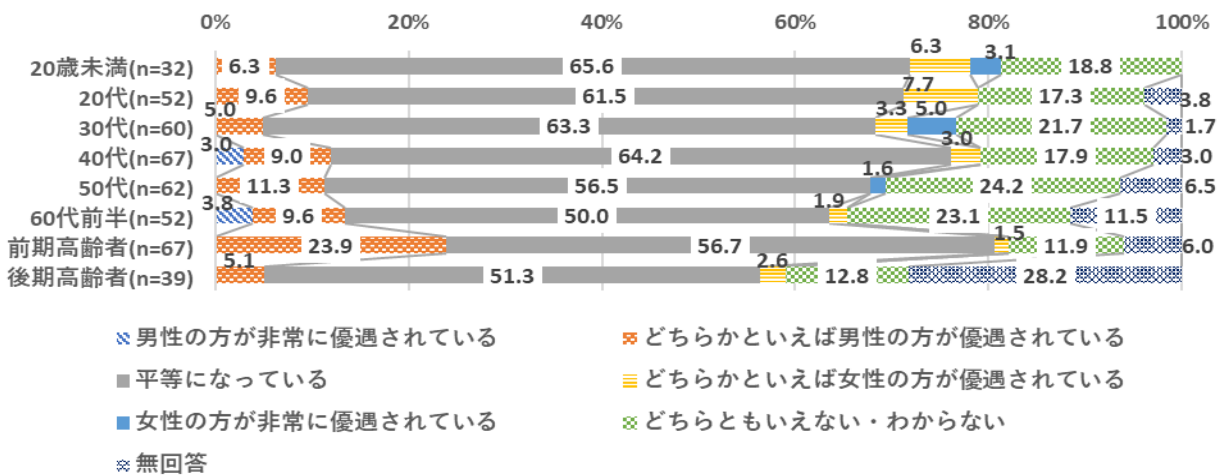
図表 35-1 エ) 男女の地位の平等感【教育の場】(性別)



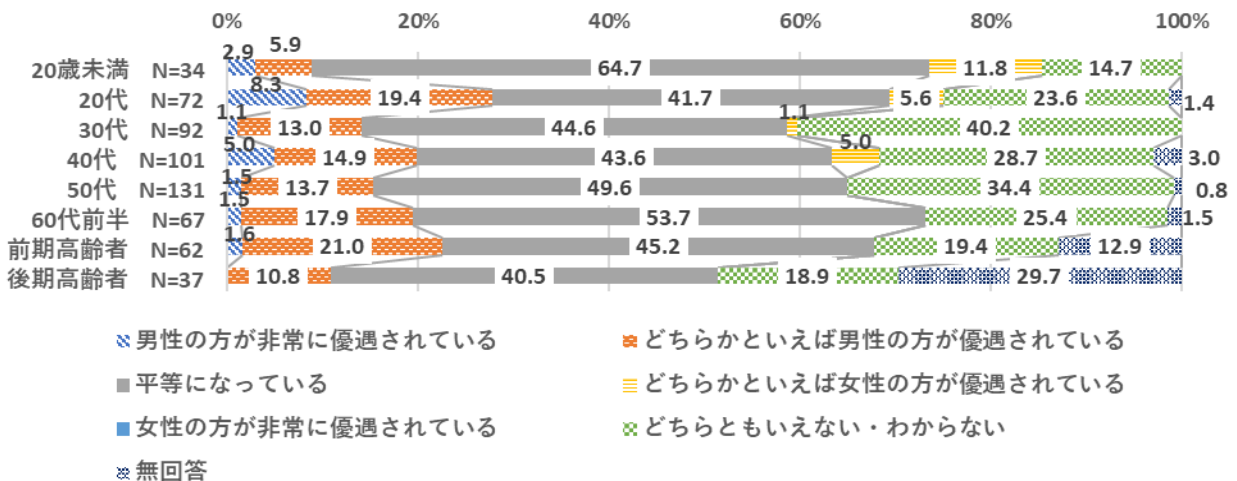
性・年代別にみると、《男性優遇》は、前期高齢者の年代以外で女性が男性を上回る回答となっている。また、男性では全ての年代で5割以上が「平等になっている」と回答している。

図表 35-2 エ) 男女の地位の平等感【教育の場】(性・年代別)

【男性】



【女性】

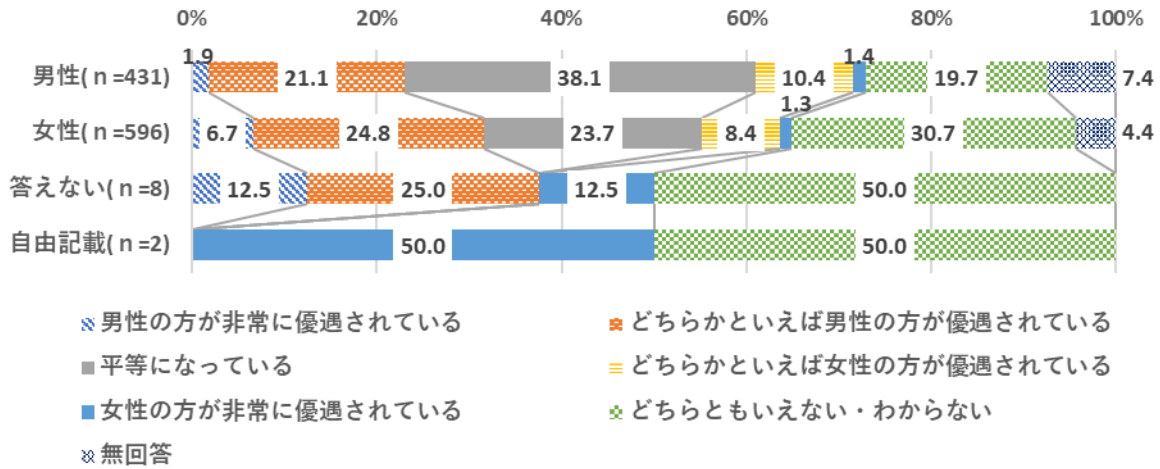




(オ) 社会の場では

社会の場について性別にみると、《男性優遇》は男性が23.0%、女性が31.5%となっており、女性の回答が男性を8.5ポイント上回っている。また、「平等になっている」の回答は、男性(38.1%)が、女性(23.7%)を14.4ポイント上回っている。

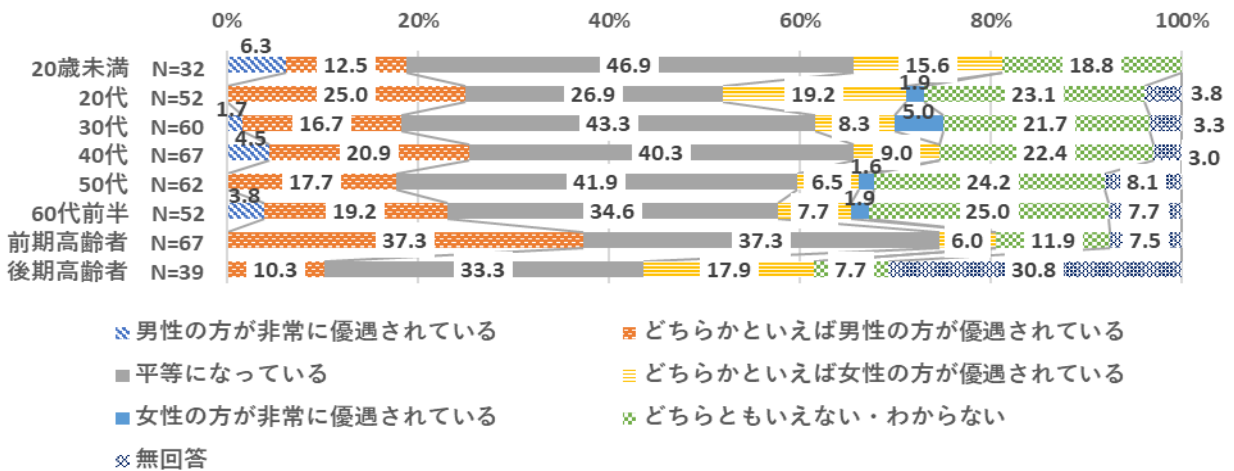
図表 35-1 オ) 男女の地位の平等感【社会の場】(性別)



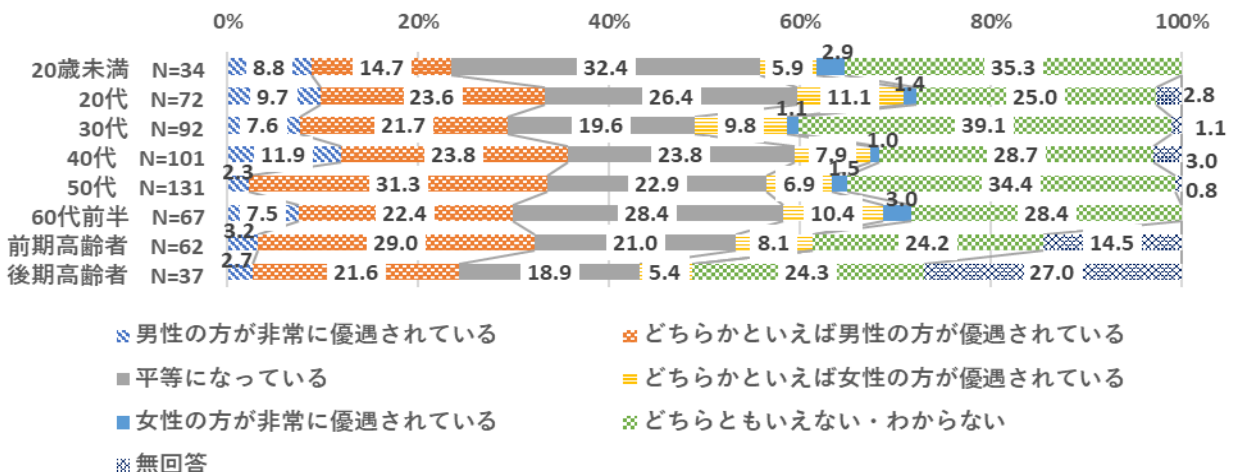
性・年代別にみると、《男性優遇》は、男性の前期高齢者(37.3%)が最も高く、次いで女性の40代が35.7%、女性の50代で33.6%となっている。「平等になっている」は、男性の20歳未満(46.9%)が最も高く、次いで男性の30代が43.3%、男性の50代が41.9%と女性より男性が高い傾向がみられる。

図表 35-2 オ) 男女の地位の平等感【社会の場】(性・年代別)

【男性】



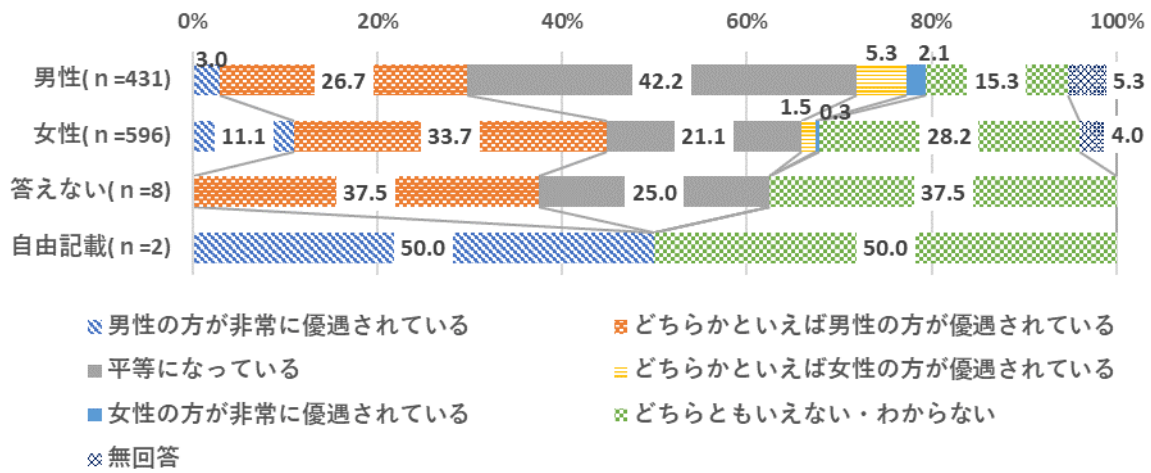
【女性】



(カ) 法律や制度では

法律や制度について性別にみると、《男性優遇》は男性が29.7%、女性が44.8%となっており、女性の回答が男性を15.1ポイント上回っている。また、「平等になっている」の回答は、男性(42.2%)が、女性(21.1%)を21.1ポイントと大きく上回っている。

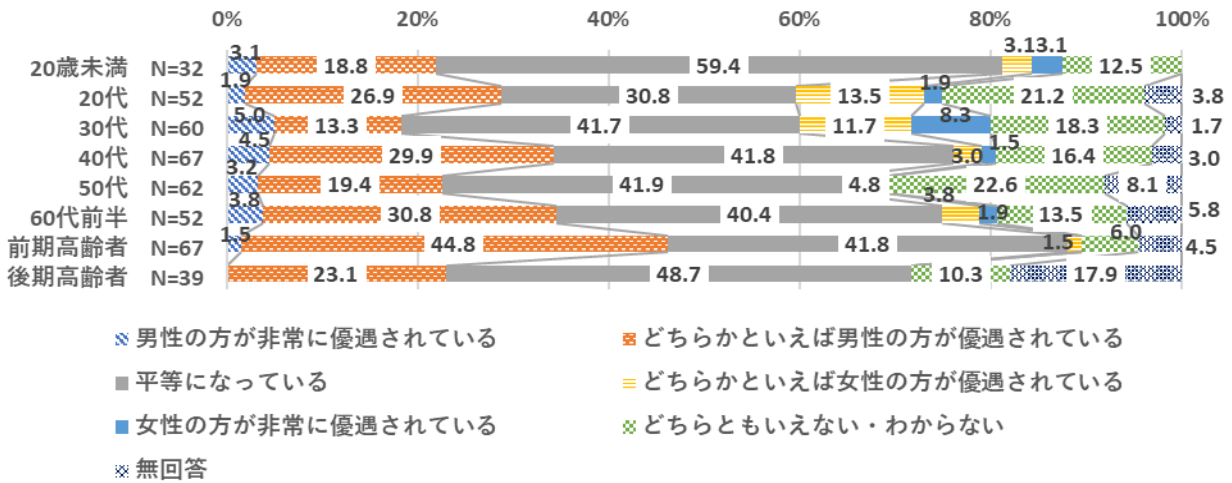
図表 35-1 カ) 男女の地位の平等感【法律や制度】(性別)



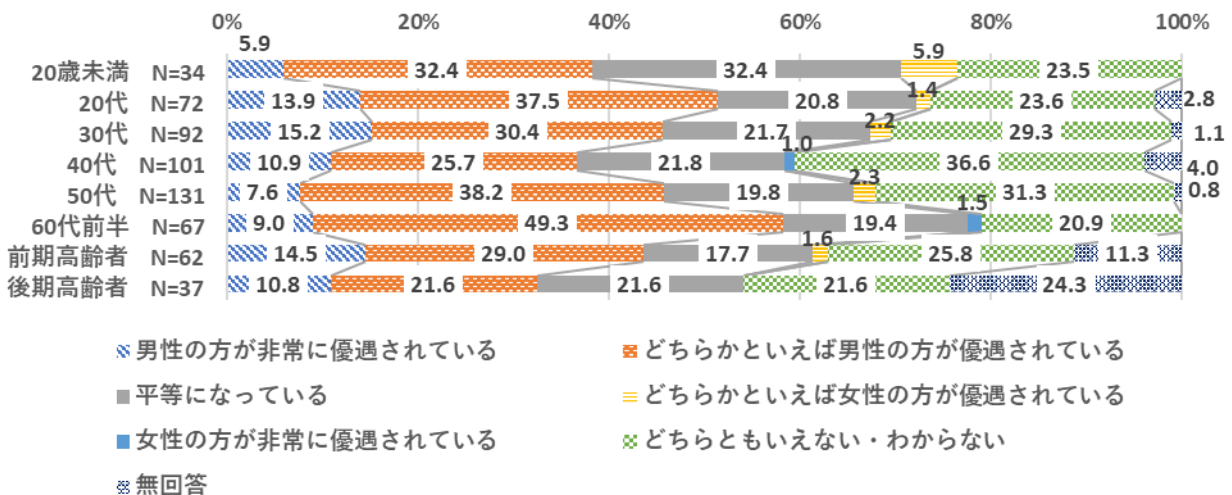
性・年代別にみると、《男性優遇》は男性では、前期高齢者(46.3%)、60代前半(34.6%)が高くなっている。女性では60代前半(58.3%)が最も高く、すべての年代で3割を超えている。

図表 35-2 カ) 男女の地位の平等感【法律や制度】(性・年代別)

【男性】



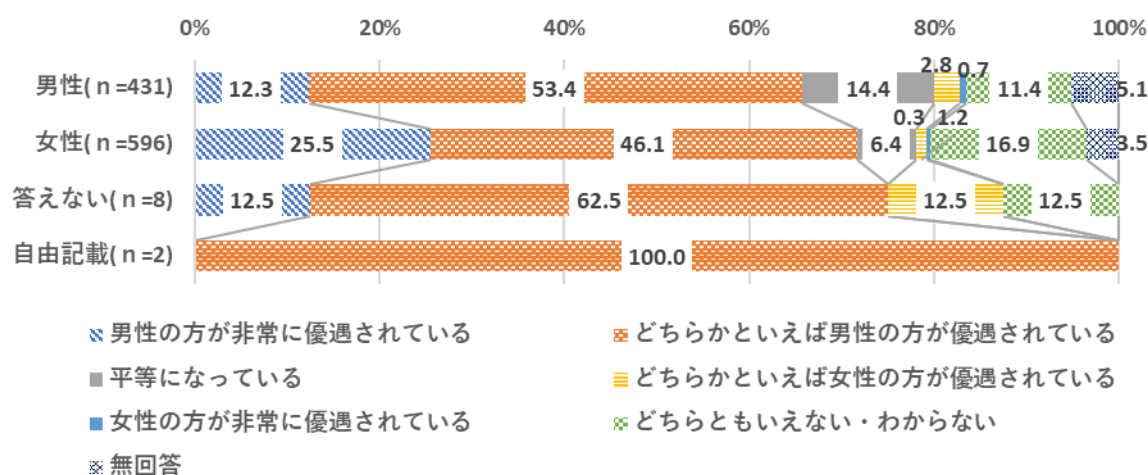
【女性】



(キ) 社会通念や慣習・しきたりでは

社会通念や慣習・しきたりについて性別にみると、《男性優遇》は男性が65.7%、女性が71.6%となっており、《男性優遇》と感じている女性が男性より5.9ポイント高い。また、「平等になっている」の回答は、男性(14.4%)が、女性(6.4%)を8.0ポイント上回っている。

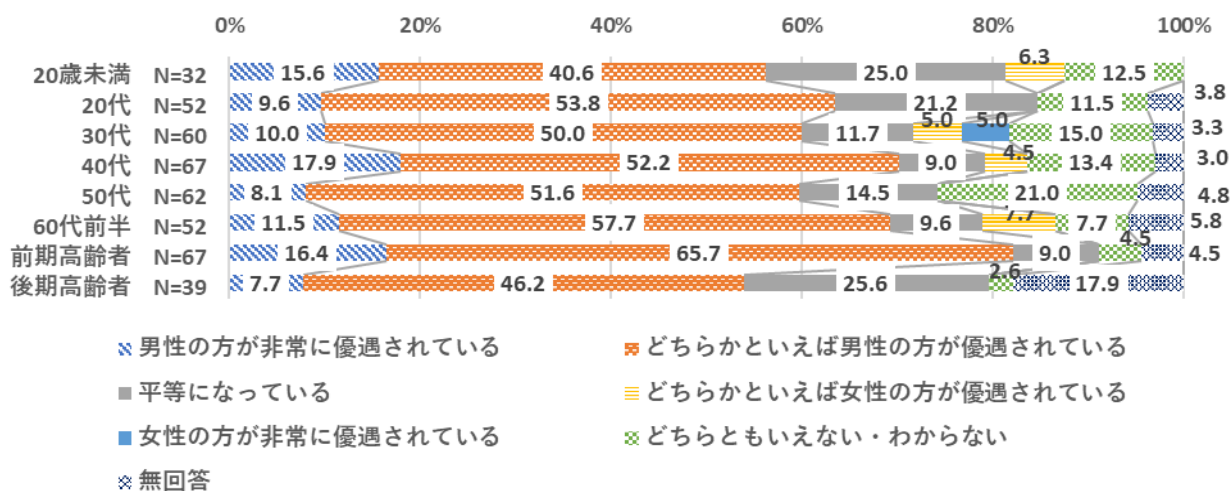
図表 35-1 キ) 男女の地位の平等感【社会通念や慣習・しきたり】(性別)



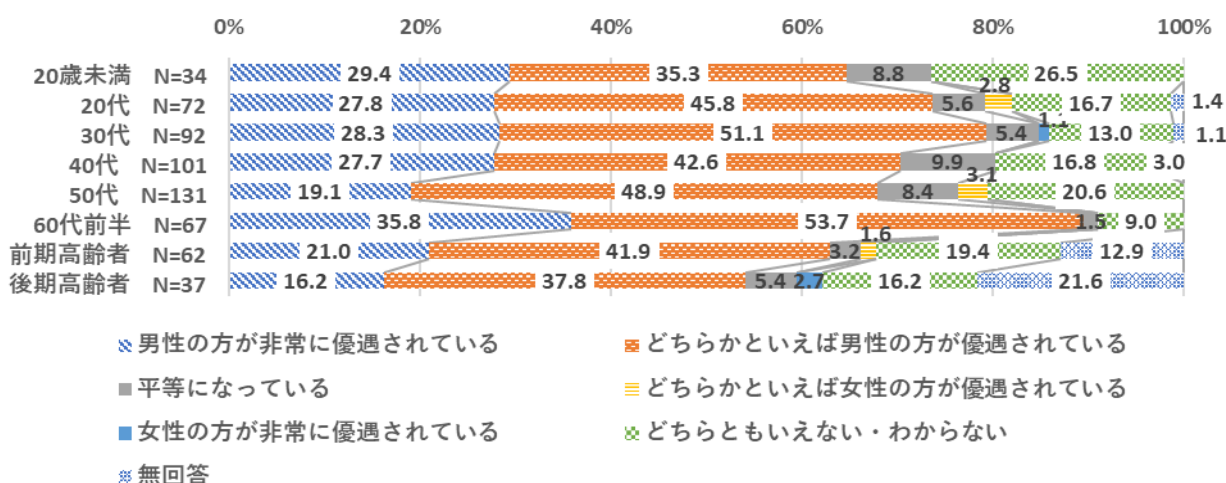
性・年代別にみると、《男性優遇》は、男性の前期高齢者が8割を超えている。女性では後期高齢者および60代前半を除く年代が6割～8割、60代前半では約9割となっている。

図表 35-2 キ) 男女の地位の平等感【社会通念や慣習・しきたり】(性・年代別)

【男性】



【女性】

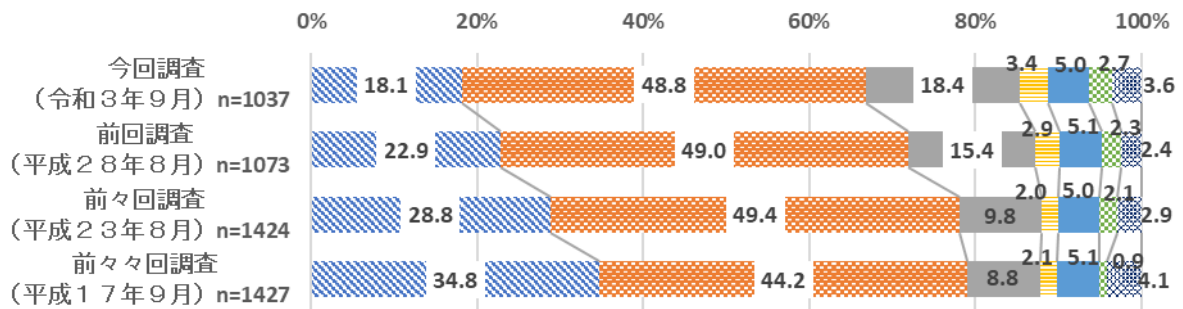




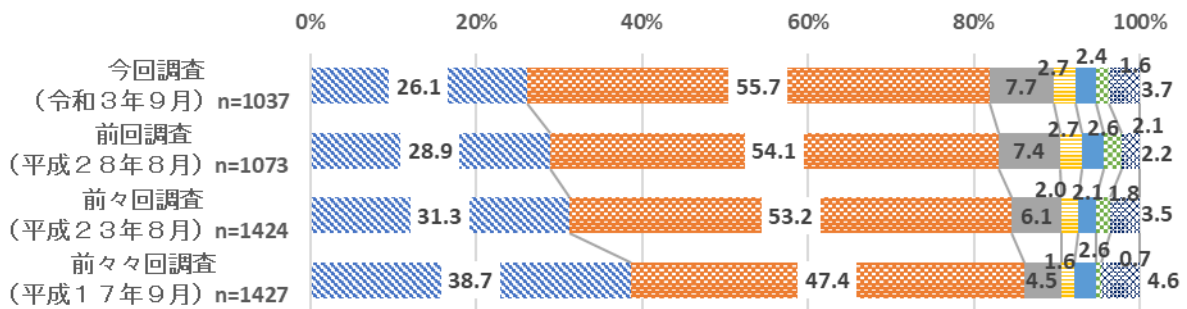
(2) 男女の責任に関する考え方

問36 男女の経済的責任・家庭的責任について、あなたはどのように思いますか。(ア)から(ウ)のそれぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んでください。

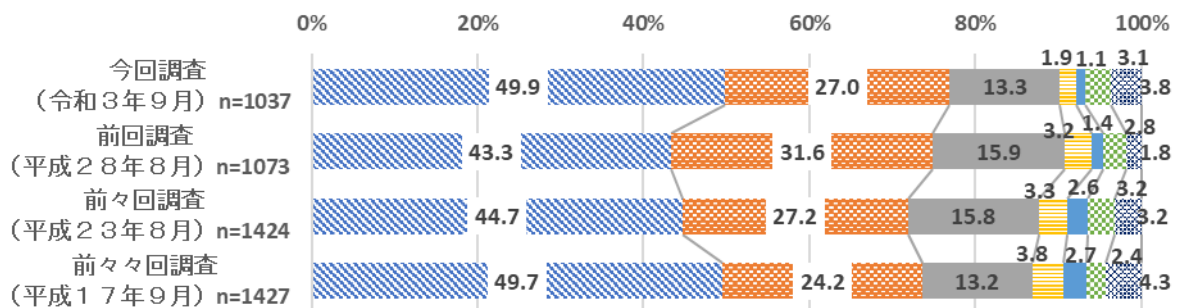
(ア) 一般的に、男性は過剰な経済的責任を担っている



(イ) 一般的に、女性は過剰な家庭的責任（家事・育児・介護）を担っている



(ウ) 経済的な責任と家庭的な責任は、性別に関わらず担うことが必要である



- そう思う
- どちらともいえない
- そう思わない
- 無回答
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそうも思わない
- わからない

男女がそれぞれ担う責任の重さについて3項目をたずねた。

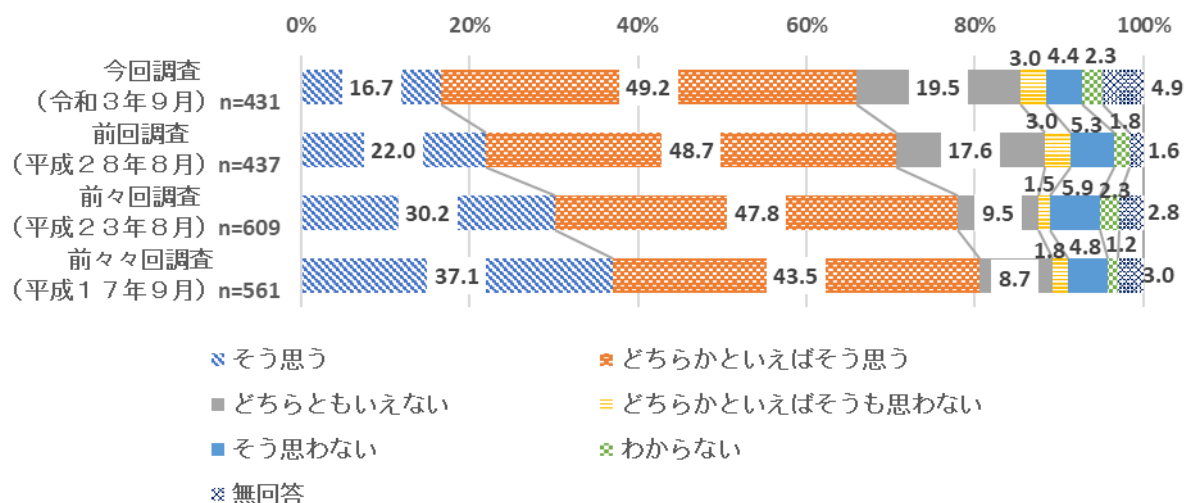
- (ア) 「一般的に、男性は過剰な経済的責任を担っている」では、「そう思う」が18.1%、「どちらかといえばそう思う」が48.8%、これらを合わせた《男性経済責任派》66.9%となっている。前回調査と比較すると、《男性経済責任派》の割合は、5.0ポイント減少している。
- (イ) 「一般的に、女性は過剰な家庭的責任（家事・育児・介護）を担っている」では、「そう思う」が26.1%、「どちらかといえばそう思う」が55.7%、これらを合わせた《女性家庭責任派》81.8%となっている。前回調査と比較すると、《女性家庭責任派》の割合は、1.2ポイント減少している。
- (ウ) 「経済的な責任と家庭的な責任は、性別に関わらず担うことが必要である」という考え方については、「そう思う」が49.9%、「どちらかといえばそう思う」が27.0%となっている。これらを合わせた《性別に関わらず担う派》は76.9%となっている。前回調査と比較すると、2.0ポイント増加している。

(ア) 一般的に、男性は過剰な経済的責任を担っている

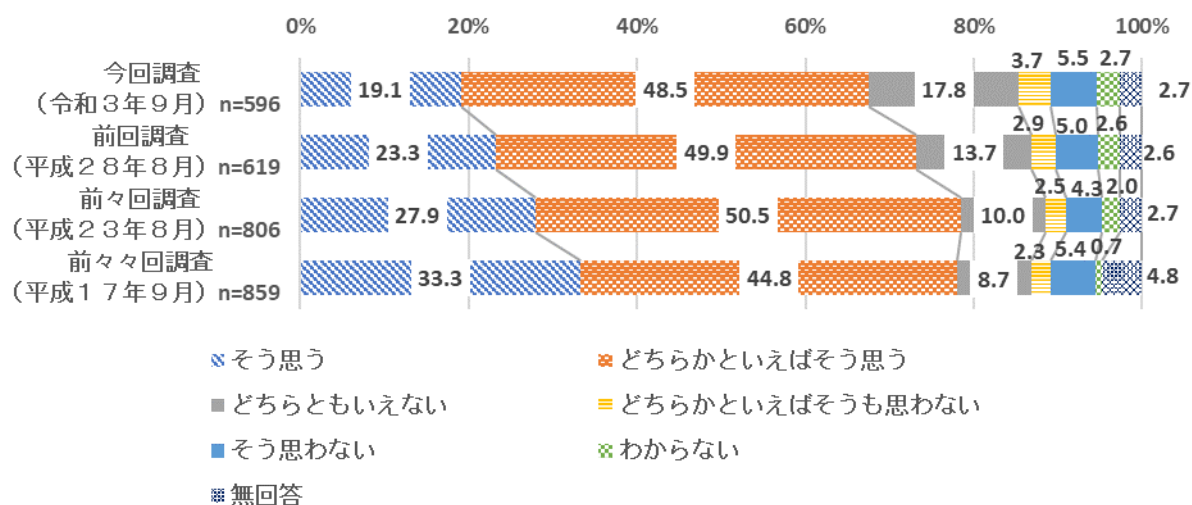
性別をみると、「一般的に、男性は過剰な経済的責任を担っている」では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答は、男性が65.9%、女性が67.6%となっている。男性は前回調査から4.8ポイント低下、女性は前回調査から5.6ポイント低下した。

図表 36-1 ア) 男女の責任に関する考え方【男性の経済的責任】(性別)

【男性】



【女性】

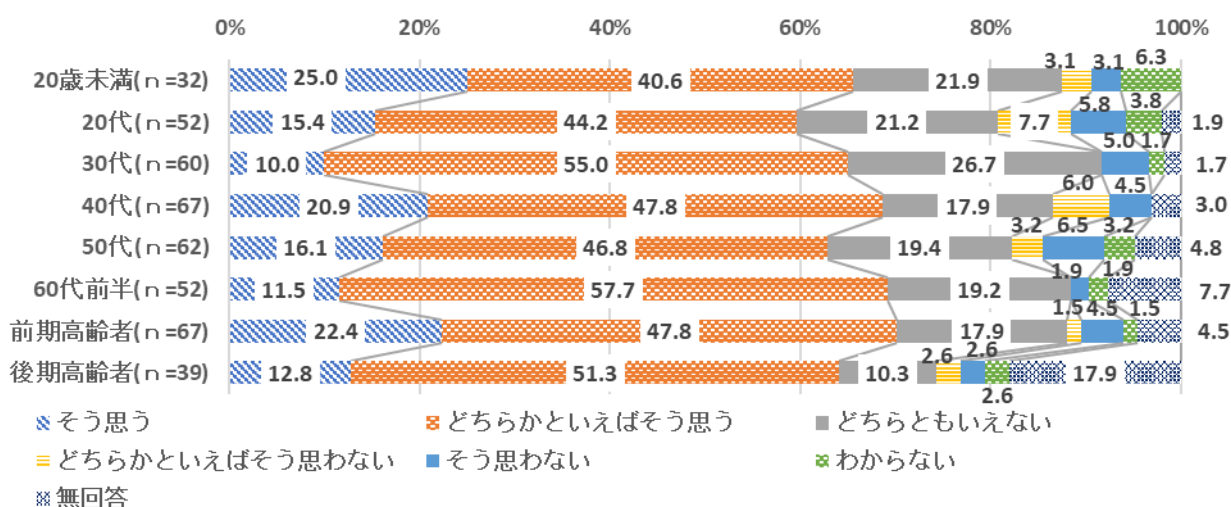




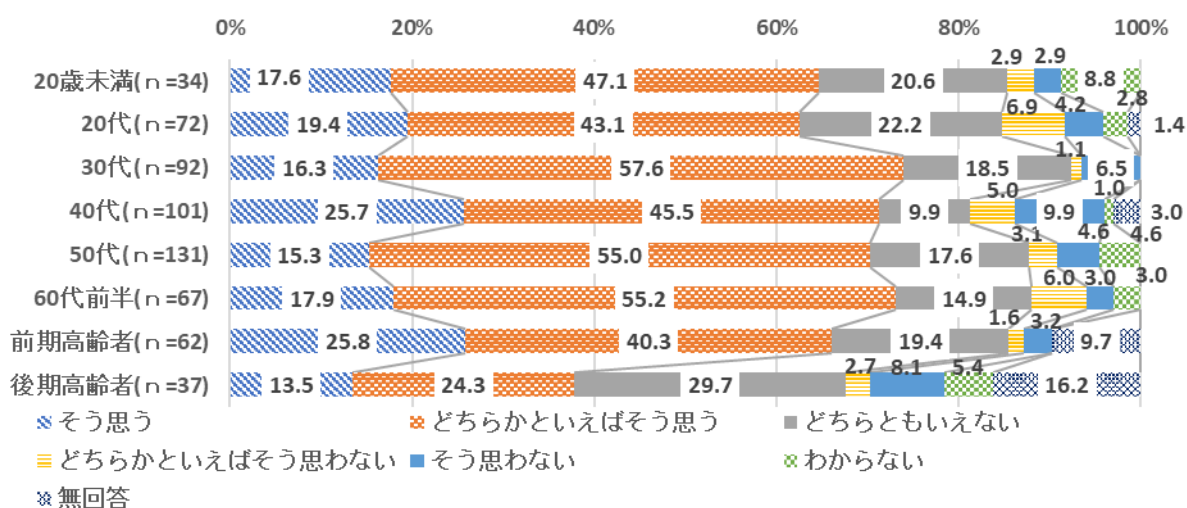
性・年代別にみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」は、男性では、20代(59.6%)を除く全ての年代が6割を超えており、60代前半から前期高齢者では7割近くと高い。女性では、後期高齢者を除くほぼ全ての年代が6割を超えており、30代~60代前半では7割を超えている。

図表 36-2 ア) 男女の責任に関する考え方【男性の経済的責任】(性・年代別)

【男性】



【女性】

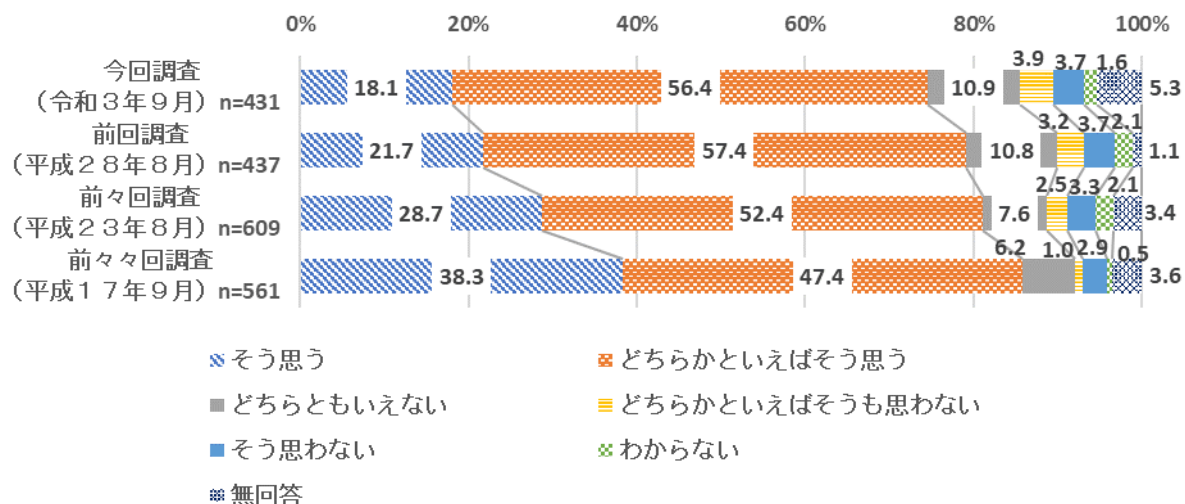


(イ) 一般的に、女性は過剰な家庭的責任(家事・育児・介護)を担っている

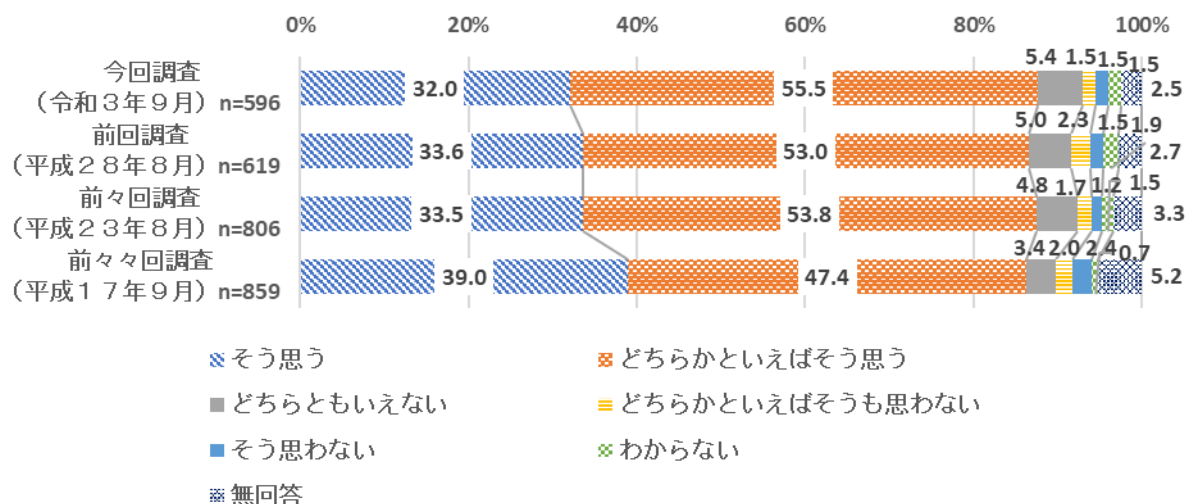
性別をみると、「一般的に、女性は過剰な家庭的責任(家事・育児・介護)を担っている」では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答は、男性が74.5%、女性が87.5%となっている。男性は前回調査から4.6ポイント低下、女性は前回調査から0.9ポイント増加した。

図表 36-1 イ) 男女の責任に関する考え方【女性の家庭的責任】(性別)

【男性】



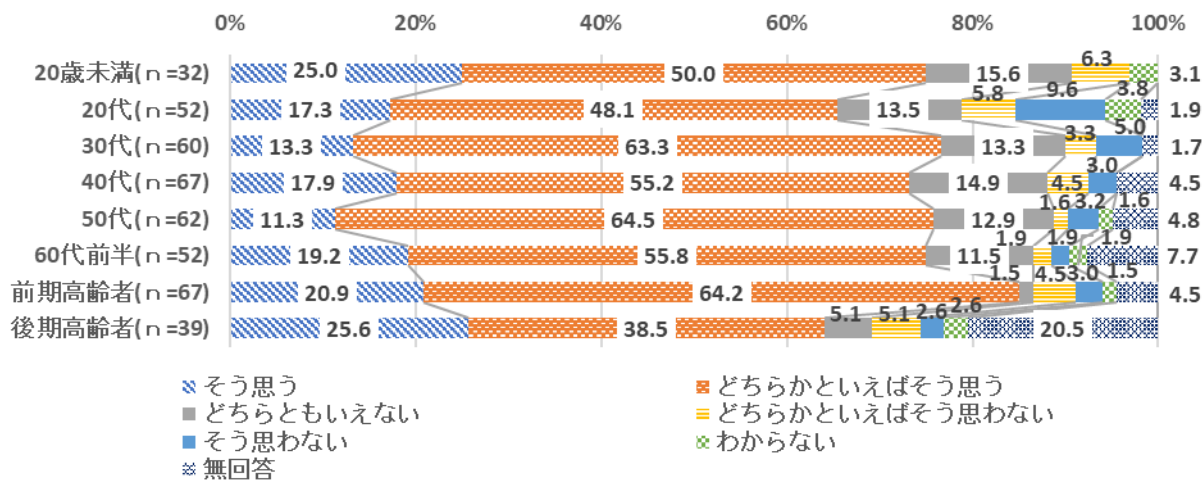
【女性】



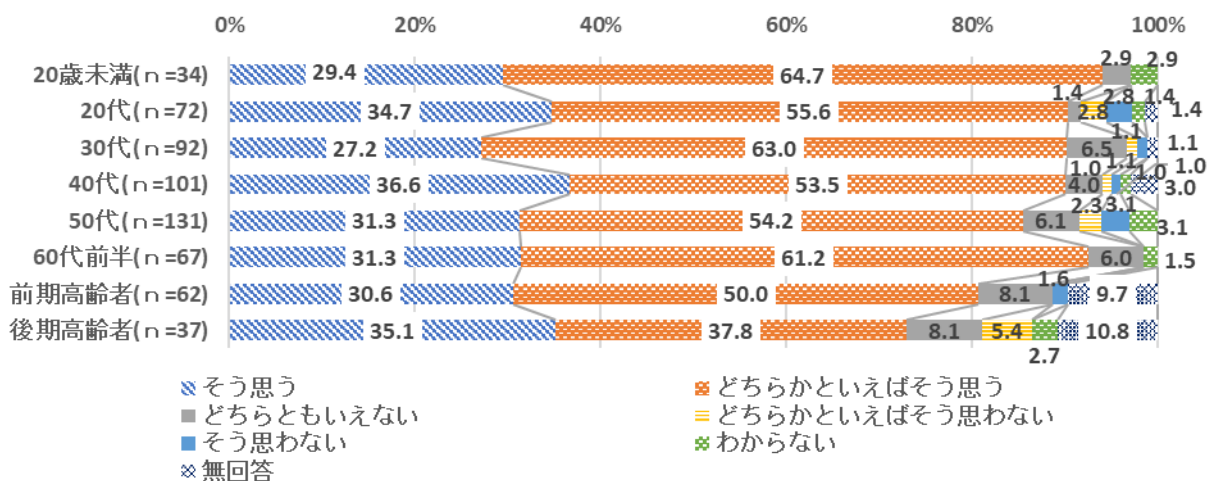
性・年代別にみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」は、男性と女性ともに全ての年代で6割以上の回答となっている。中でも女性は50代と前期・後期高齢者以外では9割を超えている。

図表 36-2 イ) 男女の責任に関する考え方【女性の家庭的責任】(性・年代別)

【男性】



【女性】

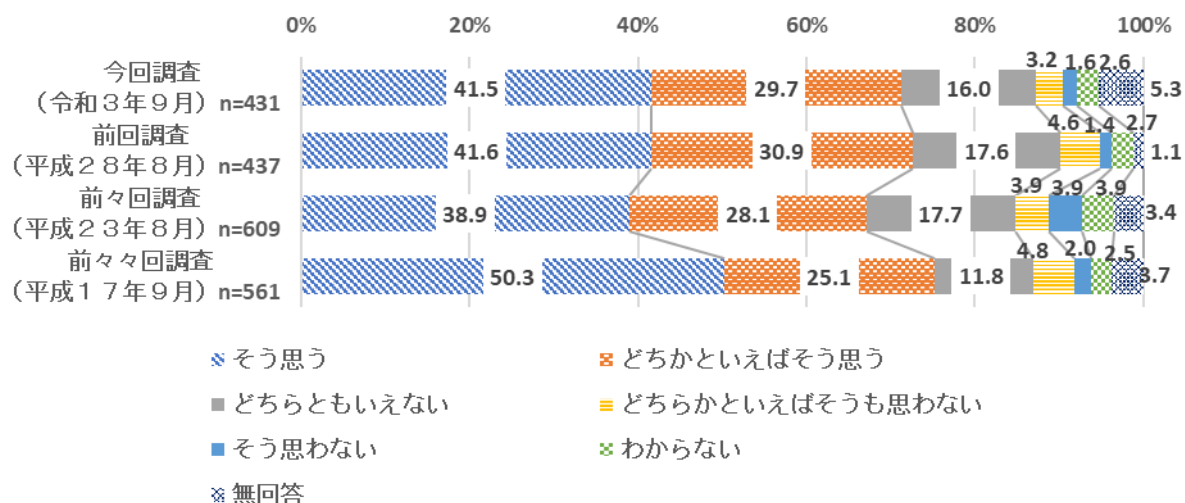


(ウ) 経済的な責任と家庭的な責任は、性別に関わらず担う必要がある

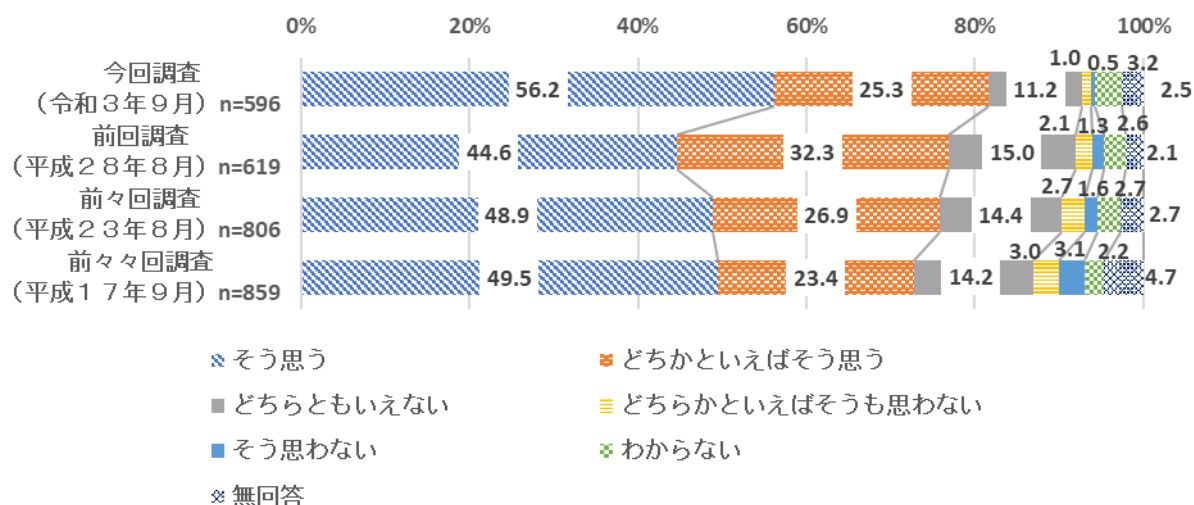
性別をみると、「経済的な責任と家庭的な責任は、性別に関わらず担う必要がある」では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答は、男性が71.2%、女性が81.5%となっている。男性は前回調査から1.3ポイント低下、女性は前回調査から4.6ポイント増加した。

図表 36-1 ウ) 男女の責任に関する考え方【性別に関わらず担う必要性】(性別)

【男性】



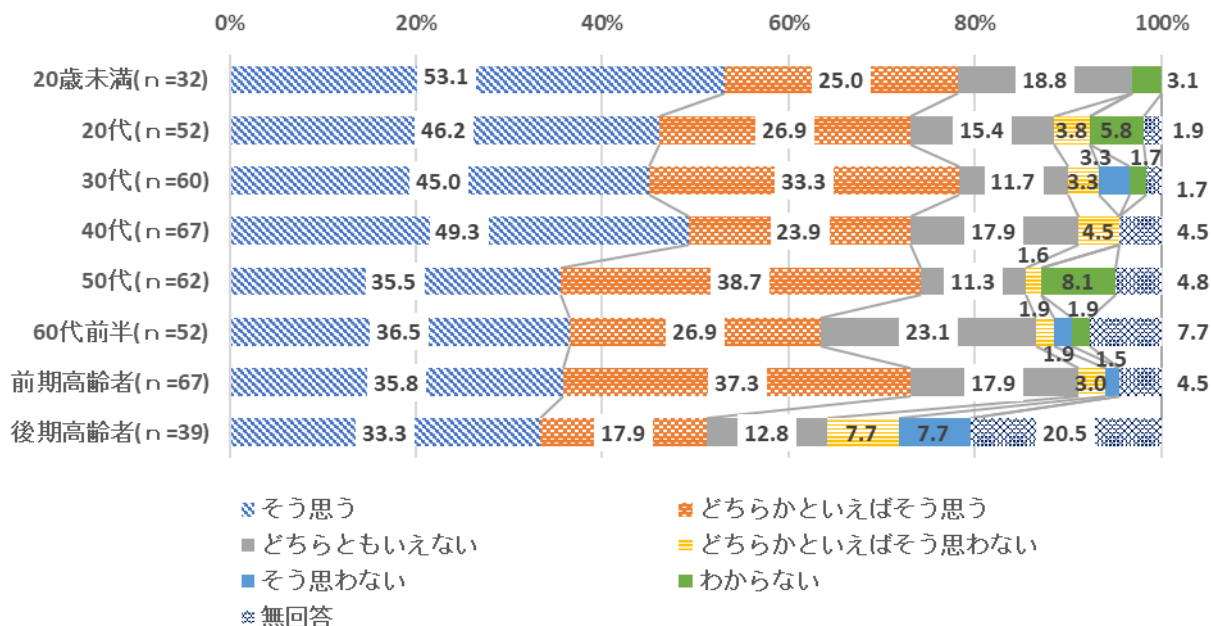
【女性】



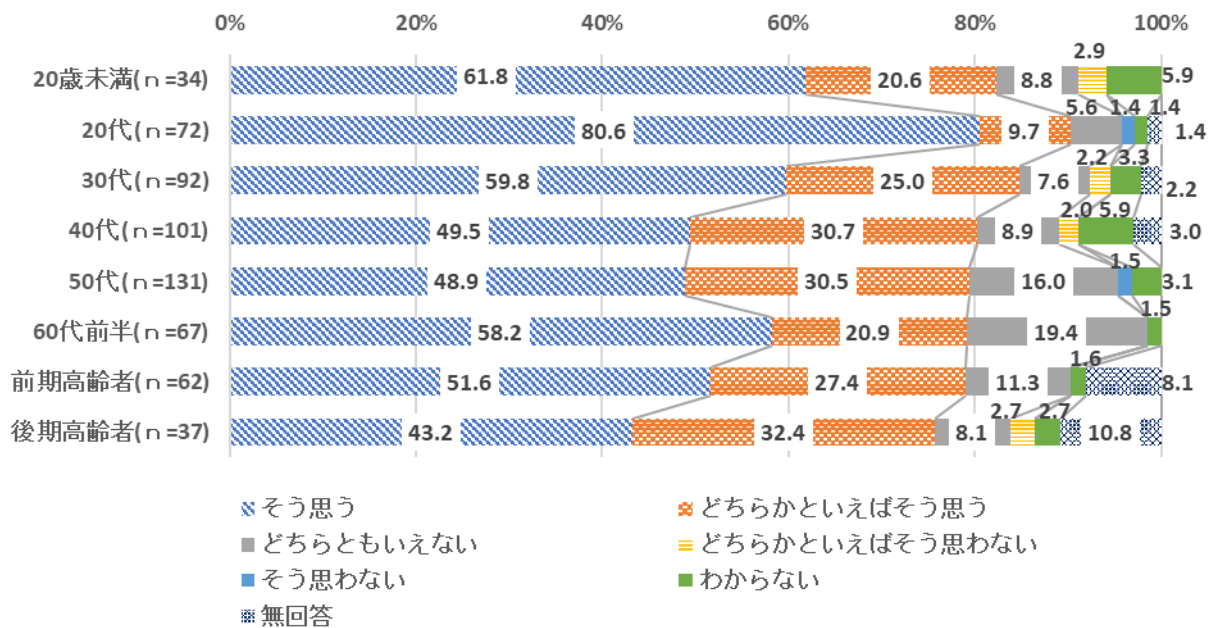
性・年代別にみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」は、20歳未満～40代では、女性が8割を超えており、同年代の男性より高くなっている。

図表 36-2 ウ) 男女の責任に関する考え方【性別に関わらず担う必要性】(性・年代別)

【男性】



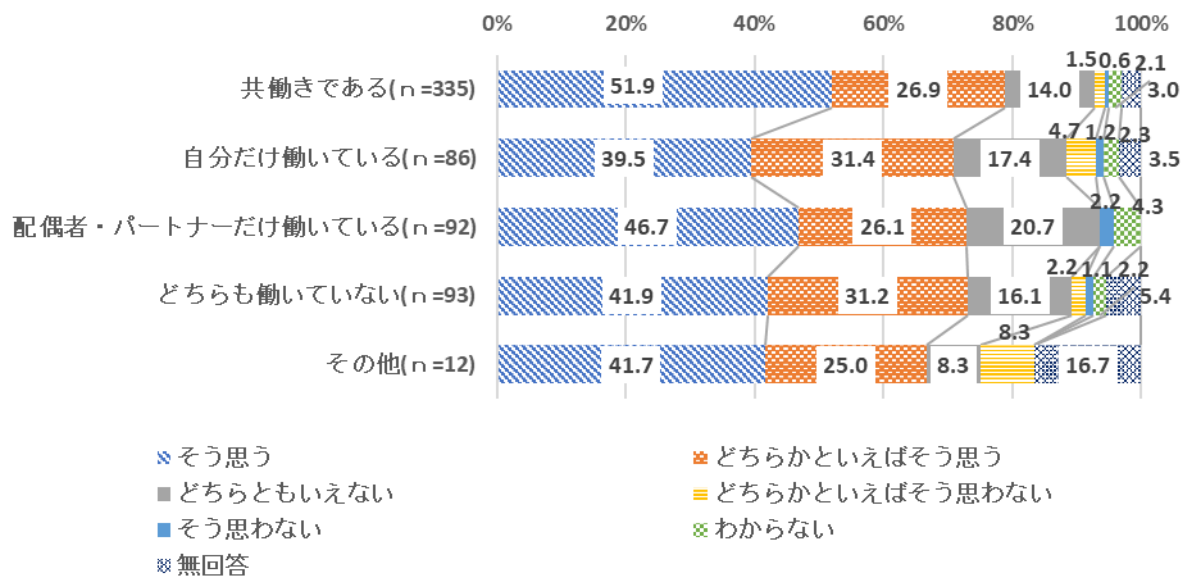
【女性】



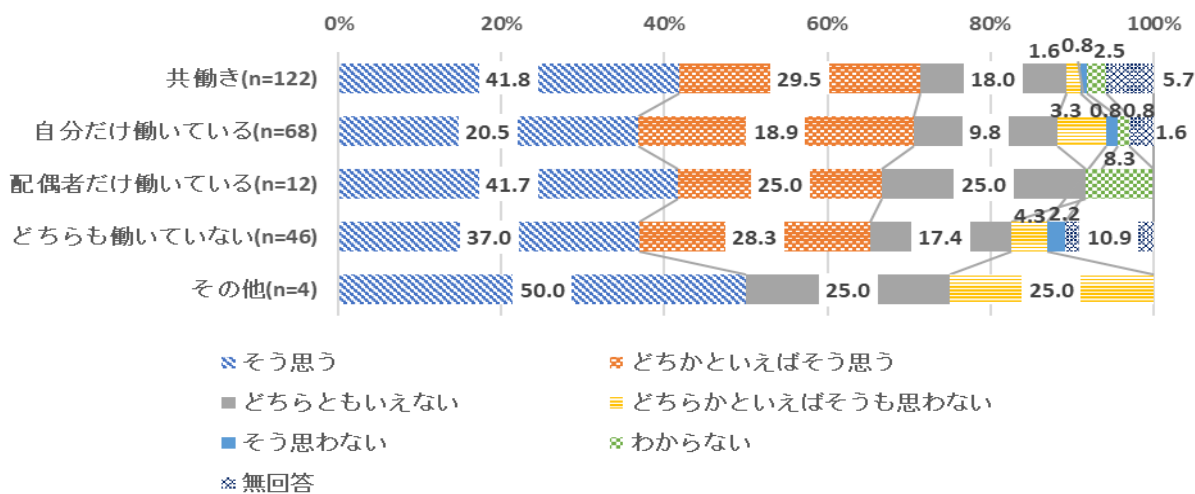


性別に関わらず担う必要性を労働状況別にみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」は、『共働き』の78.8%が最も高く、次いで、『どちらも働いていない』が73.1%、『配偶者・パートナーだけ働いている』が72.8%などとなっている。

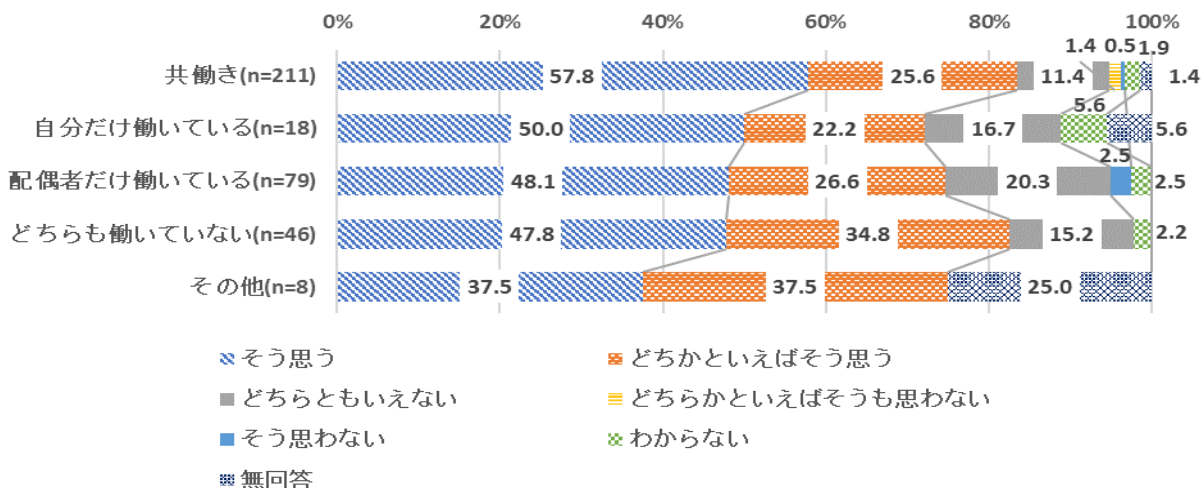
図表 36-3 ウ) 男女の責任に関する考え方【性別に関わらず担う必要性】(労働状況別)



【男性】

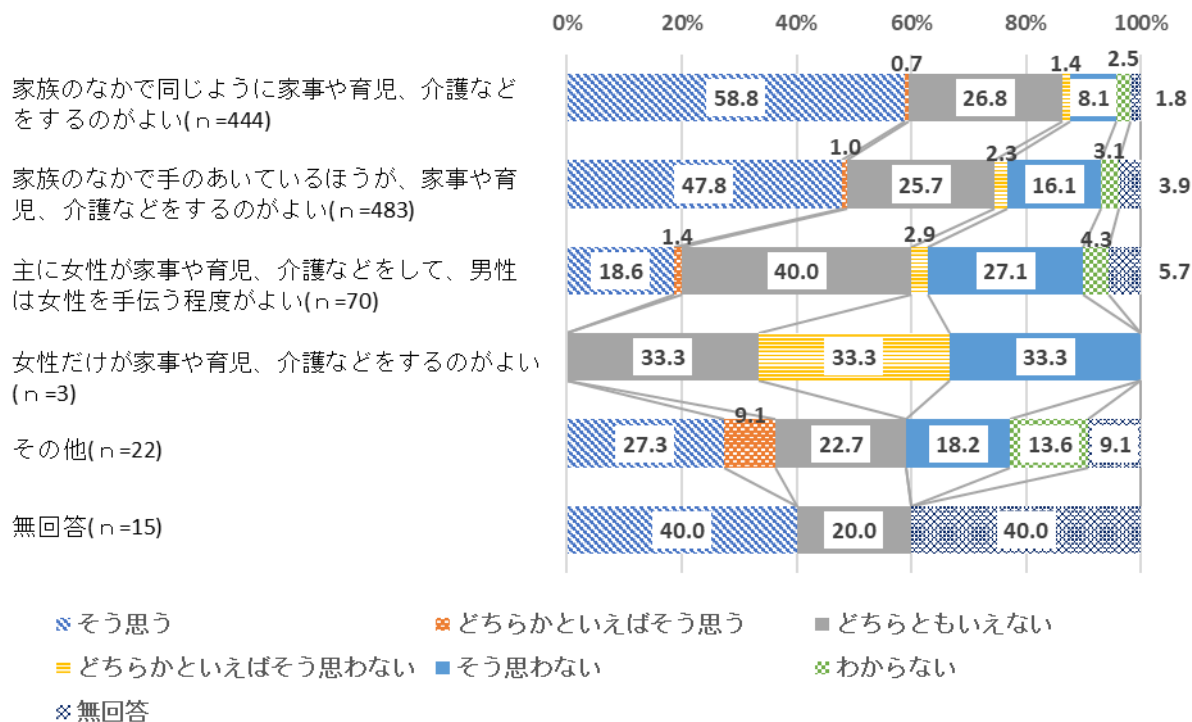


【女性】



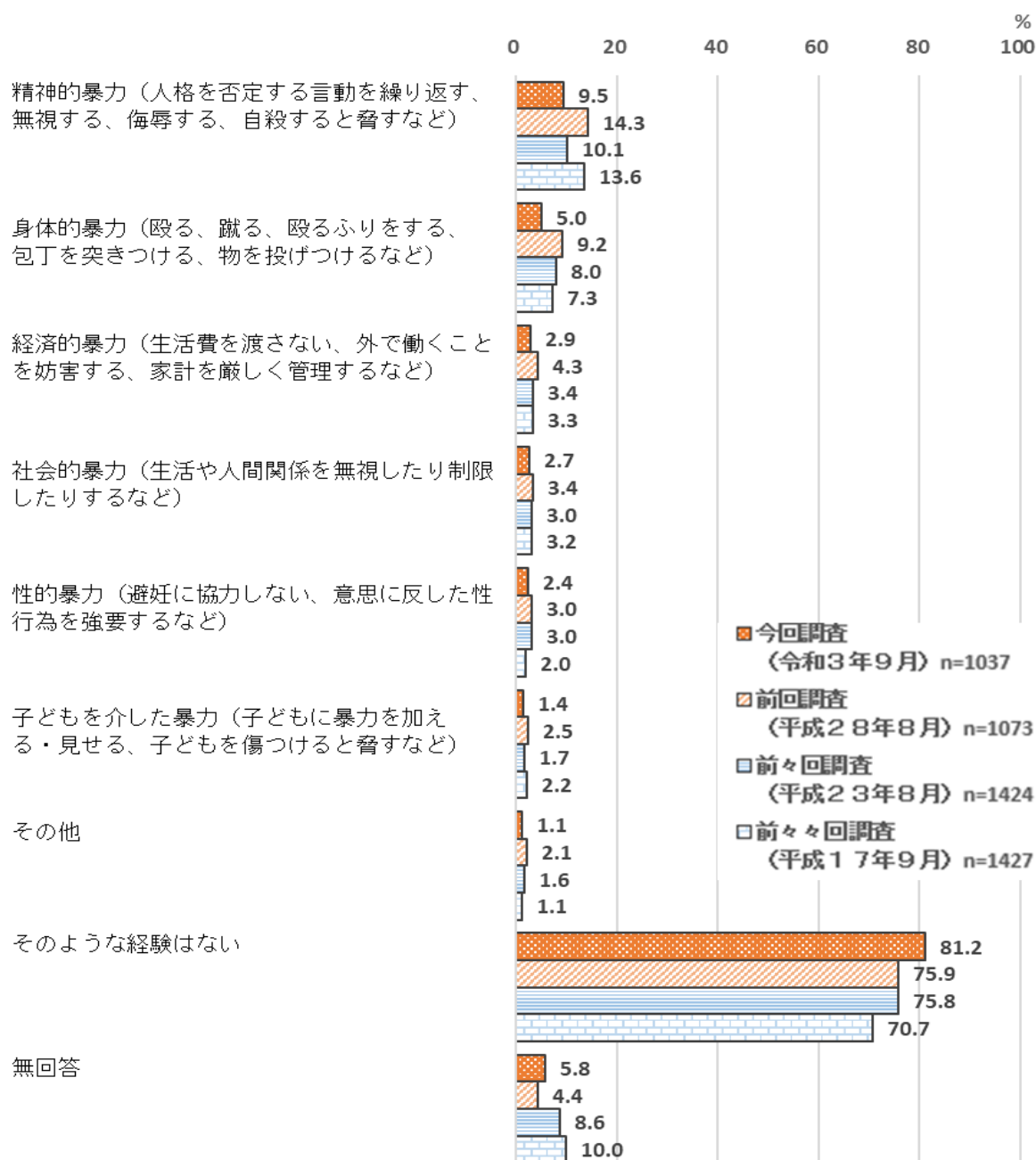
性別に関わらず担う必要性を性別役割分担意識別にみると、《家事分担派》の『家族のなかで同じように家事や育児、介護などをするのがよい』が「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」で約6割、『家族のなかで手のあいているほうが、家事や育児、介護などをするのがよい』では約5割となっている。また、《家事分担派以外》の『主に女性が家事や育児、介護などをして、男性は女性を手伝う程度がよい』では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が約2割となっており、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は約3割となっている。

図表 36-4 ウ) 男女の責任に関する考え方【性別に関わらず担う必要性】(性別役割分担意識別)



### (3) DV（ドメスティック・バイオレンス）の経験

問37 あなたは、次にあげるような、DV（ドメスティック・バイオレンス：夫婦や恋人の一方から加えられる暴力）にあったことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

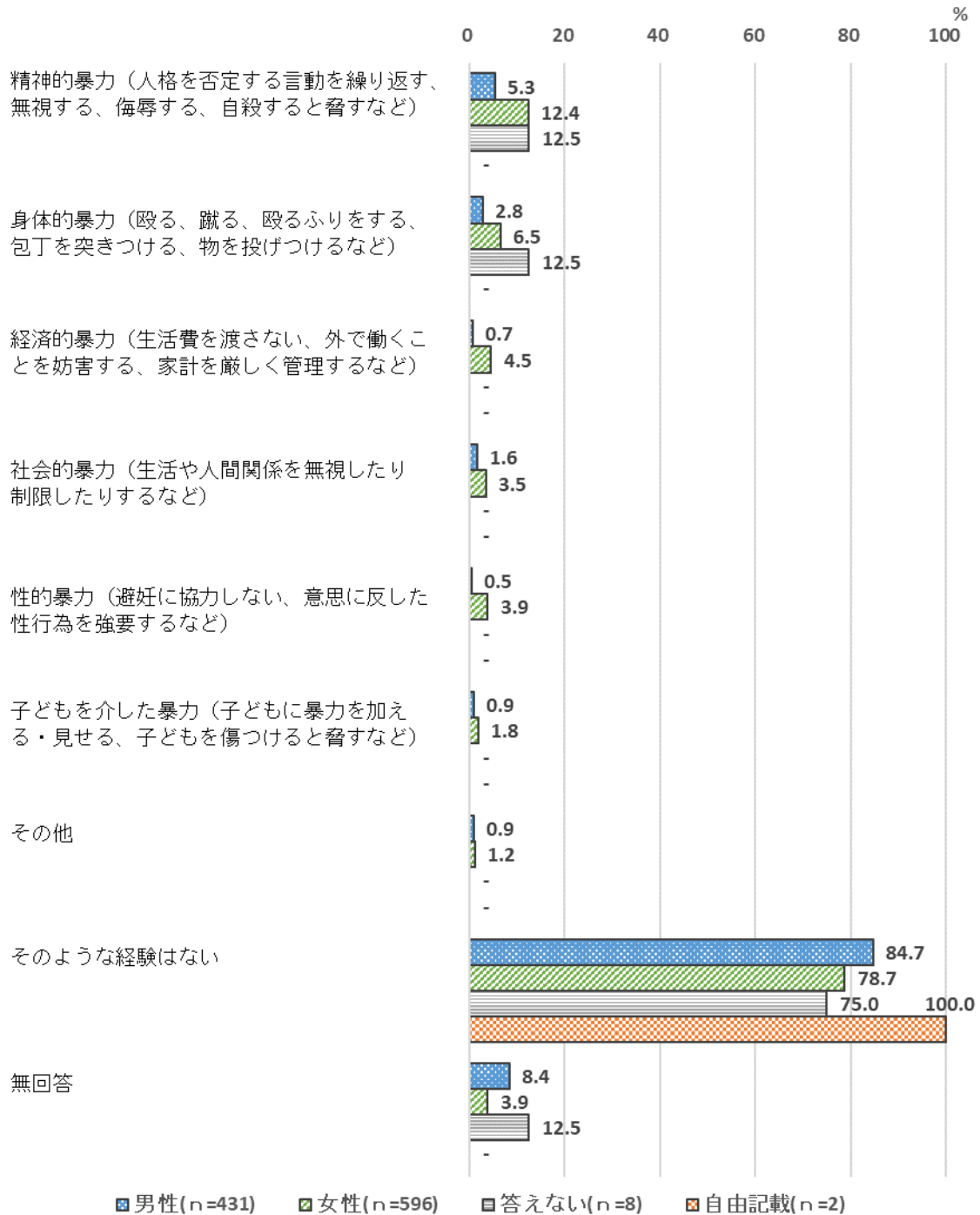


DV（ドメスティック・バイオレンス）の経験をたずねたところ、「そのような経験はない」と回答した人は81.2%となっている。具体的な被害としてあげられた項目は、「精神的暴力（人格を否定する言動を繰り返す、無視する、侮辱する、自殺すると脅すなど）」(9.5%)、「身体的暴力（殴る、蹴る、殴るふりをする、包丁を突きつける、物を投げつけるなど）」(5.0%)、「経済的暴力（生活費を渡さない、外で働くことを妨害する、家計を厳しく管理するなど）」(2.9%)、「社会的暴力（生活や人間関係を無視したり制限したりするなど）」(2.7%) などとなっている。

前回調査等と比較しても大きな変化はみられない。第1位の「精神的暴力（人格を否定する言動を繰り返す、無視する、侮辱する、自殺すると脅すなど）」が、前回調査より4.8ポイント、前々回調査より0.6ポイント減少している。第2位の「身体的暴力（殴る、蹴る、殴るふりをする、包丁を突きつける、物を投げつけるなど）」は前回調査より4.2ポイント、前々回調査より3.0ポイント減少している。

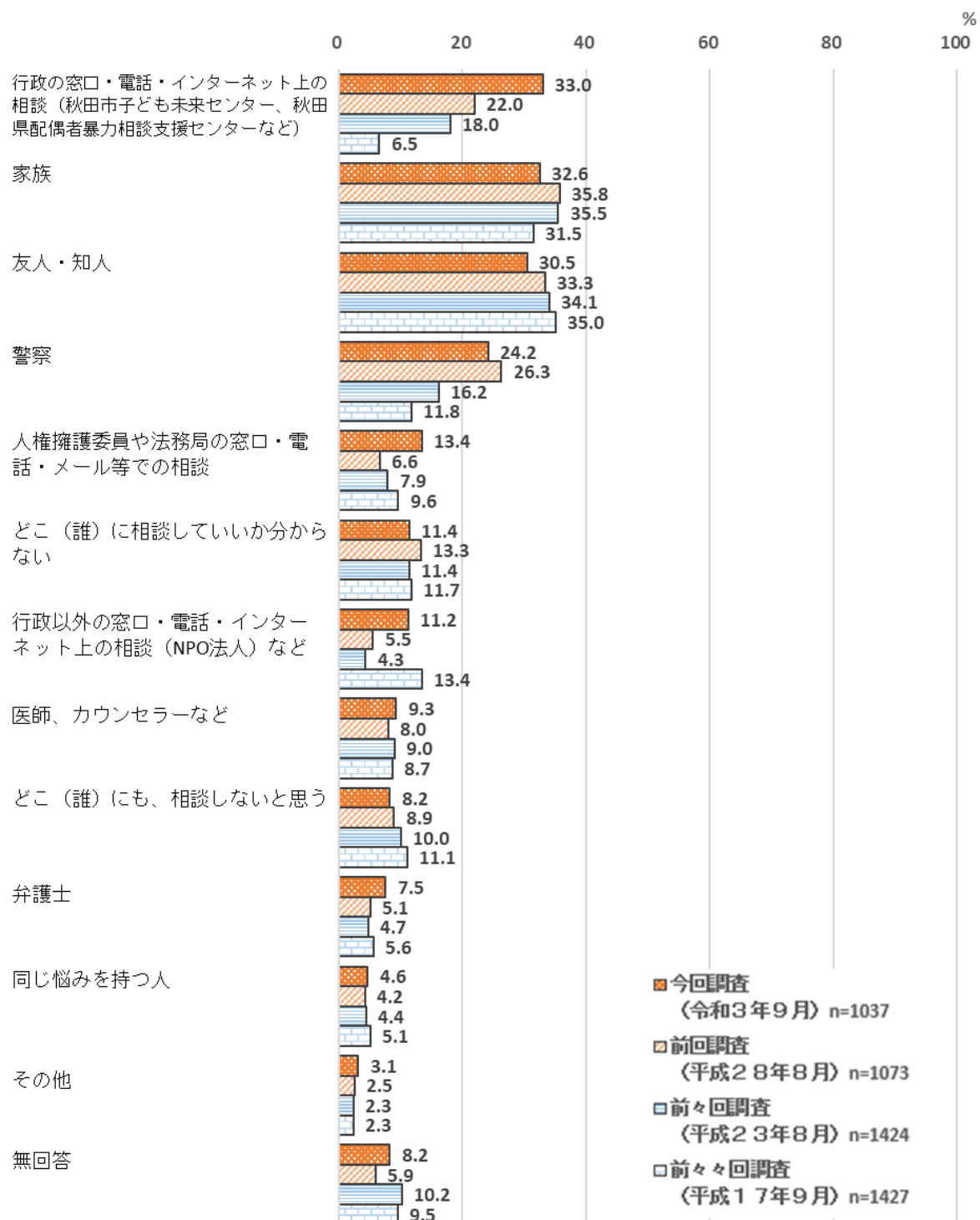
性別にみると、「そのような経験はない」で男性（84.7%）が女性（78.7%）を6.0ポイント上回っている。「そのような経験はない」を除いた項目では、女性の比率が男性を上回っている。

図表 37-1 DVの経験（性別）



#### (4) DV（ドメスティック・バイオレンス）の相談先

問38 あなたは、DVにあったとき、どこ（誰）に相談しましたか。（あったことがないかたは、もしあったとしたら、どこ（誰）に相談しますか。）あてはまるものをすべて選んでください。



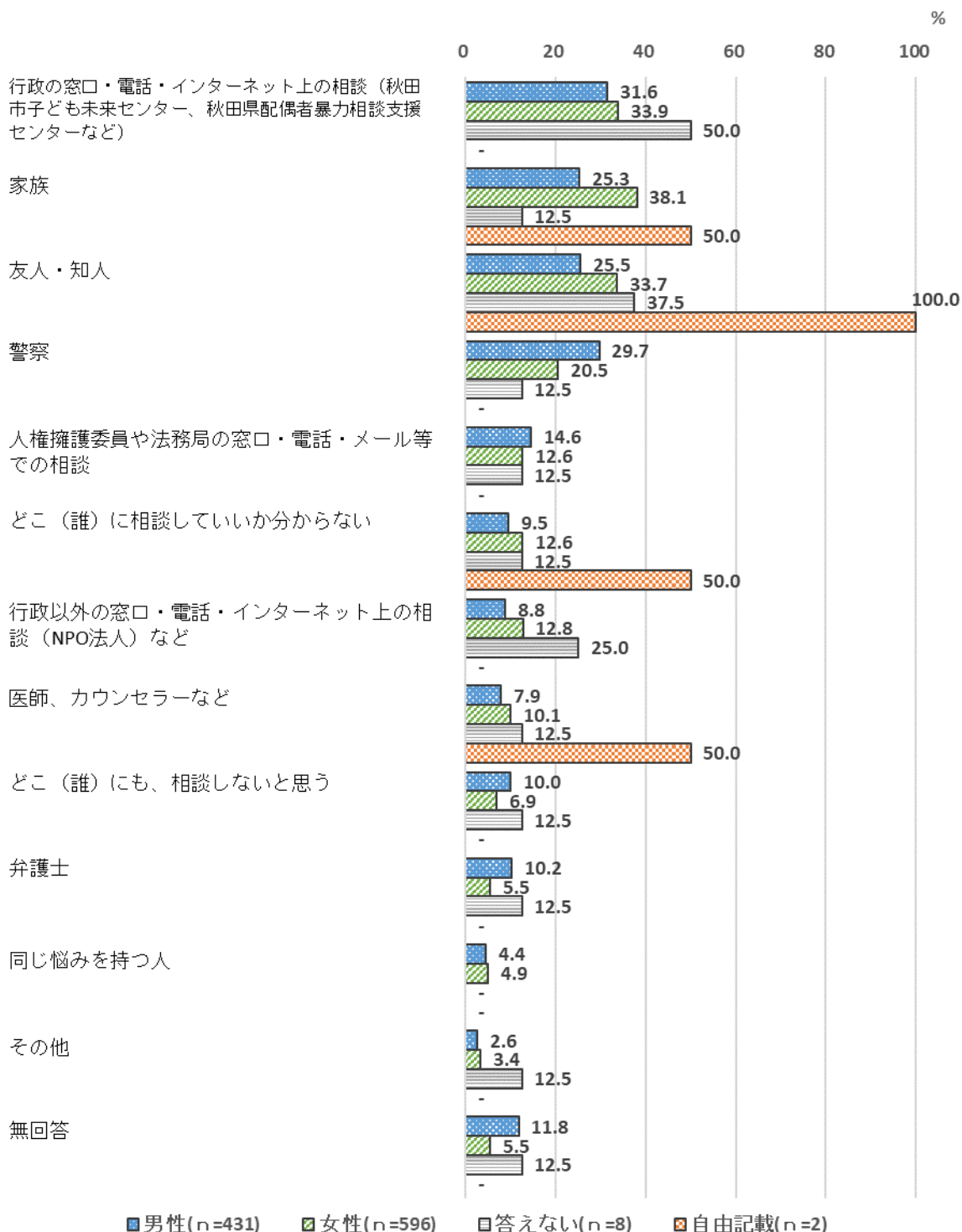
DV（ドメスティック・バイオレンス）にあった場合の相談先をたずねたところ、「行政の窓口・電話・インターネット上の相談」（33.0%）が最も高く、次いで、「家族」が32.6%、「友人・知人」が30.5%、「警察」が24.2%、「人権擁護委員や法務局の窓口・電話・メール等での相談」が13.4%と続いている。一方、「どこ（誰）にも、相談しないと思う」、「どこ（誰）に相談していいかわからない」を合わせた《相談する相手（場所）がない（ない）》は19.6%となっている。

前回調査等と比較すると、「行政の窓口・電話・インターネット上の相談」は、前回調査から11.0ポイント、前々回調査から15.0ポイント増加している。



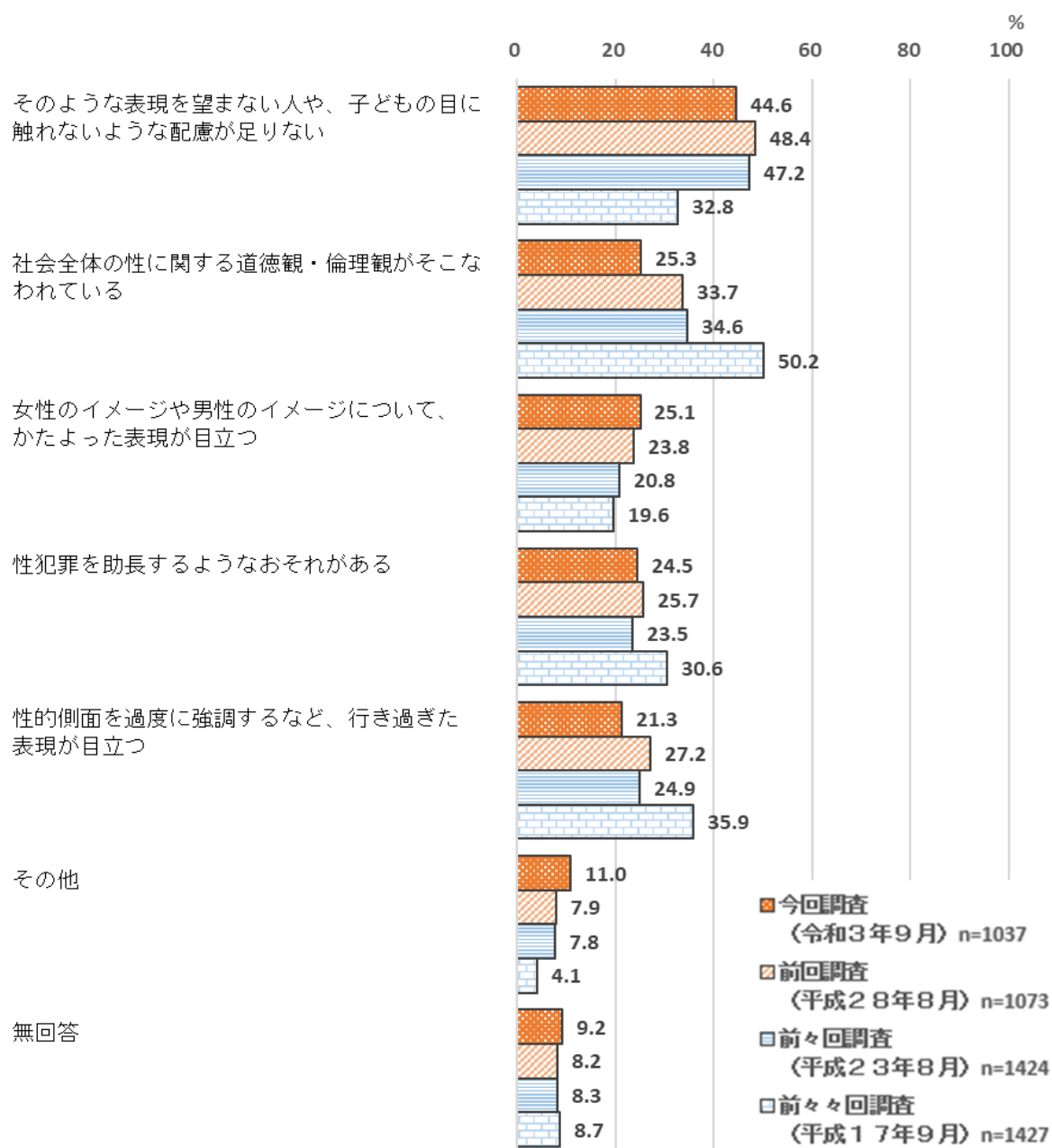
相談先を性別で見ると、女性では「家族」(38.1%)、「行政の窓口・電話・インターネット上の相談」(33.9%)、「友人・知人」(33.7%)の順に対し、男性では、「行政の窓口・電話・インターネット上の相談」(31.6%)、「警察」(29.7%)、「友人・知人」(25.5%)の順となっている。

図表 38-1 DVの相談先（性別）



## (5) メディアにおける性・暴力表現

問39 テレビや雑誌などのメディアの性・暴力表現について、あなたはどのようにお考えですか。あてはまるものをすべて選んでください。



メディアにおける性・暴力表現については、「そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない」(44.6%)が最も高く、次いで、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観がそこなわれている」が25.3%、「女性のイメージや男性のイメージについて、かたよった表現が目立つ」が25.1%、と続いている。

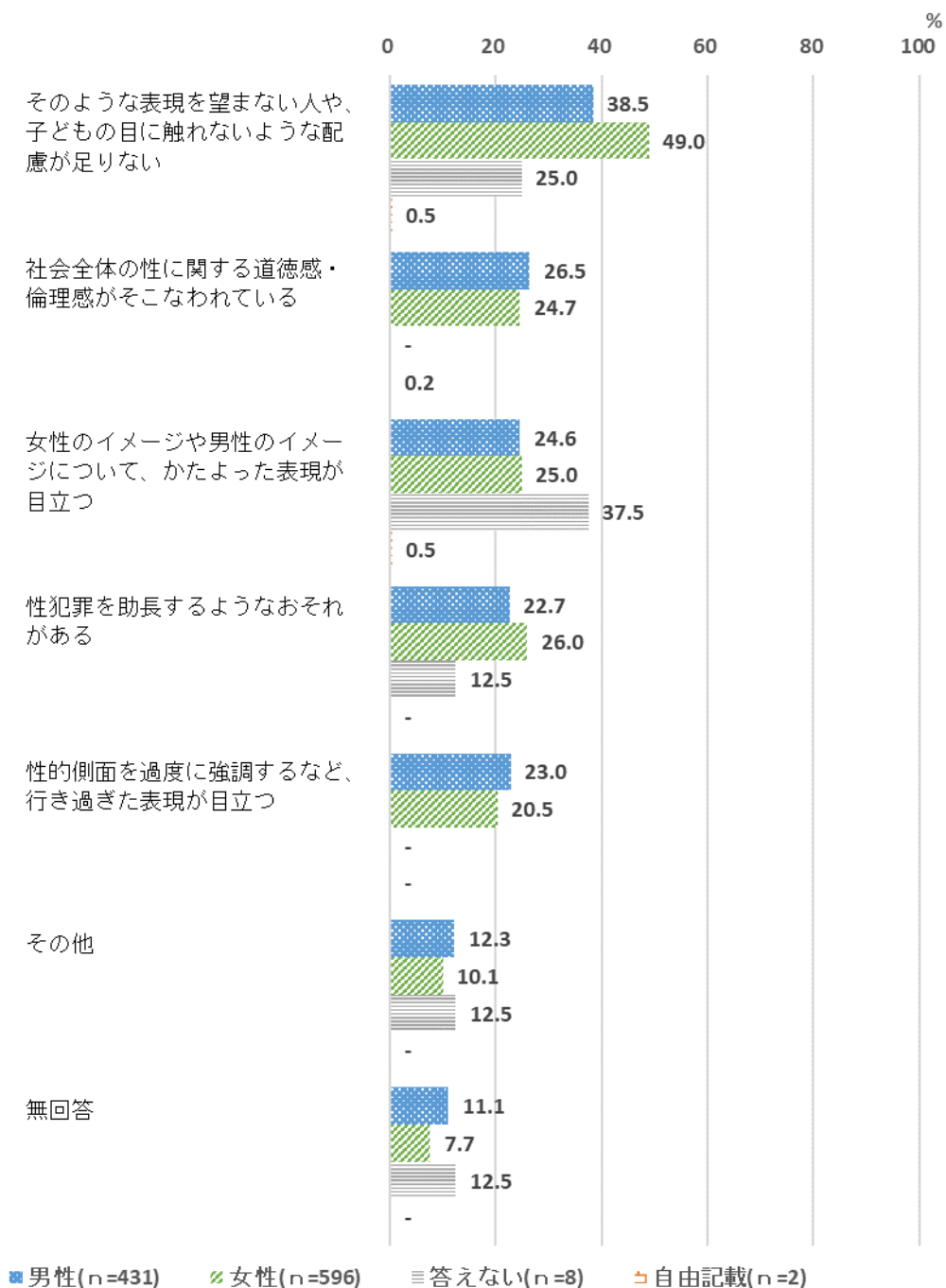
第1位の「そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない」が前回調査から3.8ポイント、前々回調査から2.6ポイント減少している。

第2位の「社会全体の性に関する道徳観・倫理観がそこなわれている」の回答は、前回調査から8.4ポイント、前々回調査から9.3ポイント減少している。

第3位の「女性のイメージや男性のイメージについて、かたよった表現が目立つ」が前回調査から1.3ポイント、前々回調査から4.3ポイント増加している。

性別にみると、「そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない」が、男性（38.5%）、女性（49.0%）となっており、女性が男性を10.5ポイント上回っている。次いで、「社会全体の性に関する道德観・倫理観がそこなわれている」は男性（26.5%）、女性（24.7%）で、男性が女性を1.8ポイント上回っている。「女性のイメージや男性のイメージについて、かたよった表現が目立つ」では、女性（25.0%）が男性（24.6%）を0.4ポイント上回っている。

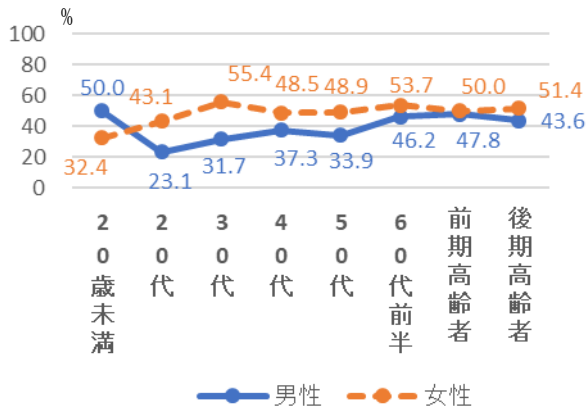
図表 39-1 メディアにおける性・暴力表現(性別)



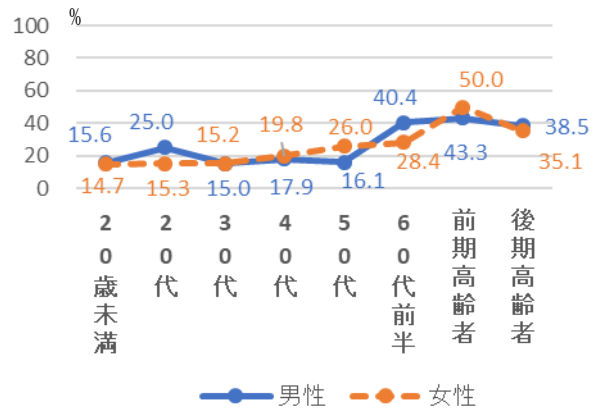
上位4項目について性・年代別にみると、第1位の「そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない」は、男性では20歳未満(50.0%)、女性では30代(55.4%)が最も高く、30代男性とは23.7ポイントの差がみられる。第2位の「社会全体の性に関する道徳観・倫理観がそこなわれている」は、男女ともに前期高齢者が最も高くなっている。第3位の「女性のイメージや男性のイメージについて、かたよった表現が目立つ」は、男性では20代(40.4%)、女性では20歳未満(41.2%)が最も高い。第4位の「性犯罪を助長するようなおそれがある」は、男性では60代前半(44.2%)、女性では、後期高齢者(43.2%)が最も高くなっている。

図表 39-2 メディアにおける性・暴力表現（性・年代別）

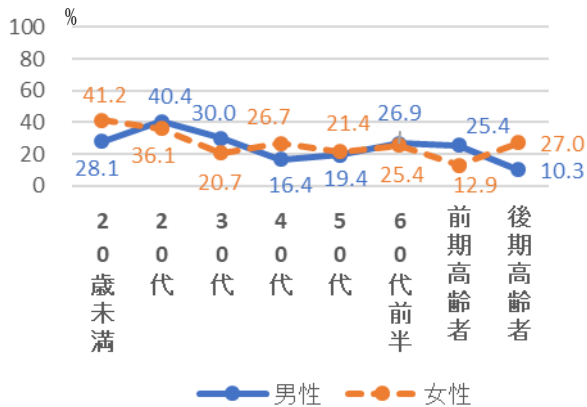
<1位> そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない



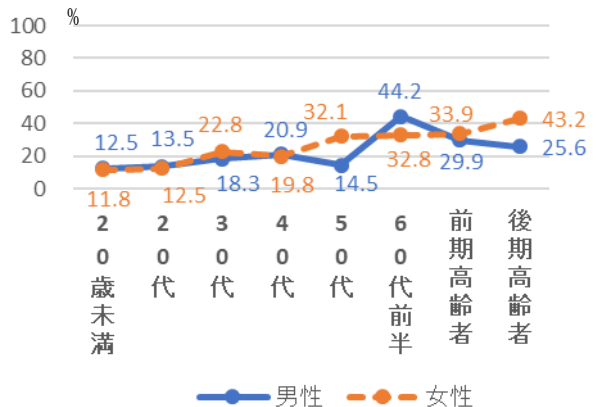
<2位> 社会全体の性に関する道徳観・倫理観がそこなわれている



<3位> 女性のイメージや男性のイメージについて、かたよった表現が目立つ



<4位> 性犯罪を助長するようなおそれがある

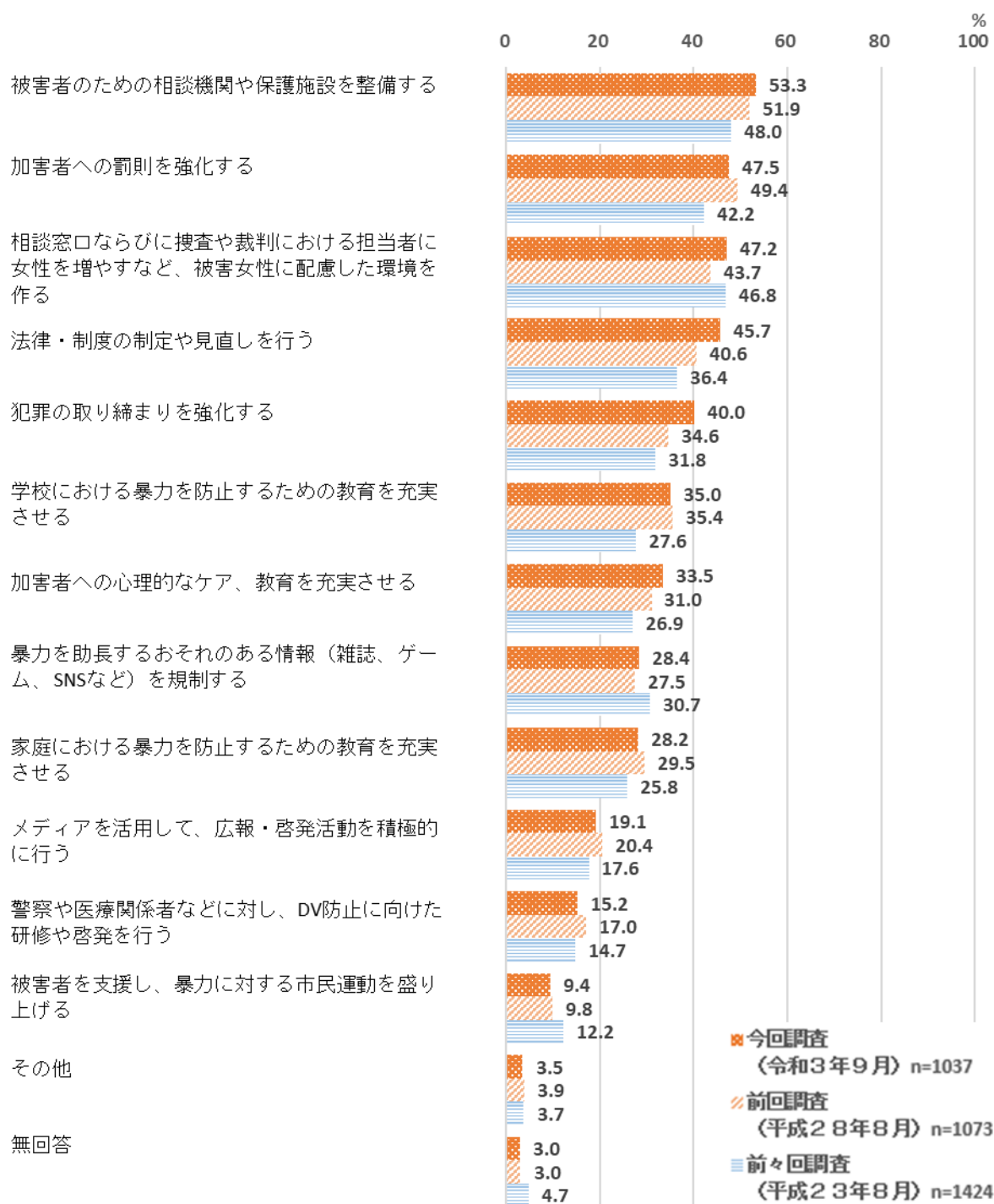


男性(N=19)(N=41)(N=60)(N=86)(N=82)(N=55)(N=62)(N=31)  
 女性(N=22)(N=64)(N=103)(N=95)(N=131)(N=83)(N=73)(N=46)

※上位4項目のみ

(6) DV（ドメスティック・バイオレンス）の防止に必要なこと

問40 DVを防止するには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。



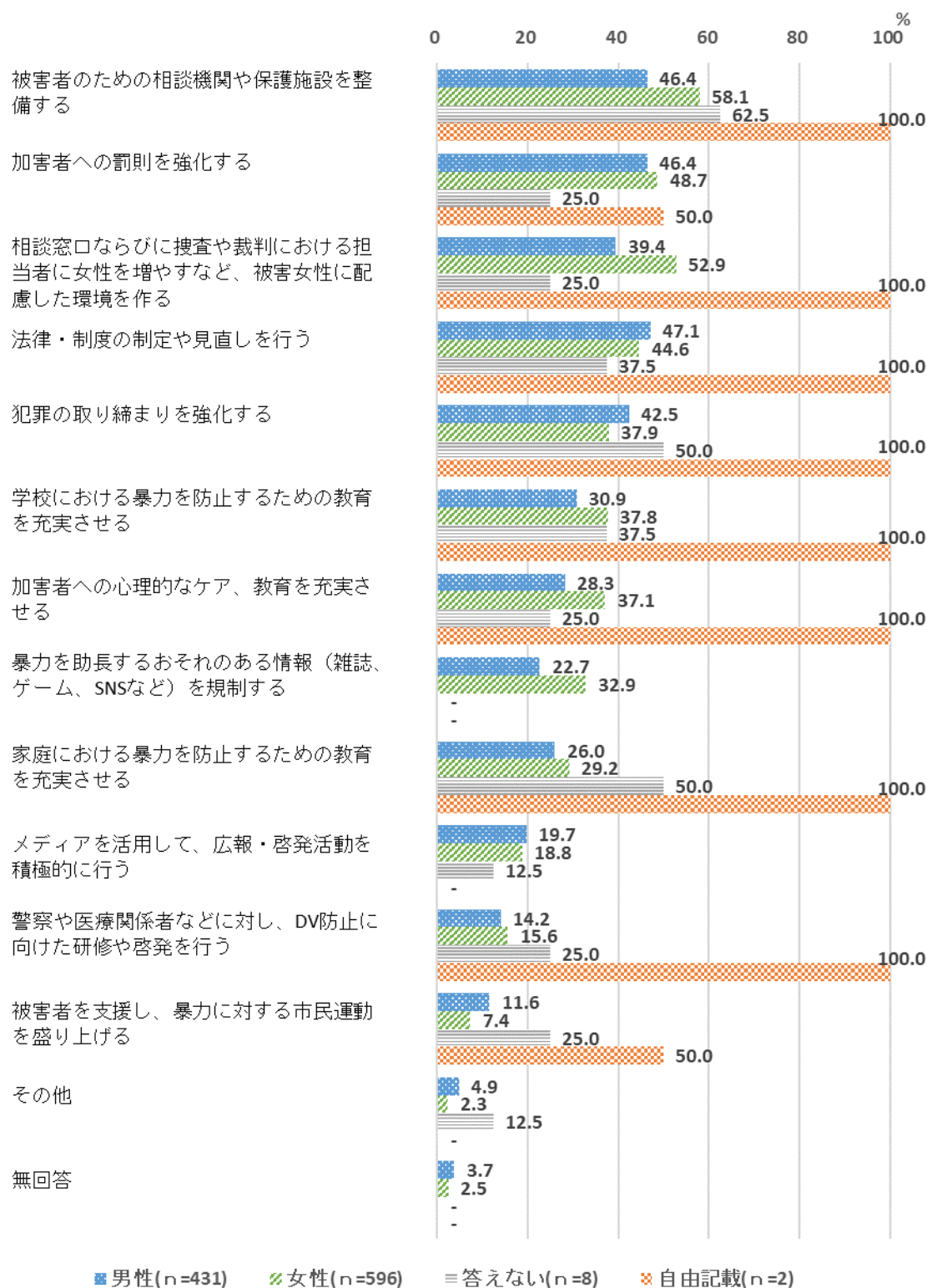
DV（ドメスティック・バイオレンス）の防止に必要なことについては、「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」（53.3%）が最も多く、約5割を超えている。次いで、「加害者への罰則を強化する」（47.5%）、「相談窓口ならびに捜査や裁判における担当者に女性を増やすなど、被害女性に配慮した環境を作る」（47.2%）、「法律・制度の制定や見直しを行う」（45.7%）、「犯罪の取り締まりを強化する」（40.0%）が4割以上、「学校における暴力を防止するための教育を充実させる」（35.0%）、「加害者への心理的なケア、教育を充実させる」（33.5%）が3割以上で続いている。

「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」は、前回調査から 1.4 ポイント、前々回調査から 5.3 ポイント増加している。



性別にみると、男性は「法律・制度の制定や見直しを行う」(47.1%)で最も高く、次いで「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」と「加害者への罰則を強化する」が46.4%となっている。女性は、「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」(58.1%)が最も高く、次いで、「相談窓口ならびに捜査や裁判における担当者に女性を増やすなど、被害女性に配慮した環境を作る」が52.9%、「加害者への罰則を強化する」が48.7%と続いている。

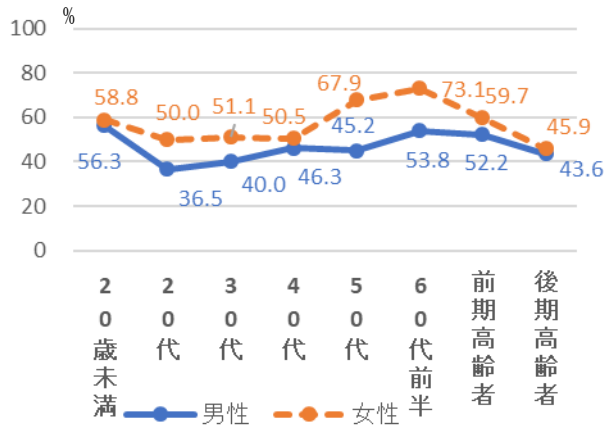
図表 40-1 DVの防止に必要なこと（性別）



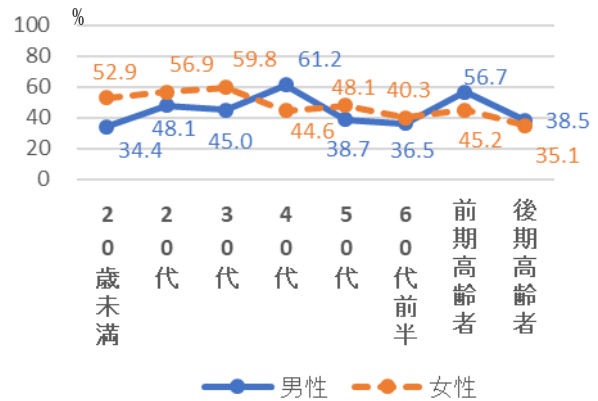
上位4項目について性・年代別にみると、第1位の「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」は、全ての年代で女性が男性を上回っており、50代～60代前半で他の年代に比べ差が大きい。第2位の「加害者への罰則を強化する」は、年代により男女比率が違っており、20歳未満で18.5ポイント、40代で16.6ポイントの差がみられる。第3位の「相談窓口ならびに捜査や裁判における担当者に女性を増やすなど、被害女性に配慮した環境を作る」は、全ての年代で女性が男性を上回っている。第4位の「法律・制度の制定や見直しを行う」では、20歳未満と40代以降で男性の割合が高くなっている。

図表 40-2 DVの防止に必要なこと（性・年代別）

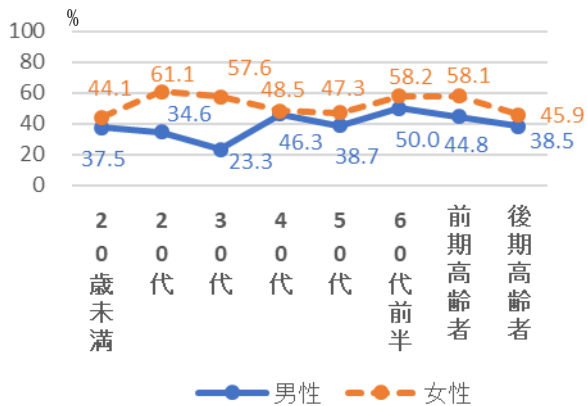
<1位> 被害者のための相談機関や保護施設を整備する



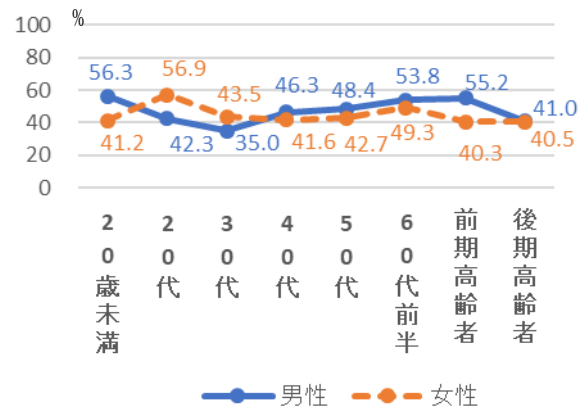
<2位> 加害者への罰則を強化する



<3位> 相談窓口ならびに捜査や裁判における担当者に女性を増やすなど、被害女性に配慮した環境を作る



<4位> 法律・制度の制定や見直しを行う



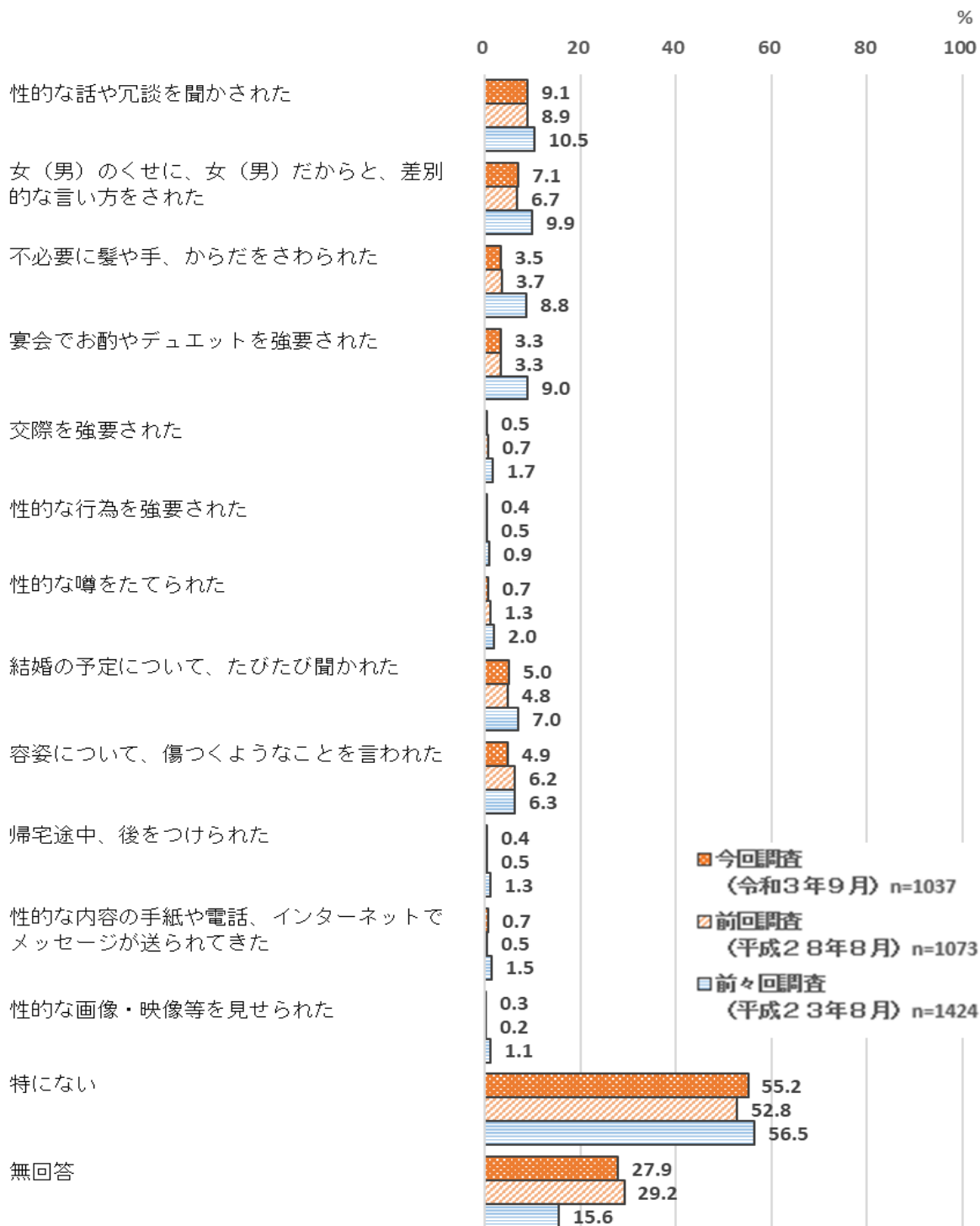
男性 (N=32) (N=52) (N=60) (N=67) (N=62) (N=52) (N=67) (N=39)  
 女性 (N=34) (N=72) (N=92) (N=101) (N=131) (N=67) (N=62) (N=37)

※上位4項目のみ

## (7) セクシュアル・ハラスメントの経験

問4-1 あなたは、過去5年程度で、次にあげるような不愉快な経験をしたことがありますか。  
職場、学校、地域のそれぞれについて、あてはまるものをすべて選んでください。

### 【職場】



職場、学校、地域という3つの分野における、セクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねた。

【職場】では、3分野の中で何らかの経験をしたとの回答が最も多い。「性的な話や冗談を聞かされた」(9.1%)が最も多く、以下、「女(男)のくせに、女(男)だからと、差別的な言い方をされた」(7.1%)、「結婚の予定について、たびたび聞かれた」(5.0%)などと続いている。上位3項目をみると、前回調査よりすべての項目で上昇している。

問4-1 あなたは、過去5年程度で、次にあげるような不愉快な経験をしたことがありますか。  
 職場、学校、地域のそれぞれについて、あてはまるものをすべて選んでください。

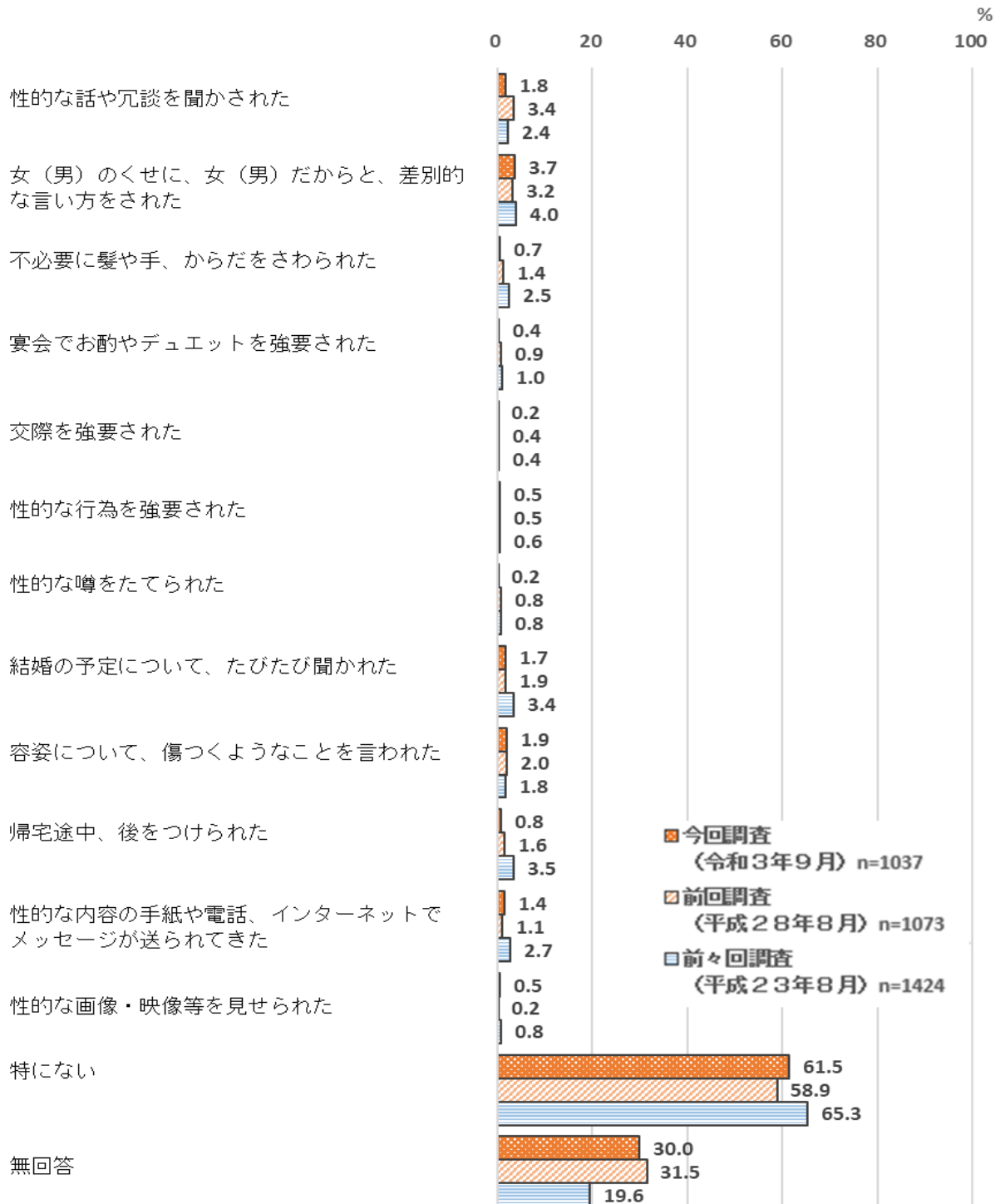
【学校】



【学校】においては、「容姿について、傷つくようなことを言われた」(2.1%)が最も多く、以下、「女(男)のくせに、女(男)だからと、差別的な言い方をされた」(0.8%)、「性的な話や冗談を聞かされた」(0.7%)、「性的な噂をたてられた」(0.4%)などと続いている。前回調査と比較すると、「容姿について、傷つくようなことを言われた」が0.3ポイント上昇している。

問4-1 あなたは、過去5年程度で、次にあげるような不愉快な経験をしたことがありますか。  
職場、学校、地域のそれぞれについて、あてはまるものをすべて選んでください。

【地域】



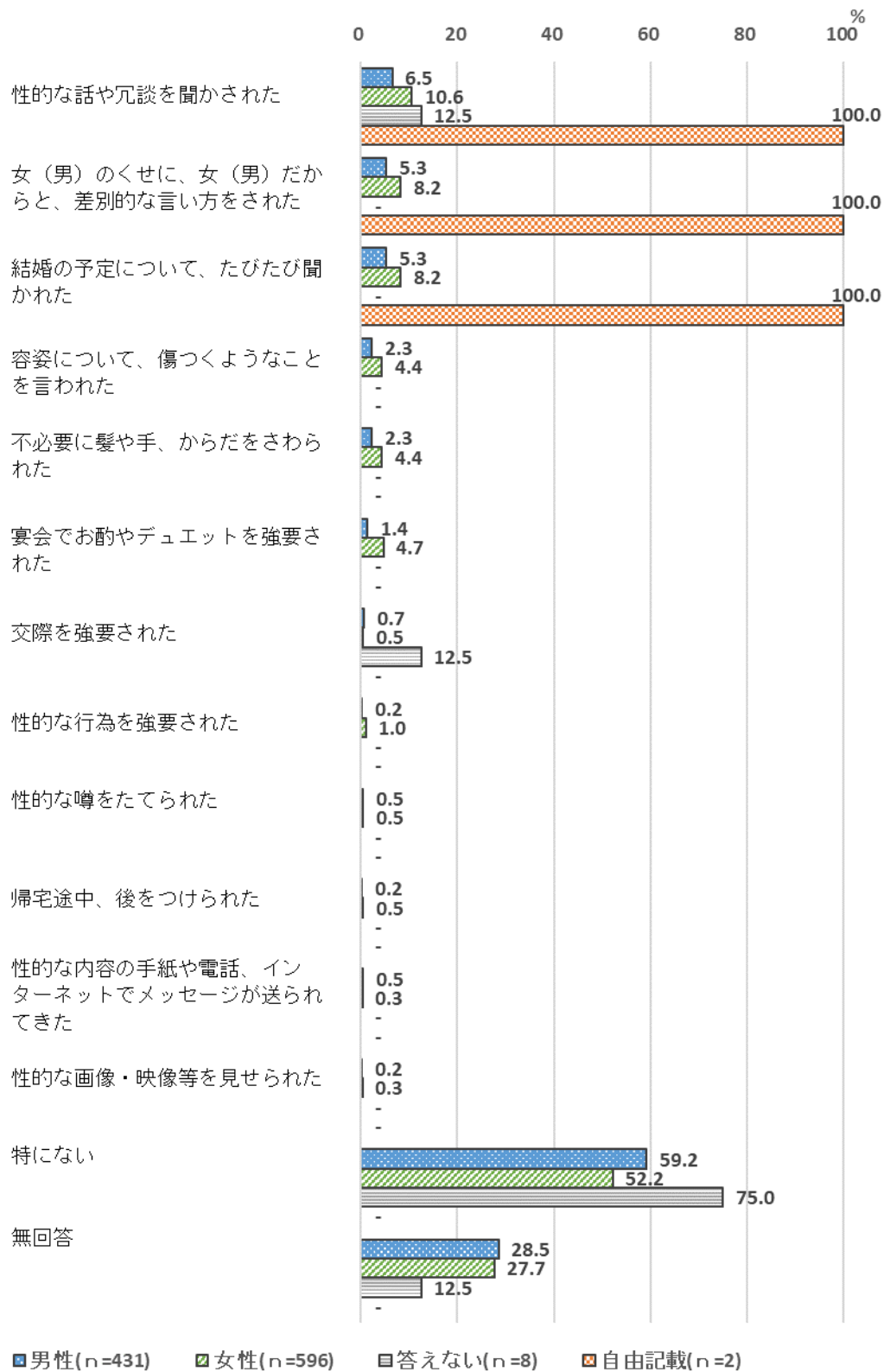
【地域】では、「女(男)のくせに、女(男)だからと、差別的な言い方をされた」(3.7%)が最も多く、以下、「容姿について、傷つくようなことを言われた」(1.9%)、「性的な話や冗談を聞かされた」(1.8%)、「結婚の予定について、たびたび聞かれた」(1.7%)などと続いている。

上位3項目をみると、「女(男)のくせに、女(男)だからと、差別的な言い方をされた」は前回調査から0.5ポイント増加、前々回調査から0.3ポイント減少している。「容姿について、傷つくようなことを言われた」は前回調査から0.1ポイント減少、前々回調査から0.1ポイント増加している。「性的な話や冗談を聞かされた」は前回調査から1.6ポイント、前々回調査から0.6ポイント減少している。



【職場】におけるセクシュアル・ハラスメントの経験を性別にみると、差が大きい項目は「性的な話や冗談を聞かされた」(4.1ポイント)、「宴会でお酌やデュエットを強要された」(3.3ポイント)、「女(男)のくせに、女(男)だからと、差別的な言い方をされた」(2.9ポイント)などとなっている。

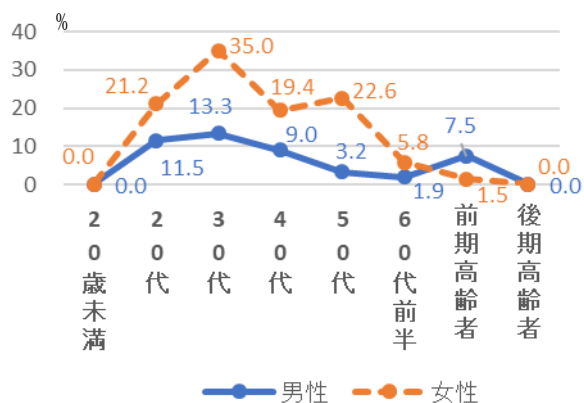
図表 41-1 セクシュアル・ハラスメントの経験【職場】(性別)



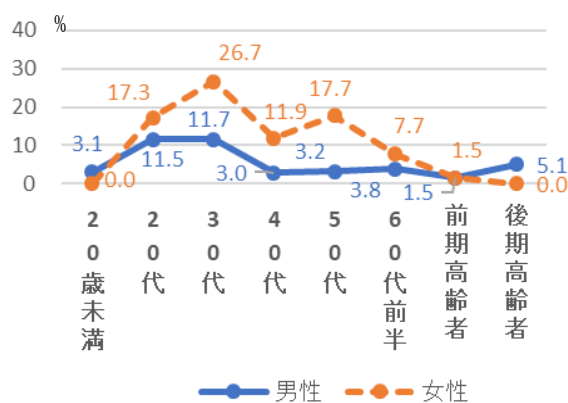
【職場】におけるセクシュアル・ハラスメントの経験について、上位6項目を性・年代別にみると、第1位の「性的な話や冗談を聞かされた」は、30代女性（35.0%）で最も高い。第2位の「女（男）のくせに、女（男）だからと、差別的な言い方をされた」は30代、50代の女性が他の年代や男性より高い。第3位以下は、20代、30代の女性が他の年代や男性より高い傾向がみられる。

図表 41-2 セクシュアル・ハラスメントの経験【職場】（性・年代別）

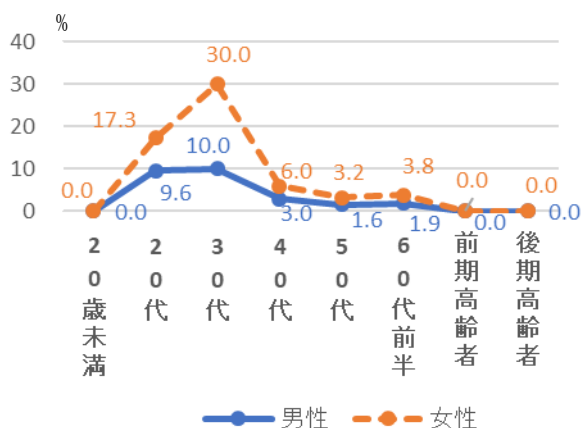
<1位> 性的な話や冗談を聞かされた



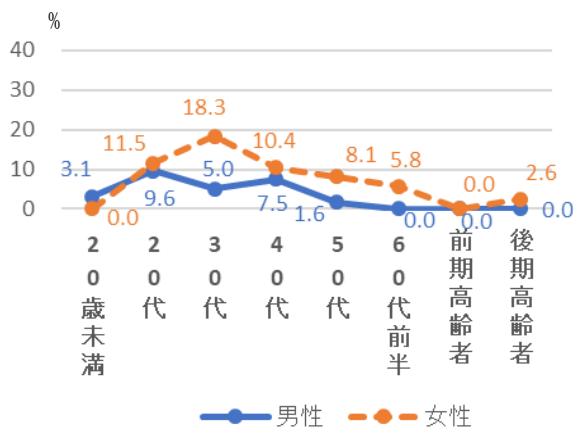
<2位> 女（男）のくせに、女（男）だからと差別的な言い方をされた



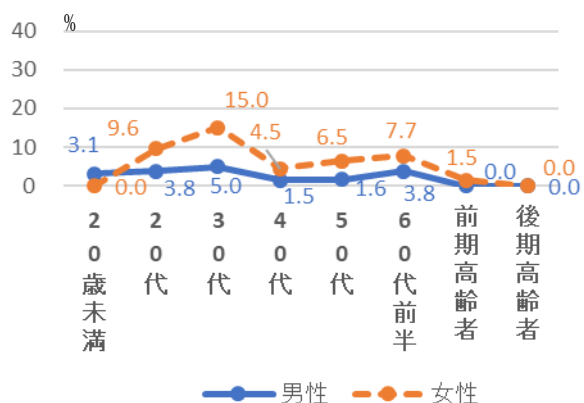
<3位> 結婚の予定について、たびたび聞かれた



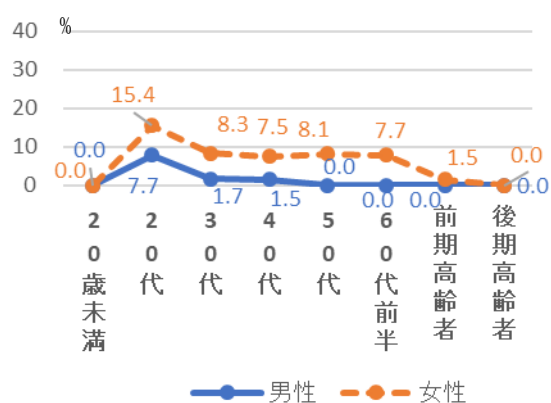
<4位> 容姿について、傷つくようなことを言われた



<5位> 不必要に髪や手、からだをさわられた



<6位> 宴会でお酌やデュエットを強要された



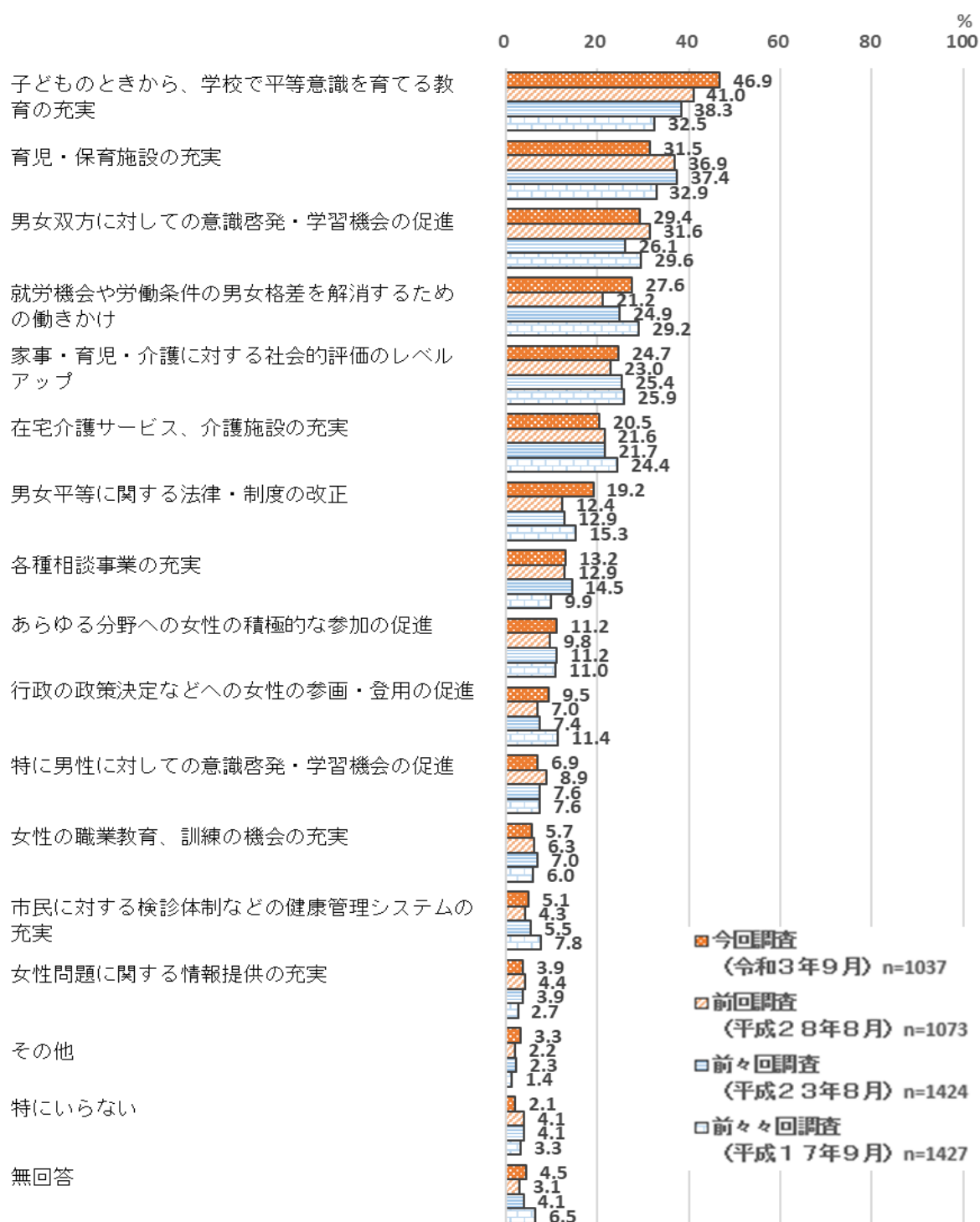
男性 (N=32) (N=52) (N=60) (N=67) (N=62) (N=52) (N=67) (N=39)

女性 (N=34) (N=72) (N=92) (N=101) (N=131) (N=67) (N=62) (N=37)

※上位6項目のみ

(8) 男女が平等な立場で協力し合うために必要なこと

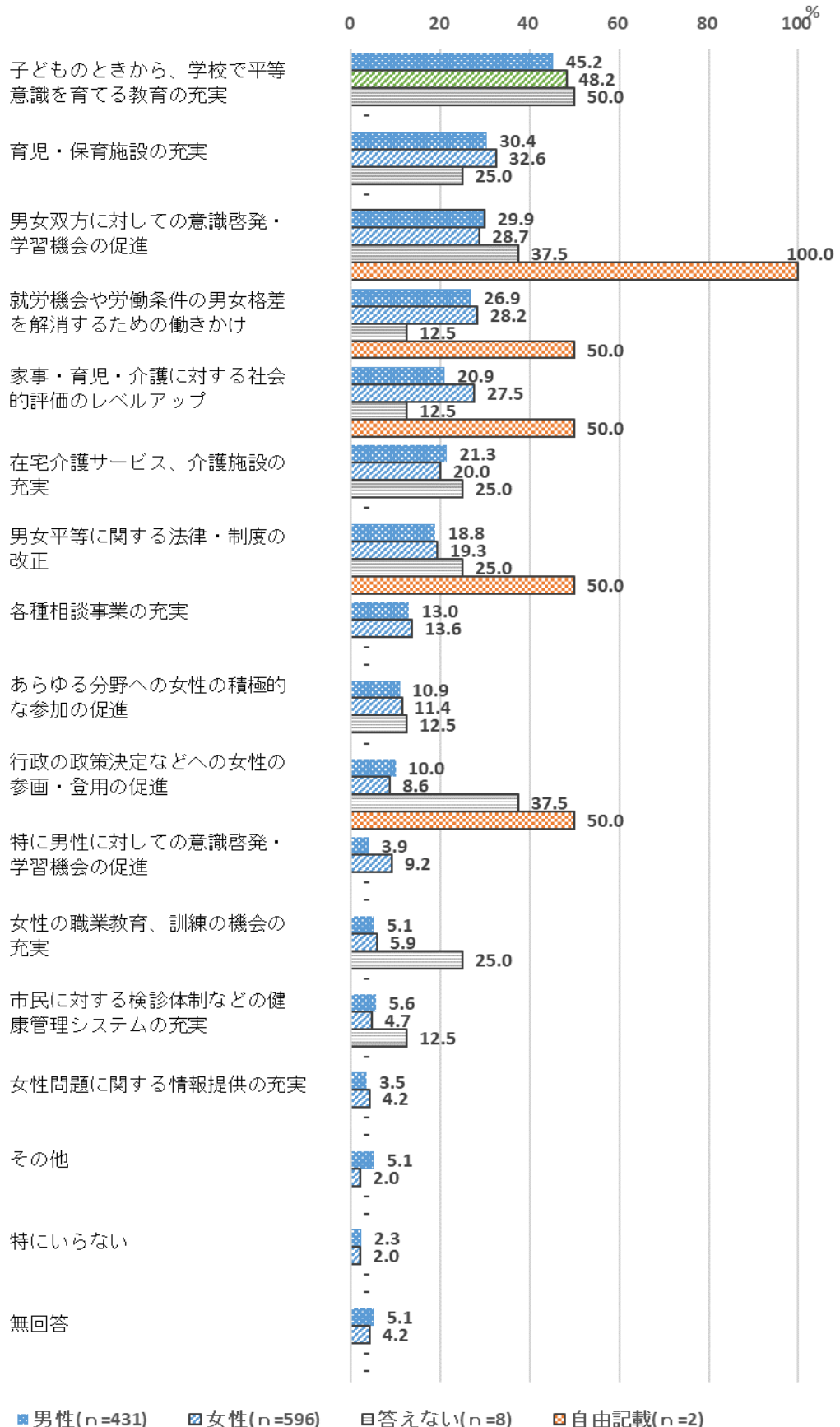
問42 あなたは、女性と男性が平等な立場で協力しあっていくために、行政として、どのようなことに力を入れるとよいと思いますか。次のうちから3つまで選んでください。



男女が平等な立場で協力しあうために必要なこととしては、「子どものときから、学校で平等意識を育てる教育の充実」(46.9%)が最も多く、以下、「育児・保育施設の充実」(31.5%)、「男女双方に対する意識啓発・学習機会の促進」(29.4%)、「就労機会や労働条件の男女格差を解消するための働きかけ」(27.6%)などが続いている。上位項目をみると、「子どものときから、学校で平等意識を育てる教育の充実」が前回調査から5.9ポイント、前々回調査から8.6ポイント増加している。「育児・保育施設の充実」が前回調査から5.4ポイント、前々回調査から5.9ポイント減少している。

性別をみると、「子どものときから、学校で平等意識を育てる教育の充実」は、男性（45.2%）、女性（48.2%）、「育児・保育施設の充実」は、男性（30.4%）、女性（32.6%）となっており、いずれも女性の割合が高い。一方で、「男女双方に対しての意識啓発・学習機会の促進」は男性（29.9%）、女性（28.7%）となっており、男性の割合が高い。

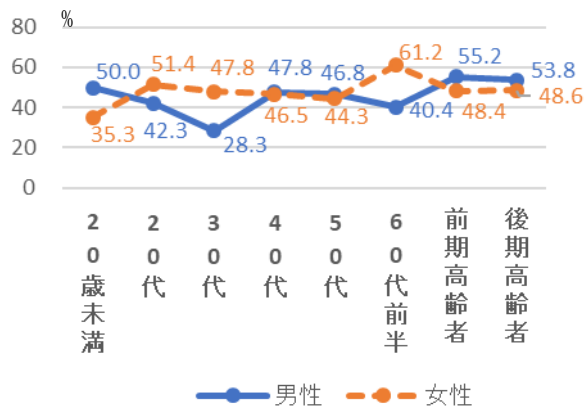
図表 42-1 男女が平等な立場で協力し合うために必要なこと（性別）



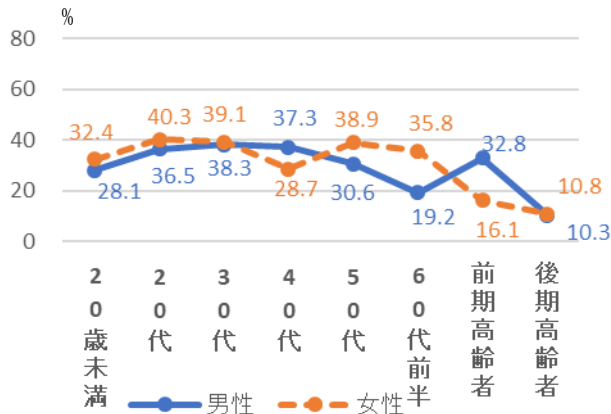
上位6項目について性・年代別にみると、第1位の「子どものときから、学校で平等意識を育てる教育の充実」は、60代前半で20.8ポイントの差がみられる。第2位の「育児・保育施設の充実」は、60代前半、前期高齢者で大きな差がみられる。第3位の「男女双方に対しての意識啓発・学習機会の促進」は、男女ともに前期高齢者が40.3%で最も高くなっている。第4位の「就労機会や労働条件の男女格差を解消するための働きかけ」は、後期高齢者で22.1ポイントの差がみられる。第5位の「家事・育児・介護に対する社会的な評価のレベルアップ」は、20歳未満を除く全ての年代で女性が高くなっている。第6位の「在宅介護サービス、介護施設の充実」は、男女で大きな差はみられない。

図表 42-2 男女が平等な立場で協力し合うために必要なこと（性・年代別）

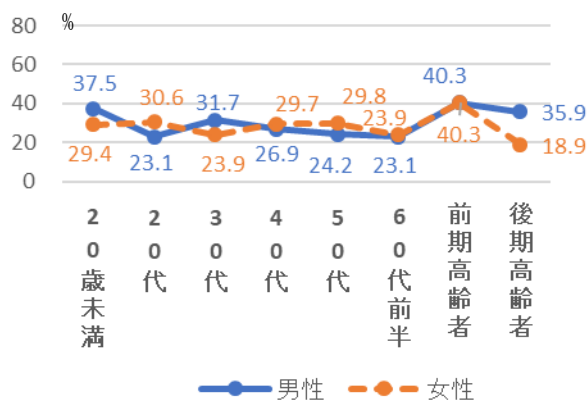
<1位> 子どものときから、学校で平等意識を育てる教育の充実



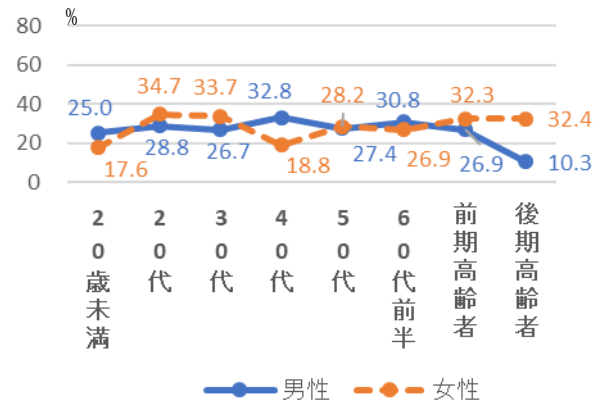
<2位> 育児・保育施設の充実



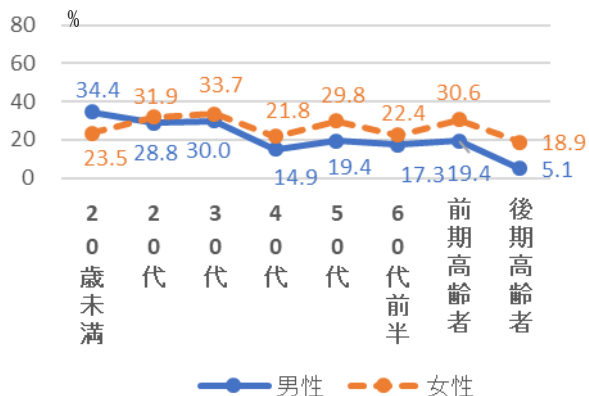
<3位> 男女双方に対しての意識啓発・学習機会の促進



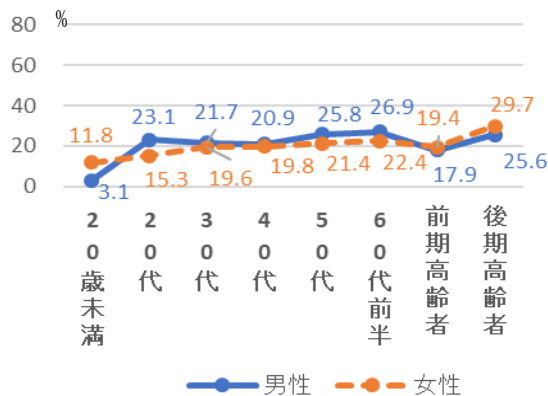
<4位> 就労機会や労働条件の男女格差を解消するための働きかけ



<5位> 家事・育児・介護に対する社会的評価のレベルアップ



<6位> 在宅介護サービス、介護施設の充実



男性 (N=32) (N=52) (N=60) (N=67) (N=62) (N=52) (N=67) (N=39)  
 女性 (N=34) (N=72) (N=92) (N=101) (N=131) (N=67) (N=62) (N=37)

※上位6項目のみ



## 8 男女共生社会や多様性社会についての考え（自由回答）

男女共生社会についての自由意見は延べ 750 件の回答があった。それらの意見を分類した。各分類の意見数は以下のとおりである。

※個人および対象の特定可能な部分、固有名等については、情報管理の観点から「\*\*」とした。

「多様性」	「家庭生活」	「結婚（事実婚に対する法律婚）」	「教育」	「仕事と家庭」	「介護や老後」	「男女の人権」	自由欄
86	77	80	74	82	97	65	189

### （1）「多様性」

20代の時にアメリカに行っていました。（おばの家に住んでいた）肌の色や、考え方、結婚してる、してない、子供いる、いない、障がいある、ないで差別したりとやかく言う人がほとんどいませんでした。世界には様々な文化や考え方生活様式がある。日本は枠からはみだすと変人扱いされる。（女性・30代）

子供は小さいときは育て方（男性・60代前半）

パートナーシップ協定は秋田市も早く取り入れた方がよいと思う。（女性・20代）

尊重した社会では大事だと思うが、実際、会社には障がいのある人はいないので、全てに浸透させるには時間がかかると思う。（女性・40代）

都会の方だとある程度多様性も認められているように思えるが、地方ではいまだに昔ながらの考えかたが抜け切らないように感じる。（例）女は結婚して子どもを産むべきだなど。（女性・20代）

それぞれの考え、事情に合った生活で良いと思う。まわりも偏見することなく、自然に受け入れる事が大切だと思う。「人類みな兄弟」という言葉を思い出した。（女性・60代前半）

LGBTQ などに関しても、人間を創造した神の考えが聖書に載っており、はっきりと明記されています。男性が男性に情欲を燃してはならないとあるように、同性愛を神は非としています。ですから多様性ということについては限界が設けられているということを理解するならばしっかりと自分の意見を持つことができます。（女性・40代）

多様性っていうわりに議会にいるのは、普通の男性ばかり。選挙を見直して色んな人が立候補できるように。（お金がかからないように）（女性・30代）

女性どうして付き合ったり男性どうして付き合うことに対してもう少し温かい目で見えてあげてほしい。コソコソ話されているのを見ると、LGBTQ の人たちがかわいそうに思えてくる。（女性・20歳未満）

大切ですが、前は少しがまんできたことができない人が多くなったような気がします（男性・40代）

産まれてくる時から、男・女と性別があり、性の役割がそれぞれ異なるため、ある程度は男女の区別をつけるのはしょうがないと思う。なんでもかんでも精神面へ配慮しすぎている気がする。“性差はある”という第一前提をみんな理解し、そこから男女平等について考えることが大切ではないでしょうか。（女性・30代）

ジェンダーの意識は、秋田人は本当に低い。学校の授業にとり入れるべき。（女性・40代）

意識改革。(男性・前期高齢者)

むかしから、障がいがある人、LGBT の人等いたのに、社会が囲い込んで、表面に出さないようにしていたのが、当事者の方々が声をあげれるようになって、無視できなくなったかのように思う。(女性・50代)

小学校教育が時代錯誤なので、将来的にもあまり期待できないのでは？ (女性・40代)

現在周囲にあてはまる方々は見当たりませんが、皆が色めがねで観る事のない世の中にしていきたい(女性・60代前半)

色々な考え方、感じ方の人が出て、真にそれを受け入れるにはやはり実際に相手をよく知る必要があると思います。(女性・40代)

価値観を押しつけない(答えなし・30代)

昭和の時代には偏見があったように感じるが、今は社会全体で一個人としての生き方がそれぞれ理解される時代になってきている(女性・前期高齢者)

TV やラジオで多様性を紹介しているが、一般には浸透していない(男性・50代)

多様性を重視、尊重する事は良いと思うが、ある程度の規制等は必要だと考えます。(男性・30代)

多様性は尊重されるべきだが、それぞれ考え方もあるので、性的な部分をあまりオープンに行政が主導していくのは難しい。(女性・30代)

最近急に多様性を肯定するような発言をする政治家やタレントをテレビで見るが、無理をしていると感じる人が少なからずいる。(男性・前期高齢者)

十人十色(女性・20歳未満)

LGBTQ の理解が広がってほしいです(女性・20歳未満)

多様性ありだと思います、人間それぞれですから(女性・50代)

無理に声を上げなくても良いと思う。周りにそういう(LGBT)人はいない(気づかない?)が、そういう事を、おもしろおかしく話題にしないようにしている。(男性・40代)

少数の多様性に流されすぎ…特にLGBTQ。少数の為に多数派が合わせられるなら良いが、ガマンさせられるのは違うと思う。(男性・30代)

あらゆるマイノリティの方が社会へ出られるようにならないと、理解は深まらない。無知・無関心があるためだ。このような社会づくり、まちづくりが必要。(女性・40代)

結婚したくとも経済的に無理な給金で働く若い男性。子供が欲しくてもみてる両親がそばにいないと育てて行けない現状。ここをなんとかしなければ人口はふえていかないし、豊かに(精神的にも)生活していけない。1つの家庭を守るには、男女共生社会でたすけ合える様に又、生活がなりたつお給金を！！(女性・前期高齢者)

多様性について考えた時に、自分は差別的な視点で見ってしまうこともあるので、急に意識を変えるというのはとても難しいと思うが、将来自分も社会も「多様性」と意識しなくてもお互いを認め合えるように、少しずつ様々な問題について考える時間を持つ必要があると思った。(女性・20代)

学校教育（道徳）に是非取りあげて欲しい。（女性・前期高齢者）

差別するなどは言いません。認めてくれるだけでもだいふ救われます。ちょっと息をしやすくする（バリアフリーのような）ちょっとした気遣いがうれしいです（男女両方使える\*\*\*のトイレのような）（自由記載・20代）

多様性は人情に（男性・60代前半）

一概に多様性と言っても、自分と異なるもの（理解できないもの）に対して全てを受け入れるという考え方は、乱暴だと思う。例えば、障がいを持っていても、同じ教育、社会的環境を共有することと同じ、障がい者自身も社会に責任を持つ社会の実現が望ましい。（男性・60代前半）

身体障がい者の雇用が増えたのはよいが、給料が低くなっているのはどうか問題。（女性・50代）

違うものはおかしい、排除しなければいけないという風習が強いと思います。（女性・40代）

いろんな人がいる中でも、やはりまだ人とは違うことを好奇の目で見える人もいるし、差別する人もいる。差別などなく、みんなが楽に生きられる世の中になればいいのと思う。（女性・30代）

多様性をすべて受け入れる議論は意味がなく、答えがない。そして詭弁。（男性・40代）

シスパンです。まずはシスヘテロたちが「自分たちはたまたま性分化上の不和が起こらなかった個体、かつ繁殖の際に不快感を覚えにくいだけだ」と自覚してください。そのように学ばせてあげてください。（女性・30代）

無理してわかりあえなくても、私は私、あなたはあなたで各々頑張ってみるのもいいのかも…。（女性・前期高齢者）

パラリンピックの選手が活躍している日々で、車椅子で生活できるインフラの整備（歩道、駐車場、階段を撤去し、スロープ化）が必須。介助犬が入れる施設の充実が必要。（男性・20代）

少数派のため多数派が不快な思いをするのはまちがっている。最大多数の最大幸福が政治の基本。（男性・30代）

一人一人が自立した意識をもった上で違いを認め、多様な考え方や感性が尊重される居心地の良い社会になったらよい。（女性・後期高齢者）

多様性の尊重は時と場合による。（理想通りにはいかないと思う）（女性・前期高齢者）

ドラマ等（おっさんずラブなど）の影響により、メディアでは同性同士の恋愛は一般的になっていると思います。ただ、現実はまだまだ特別感があります。（女性・30代）

いろんな人がいてもいいと思う。差別化がなくなって欲しい。（女性・30代）

多様性を受け入れる度量がなければならぬ。「他人を尊重し、他人から尊重される社会」を理想と考えるので、他人を尊重することの重要性を教育に取り入れるべきである。（男性・20代）

「多様性」にかこつけて発言すれば何を言ってもいい。自分は弱者だからと平等のとらえ方を誤っている人たちには疑問を感じる（女性・20代）

収入格差が大きいように感じる。地元企業賃金と東京資本企業との賃金や福利厚生。（女性・50代）

LGBTQに関する視点は約数年前に比べれば良くなっていると思います。あとは、他者に害をなすような性質との関わり合いが論点になれば良いと思います。(男性・20代)

「多様性」のLBGTについて多様性を認めるのであれば、LGBTを「受け入れません」という自由も認められるはずなのですが、拒否しようとする、なぜ受け入れてくれないのだという風潮は良くない。(女性・20歳未満)

男女における賃金差、格差はあってはいけないと思う。ただ難しいのがLGBTQ等生まれもってなのか自分の欲求を満たすためなのか線引きができないことについて、すべてを受け入れ認めることは一歩間違えると好き勝手を「権利」といって本来あるべき方向と違うことになるのではないかと。(女性・50代)

セクシャル・マイノリティについて、よく耳にするようになりました。しかし生物化学的な性や自分で考える性(性自認)によらない教育を進めるとしても「私」を形成する要因の1つでもあるので、完全に無くしてしまうことも違うかなと思います。あくまでマイノリティですので、マイノリティのためにマジョリティが損をするやり方は間違っていると思います。(女性・20代)

人々は自己主張ばかり激しい気がする。(男性・30代)

先入観を無くし、相手を理解する。(女性・60代前半)

会社でのお茶出し、洗濯は女性社員の仕事になっている事に時代遅れを感じる。田舎ならなお、その精神が強く感じる。(女性・30代)

多様性という言葉をよく使う人達は自分と違う意見の人に寛容じゃないと思う。多様性を認めるということは、多様性を認めない人のことも認めなければいけないと思う。(男性・30代)

みんながみんな理解する事ができなくても、少しでも理解してくれる人がふえたらいいと思う。メディアや学校での教育が必要だと思う。(女性・20代)

多様性を意識しすぎて、差別の助長にも感じる(男性・20代)

制度の上では平等だがまだまだかたよりがある。(女性・30代)

親と話していて、「同性愛は気持ち悪い」と親が言っていたのに驚きました。親世代には理解は難しいのかもしれませんが、誰もが自分らしく生きていくことができ、それを周りが認めてくれる社会になればと思います。(女性・30代)

多様性とはどういうことか、理解をしている人が少ない。多様性を都合のいいように使ったりしている気がする。(男性・30代)

国籍の多様化→物騒、犯罪の発生に結びつくのでは？秋田県民は危機管理能力が低く感じる。(男性・50代)

色々な人がいて、色々な考えがあって当然であってそんな世の中になればいいと思う。(女性・30代)

LGBTQはだいぶ社会でも認知されてきたと思うが、まだまだ生きづらさはあると思う。(世界的に日本ではという意味で…。そのかわり日本では人種差別はあまりないと思う。)(女性・40代)

多様性を意識しすぎていて逆に差別になっているのでは？と思うことがある。他人のことはほっといたら良いのに。(女性・30代)

日本国籍以外の国籍を取得しても日本国籍を持てるようにしたらどうですか？(男性・20代)

LGBT と公表される方が増える一方で、その方達だけに気をつかう(言い方が悪いですが優先して当たり前)みたいな風潮になるのはどうなのかな、と違和感を感じる時があります。(決してLGBT 反対というわけではないです) (女性・30代)

各個人は、世の中の全ての事象を把握し、理解しているわけではなく、一部の報道やくり返し流されるニュースで評価しやすい。「世論」は空気や印象で多分に左右されやすい。(男性・60代前半)

「LGBT」や外国人が秋田にもいるんだなと思いました。私の住んでいる地域では、そういう人は、いないので、複雑になっていると感じました。(女性・40代)

障がいを持っている人たちに対する差別を学校か社会で無くし生きやすい社会になってほしい、そのための教育を学校で重視してほしい。(女性・50代)

人間が一人一人違うので、お互いに知り、思いやりの心を持つことが、これからは増々必要になると思っています。(女性・50代)

LGBTQ については、個人的には、全く受け入れできません。(その様な人とは、出来れば関わりたくない) (男性・40代)

人間は誰でも、自分の考えとちがう人を受け入れない傾向があると思います。実際、私も自分の意見を言ったところ「頭がおかしい」と言われたことは何度もあります。自分と違う意見を受け入れることは、よほどの包容力を持った人でないとむずかしいということがよく分かります。(女性・50代)

人それぞれだから何ともいえない (女性・後期高齢者)

業種によって、髪色やネイルなどの規制があり、不満。黒髪でもちゃんと仕事をしない人もいるのに、明るい髪色ではイメージが悪いと決めつけ規制をするのは古いと思う。(女性・20代)

価値観や考え方の多様性は尊重すべきだが幅広い多様性には戸惑うだろう (男性・50代)

多様性が尊重されるのは、いいことだと思うが「男らしさ」とか「女らしさ」「～らしさ」等をすべて否定するのはどうかなと思う。(女性・60代前半)

昨今関心が高まっていることは感じるが、未だに型にはまった「性別」にとらわれている人が多く、息苦しく思うことがある。「男」か「女」ではなく「人間」として生きていたい。(女性・30代)

男女とはっきり区別せず両個々の良い、悪いを生かした組織づくりを推進することで持っている力を発揮できる。(女性・前期高齢者)

ネットやテレビなどで多様性について見たり知ったりするのと、実際に多様性に触れるのとでは、違うところがある。(女性・20代)

多様性の意味をきちんと理解できているか正直わからない。(男性・30代)

とてもデリケートな事であると初めて理解の入り口に立てた様な気がします。声を上げられて受け入れられる日が早く来てほしいと思います。(女性・前期高齢者)

自由に生きれば良いと思う。(女性・20歳未満)

男女平等、性的指向などに対する関心が高まっているにはよいことだと思うが、メディアなどで連日取り上げられているのを見ると少し過多になりすぎていると感じることもある。「男だから」などという固定概念を知らない世代が偏見をもたずに生きられる世の中になればいいと思う。(女性・20歳未満)



## (2)「家庭生活」

手があいている方が出来る事をやればいいし、どれが私の仕事！とか私ばかりやらされていて…とは思いません。お互い思いやりの心でやればよいのでは？（女性・30代）

男性でなければできないこと、逆に女性でなければできないことがあります。家族で話し合い、理解することが必要です。（男性・前期高齢者）

家庭団らんとなれるような残業のない労働環境が必要（男性・60代前半）

介護士、保育士の待遇をもっと手厚くした方が好循環を生むと思う。（女性・20代）

回答には、それぞれが、手があいているときにやれば良いとしたが、実際は、外の仕事は男、家庭は女という形だった。自分の母親の姿を見てきたので…。（女性・60代前半）

行政がいくら口だけで男女平等をうたっても、行動がともわないと意味がない。女性は出産の際、100%産休を取るしかないのだから男性も育児休暇は100%とるべき。でないと家庭生活や職場でも対等にはならない。（女性・30代）

若い時は仕事と家庭の両立で子供達にも苦勞かけましたが、今は夫婦協力して穏やかに生活ができています。（女性・前期高齢者）

男女の意識改革。（男性・前期高齢者）

DVは犯罪と、小学校から高校までずっと単発でなく、継続して、授業するべき。そうすると、少しずつでも減っていくのではないか。（女性・50代）

副業を考えている（女性・60代前半）

女性活躍社会にはおおむね賛成ですが、個人的には女性の労働時間は男性より短く、その分家庭の仕事（特に育児）にも力を入れられる社会が良いと考えています。（男性・30代）

女性も働く時代、男性が家事をするのも当然の事だと思います。（女性・40代）

よく話あう（答えない・30代）

男女の区別なく協力して家事育児に取り組んでいる。特に若い世代で（女性・前期高齢者）

1人暮らしなのでわからない（女性・40代）

もう少しゆとりのある生活を送りたい（男性・50代）

男の人でも家事にもっと取り組むべき（女性・20代）

男が家事して、女が働くとか、子供がいない夫婦への世間の目が厳しい。啓蒙活動をして下さい。（女性・30代）

各家庭による（女性・20歳未満）

女性だけが家事をするのはおかしいと考えます。お互い助け合い、協力するべきだと考えます。（女性・20歳未満）

大勢家族を私は望みますが、子供は成人すれば出て行く子が多く、我が家は1人っ子なのに東京に就職しました。これが現実です。(女性・50代)

夫の仕事が忙しく、私自身は専業主婦で、家事や子育ての中心は自分でまわす現状。今後もその中で、時期がきて、社会にでも、家事と仕事と、両立することができるか心配です。(女性・30代)

妻の方が、家事の割合が多いので、週末など、仕事が休みの時は、一緒に家事をするようにしている。家事は女がやるものだという考えが多いと思うが、それは違うという考えで行動しているがなかなか体が動かない。(男性・40代)

女がやるべきだと思って自発的に担っていることが多い。そうしたことは大概、夫も同じ理解でいる。子供のころからすりこまれていた常識。これがなくならないと、対等にはならない。子供のころからの教育、家庭のあり方が大事。(女性・40代)

家事の女性の負担はまだ大きいと感じる。(女性・20代)

子どもが授かり親となる…が、家庭の中でどんな親として…必要なことは何か？と学ぶ機会が少ないと思う。保育園、幼稚園、小学校(参観授業は10分でOK。後は講演会参加etc)時代に保護者向けの催しを多く設定して欲しい。(女性・前期高齢者)

認知で引きこもり、自分勝手な祖母がいない家に帰りたい…。毎回もう出来ない、わかんない、ワカンナイ、〇〇だと思ってた(カンチガイ)ドウシヨウ…を言われつづける家はモウイヤ…。(自由記載・20代)

法をかえてもなかなか実際の生活に反映されない。育休もしかり。男性の取得を促進しているが、3人育てる中で夫は4日程度しかとれていません。(女性・30代)

家事の分担を常識的にする意識改革を子供の頃から教える。(女性・50代)

感謝がたりない(女性・40代)

地域によっては、いまだに女性(特にお嫁さん)が家庭の中のことをするのがあたりまえというのが根強い。(女性・50代)

何のために家庭生活を送るかというテーマがなく毎日を自己欲求の消化に使っている家庭が多いから責任が全て「社会」に押し付けられている。(男性・40代)

お互いガマンせず何事も話し合えるような家庭を作れたらそれが理想。(女性・前期高齢者)

介護する、される側になった時に、二世帯住宅がいいのか、冬の除雪を考えて、マンションにした方がいいか。住みやすいモデルタウンが知りたいと、常々、思う。(男性・20代)

家事が大変ならば主婦も働いて、その給与で家事代行を頼めと思う。(男性・30代)

一番小さな“社会”である各家庭が全ての出発点になると思う。子どもを持ったなら、社会人として、社会に巣立つために必要な基本を修得させながら、共に家庭生活の楽しさを体感したいものである。(女性・後期高齢者)

未だに「女性が料理(家事)」「男は収入(仕事)」が根付いていると思います。ただ、そのような考えを発言する人は批判される傾向が今はあるので、少しずつ男女共生・多様性には近付いているかもしれません。(過度の批判は良くないと思いますが)(女性・30代)

様々な家庭があるが、経済的に不安定な家庭も多いので手当をもっと充実させるべきだと思う。(女性・30代)

「仕事」「家事」「育児」「介護」は、性別関係なく誰がやっても良いと思うので、パートナー同士よく話し合っ  
て決めれば良いと思う。(男性・20代)

コロナ禍の一人暮らしの不安、県外にいる子ども達にも会えず。入院したら、誰もいない。保証人や術後時な  
どの生活、どうなる？(女性・50代)

各家庭によって、夫・妻との収入や仕事スタイル等の違いがあると思うので、男だから、女だから…という概  
念は持たず、各家庭で適したスタイルをとれば良いと思う。(女性・30代)

DVの項目にも通じますが、虐待に対する意識の高まりが起こることを期待しています。(男性・20代)

各々に任せれば良いと思う。しかし、子育てについては子供が少ないのに、受け入れ先が少ないのはなぜか。ま  
た、介護負担も軽減されるべき。(女性・20歳未満)

共働きが当たり前になってきているのに、家事と仕事を両立するのは難しい。(女性・20代)

最低限の衛生管理をいくら言っても実行してくれない。(男性・30代)

パートナーへの思いやりと理解を。(女性・60代前半)

家庭では父が家の仕事(家事)、育児にはかからなくてもよいという旧態依然を根底に持っている。母の負  
担が大きく、結婚への希望が持てない。(女性・20歳未満)

育児より先に介護が優先になってしまったので年齢的に少し焦っている。(女性・30代)

敗戦後からの日本において、女性が働くようになって、子供への教育が学校だけになっている今日、学校教育  
をもって充実、ないしは、女性が働かなくてもいいくらいに賃金、環境も整えてほしい。非正規で働く外国人、  
労働力が安い外国人、職業実習とって入国する外国人、多様性のあり方を考えてほしい。それが家庭生活に  
つながると思っています。(男性・20代)

少子化なのに育児手当が少なすぎる。これでは子どもを増やそうとは思えない、国は育児をなめすぎている(女  
性・20代)

親が子どもに干渉しすぎるのは、子どもの将来に良くないと思う。(男性・30代)

男だから、女だからといって、責任をおしつける事はダメだと思う。(女性・20代)

ステレオタイプがある(男性・20代)

家庭生活を優先してしまうと、仕事がおろそかになってしまう。(女性・30代)

現在未婚ですが、家庭生活を営むとなると共働きであっても女性に負担が偏りがちであると思います。理解が  
あり、協力できる相手とでないと結婚できないなと思っています。(女性・30代)

自分の親世代よりは男女格差は改善されてきているとは思いますが、昔の教育、男尊女卑はまだ残っている。特に  
秋田という地域性なのか、県外から来た者としては男性・長男を特別扱いしているように感じる。孫世代には  
残したくはない風習(女性・60代前半)

不妊治療のため、1子と2子の年齢が6才あいてしまい、保育料の助成が全く受けられないのはおかしいと思  
う。望んで年齢差をつけたわけでもないし、子どもにかかるお金は一緒なのだから年齢で差別するべきではな  
い。(女性・30代)

子育てに集中できるように労働時間の1人当たりの削減を切に願う。(男性・30代)

私達の時代は、小さい頃から親に年とった人、弱い人にはやさしく声をかけ、めんどろ見るものと教育されて来ましたからとてもたのしい生活でした。今の若い人達はどちらかというとな寄りきらいと離れて行く淋しい世の中(女性・後期高齢者)

生活面をよくしたい。そして頑張ってみたいと思います。(女性・60代前半)

家事代行サービスがもっと広まって家庭生活が楽になればと思う。(女性・20代)

老人一人生活は不安ばかりです(女性・後期高齢者)

女性に家事を任せるのは、ある程度仕方がないことだと思う、私の場合はそんなに苦ではないので、協力が必要だという人は男性にも手伝ってもらえるよう話してみるといいと思う、ただ、体調を崩したときの為に両方家事はできたほうが助かると思う。(女性・20代)

親と子どもの関係が良好になれるように、仕事などで家庭がおろそかにならないといいと思う(女性・20代)

節約のため夏はクーラー、冬は暖房を最低限しかつけていない。灯油代が高い。物価が上がるのなら給与もあげてくれないと生活を維持していくことは不可能。お金がないと不仲になる。ケンカがふえる。(女性・30代)

コロナでお金のやりくりが大変である。(男性・前期高齢者)

「障がい」に関する設問がなかったのは残念。(男性・60代前半)

新型コロナウイルスで外出しにくいご時世ですが、外出するときは必ずマスクをする習慣に慣れました。(女性・40代)

空家制より、家があって土地があってゆっくり暮せる場所があるのに、若い人は県外へ、秋田の家庭生活は年をとると寂しい所(男性・後期高齢者)

女性が家事をし、男性が家庭を支えるという考えが変わっていないことが多いと感じる。また、そこに女性も働きやすい環境が出来ており、女性への負担が多くなっていると感じる。(女性・20歳未満)

父親が威張っていた家庭風景はほぼなくなったと思いますが、男性がまだ若干、「父親を敬え」という考え、態度を匂わす時があるのが気になります。仕事も家事も育児も家族みんなで協力し合う世の中になってほしいです。(女性・50代)

安心して毎日が送れると良い。(女性・20代)

今は大変な生活です(女性・後期高齢者)

家庭生活を充実させるため、家族一人一人の役割やバランスを家庭内でもあればより良くなると思う(男性・50代)

女性の方が家事をほとんど担っている場合が多いと思う。(女性・20歳未満)

子供がいれば子供中心の生活(女性・前期高齢者)

男も女も平等になれば良いと思う。(女性・20歳未満)

### (3)「結婚（事実婚に対する法律婚）」

婚姻していなければ認められない事が多いと思います。今は恋愛の仕方も多様化しているし、同性同士でもパートナーと認める事や、籍をいれなくても婚姻制度と認める様な法律ができればよいと思います。そうする事で少子化はぐっと減ると思います。(例えばフランスみたいな)(女性・30代)

夫婦はいつも LOVELOVE に生活しているわけではないので、人に迷惑のかからない近所づきあいをするのがよい(男性・60代前半)

出会いを求めている若者は多いと思うので出会いの場づくりを工夫してほしい。結婚費用を補助してほしい。(女性・20代)

結婚はした方がいい。パートナーがいることは幸せ。悩みがあるとき話を聞いてくれる人がいるのはありがたい。(女性・40代)

結婚にも多様性が認められるべきだと思う。必ずしも男女間で成立するものではないし、結婚してもしなくても良い、従来の固定観念は少しずつ切り替えられるべきだと思う。(女性・20代)

結婚に対して、こだわる世評がなくなってきているが、秋田のように高齢者が多い地域は、まだ根強い偏見があると思います。当事者2人(大人)は、自分たちさえよければ、強くいれると思うが、子どもが生まれた時には、その子が、理解して、友だち間で、わだかまりなく仲よくできるようになるのには、長い年月がかかるような気がする。(女性・60代前半)

結婚で夫婦別姓も選べるように出来たらよい。旧姓のまま働く女性もいるので、実際にやろうと思えばできるはず。同姓にしたい人は同姓にすればよい。(女性・30代)

学校でも、結婚はいいと教えていかないと、少子化はとまらない。親子孫と、つながっていくというのは、私は大切だと思うので。(男性・40代)

「なぜ結婚しないの?」「結婚して好きな人につくすのが本当の幸せ」など言われることがあり、なぜ理由を言ったり、理由をもたなければいけないか、理解に苦しむ。(女性・40代)

法の改革。(男性・前期高齢者)

「家」という考え方から個人に変えていくべき(法律が先に!!)(女性・50代)

夫婦別姓なればよいと思う(女性・30代)

結婚する、しないは本人の自由だと思いますが、したい人はできるように社会的な協力も必要でしょう。しない人への偏見はなくすべきだと思います。(女性・40代)

資産さえなければ問題なし、しかし必要でもある、それが問題だ(答えなし・30代)

「～しなければ」という世間の目がゆるくなり、わりと自由。でも昔の様におせっかいする人がいても…(女性・前期高齢者)

「男女共生社会」という割に末だに夫婦別姓は、おかしい。(女性・40代)

独身なのでわからない。(女性・40代)

もっと出会いの場を提供した方がよい。行政のものは中途半端(男性・50代)



二人が希望するのであれば事実婚も良いと思う。(女性・50代)

してもしなくても個人の自由。憲法にある通り。(女性・30代)

していなくてもマイナスではない(女性・20歳未満)

女性に対するストーカーやDVが増えている現状を調査し、男性に対する結婚意識の向上を図る(男性・前期高齢者)

事実婚ありだと思います。(女性・50代)

事実婚は問題ないと思っている。人口も減っていくなかで、生まれた子供を、戸籍などを良いようにしてもらえればと思う。(男性・40代)

学生結婚ありだと思う。年齢的に若い結婚を応援すべき。(女性・40代)

結婚していないと受けられないサービスや保証を法律婚ではなくても認められるようになることも、多様性を認めるということではないかと考える。(女性・20代)

結婚しない人、できない人が多くなっている社会は改善すべきだ。(男性・前期高齢者)

結婚とは、男女が、夫婦になること。例外としての法律まで認めてしまうと、地球から人間が存在しないことが恐ろしくなると考えてしまう。(女性・前期高齢者)

収入の面で不安があり、結婚に躊躇してしまう方が多く、出会いの場がそもそもない。独身の方があまりに多く、生涯一度も結婚しない方もかなりいるようです。国や県、市などで結婚した方や子育て中の方にもっと助成金などを出して安心して結婚できるようにしてほしい。(女性・50代)

パートナーシップ制度は積極的に取り入れるべき。「ふうふ」で出来る事が同性だからという理由で出来ないのは悲しいです。(自由記載・20代)

社会保障が得られるのならば賛成である。(男性・60代前半)

夫婦別姓を認める法律をつくる。(日本は本当におくれていると思う)(女性・50代)

むずかしい(女性・40代)

経済力のある人が多重結婚してもよいのでは?と思います。(女性・40代)

パートナー制度のような、社会的にも認められる制度ができればいいと思う。例えば、同性同士での結婚が認められる、戸籍上の夫婦、親子関係外でもパートナーであれば家族として認められるなどすれば、暮らしやすくなる人が増えると思う。(女性・30代)

人類の営みと経済の循環の議論を失くし、自己欲求の実現のみに使われているから、たがが外れた議論になっている。(男性・40代)

婚姻する二者が異なる性別である必要性を感じない。家計をひとつにまとめる、共同生活を送るなど暮らしにかかわるメリットを、男女をそろえた人たちだけが欲しているわけではない。結婚のメリットを広く届けてほしい。(女性・30代)

日本の姓に対する男性が、名字を使う。女性に対しての夫婦別姓も、法整備化して欲しい。扶養等含めて、権利が、事実婚では、あまり意味を見出せない。(男性・20代)

どのような結婚形態でも、お互いに幸せであればよい。未来を引き継ぐために、人生で最も素晴らしいことであることを子どもの頃から教育にしたらよいと思う。(女性・後期高齢者)

晩婚化とはいえ、独身は肩身がせまいです。現在婚活している人も、既婚というステータス欲しさに焦って結婚し、後悔する人もでてくると思います。もっともっと、独身というステータスが良くなってくれるか、そもそもどっちもアリじゃん、という世の中のなれば良いと思います。「独身(アラサー以上)は性格に問題がある」という固定概念は未だに感じます。(その通り、と思う部分と、結婚しているから問題がないというわけではない気持ちです。)(女性・30代)

夫婦別姓が認められると事実婚ではなく、法律婚？入籍する方も増えると思う。(女性・40代)

結婚、事実婚もそれぞれの自由だと思う。ただ結婚をしたいが、なかなかできない人もいるのでそのような場を充実できたらと思う。(女性・30代)

結婚をしなければ、子供を持つことが出来ないことが問題だと思う。(男性・20代)

子どもが生まれるまでは事実婚を法律でみとめて欲しい。子供が出来ずに別れたいと思う人もいると思うが、足かせになっている。(女性・40代)

結婚だけを重視するのではなく、その後、離婚や死別、シングルマザーやファザーで育てる事など、大きく考えて欲しい。(女性・50代)

同性婚は認めるべきではない。法の改正が必要になる。(女性・20歳未満)

本人たちがそうしたくても、周囲が受け入れられないことがある。「家」と「家」という考えをもっているのは難しい。介護、相続など「家のつながり」「家族」について見直しできないと…(女性・50代)

今はわからない。(男性・30代)

相手を知る機会を。(女性・60代前半)

事実婚では法的に不利なことが多いので、改訂されていくべきだと思う。(女性・20歳未満)

同性婚を認めてあげてほしい。(女性・30代)

する必要は特にないと思う。(男性・20代)

結婚について、寛容に認めるべきだと思われるが、まだ同性愛者に人種民族に対して差別がある。(女性・30代)

「男性の名字を名乗るのが当たり前」の意識に疑問を感じます。法律上はどちらの名字としても良いのだし、結婚の際、どちらの名字を名乗るか、対等に話し合えるような社会になってほしい、選択的夫婦別姓も早く認められてほしいです。(女性・30代)

今は家と家とではなく、個人での結びつきを重視すべき。法も少しずつ変わる必要がある。(女性・30代)

したい人がいればすればいいし、やりたいことがあったり、必要性を感じなければなくていいと思う。人類的には必要だが。(男性・30代)

収入が少ない→人口流出→人口減→空き家等 負の要素しかない秋田 (男性・50代)

選択的夫婦別姓が早く認められてほしいと思う。(女性・20代)

どちらでも幸せであればと思います。(女性・後期高齢者)

結婚はするべきだという考えをなくすべき (女性・20歳未満)

夫婦別姓を認める法律ができそうでなかなかできないが、早くできればいいなと思っている。選択肢が1つ増えるのはいいことだと思う。(女性・50代)

それぞれ事情があると思うし、個人の自由だと思う (女性・20代)

人それぞれなので他人が口出してくることはおかしい。「あの人は独身だから〜…」などの偏見はまだ多い気がする。すごい差別だと思う。子どもがいる、いない、での差別も多いように感じる。(女性・30代)

夫婦別姓が選択できると、働く女性には利点になると思います。(女性・50代)

\*\*\*女性とメールのやり取りが4ヶ月続いて、費用が足りないから送金して欲しいと言っている。国際ロマンス結婚詐欺を視野に考えている。送ったらもどらない可能性がある。(男性・前期高齢者)

「性自認」は慎重に扱ってほしい。(公共や公衆に大きく影響しそう)(男性・60代前半)

現在は求職中の身なのですが、雇用が不安定なままでは、無理な状況でございます。(女性・40代)

男女平等をいうなら、別姓の制度を導入するべきである。(男性・前期高齢者)

自分で相手を探して結婚できる人は今の時代では結婚できるが、人任せではないが結婚できない人が多い。やはり出会いの機会が、本当にないと思う。(男性・後期高齢者)

個人的には夫婦別姓に賛成。いろんな生き方・夫婦の形があつていいと思います。法律の改正も時代の流れにそって行われるべきだと思います。(女性・50代)

私は結婚したことがないので分かりませんが、パートナー関係の人は、周囲から「なぜ結婚しないのか？」という目で見られることが多いのではないかと思います。それに子供が生まれれば、近所の噂になり、子供に悪影響を及ぼすような気がします。(女性・50代)

結婚したくても自分にふさわしい人がいないようなのか (女性・後期高齢者)

事実婚には様々なケースがあり、公的なサービスを受けるにはしっかりとしたルール作りが必要 (男性・50代)

男性の家事能力と気配りについて、小さい頃からの教育が必要と思う。結婚して負担が増えるのは、女の人が圧倒的に多いと思う。(女性・30代)

どちら双方の納得していれば形は関係ないと思います。(女性・前期高齢者)

同性で結婚する法律がまだできないのなら、せめてパートナーシップ制度を導入するべきだと思います。(自由記載・20歳未満)

してもしなくても良い (女性・20歳未満)

男女の出会いの場を増やすべきである。(男性・20代)

自身が晩婚だったが、子供は2人で精一杯。子供を産むことを考えるとある程度若いうちが良い。(女性・30代)

結婚するのがあたりまえだと思ってきたが、それよりも大切なことを見つけたり、自分の生き方に結婚は必要ないと考えたりする人が多くなっていると感じた。自分の人生は自分のしたいことをするべきであるから、必ずしも結婚は必要ないし、さまざまな選択が認められるべきだと思う。(女性・20歳未満)

#### (4)「教育」

一つの考えや、方針にとられる事なく、色々な考え方や、人がいて、全ては尊重されるべきだよと、そんな時代になってほしいです。素直さが大切、素直だと礼儀や善悪の考え方もちゃんと身に付きます。(女性・30代)

貧困層の家庭の子供の教育格差がなくなるようにしてもらいたい。(女性・40代)

小さなときから近所の子供と話をしたり、かけっこしたりする環境が地域で必要と思う(男性・60代前半)

男女平等も大切だが、「お金の使い方」や「病気や障がい」「生きるのに困ったとき」等、『生きる術』をもっと教育してほしい。(女性・20代)

今は特に不満ナシ。楽しく学校に行けているからいい。(女性・40代)

学校の先生に対する責任が重く、保護者達から責められない様に考えてしまい、満足な答えを出せないと思う。子供の教育は先生だけではないと思う(女性・50代)

子育てに関しては、男女共になるべく同じように育ててきた。それぞれが親になってそれぞれのパートナーの考え方が違うので、自分たちの家庭では、役割分担がはっきりしているようだ。(女性・60代前半)

色々な人がいる、ということを学校で教えるべきなのに、学校は全員を同じように扱っている。制服でも私服でもいい、髪形や髪色も自由でいいのでは？何のための校則なのか、そろそろ時代に合わせてかえていったほうが良いと思う。(女性・30代)

もっともっと子育てしている家庭のために支援をしていただきたい(女性・30代)

男女平等、教育。(男性・前期高齢者)

勉強も大事ですが、社会性等についての授業も、もっとやってほしい。その授業を継続して、その授業を受けた子どもが大人になり親になると、少しずつだが変わっていくのではないかと。(女性・50代)

趣味でも、何かしら役立つ事をしたい(女性・前期高齢者)

障がいがあってもなくても、その子に必要な教育が十分受けられるような体制を作ってもらいたいです。(女性・40代)

大人になったとき生きていけるように学ばせる(答えない・30代)

少子のせい、型にはまりすぎている感じ。もっとのびのびと。(女性・前期高齢者)

常識のない子供が増えている。学校の前に親の教育(しつけ)がなっていない。(女性・40代)

学童保育、保育園には大変お世話になりました。しかし、収入により、あまりにも料金が異なるのは不平等のように感じます。また学童も秋田市は他地区に比べ、料金が高いように思います。また、とても先生方が熱心なのですが、お給料が低いとの情報を耳にします。その点についても、行政の方でカバーできたら…。もう一人産もうかな、育てられるかも、と思う親も増えると、人口減も多少良い方向に向かう気がしますので、子どもたちをどの家庭も気持ちよく育てられるようなしくみにしてほしいです。(女性・30代)

近年、教育側の立場が弱くなっていると感じます。毅然とした態度で立ち振る舞っても良いと思います。(男性・30代)

できるだけ貧富の差がなく、希望すればだれでも受けられるようになればいい。(女性・50代)

教育にお金がかからないよう、全面的に支援を。子供の自殺にニュースは聞きたくない。タブレット支給。wifiも。(女性・30代)

教師しだい(女性・20歳未満)

今の教職員は大変だと思います。小学校から英語必修科目と聞きます。昔は考えられなかった性教育も小学生からだとか(女性・50代)

教育に金融というカリキュラムを設けて欲しい。老後2千万円問題が提起されたように、将来、年金は期待出来ないと言われているので、若いうちから金融というものに接した方がいいと思われます。(男性・40代)

性について教育をもっと充実させるべきだと思う。学生など若い世代が性について正しい知識を持つことで、傷つくことを避けたり、自分や周りを大切にしようという意識がうまれるのではないかと思う。(女性・20代)

男女人権格差は、どこの教育課程で差が出るのかわかりませんが、私の年代とは違うと思いますが、いまだに男女共生社会に問かけがあるのは改善されないのだと思います。(男性・60代前半)

都会と田舎では学校の教育レベルが違いすぎる。教師のレベルも違いすぎる(男性・前期高齢者)

教師(指導者)の人間性が問われること多く、特に小学校の6年間は大事。採用時にコミュニケーションづくりの分野に優れている人材の担当者も同席させて頂きたいです。(女性・前期高齢者)

教育にお金がかかりすぎて、その為に子供がほしくてもあきらめる方がいる。学費の一部を免除や奨学金制度を充実させて、安心して生めるようになってほしい。(女性・50代)

男女の身体性(LGBTs)等生き方についてもっと知識を増やせるようにしてほしい(最近の生理についてや、男性の性被害等)(自由記載・20代)

今の教育を見るにつけ、親を敬う心が欠けている。頭の良し悪しは別物として(男性・60代前半)

教員の就労環境の厳しさばかりが、取りあげられるが、他の社会人同様、試用期間や5年目、10年目など区切りに一般企業へのインターシップなど実施が望まれる。一般常識のない教員が多すぎる。(男性・60代前半)

大人の教育受講の機会があっても良い。子供達が、友人や大人を尊敬するような道徳(男性・50代)

PTA役員、会長は女性の方が、子供の事がよくわかるし、参加しやすいので、女性のPTA会長を増やす事から改革がなされると思う。年に毎回も男性が仕事を休んで学校行事に参加するのも大変である。(女性・50代)

妊婦さんが働きやすい職場、子どもがいる人の働きやすい職場づくりも大切だが、まわりの人(その人たちをカバーする人のこと)に対して、やってあげるのが当たり前の空気はよくないと思った。(女性・30代)

人類が秩序を持って「生き続ける、生き残る」為にはこれはかかせない。(男性・40代)

児童生徒への教育は評価できるが、生涯教育においては全くといっていいほど進んでいない。「女性のための」「〇〇男子になる」などの文言は、時代錯誤もはなはだしい。(女性・30代)

礼儀、忍耐力は必要(女性・前期高齢者)

地域によって、特色が違う。秋田の良さと、秋田の悪い所も、今の子供たちには、教育の場で学ぶ機会を設けた方が良い。(男性・20代)

コロナ禍でデジタル教育の必要性を痛感させられた。教育現場で取り入れることが急務である。(女性・後期高齢者)

毎日、楽しく勉強などすごせる環境(女性・30代)

日本の教育は、主張することを是としないため、教育のあり方に多様性が求められていると思う。(男性・20代)

学校だけでなく、塾ありきの教育が世間一般的になっているように感じる。経済格差＝学歴になつては教育不均等だと思う。(女性・20代)

子どもが小さいうちの手当は多いが、中高生(大学含む)は、経済的に負担が大きく、もう少し、何かあっても良いと思う。(女性・50代)

他人をあなどることや汚い言葉を使うことはなぜ駄目なのかを伝えられる教育を望みます。(男性・20代)

数年前にあった「女性を大学の入試で不当に不合格にする」など、差別が今でもあるのは良くない。(女性・20代)

障がいがあってもなくても、同じ人間であるということを教育して行ってほしい。(女性・30代)

男女は平等ではないことを踏まえて教育すべき。体、力の差は平然あり、女性だから許されることもない。(女性・20歳未満)

晩婚で遅く出産すると、収入が多いからと支援がほとんどない。若い人より長く仕事をしているのだから、収入が多いのは当然。今、定年間近にして、大学、高校、塾代、老後の備蓄を使い果たしている。早い、遅いではなく、子ども一人一人に対しての支援がほしい。(女性・50代)

過保護な人達が出しゃばりすぎてるような。(男性・30代)

一番むずかしい(女性・60代前半)

子供(0~6才、小学校に入学するまで)の保育園等の数が増えたらいいと思っています。(遅い時間まで、子供を預かってくれると助かる)(男性・30代)

個性を尊重するとうたっておきながらも規則(校則)では相反している。「みんな同じがよい」とされる日本の教育では国際化社会で取り残される。(女性・20歳未満)

GHQによる、「3R5D3S」政策によって、愛国心がなくなってしまうと思う。しっかりと政治に興味をもってもらえるように教育してほしい。(男性・20代)



自分の思っていることを言えない子もいると思うので、女の方の教育者がふえると、話しやすいと思う。(女性・20代)

男女平等である(男性・20代)

医学部入試で女性が差別されていたことに衝撃を受けました。男女に関係なく、能力に見合った教育を受けられるようにしてほしいです。また、金銭的な理由で教育を受ける機会が制限されないようにしてほしいです。(女性・30代)

都市と地方の格差を是正すべき。都会の方が教育の環境が良い。(男性・30代)

人が少ないから少人数教育となり、小中学生は優秀だが高校以降は全くダメなレベル。男女平等より学力あげては？(男性・50代)

性被害・加害を減らすため、小学校低学年から性教育をしてほしい。(女性・20代)

今は親の理解があり子供達は幸せと思う。(女性・後期高齢者)

資金面でも大変だが、それに拘束される時間と伴う体力面が必要だと思う。(女性・40代)

学校に行かなくても家で同じように勉強が出来るようになったら良いと思う。(女性・30代)

最近の子供達は、「働く」という学習というか体験をさせていると思うと、私達が学校に通っている時は、そういう体験すら無かったので、うらやましいと思います。(女性・40代)

場違いですけど。誰でも専門の勉強をしたい人は、ほぼ無料で受けられる国立大学を作してほしい。貧しくとも、受けられるよ。(男性・前期高齢者)

秋田は学校(大学～高校)出ても自分の学んだことを生かせる仕事がない、給料が安い？県外に行って年老いた親から仕送り(マンション買ったり)、しているが多くいる。(男性・後期高齢者)

教育をするにあたって男女平等という考え方を伝えることは大切だと思うが、マラソン大会の走る距離やスポーツテストの判定での違いはしかたないことであり、すべて平等という考え方は無理があると思う。その場合、LGBTQの子の対策が必要だし、トイレなども考えるべき。(女性・20歳未満)

小さい頃からの教育はとても大事だと考えています。子どもに教える教員への指導研修も時代に合わせて小まめに行うべきだと思います。「先生」と呼ばれる人達は民間での社会研修を増やすべきだと思います。社会常識に欠けている人に子供を預けたくはありません。(女性・50代)

差別が無くなる考え方になっていくと良いと思った。(女性・20代)

今の犯罪は、多くは子供の時からの教育が根本にあると思います。ネグレクトとかされればやはり、人間はやさしさ、思いやりといった心が育たないのでは？子育てをしっかりとできる環境を行政がしっかりとしないと思います。(女性・50代)

子供たちも平等な立場が良いかな(女性・後期高齢者)

男性も女性も大事にされる社会になればいいと思う。(男性・30代)

大人も勉強は必要だが、これから出てくる新しい意識感覚を学び浸透させるには、やはり若いころからの教育になる(男性・50代)

男女という事を互いに決めつけないで、それぞれ尊重し合い協力し合って行くべきと思います。(女性・前期高齢者)

基本的なこと以外は好きなことを学ばせたらよいと思う (女性・20歳未満)

### (5)「仕事と家庭」

女性の方が就職に有利で、男性というだけで断られる事がよくある (男性・30代)

生活の為にはお金が大切。専業主婦(夫)も良いと思うけれど、少しの時間でも働く事は生きがいになると思います。人に会わないでする仕事もちろん、本人が好きなら良いと思うけど、誰かに会う事はけっこう気晴らしになる事もあると思います。(女性・30代)

女性は家事・子育てがあるが、老後を考えれば職についてガンバレばいい、そのためパートナーにも手伝いをしてもらう必要がある。(男性・60代前半)

「働き方改革」「ノー残業デー」、言葉ばかりでなく、現実にしてほしい。過労に苦しむ人はまだまだいると思う。(女性・20代)

共働きなので日々、協力して生活できている今に感謝している。(女性・40代)

まだ何となく家庭内のことは女性が行うといった雰囲気があるので、少しずつ払拭されてほしいと思う。(共働き家庭も多いので、女性だけ仕事と家庭の両立というのは負担が大きい) (女性・20代)

私自身、母親が、商業をしており、父親も、単独で、転勤していた時期があり、いわゆる「かぎっ子」のはしりだったと思う。その時点で、その環境に何もギモンはなかった。ただ、幸い近所に母方の親類多く住んでいる淋しい思いをすることがなかったのがとても大きいと思います。(女性・60代前半)

私たちの世代では、夫婦間は平等になってきているように感じるが、親世代は、まだまだ男は仕事、女は家庭の考えが根強い。その世代を何とかしてほしい。男女平等の邪魔をしてくる。(女性・30代)

夫婦で話し合い、お互い協力出来たらいいと思う (男性・40代)

共同意識。(男性・前期高齢者)

やらされている感、担う感があると不平等に感じる。生活をするうえで必要であること、手の空いている方がやる、お互いに当事者意識を持つことが大事(男女問わず) (女性・40代)

女性の社会進出を進めるためにも、男性の仕事の負担を減らし家事労働を分担すべきではないでしょうか？ (女性・40代)

半分 TIME しごと、半分 MONEY かてい、なんのために生きているのか (答えない・30代)

特に子育て世代に厚い保護を… (女性・前期高齢者)

秋田県の最低賃金の引き上げは喜ばしいことですが、パート労働の場合、扶養との兼ね合いが難しくなっております。被扶養者の認定基準の引き上げを検討してほしいです。(女性・40代)

男女とも自分の生活に責任を持って仕事をし、税金をはらい家庭生活も責任を果たす (女性・後期高齢者)

コロナで仕事が月1回になり、その間に病気・入院、年齢で仕事をことわられ、生活がまわらないです。どこに相談すればよいかかわからないです。気軽に相談できる所があればおしえてほしいです。(女性・50代)

その家庭その家庭の自由（女性・40代）

まだ、女が家事をするのがふつうと考えている男性が多いと思う。若い方は、男性でもいろいろとできる方がふえてきている気がするが…。（女性・40代）

もっと、仕事と家庭を両立できるような社会作りをして欲しい（男性・50代）

娘の仕事に、おぼん休みはない。学童保育にはあった。そんな時に子供を預ける場所がない。すべてにおいてその部署ごとに考え方が違うのであれば、物事は進まないと思う。（女性・60代前半）

それぞれの人間がしたいようにすればいい。（女性・30代）

各家庭による（女性・20歳未満）

仕事と家族を両立できる環境にしたほうがいいと考えます。（女性・20歳未満）

育児休業を、本人の希望で、子供が3才（2才）になるまで延長できたら、離職を考えずに済んだかも知れません。（女性・30代）

2人目出産時、退職しました。子供の行事やお熱で職場に迷惑をかけると分かっていたので身を引いた形です。「この仕事は若いうち（未婚 etc）しかできないよね…」というレッテルがない、仕事が増えることを祈ります。（女性・30代）

子供を預けられる施設をもっともっと増して女性が働ける環境を整備する（男性・前期高齢者）

人それぞれですが私はパートを選びました。例えばペットと過ごせる時間も……。 （女性・50代）

子育てを理由に何年も仕事から離れております。あと数年はこの状況になりそうですが、いずれ仕事を再開したいと思ったとき、社会から必要とされるのか、不安です。（女性・30代）

男も、女も、働いていようがいまいが関係ない。自分の親など、年配の人に、家事は女の人がやるものだという考えの人が多くと感じる。（男性・40代）

家庭の事を多く担っているのに、仕事の責任が増し、負担に感じている。家庭の男女平等は進まないのに、職場だけが進んでおり、苦しい。（女性・40代）

両立できるように、職場でもしっかり取り上げられるような法律があったらいいなと思う（女性・20代）

『家庭を守る』を考える国家の元職場と国、県の政策をいかして行くこと。つまり子育てを安心して出来る仕事場が必要。（女性・前期高齢者）

仕事と家庭を両立するために必要な保育・介護施設で働く方の労働環境を整える（賃金や保障など）ことが必要なのではないかと思う。（女性・20代）

息子夫婦をみていると、考えられない程、「仕事」と「家庭」のバランスが公平です。（子育ても）しかし、幼少期のこどもは、母親を求めることが多く、時短勤務の重要性を強く求めてしまいます。（女性・前期高齢者）

年上ばかりお金をもらってユウフクなのはちょっとズルイです…。若者ばかり悪にする言い分は若者側としてはとてもムカツきます…。若者ももっとカセげるようにして下さい！（自由記載・20代）

仕事が秋田ではなにも無く、古くから公務員が一番という気風がある、それを無しにするか、大規模な企業誘致を（男性・60代前半）

公・民の間で、働くことへの意識の違い（男性・50代）

サービス残業が両立を難しくさせると思う。ライフワークバランスが大切。（女性・30代）

男性が多い職場では、働く女性の大変さがなかなか理解されない。生理、子育て、全てかかえ苦しむ女性たち、それを理解できない男性が多いと思う。（女性・30代）

子供や介護の為の休暇をとりやすい環境を整える。保育園の充実、時間の延長。（女性・50代）

はたらきたい（女性・40代）

女性は外で働いても、家に帰れば家事をする事が必然的に多い。子育ても同様なので、もっと変わらないといけないと考える。（女性・50代）

仕事だけ、家庭だけ。職場の理解と、家族の支えがあって、生活できると思う。たまに、家族にも仕事を知って欲しいと思う。（職場に連れていく機会が欲しい。）（男性・20代）

家庭生活に重点を置き、負担の少ない仕事の仕方を日本社会全体で変えていかなくてはいけないと思う。短時間労働、仕事の分散化で雇用拡大。（女性・後期高齢者）

女性の不安はやはり妊娠、出産、子育て、社会復帰、この4点だと思います。特に、社会復帰は、あまり上手くいかない人が多いと思います。（転職難）子供の場合は特に。（女性・30代）

共働きをしているが、将来が不安になることがある。（女性・30代）

結婚してから会社で働いた（女性・後期高齢者）

男性の育児休暇が、取りづらいように感じる。（秋田では）病児の預かり先が少ない。（女性・50代）

子供のすこやかな成長を第一とした家庭が増えてくれればと思います。実子でなければだめという考え方が薄まればと思います。同性婚の広がりを楽しみます。（男性・20代）

子育てしながら働きやすい社会（女性・50代）

女性が仕事と家庭を両立できるようにする取り組みだけではなく、男性が仕事と家庭を両立できるようにする取り組みも進めるべき。（女性・20代）

女性の家庭での負担が減るよう、男性の育児休暇を取るのがあたりまえになって欲しい。（女性・30代）

各家庭に任せるのが良いが、助け（育児・介護）を求められる場をはっきりすべき。（女性・20歳未満）

両立は不可能に近いのでは？（女性・20代）

両立するかしないか、できるかできないかは、家庭それぞれ。よく話し合い理解する。（女性・60代前半）

社内婚なのでお互いの仕事状況を把握できるので理解はえられているので家事の方はストレスなく円滑だ。（女性・30代）

最近は、男性も女性も働く時間があまり変わらないけど、家庭での家事の負担が女性の方が大きいし、そこがおかしいと思う。（女性・20代）

育休しても安心して戻ってこれるような環境、理解、勤務制度が大切だと思う。（女性・20代）

やや女性が不遇（男性・20代）

男性と女性に格差がある。男女、お互いに考える必要がある仕事と家庭の両立。（女性・30代）

仕事と家庭は分担してもいいし協力してもいいと思いますが、どちらかに負担が偏らないよう、また家事・育児に専念していても社会的に評価されるようになるといいなと思います。（女性・30代）

生活保護以下の給料や家に家事をこなす人がいる前提の稼働時間は頭がおかしいと言わざるをえません。（女性・30代）

女性の方が育児休暇を取得すると、明らかに仕事で遅れをとってしまう。フォローが必要。（男性・30代）

総合職・一般職のような、男女で区別するような企業の制度をとりやめるべき。（女性・20代）

両立は難しいが周囲の理解や協力が必然である。（女性・30代）

短時間勤務、在宅ワーク、フレックス制での採用をする会社がもっと増えてほしい。（女性・20代）

仕事をして家庭を守ることは大変だったと思いました。家族が皆で協力が必要と思う。（女性・後期高齢者）

育児をしながらも働けるようにすべき（女性・20歳未満）

産後などに職場復帰や再就職を考えると、両立するために社会的支援や男性（旦那さん）の協力は必要不可欠（女性・20代）

結婚には適齢期はないけど、出産には適齢期があると思っていて、女性の身体の構造上、晩婚化はやはりすすめられないが、いたしかたない時もあると思う。（女性・40代）

仕事と家庭を両立できるように支援制度があればいいと思う（女性・20代）

そもそも最低賃金が低すぎる。給与が低すぎてカツカツの生活。欲しい物も買えないのでなんのために働いているのか分からない。とにかく税金が高い。12~3万の給与から3万も引かれたら1人暮らしをしたくてもできない。田舎なので車も持っていないといけないことがしんどい。（女性・30代）

自分は、まだ独身ですが、両立できる人を見るとすごいと思います。バランスを上手に出来るか不安です。（女性・40代）

男性が育児休暇が取りやすくなっているが、でもまだ男は育児より働くべきと考える大人がいると考える。そのため取りたくても取れないと思っている人もいるのではないか。職場の意識改革と雰囲気をよくすることが大切だと考える。（女性・20歳未満）

仕事を続けたい人を社会全体で支えられたらベストだと思います。待機児童をゼロにする、介護が必要な人を預けられる施設の拡充、サービスの多様化手続きも簡単にするべきだと思います。（女性・50代）

帰宅後も家事がスムーズにできるようになればと思う。（女性・20代）

仕事と家庭を両立させるには、残業がないことと休みの充実にあると思います。それさえできれば、両立は可能なのではないかと思います。（女性・50代）

仕事と家庭平等はとても大変、お互いに理解し合うことですね（女性・後期高齢者）

仕事は重要だが家庭をより重視したい。仕事にも良い影響があると思うが勤め先にもそのような意識を持ってもらえれば（男性・50代）

両方で助け合う、出来る人がやって、又その逆な事もあるので男の仕事、女の仕事と区別しない。（但し仕事の内容による）（女性・前期高齢者）

## （6）「介護や老後」

誰だって年をとるし、本当なら人の世話はイヤだな～と思うはず。家族が面倒を見ると言うよりも、お互い面倒みられる様なホーム（施設ではなくて）が増えて、年とっても楽しく生活できたらいいと思います。（女性・30代）

経済的な理由で必要な介護サービスを受けられないような状況を作らないような支援が必要だと思う。（女性・40代）

福祉施設の充実、利用料金の補助、職員の増員及び待遇改善が必要と思われます。（男性・前期高齢者）

地域のデイサービス等の料金体制や特徴を表した紹介ポスターの掲示（男性・60代前半）

低額対応での介護、老健施設の充実（男性・前期高齢者）

世間では、主に老人介護が一般ですが、老人が若い人を介護されているかたも結構目にします。（男性・前期高齢者）

自分が年をとった頃、ちゃんと年金がもらえるのか心配でならない。（女性・20代）

今は考えていないが、近い将来親のことがあるのでいずれは身近になるので考えようと思った。（女性・40代）

自分たちの親や自分たちが介護が必要になった時、世の中はどのような体制になっているか、不安に思う。法制度なども含め、安心して老後を迎えられたら良いと思う。（女性・20代）

親の介護施設について大変だったことが多く、自分自身のストレスから体調を悪くした。もう少し施設側の対応がopenで誠意のある方が施設運営をしてもらいたいものです。行政からの研修等でレベルupを望む所です（女性・50代）

現時点では介護する人は、いないけれど、子育ては、並行して、父親の介護をした。母親はすでに亡くなっており、家族、親類、そして、公的支援で、とても助けられた。ショート・デイ、利用できるものはほとんど利用し、子どもの参観や、部活動の遠征に同行できた。とても、感謝しています。（女性・60代前半）

介護をめぐるのはたまに悲しいニュースを見る。老いたら施設に行きたい。お金がなくて行けない人も何とかしてほしい。（女性・30代）

年金で十分足りる額で公的な入所施設をつくってほしい。親と自分の老後や介護がとても心配です。結局、「お金」が介護や老後の一番の問題だと思う。（女性・40代）

環境の充実。（男性・前期高齢者）

介護保険があるのに、家族に介護をになわせる（割合が高く）感じる。介護職の評価（賃金も）上げる必要がある。民間にまかせるのもいいが、関係機関の監査、第三者委員会（本当の！！）の目をもっときびしくし、予算のつかい方を考えていくべき。（女性・50代）



お金がかかりすぎる、老後や介護にとっても不安がある。(男性・60代前半)

半介護状態の家族と心穏やかな日々がおくれる世の中であって欲しい(女性・60代前半)

2人とも71才を過ぎ、娘や息子たちもいずれそれぞれの親の世話はしなければならぬ状況なので、私たちもいずれ介護されたりする状況になるにしてもギリギリまで自分たちで出来るだけがんばり、大変になったらいずれは施設や病院にと考えてます。(時々様子見に来てくれればうれしいです)(女性・前期高齢者)

老後は、何人かの人で、助けあいながらくらし、みたい(女性・前期高齢者)

親が介護が必要になった。そうなったらどうすればいいのか、自分がそうなったらどうすればいいのか、具体的にどうしたらよいか見えずに不安です。(女性・40代)

気軽(安価など)に利用できる施設を増やして欲しい。(男性・60代前半)

プロにまかせたい(答えない・30代)

老々介護など問題は山積み。福祉を充実させ安心して老後をみんながすごせれば(女性・前期高齢者)

今から老後のことはわからない。なりゆき。(女性・40代)

不安な人多いと思います。年金とか、少子化に。年金も、このままでは、上の人が使って何も残らないかと。ヘタせば借金。新しい制度とかつくればよいかと。(女性・60代前半)

親を施設にあずけていて、よくしてもらってはいるが、今ひとつ、サービスがいきとどいてないと思う面もある。過ごしやすいように、もう少し、サービスがいき届けばと思うこともある。マン・パワー不足が原因のように思う。職員の賃金ももう少しアップでき、士気につながってほしい。(女性・40代)

もっと、年配者がくらしやすいよう、買物時の補助、交通弱者への支援をして欲しい。(男性・50代)

一人暮らしの方へ行政がもう少し頻りに訪問して、老人の話を聞いたり安否の確認をしてほしい。(女性・60代前半)

お金がない人でもある程度の生活が老後はできるようになってほしい。(女性・50代)

これこそ、行政が全力をあげて取り組んでほしい。行政はここには介入しやすい。(女性・30代)

誰でも望めば入居出来る施設の数を増やし、家庭介護から解放されるようにする(男性・前期高齢者)

お金がかかるのでお金面の補助があるといいなと思う。(女性・30代)

今は施設等が充実してますけど、昔風に家で見届ける方法も考えなくもありません。(女性・50代)

現在、妻の介護をしています。介護必要になった時どのような状態になっているのか、不安で、時々考える時があります。(男性・後期高齢者)

自分も、妻、実家も、祖父・祖母と同居をしていて、介護は母(女の人)が行っていた。そういうのも、男女共生では無かったと思う。(男性・40代)

長い間働き、社会に貢献して来た人達が安心して生きて行ける老後保障を。(女性・前期高齢者)

晩婚化したことで、未婚で親の介護をする方や、何かの事情で一人で介護する方は、特に負担（身体的にも精神的にも）がかかると思うので、具体的に何ということでもないが、サービスや補助システムがあればいいと思う。（女性・20代）

1人でも充実した安心できる老後生活を送れる社会基盤を作るべきだ（女性・40代）

老人施設を増やすべきだ。（男性・前期高齢者）

生存していれば必ず行き着くことです。いいんです。若い者に世話になるんです。愛おしく育ててきたのですから、どうか、家でも、施設でもいい、かわいがって介護してくださいね。老後は口数すくなくしましょう。（女性・前期高齢者）

将来、子供の世話にはならないようにしたい。その為にはある程度の資金で払えるくらいの施設に入居できるよう施設を充実して欲しい。（女性・50代）

もっと気軽に施設利用ができるようにしてほしい。認知症が始まり、利用をコバむ老人が家族にあたえる苦痛をもっと減らせるようにしてほしい。（自由記載・20代）

敬老とは、親を敬う心である。施設にただ追いやるのが主流となっているが見直しを。（男性・60代前半）

できれば、家族や子供の世話にはなりたくないが、老いは避けて通ることができない、せめて子供世代に労力を含め、金銭的な負担のかからない行政であってほしい。（男性・60代前半）

高齢者介護へ意識がいきがちだが、それ以外の介護への意識も必要（男性・50代）

“嫁”の立場で介護し、悩んでいる人が多い。（身の回りで）（女性・30代）

介護の為に仕事をやめなくてもいいように施設の増設、充実を進める。介護制度をわかりやすい様に広報する、非常にわかりにくい複雑な制度である。（女性・50代）

介護士の給料をもっとあげないと、人員不足、サービス低下につながると思う。とても大変な仕事を、人のためにしてくれてるのに…。（女性・30代）

基本的には「持ちつ持たれつ」をモットーにしている。介護してもらうためには経済的金銭余裕を残す生き方を心がけている。（男性・40代）

長生きを望まない人もいる。その点をふまえてもらえるだけでQOLが高くなる人もいる。（女性・30代）

自宅での介助者（介護する方）へも、報酬が支払われても良いと思う。（女性・30代）

年金だけで、暮らしていけない。今のうち、貯蓄。そして、介護する年代の前に、行政サポートの方から、話を聴きたい。（男性・20代）

介護のため、帰省したが地域の時給の安さと、ハローワークでの、対応など見直しを希望する。（女性・60代前半）

人間誰でも老いを迎える。長い間、社会貢献した老後を、安心に暮せる社会になってほしい。医療費の軽減、独居老人宅の訪問、見守りの制度があればよい。（女性・後期高齢者）

老後やってはいけないこととして「子供との同居」と思っている。（女性・前期高齢者）

自分が歳を重ねて思う事は、親の介護に関してであり、中でも経済面の不安である(両親共に年金年活(国民年金)) (男性・40代)

年金がもらえるかどうか不安です。(自分がお年寄りになった時) (女性・30代)

自分で家族を介護したい人もいるかもしれないが、周りの助けもかりながら、相談できる場をもっと充実させてほしい。(女性・30代)

在宅介護サービス、介護施設の充実。(男性・60代前半)

なるべく他人のお世話にならないようにと思いますが、80才代になったら、つかれとからだは動かなくなり、腰も手術(3回)しているので生活するのが大変です(女性・後期高齢者)

遠方の親の介護を経験し、仕事の長期休暇や、交通費、医療費、介護費の負担が大きく、いつ終わるのかわからない不安など、大変だった。(女性・50代)

安楽死・尊厳死といった円満な「終活」に理解が深まればと思います。(意思表示方法の充実、同調圧力や偏見の是正など) (男性・20代)

老後安心して、住宅生活ができるシステムの構築(女性・50代)

介護サービスを充実すべき。家庭に負担がないようにしてほしい。介護者への支援、労働者への支援(女性・20歳未満)

各種老人施設の職員は、最近は職業意識が強すぎ、面会に行っても隔離されているようで、もっと施設と家庭の交流、つながりを大切にすることが必要。(男性・後期高齢者)

家族の理解。家族に負担をかけたくない。(女性・60代前半)

嫁にお願いして当然という古い考えが根強く田舎(秋田)にある。(女性・20歳未満)

つらい状況で働いている方への環境を整えてほしい。AIや情報管理、多方面を融合させてほしい(男性・20代)

これからは高齢者が増えてきますので、介護サービスなど低料金で受けられる様にしてほしい。(女性・60代前半)

高齢化社会、特に秋田は高齢者が多いため、これに関してはもっとシステム介護保険、補償(社会保障制度)を充実させてほしいです。お金がないから長生きできない社会はあってはいけない。(女性・50代)

男女平等(男性・20代)

介護や老後について、年の差により女性の方がしなければいけないイメージがあるが平等でなければならない。(女性・30代)

いつでも自由に入所する施設があるといいと思います(女性・後期高齢者)

家事の負担にならないよう、健康でいられればと思いますが、介護が必要になったら施設に入る等、自分で何とかできるように貯金しておかなければと考えています。(女性・30代)

家族の誰かが、介護の必要な状況になった時の負担（女性が特に）が大きすぎるので、少しでも心身の負担が軽くなるような手立てはないものかと、模索中です。介護サービスを利用しても、全てカバーできないので…介護者への心のケアも必要では？と感じています。（女性・50代）

年金の低い人もは入れる介護施設（女性・30代）

長生きして良いのか若い人に非常に気をつかう、家庭は楽しいと思うことは昔、今は非常に残念ながらそう思えない、だから行きたくないが施設に向かう（女性・後期高齢者）

子どもが親の介護（面倒）を見ることはあたりまえだと思う気持ち。又、親は老後、いかに子どもの世話にならないよう、健康に過ごせるような自己管理をしっかりとお互いに持てるような社会になるよう願っている。（女性・50代）

介護に対して、もっと社会や制度が協力的になるべき、男性も他人事だと思わず、介護に参加するべき。（女性・20代）

私たちの老後は年金だけでは暮らしていくのは難しいと思う。（女性・30代）

やっぱり老後は介護が必要になると思います。なるべく自分の事は自分で出来るように体を動かし体力をつけるべき。（女性・後期高齢者）

女性に負担がかかりがちだと思う。夫婦でお互いやれることを分担すべき（女性・20代）

誰でも命がなくなる日がきます。それまで笑顔で感謝ありがとうございますといえるように、こちらの地域にきて、サービスセンターの各クラブに入会、週3回外出もでき満足しています。（女性・後期高齢者）

男性に介護や看護する役割が自分にもあるという自覚が全くないと感じる。家事や育児も同様で、男性にも役割が当然のようにあるという意識が持てるように、教育をしてほしいと思う。子どもというより、既に働いている人々への研修とかもしてほしい。（女性・20代）

その人の子供が負担を背負っているため、負担が大きくなりすぎないようにしてほしい（女性・20代）

介護に時間とお金をとられすぎている人が多すぎる。それを見ていると自分は老後に他人に迷惑をかけたくないと思う。どうせ年金ももらえなさそうなのでその前に死んだほうが良いんじゃないかと考えている。（女性・30代）

秋田県は特に老人が多いから、今後が心配。（女性・20歳未満）

自分の親、義理の親の介護はまだまだ先だと思いますが、介護＝女性がやる、長男の嫁という勝手なイメージがあります。個人的な事ですが、結婚前まで介護職でして、主人は長男です。転勤族なのでいざという時に十分な介護がその時にしてあげられるか…（女性・30代）

自分は、出来るだけ介護されない程度に体を保っていければ理想です。（女性・40代）

年老いて大変なことがあっても、生活の中に介護保険があっても、取り入れて活用できない。うまく利用している人がうらやましい。（男性・後期高齢者）

公的施設の拡充を。待機待ちが少なくなるように（男性・60代前半）

気軽に利用できる老人ホームや相談に行ける公的窓口が増えることを望みます。敷居をもっと低くしてほしい。（女性・50代）

頼れる人や場所、環境があれば良いと思う。(女性・20代)

介護する人もされる人も皆大変だと思う(女性・後期高齢者)

介護に頼らない老後をおくるには、お年寄りにも積極的に参加でき、無理のない範囲で社会貢献していただく(男性・50代)

高齢化が進んでいる今、自分が高齢者になって働かなくなった後、現在と同じようなサービスを受けられるか心配。(女性・20歳未満)

今迄は？今もそうですがこの問題については、女性はどちらの親であれ介護はほとんど女性がやると決められている感じ、これこそは区別なく両方での仕事(女性・前期高齢者)

## (7)「男女の人権」

ハローワークでの仕事を探す面において男女の差別が大きい(男性・30代)

男も女も同じ人間です。好きな事、大切な事を、差別的な感情や偏見の目でみる事なく、そうなんだ！って思える時代になるといいと思います。(女性・30代)

男には男、女には女の良さがあるのでお互い認めあい尊重して、生活をしていったほうが理想と考える(男性・60代前半)

本当に男女平等になったら、肉体的に弱い女性が苦しくなりそうなので、相対的平等を目指してほしい。(女性・20代)

男女平等＝残業量も同じに。になったらいや。(女性・40代)

だいぶ女性も活躍しやすい世の中になってきたと思うが、会社や地域にもよると感じられるので、より一層浸透して行ってほしい。(女性・20代)

子育て、介護ともに、私中心でしてきたけれど、「女性が家庭を守る。」という考えに疑問を持った事は、なかったと思う。正直、男の人にまかせて、二度手間なことが多かった。(女性・60代前半)

男女の人権は平等であるべき。(女性・30代)

さわざすぎている、逆に男は働いて、家のこともたくさんやるようになり、むずかしい問題です(男性・40代)

法律の充実(不足)(男性・前期高齢者)

これからの若い人達は、差別、区別ない生活をおくらせてあげたい(女性・60代前半)

力の強い男性が力でもって女性を屈させる事はあってはならない事です。(女性・40代)

ささえあいできることできないこと人それぞれ(答えない・30代)

まだまだ男・女の区別あり人間として生きられるように(女性・前期高齢者)

男女とも意識改革が必要(女性・後期高齢者)

昔よりは進んでいると思う(男性・50代)

男女の人権は年寄りほど理解がないので、TVなどで啓蒙活動をして頂きたい。(女性・30代)

基本的な自由権はあってもいいと思います。(女性・50代)

今の職場は、男女の給料、職種関係なく平等なので、そういう意味では良い職場だと思っている。(男性・40歳)

人間らしく生きる為に、男女共に、子孫を残して、命を繋いでいこうと思う。だから強い者は、弱い者をささえていこう。多様性は、だれもが知ることの出来る現代社会になっただけの話と思える。(女性・前期高齢者)

セイジとか「良い立場」にいるのは圧倒的に「オトコ」です。世の中色々な人がいます。セイジももっといろんな人(LGBTs・オンナ)が増えたら、世の中生きやすく出来ると思います。(自由記載・20代)

男も女も同じ人間であり、その場において、逃げるのはやめてほしい。(男性・60代前半)

平等であるべきだと考える。ことさら男性が、女性がという考え方を修正しない限り、年齢・性別の格差は埋まらないと思う。(男性・60代前半)

相談しなければ教えてもらえず、知らない事が多すぎる、介護の問題で心中する事件を聞くと、いたたまれない、介護職の給料を上げる必要もある。(女性・50代)

性別による、区分けはそろそろやめるべきだと思います。(女性・40代)

何でもかんでも平等をうたいすぎても男女で身体的な力の強さも違うし、そういったことが忘れられたくないなと思います。(女性・30代)

どちらも地球に生きる権利者として、秩序を保つ「義務」を持っている(男性・40代)

男がたくましい。女性がおしとやか。(スカートを着れない)(ハイヒール・ピアス等が、いらなとも思う。)何に対しても、異常でなく、ロールモデルが必要だと思われる。(男性・20代)

女性の権利と言って、男性の権利がないがしろにされている。(男性・30代)

女子高校がほとんど共学になり、女子教育が進んで女性の意識はグローバルになり高まっているのに、男性の意識改革が遅れているように思う。男女各その特性に応じた社会生活ができれば嬉しい。(女性・後期高齢者)

LGBTQの人が普通に公言出来る世の中になると良いですが、LGの方は子供をあきらめなければならないので、親は辛いと思います。また、それを利用した性犯罪が増えなければいいと思いました。(自分はゲイとうそを付き、女性をだますなど)何かを解決しようとする、別の問題点にぶつかり、やはり難しい問題だと思いました。(女性・30代)

男女、何事にも平等になってほしい。(女性・30代)

「働きたい女性」の裏には「母親に会いたい子供」がいることを忘れないように進めていただきたいですね。これは私怨ですね…(男性・20代)

性犯罪に対する加害者への刑が甘すぎる。(女性・20代)

男女ともに守られるべきもの。(女性・20歳未満)

女性に生まれた時点で、大卒なのに無意味を感じる。(女性・20代)



ハラスメントについて、最近取り上げられてきましたが、40代～の年代は教育不足と感じる事があります。役職が上の人ほどハラスメントについて認識不足と感じます（何を言っても許される）。何か対策などありましたらお願いします（女性・40代）

まだなんとも言えない。（男性・30代）

それぞれへの理解と思いやり。（女性・60代前半）

平等に考える人がふえてほしい。（女性・20代）

生活する中で特に不平等だと感じない（男性・20代）

仕事・家庭・教育・法律など、あらゆる面で男女平等ではないなと感じています。制度的な面で平等になることはもちろんですが、意識的な面で、教育や啓発が重要だと思います。（女性・30代）

男女同権というよりは、男性・女性の特性を生かし、共存・補い合う必要があると思う。（女性・60代前半）

老害が多い（女性・30代）

男性、女性の持つそれぞれの良さを尊重しつつ、人間、一個人としての人権がまもられるような社会であって欲しい。（女性・50代）

もっとお互いを尊重し合えば良いと思う。（女性・30代）

同等であるべき。（女性・後期高齢者）

この表現があること自体が差別的だと思う。（女性・40代）

男女平等には一生ならない気がする。（男性・40代）

細かいことにうるさい人が多すぎる。「男だから～…女だから～…」など他人に言われる筋合いはない。（女性・30代）

男から女にセクハラだけでなく、男同士、女同士の格差や、いじめパワハラが目立つようになったような気がします。お互いの距離を少しずつ縮めていければなと感じます。ただ、現実的になくならないのが本当の事だと思っています。（女性・40代）

相手の親との同居は、どちらかに負担が多い。また親族の理解が乏しい、経済的な援助と介護の充実があり独立した生活が出来るように。（女性・50代）

女の人一人になっても人はたずねて行きやすいが、男の人一人の所は行きにくい、昔はこのくらいであったが、今はとなり近所のつながりが本当になくなりました。女の人でも男の人でも皆が淋しい世の中になりました。人のつながりのなさを感じる今日この頃です。コロナのせいばかりではないと思います（男性・後期高齢者）

プリクラ撮影できるところに「男性のみの利用はおことわり」と書いてあるのを見た。何か理由があるにせよ、そういう書き方では差別のようにしか感じないため止めた方が良く考える。（女性・50代）

人権は平等であるべき。小さい頃からの教育が大事だと思います。男女差があってはいけない権利です。（女性・50代）

男性だから、女性だからというような考えが無くなると良い。（女性・20代）

平等になることは一番良い（女性・後期高齢者）

職場でのお茶出し、もらい物のお菓子の配布、タオルの洗濯等は女性がやって当たり前という意識がおかしい。どんなに忙しくても時間を削り雑用をしている横で暇そうにしているにも関わらず代わろうともしない男性を不思議に思う。（女性・20代）

女の人ばかりが今注目されてるけど男性でも差別されたりしている人達を助けてあげて欲しい。（男性・30代）

男女の人権が等しくなり社会が発展していければと思います（男性・50代）

男女平等とかかかっているが、そもそも天皇も首相も男性なので表面的な政策にしか聞こえない。首相は能力実力の問題ではないが、天皇はどうにでも変えられると思う。（女性・30代）

自分の周りや学校では特に感じないが、親の話や、ニュースで政治家の発言などを聞いていると、無自覚でも根底に差別意識がまだまだあるのではないかと思う。（女性・20歳未満）

男だから女だから…と言う考え方をするのが問題で、年寄りの方ほど頭がかたいと思います。（女性・60代前半）

この問題についても上同様女性も男性以上に働いてきた女性もいる。その事を少し考え、女性の立場、自由時間は権利にかかわらず持つ。（女性・前期高齢者）

人権を認める、平等に尊重し合える。（男だから、女だから、やれること、やれないこと認め助け合う）（女性・50代）

## （8）「自由欄」

口座凍結しないでください。かせぎも0ゼロたすけて下さい（男性・50代）

今はかなり女性が優遇されている時代だと思う。秋田は少し遅れているが、全国的に見れば、男性の方が今はさげすまれているところがあると思う。（男性・60代前半）

日頃から考えている事は特にありません（男性・60代前半）

若い世代（20～30代）は、多様性への理解が広まってきていると思う。40代以上の方が、未だに男尊女卑の考え方が強かったり、多様性への理解が遅れていたりする気がする（偏見）。「理解」までしなくとも、「差別しない」ことや、「批判しない」ことはできると思うので、世の中の人の心が広がってほしい。（女性・20代）

ゲームの過激さが現実と空想の区別をつける事ができなくなっているように思う。（女性・60代前半）

地方では、多様性に触れるチャンスが少ないです。子育て世代としては、大変残念だと感じています。子どもたちが自ら性自認や生き方を選択ができるのだと想像できる環境が身近にあればよいと思います。（女性・40代）

出産、子育てに対して、世間の理解は足りなかった。今はどうだろう？「専業主婦」「無職」「遊んでいる」。収入の発生しない仕事に対して軽視しがち。おそらく、介護もそうだろう。地域、年代、性別、育った環境でも考え方は違ってくる。経済的豊かさ、時間のゆとりが必要ではないか。（女性・60代前半）

秋田市でこのような施策がある事を初めて知った。「男女平等」という言葉は以前から良く聞く言葉だが、男女健常者、障がい者、LGBT 等個々を認め合える、社会になっていってほしいと思う。時代が変わると常識としていたものも変わっていく。ついていくのが大変です。日本人として変えていかなければいけないものまた、変えずに残しておかなければいけないものもあるはずですよー。女性活躍推進担当様ががんばって下さい！！  
(女性・50代)

昔と比べると、比較的男女の格差というものは無くなってきているとは思いますが、まだまだ不十分であると感じるところがある。さらに、国や行政機関がこういった問題に力を入れ、改善して「男女共生社会」という言葉が無くなるくらい当たり前になる世の中になってほしい。(男性・20歳未満)

男性の意識を変えないと、何も変わらないと思います。男性の都合のよいところだけ男女平等と言われるのも不満です。また、働きたくない女性もいて、主婦でいると後ろめたいこともあるようです。もっと自由に生きていける世の中にしてほしい。すみませんが、アンケートの内容もおくれているように思います。まだこんなことを調査しているのだろうかと感じます。(女性・40代)

知人にトランスジェンダーの方もいるし、何の違和感も無く、接しています。それに対して何の教育も受けていませんが、自然に個人の考えなのだと思います。(女性・50代)

みんながみんな、ハッピーにはなれないけど、個性を重要視して尊重し合うことを大切にしながら物事を考えている。海外から来ている外国人に対して、閉鎖的な考えをもつ人たちとは、上手く人間関係を作りたいとは思えない。LGBTQに対してもそう。これも差別的な考えなのかなぁ、とも思う。自分の意見と違う人を受け入れるのは難しいですよー。(女性・20代)

何事にも「男(女)だから…」という考えは捨てた方がいいと思う。また、どっちが上だとか下だとか比較する必要はない。一人の人間として認めてあげる必要があり、格差があってはならない。(男性・20歳未満)

本調査では、無作為に選んでいると云われますが、80歳をすぎた私には、質問に対する回答を出すのに大変窮します。(男性・後期高齢者)

弱い者がだまる、泣きねいりする社会はやめてほしい。DVが原因で離婚したが、依頼した弁護士(男性の方)に「養育費を頂くには、子供の面会交流が必要だ。何故なら男の人は子供と会わなくなると責任を果たそうと感じなくなる。」子供が嫌がっている状況を伝えたと、「援助交際と同じだよ」と不適切な言葉を言われ、何もかえすことができなかった。権力のある方が、上なのかと思いました。社会全体をかえてほしいと思います。(女性・50代)

男女とも意欲がある人が働き続けることは良いと思いますが、例えば、職場に育児休職や介護休職した人がいた場合に、その間の代替要員がいなければ職場全体でサポートすることになり、負担が増えると思うので、会社や社会全体で取り組む課題だと感じています。(男性・50代)

男性、女性と区別があるのが現状だと思います。一人の人間を、一個体として考えなければ、「男女を区別しない」という事は、社会的には理想でしかないのではないのでしょうか？そもそも、このアンケート自体が、男女を区別していると自分は思います。第1問の男ですか？女ですか？必要ですか？(女性・50代)

情報、身近では少ないように、感じています。これからも勉強していきたくて考えております(女性・60代前半)

男女共生のために制度や施設、職業ばかり増やしても意味がない。制度・施設は広く周知し、利用率や利用数を明確に数値化し、必要ないものはなくし、必要なものはもっと稼働率を上げる努力をするべき。作りっぱなしでは意味がない。作って仕事がおわりではないですよ。「相談支援」という言葉がひとりあるきしている。相談支援員はみんな仕事が文書作成のみになっており、アセスメントやモニタリングを十分していない。(女性・40代)

男性の意識が変化しないといけない職場があり、直していかなくてはならない。ことばにして周囲に女性の事を話しているので、やめさせないといけなかった。(男性・前期高齢者)

個人的には、働きたい環境で働くというのが普通であると思う。どんな環境、現場にでも女性を登用しなければならないことや、障がい者を登用することには反対です。それぞれの個性、特性を生かした環境であれば、無理に女性や障がい者の雇用割合を高めなければならないという流れは少し違うと感じる。ただし、私の受けてきた教育が時代に沿っていないのかは分からないが、女性、障がい者を登用するのが、生産性、効率性、感情的に豊かになるのであれば替成です。(男性・30代)

「男女共生」はもともとしていると思います。家庭、社会の役割が男・女と分けていたところを、女性の社会参加(職業をもって)で、既存の社会的習慣がなじまなくなった(個人の考えも含め)と感じる。(女性・50代)

職場の台所(お茶当番)は女性だけです。お客さんへのお茶出しも女性だけです。会社のトップの人が考え直す機会がないと変わりません。男女共生と言っても現実は無理な気がします。スーパーの食料品売り場でも例えば「メンズデー」ポイントサービスとか男性が積極的になる機会があればいいです。温泉施設も男性・女性だけでなく貸切をふやすとか、トイレの使用も公共の場で「みんなのトイレ」をふやすとか、どうしても大人数の中に入れたい人を救ってあげたいです。中学生、高校生のように大人なのか子どもなのか、扱いがむずかしい時期に教育を徹底してほしい。修学旅行も携帯を使えないような地域で食べることに電気、水道生活のありがたさが分かるように体けんしてほしい。何より、命の大切さを平等に考えてほしいです。長々とすみません。(女性・30代)

これからは男女共働きやすい環境づくりを考えて行くべきだと思います。ますます結婚をしない若い者が多くなると思いますし、日本の将来をもう少し考えてほしい！(女性・前期高齢者)

表面的には良いように言いながらも結果的にかたよっている(女性・40代)

余り考えた事がないので特にありません(女性・前期高齢者)

多様性を認めるのも男女共生も精神的経済的な自立の基に実現されることだと思う。行政や経済が担う役割は大きいと感じる。このアンケートも実際どのように役立てられるのか？具体性が見えない。(女性・60代前半)

男女共生社会とよく言われているが、そもそも男女の体の作りも違うのに男性並みに働けと言われても困る。女性は生理もあり、その日によってはベストパフォーマンスができないこともある。そのことで男女能力の差があると評価されることが不平等。生物学的に様々な人がいること、みな、それぞれ価値のある存在であることを認められる社会になるよう願っています。(女性・40代)

市、県の人事異動を新聞で見た時、部長クラスはほとんど男性だったと思うのですが…。市役所から意識改革してはどうでしょうか？男女共生についてのこのアンケートがパフォーマンスで無駄にならないことを願います(女性・40代)

男性も女性も育休同じくらいとるようになれば、働いている女性の出産、育児への不安もへると思います。仕事を長く休む不安も大きいです(女性・30代)

子育てや介護となると男女のどちらかが仕事をせずつきっきりで行わなければならない場面が出てくると思う。そういったときにお金で困らないよう、男女関係なく賃金を上昇させることが、男女共生社会や多様性社会の実現、その先の暮らしやすい秋田市の実現につながると考えている。(男性・20代)

男性も積極的に子育て、家庭の仕事ができるように、男性にも育休は必要だと思います。気兼ねなく育休が取れるように、社会も変わってほしいです。(育休中でも手当をいただけないと生活できませんので、その辺も含めて…) (女性・30代)

男女平等で、偏見のない世の中になればいいと思います。私自身も、精神的な面で心の病一步手前までになり通院してた頃、よく話す近所の方に近況を聞かれ、通院していると話してしまい、その日を境に無視されるようになりました。こういう事にも理解などがあるようになったらいいなと思う出来事でした。(多様性に関係なかったらすみません) (女性・40代)

男女どちらかに過剰な負担がかかることのない社会になれば良いと思う。(女性・20代)

女性が活躍することは大いに結構な事であるが、調査の項目にもある、「女性の積極的な登用・参加」については、個人として尊重されていないようで、違和感があるし、男性差別にもつながると考える。「男女共生社会」を目指すのであれば、個人の尊重が重要であるし、個人の能力が生かせる社会が理想と考える。男女の身体的特徴にもよる得手不得手もあるし、個人的な得手不得手もあるのだから、それらを補い合えばいいと考える。「多様性社会」については、寛容が重要だと考える。そのためには、多様性とは何かを学んでいかなければならないし、衝突することもあるが、それを乗り越えなければ、前進することは無いと考える。「寛容」することは非常に難しいが、「寛容」がなければ、相手を認めることも難しくなってしまう。(男性・30代)

「男性だから〇〇しなさい、女性だから〇〇しなさい」など、性別による言動の制限をしてくる人が、たまにいる。個性をもう少し認めてもいいのではと思う。(男性・30代)

男女共生社会や多様性をお互いに尊重しなければということ、そうだと思うが、現実にはなかなかうまくいっていないと思います。少しでも、よりよい方向にして行くためには、子供のころから教育等の場でわかりやすく指導して行く必要があると思います。(男性・前期高齢者)

高齢化が進み男女共生社会には感心がない (男性・後期高齢者)

男女は区別(体力などの能力で)されているのに全く平等というのは無理だと男。区別と差別、平等と考えるのはおかしいと思う。(男性・30代)

I Have a Dream である (答えない・30代)

私達が家庭を持ったり、働いたりしている頃と比べると、今の若い男性は、共働きで家庭を持っている女性に対して、理解があって、家事や子育てにも積極的に協力していて、育メンとか言う言葉もあるので、そういう面ではだいぶ、女性も家庭を持って子育てをしやすくなったのではないかと思うし、昭和、平成、令和となり、時代の流れを感じる様になりました。そう言う面でも男女共生社会が、できてきていると思う。(女性・60代前半)

これらについてあまり深く考える機会がなかった。最近になって、「男女共生社会」や「多様性社会」を目指す動きが高まっているため、より意識することが重要になると感じた。(男性・20歳未満)

決まった結論のために答えを誘導しているようなアンケートでした。(男性・40代)

独身なのですが、結婚とか出産とか、家庭とか不快なアンケートです。他人の事はどうでも良いです。結婚すると苦労するのはわかっているというかあたりまえです。結婚したひとで幸せな人を見たことがありませんよ。(女性・40代)

障がいを持っている人も、差別なく、就職に働ける環境があると良い。今の社会では、就職、働くことが十分ではなく、その為、生活苦も考えられる。結婚して子供を育てていくお金がかせげない。結婚が全てではないと考えてしまう→しなくても仕方ない。良いのでは…。(女性・40代)

医者や大工などの分野でも、女性がふえてきているので、大変よいと思います。TV や本で、又、何かの機会に、とりあげてほしいと思います。(女性・60代前半)

50 才過ぎてからの職探しはかなりハードルが高いです。悲しい。男は男の役割があり、女には女の役割があると思うのです。第一に男は今のところ子供を産むことは出来ないのですから。最近の極端な男女平等の声はきもち悪いです。(女性・50代)

聞いたり、読んだりしたことは、すぐに意識を変えて行動するようなことにはならない。情報で人の行動を変えられると何故考えられるのかがまちがっている、問題設定を考えなおそう。(女性・40代)

男だから、女だから、障がいがあるから、病気があるから、ではなく、「人」が「人」として互いに補い合って助け合える社会になるといいなと思います。(女性・20代)

生物学的に男女の違いはあります。全てを同等することを無理に進めることで社会がゆがんでいるように感じます。他方の利益、不利益を声を大にいうのではなく、他者を思いやることを目指すようにしてほしいです。(女性・50代)

男女平等は大切なことではあるけれども、男と女にはそれぞれの特性もあり、まったく同じということは難しいのでそれぞれ、また色々なひとすべてが生きやすい社会になってほしい。(女性・50代)

平等と強調するのではなく、尊重が大事であると考え教えていくこと。そもそも男女、人それぞれ境遇が違うのだから。思いやりの心です。(男性・40代)

道徳観がある男女共生社会になって欲しい。しかし、多様性社会を強調しすぎると副反応のような別の社会問題が起きる可能性が高い。(男性・40代)

男女平等はもっともであるが、男と女は同一でないことを認めたくて男の特性、女の特性を尊重したうえで共生する社会・家庭をつくるのが大事だと思う。役割分担についても違いがあってもよいと思う。(男性・前期高齢者)

男女問わず、一人一人がもっと自己の人権を確立し、社会での役割をしっかりと果たす目覚を持つことが大切だと思います。(女性・50代)

自分の若い頃と比較すれば、男女共生社会や多様性社会についてはずいぶん進んだのではないかと思う。これからの社会を担う子供達への教育で、やがて理想に近づく未来が来ると思う。いくら啓蒙などやっても、古い人間の考えはなかなか変えられないと思う。社会的な影響を気にして、うわべだけの対応がなされ、根本はなかなか変えられない。(男性・40代)

若年層の意見を様々な政策に取り入れて暮らしやすい世の中にしてほしい。(女性・20代)

個性を無視したなんちゃって平等が多いように見えます。一人一人差があってもあたりまえなのにそこを平等に扱うのは差別とも言えると思います。平等をうたう必要がある時点でまだまだだと感じます。(男性・20代)

離婚してシングルマザーですが、実家に戻り、自分、父、母、子供と生活しています。父が公務員なので子供の扶養手当がもらえません。同じ家にいるとはいえ、父の給料の金額で手当がもらえないということにとっても不満があります。子供を育てている人の給料で判断するべきなのでは？自分と子どもの2人だと子供がかわいそうだと思います。実家に戻りましたが、手当をもらうには2人さみしく暮らせということでしょうか？子供がお金で将来困ることがないように少しでも多くのお金を残してあげたいです。(女性・30代)

秋田市、県の最大の問題は高齢化であり、まずはそれを男女、多様性については、学校教育の中で徹底したほうが良い。地域性として、男が強い思想が残っている。世代が替わるにつれ、問題意識は変わってくると思う。(男性・40代)

他人の立場に立って考える＝思いやりについて、しっかり教育を行う。性差別に対する法改正を。(男性・50代)



女性の参画・登用を促進するとかではなく、男女の性別関係なく能力のある人を登用すればいいのであって、性別どうのと言っていること自体がナンセンス。(女性・30代)

男女共生社会の実現には、すべての人の意識が変わるということが重要だと思う(男性・20歳未満)

「男女共生」「男女共同参画」と聞いても、意味や違いがわからない。性による違い(体力など)はあるので、そうした違いに配慮して、性問わず、障がいの有無問わず、皆生きやすくなるといい。「平等」ではなく、「違いの配慮」が大事のように思う。違いはあるのだから、平等にしすぎると不平等になる。(女性・40代)

マスコミの意見、情報はかたよっている。正しい真の情報を発信してほしい。(男性・30代)

今の時代変化が早く、IT等も多様化して自分達の若い頃とは、全く違うと思う。自分で働いて、給料をいただき、全て自分で使う事が出来る今だから異性との出会いも少なくなっている現状ではないだろうか…?(男性・前期高齢者)

男性が仕事をするのが、あたりまえを変えていくことが必要と思う(男性・60代前半)

このアンケートに回答したことで日頃あまり意識して時間をとって考えていなかった事について改めて自分の考えを意識する機会となった。ありがとうございました。(女性・20代)

アンケート調査の機会を与えて頂き有難うございました。(無作為でしたネ)独身で自由に生きていた頃の間(私)の我慢のなさ…。家庭を持ち、我慢強さや、我子の誕生を通して、初めて男女共生社会のあり方を考えるようになった。産声をあげた時、誰一人として中性の子は居ない。男・女です。支え合い助け合って生きていきたいと思う。男女の理想のあり方や、区別などについては、時代と共に変化しているので今は、一つの答えなどありえないと思っている。(女性・前期高齢者)

多様性を認められないでいるのは年寄り(男性・20代)

LGBTQへの配慮を、とよく言われるが、体は男性のまま女子更衣室を使わせるよう要求したり、学校のトイレを男女一緒にしようというのは(LGBTQ以外の)女性への配慮がないと思う。また、一度そういうのを認めたら、トランスジェンダーのふりをして女性用のトイレや更衣室に入ろうとする男性なども増えるのではと心配になる。(女性・30代)

民生委員という役職があり金銭をもらっているそうなのだが、何も役目をしていないような気がする。町内にどのような人がいるのか巡ってきたことも一度もない、不安である。(男性・60代前半)

コンプライアンスや平等社会の実現などの、問題提起ばかりが先走り過ぎて、個人の意識が追いついていないと感じる。(男性・60代前半)

秋田は年寄りが多く若い人が少ない。給与を上げて若い人を増やさないとやはり「共生」や「多様性」などの考え方などを変えていく事は難しいと考えます。年寄りが多いとどうしても古い考え方にかたよりがちだと思うので、制度や社会性を考える(新しくつくる)となっても定着には時間がかかると思います。まずは、若い人の地方定着と人口増を考え、制度や働き方の活用などに新しい風を取り入れて下さい。(女性・50代)

あまり神経質になってもキリがないと思う。男女より、職場内(\*\*\*\*\*)の「\*\*\*でも4大」を改めてほしい。実力があっても対外的に大卒を正社員にする。昔は進学率が低かったので、能力の物差にはならない。問20の答え方がわからなかった。もう少しわかりやすくしてほしい。Web解答でもいいと思う(女性・50代)

若い人は多様性や男女について理解あるが、年を重ねるごとに理解していない気がする。管理者や上司が理解を示さないと改善されない。老害が多い。(女性・30代)

男女平等も良いが、やはりお金の問題でしょう。最低賃金が安すぎる。地域で平等になっていない。(男性・40代)

男女共だが、権利を主張する前に義務を果たすことの必要性を認識することが最初の一步だと思う。権利だけを主張しているように聞こえることが多いように感じる。(男性・40代)

職場において、女性の方が「男女共生社会」の意識が低いと思う。例・共働きの方でお子さんが病気などになった場合、女性(母親)が休む。(男性(父親)の意識が低い?) 出産・育児や生理休暇などで女性が公休する事には理解できるが、男性へのフォロー(社会的・社会的補填)がない(少ない・あることを知らない?)と思う(男性・50代)

男性でも女性でも一人の人として生まれてきたと思います。たとえば男性でも仕事より家事の得意な人もいれば女性でも家事の苦手な人もいます。お互いが理解することが大事だと思います。(女性・50代)

都市部に行かなくても、暮らしや仕事等について地方でも魅力的な町になっていかないと人口減などが進み、どんどん衰退していく。若い世代が暮らしやすいものにして欲しいと思います。(男性・50代)

介護士、保育士等の職場について、「きつい割に給料が安い」と聞きます。労働環境を整え、就労しやすくしてほしい。(女性・60代前半)

秋田県、独自で支援金を出していると思う。それを見て周りの県がどう思うか分からないけど…。アンケートをとっても、何も変わらないなら、そこまでと思っています。何か変わる事を期待しています。今の知事や市長では、無理でしょうね。(男性・40代)

男女は共に家族の構成員。お互いに協力し、社会の支援も受け、家族としての役割を果たしながら、家事、育児、仕事、学業に取り組みたい。多様な活動を自らの希望に沿った形で発展でき、男女がともに夢や希望を実現できる社会の仕組み作りが進むことを願います。(女性・40代)

男女共生社会や多様性といった言葉は耳にしますが、生活の中での実感は今はまだありません。(男性・40代)

男女共生、多様性という言葉がよく使われるようになったのは、社会が変わろうとしている流れと思う。これからの取り組みで、どのような社会になるかが変わると思う。(女性・40代)

万人ウケの施策はコリゴリ、見飽きました、なんか自分は男なのに女って主張して女風呂に入ろーとしているやからを社会的に認めようっていうやつらしいですよ。他にもいろいろとやばい情報があるので慎重にすすめたほうがいいですよ(男性・30代)

「女性を積極的に昇進する」等といった表現は、男女平等になっていない、とずっと思っていました。個々の能力を見て、昇進なり任命なり出来るようになれば、本当の意味の”男女平等”であると思います。ただ、男女平等を目指すとはいえ、身体は男女ちがいます。そういった差別化はずっとすべきだと、感じます。(トイレや更衣室、お客様の立場から、同性だからこそ出きる仕事等)出産においても、女性しか子供を産めないのは変えられようがないので、同性同士の恋愛をすすめていくのも少子化につながりますし、とはいえ同性愛者を否定するのは人権問題になりますし、難しいと片付ける程簡単な事じゃないですが、難しい問題としか言いようがないと思いました。(女性・30代)

多様性、男女の人権、平等などあまりにもこだわりすぎると左派系のように、ついには「夫婦別姓」の方向に行かなければよいと切実に思う。市内の会社に勤務している女性でも低収入で働いている人も多いと聞く。この人達が生活していけるよう給与格差の是正、又、母子家庭への援護等を優先してもらいたい。(男性・前期高齢者)

70 数年前に生まれ、家庭や学校からおしえを受けて、私が今まで生活してきた社会とは違い、難しい問題だと思います。個人の自由、人間としての本能などもありどんな考え方の人でも、生活しやすい社会であって欲しいと思います。(女性・前期高齢者)

職種によって男女の偏りが大きいものが多いと考える。例えば建築業界は男が圧倒的に多く、大学で建築系の学科があるところでも同様である。他にも保育士に女性が多かったり、国会議員や市議会議員に男が多かったりする。秋田県は特に選べる職種が少ないように感じるので、職種による男女の偏りが大きいのではないかと考える。(女性・20代)

「男女平等」を謳うのではなく、男女不平等をなくす取り組みをすることを意識するべきだと考える(男性・20歳未満)

今後秋田は働く人材不足にますますなると思います。若い世代が働きやすい環境だったり、いくつになっても、働けるように、なればいいと思います。そのうち、外国人の方たちも増えてくるとは思いますがその時人種差別や偏見がないような秋田だったらいいなと思います。(女性・40代)

歳が百歳以上なので、「男女共生社会」や「多様性社会」についてよくわからない。(女性・後期高齢者)

日本は現在、不景気に加え、新型コロナウイルスの影響により余裕がない状況だと思います。また仕事の内容もIT業界の盛り上がりにより、過去よりも力仕事などの男性優位な仕事は減ってきているのかも知れません。様々な状況をよく考慮した、政策を検討していただきたいです。(男性・20代)

男女平等を声だかに言わずとも、一人一人を尊重するようになれば、各々の違いを理解した上で、その人らしくいられるようになると思う。(男性・40代)

「女性を管理職に」という熱が強くて疲れる。男女平等にしたいから急いで女性を出世させようとするのは、逆に恐怖。そこを目安にするのはおかしいし、急いで出世させられるのは、それに対応できる未婚の女性が多くて女性の中で不平等を感じる(女性・40代)

年上の方で、女性の社会進出を嫌がる男性がいる。女性の社会進出を否定する男性は、「女性が活躍する社会」というテーマの研修・発表に興味を持たないし、参加もしていない。いくらメディアで取り上げられても、聞く耳を持たない。このような男尊女卑の考え方もいるため、これから管理職などの役職につくような人材・世代の人々には、男女共生社会に関する学びの場所に強制的に参加させる機会を作る必要があると思う。強制的というのと不快を感じる人もいるかもしれないが、そうでもしない限り社会全体の意識向上はできないと思う。(女性・30代)

自身が勤める職場は、多様性となっており、女性でも若い方でもがんばれば報われる面もあります。特にはありません。(男性・40代)

私が若い頃は、女性は結婚をして家庭にはいるというのがあたりまえだったように思います。それでも、仕事を続け、定年まで働いた友人を私は尊敬しています。娘が結婚して、孫が生まれた時、保育園の送迎や買物を2人で分担してやっているのを見て、とても嬉しかったです。私の子育ての頃には、考えられない風景でした。我が家は、主人ファーストでなにがなんでもまず主人優先でしたから、それに反論せず従っていた自分もなさげなかったです。(女性・前期高齢者)

まじめに生きてきましたが、思い通りにならない事がたくさんあるので大変だと思っています。(女性・後期高齢者)

男女平等、多様性社会というのは、最終的にどのようになれば平等と言えるのかがわかりません…身体的な違いを個性として生かしつつ、個として認めあい…結局は、どのようなことを言っても、どのような状況にあっても人にも自分にも思いやりの気持ちを持って向き合っていくということでしょうか…自分のことばかりでなく相手の気持ち、立場を思う…そういうことの積み重ねでしょうか…(女性・40代)

## 男性の思いやりと女性自身の努力（男性・後期高齢者）

一人っ子が増えている現在、男であろうが女であろうが親の問題を一人で何人もおこなう人もいる。一人っ子同士の結婚も大変。介護の後は墓問題、経済的負担も大きい。男女平等から35年、住みやすい、暮らしやすい秋田になって欲しい。（女性・50代）

同じ職場でも男性と女性の給料に差がある点に疑問を感じています。（女性・20歳未満）

いままでは、結婚しても働き、その後子供(1人目)が生まれても働き、うちの場合は家庭内で夫との家事分担は、うまくできている。今2人目妊娠と出産が秋田移住と重なったため、いま一時的に主婦だが出産したら働くつもりでいる。色々の状況で女性・男性の立場が変わってくるし、私はたまたま、パートナーや仕事に今まではめぐまれてきた。が今後、出産後、仕事につく際に、こうした問題において、ハードルや壁にぶつかるかもしれないし、就職がうまくいかないかもという不安があるのは、やはり、地方で仕事がないという不安だけでなく、女性だから子供がいるから働き方を考えていかねばならないとかそもそも、そこに、男女共生社会がまだ不十分なのではないかという考えが根底にあるからだと思う。（女性・40代）

「ゾーニング」と「レーティング」の行き届いた社会を望みます。（男性・20代）

男女の違いも、障がいの有無もLGBTも“個性の違い”と考える人が多くなってほしいと思います。人間だから「好き・嫌い」があるのはある程度しかたがないとしても自分の価値観を他人に押し付けることがまかり通ってはならないと思います。（女性・前期高齢者）

今、コロナ禍では、まさに多様性社会が求められてると思う、さまざまな国籍や、性別の違いなどから、その人それぞれの経験を生かした多種多様な意見があつての、SDGsのような大きな目標につながると思う、女性や外国人への差別のようなくだらないことをしている場合ではないと思う。（男性・20歳未満）

私は妊娠前から働いていて、産休・育休を経て、子供が1歳になる月に保育園へ預け、職場に復帰しました。ところが、私と入れ違いで採用された正社員(私と同じ\*\*\*です。)の女性(年齢も10歳以上上です。)、私の指導員になり、毎日ひどい暴言や扱い、無視等があり、それを管理者の男性に短期間で何度も相談したのに、その女性をかばい(管理者がかばわなければ他にかばう人がいないのも分かるが。)いじめだと認めてくれませんでした。周りのパートの女性も、皆いじめやパワハラだと知っていたのに、自分が被害者になりたくないの、見て見ぬふりでした。私も、もし自分ではなく他の誰かが同じめにあっていたら、何も出来ないかもしれない。 (なぜならその女性は正社員で私はパートなので。)その女性も子供がいるので、子供(特に小さい子供)を育てながら働くのが大変なのは分かっているはずなのに、配慮も何もなく、2人きりで送迎している車内や、会社で利用者様や他の職員がいる前でも毎日ずっとどなられ続け、いじめとしか感じられませんでした。私は会社やその女性以外の事はよく思っていましたし、辞めると保育園に居られなくなる(今休職中です。10月末までに仕事が決まらなければ、退園しなければなりません。悔しいです。子供は何も悪くないのに、私が仕事を辞めたせいで申し訳ないです。)ので、辞めたくないし、何とか続けられる様に考えましたが、復職して2ヶ月位で辞めてしまいました。管理者やその女性は、私がいなくても困らないむしろ辞めればいいと思っている様でした。私は、妊娠・出産をし、育児をしながら働くことがそんなに悪い事なのか？こんなにも難しい事なのか？と思いました。私の実家は県外で、旦那の実家は近所ですが、どちらの支援も得られず、旦那は毎日残業です。全て自分に負担が来ます。いじめた人、いじめを黙認した人、傍観している人は、何不自由なく働けるのに、なぜ私は辞めなければならなかったのか。本当に腹が立ちます。パートだから？正社員の方が立場が上だから？私が妊娠する前(妊娠中も他の他の職員の理解を得て、働いていました。車の運転業務から外してもらったり、配慮してくれました)は一生懸命働いて、それを他の職員も皆認めてくれていました。それなのに、出産して戻ったらこんなにもひどい扱いをされるのか？私は子供を出産したことに後悔はありませんが、そのことによってこのような扱いをうけるなら、もう二度と出産したくないと思っています。妊娠しなければ何事もなく働いていたのか、入れ違いでその女性が採用されることはなかったのか、今となっては分かりませんが、妊娠・出産によって周りの態度や扱いが変わったのは確かです。そもそも、\*\*\*をやっている会社なのに、妊娠・出産した女性に対してこのような扱いをするならば、\*\*\*\*\*資格がないのでは？\*\*\*\*\*終わり？女性は皆専業主婦になれば良いと思っていまするんですかね。私がこのような扱いを受けた事は当たり前ですか？妊娠・出産はいけない事ですか？（女性・20代）

私は結婚しても仕事を続けてきましたが、子供の出産の時や病気になった時など、職場に対して申し訳ないという気持ちでいっぱいでしたが、今は育児休暇など法律が女性を守ってくれるのでずいぶん働きやすくなったと思います。又、子供家族を見ても、家事・育児などお互い協力し合っているのも、とてもいいと思っています。(女性・60代前半)

超高齢化社会において、女性が活躍することが、経済面で大きな力になると思います。その為には、あらゆる面で男性共に意識改革が必要かなと思います。(女性・前期高齢者)

男性は社会で働きすぎ、女性は家庭で働きすぎ、双方働きすぎなので、社会でも家庭でも共に平等に働く国になれば子どもは自然に生まれると思う。子育てしやすい社会になるべき、女性や子どもに社会が厳しい。老人にも厳しい、70 過ぎても働かないと年金だけで生活できない。多様性を目指すなら、公共トイレ等男女どちらでもない性用の施設を増やすことと、父親も赤ちゃんのオムツ交換しやすい場を作る等してほしい。(答えなし・40代)

「結婚しない人生もある」と口だけで言われる気がします。やはり結婚して子どもを育てることが一般的で、それをしないことはかなり勇気がいると感じます。仕事が一人前になってから子どもについて考え始めるようでは、やはり体力的にリスクがあるし…と言われると焦らざるを得ません。一番身近な結婚している人が私は親になるので、それ以外の選択肢はイメージしづらいです。独身で楽しく暮らしている人が身近にいれば、考えやすい、イメージしやすかったと思います。(女性・20代)

このアンケートは、75 才以上の者にとっては、今日の社会変化に対応できません。考え方はあっても、実態認識が異なります。(男性・後期高齢者)

性別に囚われず、その人自身の能力を評価し、個性として受け入れることが必要だと思う。区別は必要だが、それに囚われることは差別につながると思う。(女性・20代)

下の項目を記入していて気がついたことがあります。お互いへの理解と思いやりが私にとって、考えられることかな。(女性・60代前半)

ライフサイクルの中で様々な出来事が起こる。病気、怪我、失業、災害など自分や家族に突然、時にはいくつもの同時期に降り懸かることもある。家族内での支え合いには限界があり、困り果てて多くを諦めることを体験してきた。深刻になる前に、構えずに相談できる仕組みがコンビニのように存在して欲しい。また相談場所やサービスがライフステージの段階ごとで途切れているように感じる。制度やサービスをよく知らない、わかりやすく周知が必要。自分らしさを発揮できる社会にするために、支えたり、支えられたりがお互いさまで当たり前であることを教育することも大切だと思う。(女性・50代)

生物学的に構造が異なり機能も差があるため、「できること」は男女で違うが、それを生かした、良い方向に用いた生活、認知が必要で、その為には啓発のみではなかなか他人事となってしまう響かないので、何かしらの法律などの対策をとり、日常生活に直接表れるような対応を希望し、心から願っています。(女性・30代)

男には、男に向いてる仕事、(鉱山 etc)・女には女に向いている仕事(看護、保育士 etc) があると思う、全て平等には無理です。ex) 産婦人科クリニックに男の看護はいないでしょう。又、患者ものぞんでいないでしょう。炭鉱は、女の人大変でしょう。(男性・50代)

最近ではオリンピックで多様性社会にいてかなり世の中にその考えが浸透したように思い、喜ぶべきことである。世界的な韓国の男性のアーティストが、メイクをしたり、レースやパールを取り入れたファッションを見せていて、ジェンダーレス考えが自然に認められるようになってきたと思う。(女性・20歳未満)

時代の流れを変えるのは国民一人一人の意識の問題とは思いますが、時々(長、短期的)で自然に変化しその時代を造ると思っています、現在ここで生かして頂いていますから、のがれられないのですが流れにそっと寄りそって生活していけたらと思っています。(女性・前期高齢者)

現在コロナ禍で企業は弱り、安い金額で海外に売られ、その企業で安い賃金で働かされる。それが中小企業のみならず”\*\*”、”\*\*”にみられるように、大企業も身売りをしています。それだけでなく外国人における土地購入もふえ(\*\*\*\*\*)ています。企業買収、土地購入として水道民営化(外貨による「CSIS」)香港では「地価が高騰して地元民がすめなくなる」事態がおきていますよね。コロナ後のからっぽな日本で外国籍企業に、すむ所もままならないような状態で今より安い賃金で働かされる。それが多様性なら間違っていると思います。「グローバリズム」「差別反対」といって土地・企業をかう人から守ってほしい。守っていかないとと思っています。(男性・20代)

少しずつ「男女共生」や「多様性」が認められる社会になってきているようにも感じるが、まだまだ実際は、そうでない部分が多いように思う。自分の立場も、「女だから」「妻だから」、「～して当たり前」といった雰囲気は、日常生活の中で、感じる事が、多々ある。又、私は、今は、家事に専念しているが、外で仕事をしていないと、何もしていない人のように言われ、肩身の狭い思いをしたり、子どもがいないことでも、周囲の何気ない言葉が、胸に刺さることがある。それぞれの生き方や考え方は、まさに様々。それをお互いが認めあい尊重していくためには、一人一人の意識が変わっていかないと、難しいと思う。(女性・40代)

男、女でひと括りにせずに、もっと個人を大事にすべきだと強く感じています。(男性・30代)

重大事件等が発生した場合、加害者の人権を守る事があたかも大事であるかのように報じられるが、これは法律を改正して『悪いことをした人間』には相応の負担を強いるべきだと考える。(故意でない場合)・被害者(死亡者等)は『人権』すら口に出来ないのである。(男性・前期高齢者)

42にも問いがありました。重度の知的障がい者のため、理解する事ができず答える事ができず本当に申しわけありません。本人母記入(女性・40代)

看護師をしているので特別・女性蔑視されることはない業界にいてあまり感じる事はありません。他の業界では、よくわかりませんが秋田はまだまだ男女平等の意識が低いと思います。(女性・50代)

主人と4年前死別して1人暮らしの74才の女です。これを読んでいるとかなしみで一杯です。このような調査はもっと若い人にお願いして下さい。(女性・前期高齢者)

男女共生社会は、日本は進んでいないと思う。働きやすくなってきているが、女性が管理職につきにくい社会のような気がする。一人一人の意識の底から変えなければ、変わらないと思う。性別にかかわらず、平等に暮らす社会になって欲しい。(女性・30代)

テレビ等で女性を軽視する発言をする著名人が、もっと厳しく罰せられればいいのに、と思います。個人の意見は皆ちがうから、LGBTQ や男女格差について心の中で思うことがあるのは仕方がないことだと思いますが、世界的にみて日本は本当にこのような概念が遅れているので、せめてテレビやメディアで発言する人に対しては、どうにかならないのか、と思います。(女性・20代)

これらの世代の方々のための改善・改革と平行して、これまでに悩み、取り残されて来た人たちへのケアや、援助も手厚くしていただけたら、と思います。私の世代は“親やパートナーからの虐待”や“産後うつ”“ワンオペ育児”等々の概念や言葉のない中で、それらを体験してきました。今、それらが取り上げられるのを見聞きするたびに報われない気持ちや、やりきれない思いに囚われてしまいます。(女性・50代)

男女共生や多様性のような人権に関わることは軽視されがちであるように感じています。軽視する人にこそ、考えて欲しいテーマです。(女性・30代)

法律(民法)の制定が古すぎて、現状に合っていないのではと思っている。(男性・40代)



結婚して、子どもが生まれ、子育てをしているなかで、家事や育児は当然お互い協力しあって行うべきだと考える。この考えが、あたりまえになるように、子どものときからの教育が大事だと思う。多様性を認める社会になる事には賛成だが、一方で従来のスタンダードな型が否定されているように感じる時がある。例えば「お父さんが外で働き、お母さんが家庭を守る」、「男女が結婚して子どもを育てる」など。女性の活躍支援をすすめているが、主婦であることも社会のひとつの形であると思う。マイノリティの方が差別するなど叫ぶ一方で、マジョリティを否定していると感じるが、多様な社会のなかのひとつの形であると肯定したい。(女性・30代)

女の人が生きづらい世の中だなとは思いますが。(女性・20歳未満)

男女共生社会を目標とするのは良いことですが、女性優位になりすぎないようにすることが大事だと思います。(女性・20歳未満)

(1) 子供がいない人は死後、税金で家の片付け等をすると言いました。死んだ後も皆様に迷惑をかけるのはイヤです。心苦しいです。だからお願いします。身寄りのない人や子供達が県外にいて、頼るのが難しい人の為に、生前、市役所に登録し内容によって事前に金額を支払い代行お願い、①お墓指定する・しない ②お葬式やる・やらない・火葬だけでよい ③家の片付けお願いする・しない ④連絡してもらいたい人 ⑤事前に準備する書類 ⑥ノートに大事な事、気づいたことを書いておく ⑦その他老後、死後安心課が出来ると心置きなく死ねます。これは悲しい事ではありません、とっても大切な事だと私は思います。(2) 女性管理職 35%に縛られすぎ。部長職等を安易に独身女性やご主人様が部長職等の方の奥様をあてています。悪い例 こういう女性がいたりやっぱり女性管理職はダメだと言われるのが悔しいです。①机を叩きつけ、罵倒し人格を否定→男性は泣き崩れたそうです ②ネチネチと男性1人をターゲットにして文書の「が」「は」の使い方で何度も書き直させる ③自分の前に立たせて、ずっと説教する ④判断誤りや勘違いを指摘→認めず逆ギレ→次長が中に入り女性部長に恥をかかせないようもっていくのが大変だった。→皆に「次長が部長だったらよかったのに」と言われたそうです。 ※女性管理職の下には本来部長等になるはずだった優秀な男性職員をつけている ※男性は主幹にならないと課長にはなれないが女性は副主幹から課長になっている ※異動願いを出しても「1年目で異動すると、自分の人事が間違っていたと認める事になるがらダメ」と回答。これは、男性職員に対するパワハラです。良い例 このような女性が増えてくれたらムリヤリではなく、自然に女性管理職35%達成。①「〇〇さんを課長に推薦する」「そんなに仕事出来るの」「仕事は普通でも頑張り屋だから」その女性をずっと注目してきました。いつも答弁がとても丁寧でわかりやすく、しっかり勉強し、ちゃんと理解していて、詳しい話は部下にお願いする男性管理職も多い中、最後まで自分の言葉で説明していました。「あっぱれ」と思いました。頑張り屋さんには負けず嫌いなので女性、男性関係なく管理職になると秋田も少しは良くなると私は思います。女性だからというだけで優遇するのは女性に失礼だ。(女性・50代)

男女のこと、多様性のことも大切だけど秋田県の求人賃金が安すぎてドン引きしている。なめすぎ！！そりゃ生活保護受給者も増えるし若者もいなくなるだろうと思う。平等うんぬんの前に最低限の生活を！(女性・30代)

個人の意見や考えを尊重し、認め合い、生きやすい社会作りができれば良いと思います。それには情報の発信力も含め、たくさんの人とのふれあい、会話を通していろいろな人や考えを受け入れる力を育てていく事が大切だと思います。(女性・50代)

とにかく、何に関してもまずお金かかる現代で、秋田は最低賃金が低すぎて、色々な選択肢を選べない方が多いと個人的に思います。そして、経済の活性について、一部の国に依存しない形でおこなってほしいです。※リスクの分散のため、どこかにかたよる経済の仕組みはやめてほしいです。(女性・30代)

性的問題の増加(テレビ雑誌等に若い女性の同性でもおどろく様な事を堂々と目にする、あれでは若い男性でも70才過ぎた老人でも気持ちを押しえられないと言っている、言葉を聞く度毎にお金をとるためにあの様なスタイルをみんなの前に見せるのが余りにもふざけている)。情けないと思う犯罪も増えるのは当然だと思う、同性である私も目をかくす事もある(女性・後期高齢者)

介護のために仕事をやめなければならないなんて(特に男性)、経済的にも精神的にも大変と思う。仕事を続けながら出来る支援が必要である。老後は安心して暮らしたいので高齢者医療費増はしないでほしい。(女性・前期高齢者)

若い時からすれば男女の差別的なものは大部変わって来ているように思われます。あと細やかな事が確立されると良いのではないだろうか？年代により男女の見方(数え方)は違いがあるが、若い世代には男女平等という考えが進んでいるのは確かのように思える。(男性・60代前半)

最近、多様性を強調しすぎていると感じる。男、女、LGBTQ、全てのトイレや更衣室など用意できますか？(男性・50代)

幼少期から、家庭・学校・地域で当たり前に行える様な教育・しつけ・環境を整える。(女性・50代)

私は個人経営の商店約50年続けてきました。個人商店はすべて夫婦共同で行う毎日で、得意とする方が重たる仕事を担当するがどちらか一人でもできるようにしなければならない。家庭内も同じ2人で一人前を前提として生きてきました(男性・後期高齢者)

行政としてやる意義はあると思うアンケートだと思いますが、このようなアンケート自体が男>女という潜在意識の元に作成されている気がします。男=女なら何もこんなことはしなくても良いのではと思ってしまう…(男性・20代)

男女平等で生きる社会を作る事はとても難しい事なので少しでも平等になってほしい(男性・20歳未満)

東京オリンピックでもトランスジェンダーの選手が認められているので、世界的にもそういうのが認められていると知った(男性・40代)

女性でも働くことは必要だと思うが、過度に女性だからといって管理職にするのはどうかと思う。私は昇任意欲はないので、子育てをして家庭を大切にすることが一番だと思う。(女性・30代)

私のような老人には役に立たないアンケートの様に思いましたが、昔を思い出したり、これからこうなったら良い社会生活が出来るのではと思い答えましたが参考になるだろうか(理解力が薄れて来ています)(女性・後期高齢者)

「男女共生社会」、「多様性社会」を目指すには根深く根強い「日本人」の「日本人」に対する無意識なほどにすり込まれた当たり前を崩していかないと現実には難しいと思います。もっといろんな国の人が身近にいると良いのでは？と考えます。いろんな当たり前に触れて気づいて、知るだけでも違うのではないかと思うのです。(女性・40代)

高齢の人ほど「男はこうであるべき」とか「女はこうであるべき」という考え方が強い高齢化社会の秋田ではよくそういうことを言われる。若者だけでなく、高齢者に現代の考え方を伝えることが大切だと思う(女性・20代)

平等とは何か、互いに出来る事をやるのが平等ではないか(男性・50代)

職場での男女共生が進んでいく事を、願います。(男性・20代)

もう自分の年では、男は仕事、女は家庭という時代を過ぎてきて当たり前に来たから、もうこのままでいいと思ってる。これからの人たちには、ひらけていけばいいと思うがどうなったらいいとか、気持ちがわからない。若い世代がどんどん意見を出して社会を変えていってくれればいい。決定するのは年長者となるとなかなか進まないのかもしれない。水をさすような事はしたくないと思っている。(女性・50代)

今回のアンケートについて、世界の中で理想とする国は、内容は等を同封して欲しかった。家庭を築く上で今後、理想とする社会は本当にそうだろうか。男性にとって一家を守ることは大変な事です。※中小、零細企業が目線で考えているのか心配です。以上（男性・後期高齢者）

定年退職も見えてきた年齢となり、早期退職を考えたり、定年後の人生計画も考えたり、日々揺れています。高齢化、少子代だけでなく、私のように独身、又は単身も多いように感じます。これからは今まで以上に、行政、市政に対してお世話になる事が増えていくと思います。ご迷惑をおかけするつもりはありませんが地域社会と協力して無事に暮していければいいなあそういう秋田市であってほしいなあと思います。（ちょっとテーマとずれてすみません）（女性・50代）

男女共生社会を目指すことは良いと思うが、職種によっては、どうしても難しい職種もあると思う。（男性・20代）

少子高齢社会が成立していくためには、男女の差別がなく、ジェンダー問題でも差別がなく多様性を認め、年齢を超えて互いに認め合い助け合う社会の雰囲気や法制度作りを進めていかなければならないと思います。年々、多様性を認める方向へと進んでいるとは思いますが、我々は内なる差別や区別意識を常に自覚的に意識化していき、よりよい社会、秋田市、日本を作っていかなければと思います。（男性・60代前半）

私は、一人目を出産後、一年程で退職しました。本当は働き続けたかったのですが、仕事、家事、育児をこなすのは大変でした。夫も少しは手伝ってくれていたと思いますが、ほとんど私がしていたと思います。あれから30年経ちますが、女性をとりまく環境は、あまり変わっていないように思います。（ワンオペ育児なんて言葉がありますね。）私が勤務していた会社では、再雇用制度がありましたが、一度やめて仕事から離れると、なかなか復帰するのは難しかったです。（女性・50代）

78才に成り余り考えない事にしています。（女性・後期高齢者）

わが家は主人が勤め人、私専業主婦ですが転勤族で全国あちこちへ行きます。まだ子供はいませんが、いずれ子供ができたときに公的なサービスの地域の格差、主人は家事が一切できないので手助けしてくれるようなサービスの充実を希望しております。（女性・30代）

夫婦別姓がすすめばと思う。（男性・20代）

不満・不快・不寛容や違和感・空気等を切り口とした調査は単に現状を否定するための目的にしか見えない。現状の何が問題か洗い出して欲しい。むしろ、市が進めている施策に対する評価があればわかりやすかった。市長は現状の秋田市とその社会、構成する市民は「不寛容」であると認識しているのか？（男性・60代前半）

今回のアンケートは、私自身にとって、少し複雑な内容だったと思いました。考えさせられた内容で、特に男女共生のテーマに関する質問は、答えるのについ考え込んでしまったような気がしました。（女性・40代）

税金～いろいろなことに平等＝かけていることが多く見かける（表面を見て決めている）感じのする。中身は一人暮してないのに一人暮～本当になりそにそばに身内がいて不自由なく暮しているのに上手に生きている人がいっぱい見かける、正しく生きている人に税の取り立てが本当にきびしく感じます。上手に生きている人はいろいろもらっているのを見受けます（男性・後期高齢者）

「男女共生社会」「多様性社会」について、当人が困っていることや、改善してほしいことをPRしてほしい。で、私たちに人間が生きていくうえで必要な衣食住の事で、困っていることがあればPRしてほしい。（男性・60代前半）

ネットで回答ができるようにしてもらいたいです。（女性・50代）

このような事を論じることが、男女が平等でないことの証明なのかなと思います。若い人達は少しずつ変わっていると感じます。（女性・60代前半）

給料が安いので結婚ができない (男性・30代)

男女共生は良い事と思いますが、身体的(筋力や体力)には男性が勝る部分がほとんどであり、現在の世間の風潮に完全に同意ではありません。適材適所(男女間での)は有ると思います。(男性・40代)

男女が互いに尊重しあう会社であれば問題は起こらないと思う。(女性・20歳未満)

子どもや高齢者へのサービスの充実は図られているが、子どものいない夫婦についての配慮が足りない。(女性・40代)

いい社会になってくれればいいと思います。互いに認め合うことを尊重し合うことは、大切で必要なことだと思う。(女性・60代前半)

男性だからこうだ、とか女性だからこうだ、などと属性(?)でくくって決めつけるのではなく、その1人1人が大事にされ尊厳をもって生きられるように、と考えるようにならないと根本的に変わらないと思います。秋田はまだまだそこまでの道のりが遠いな…と日々感じています。(女性・30代)

私は同性愛者なので、結婚や子どもを持つことが物理的に不可能です。なので、結婚できて、子供を持って、やりたい仕事に就ける女性はどうやましいし、考え方によっては優遇されているようにも感じます。子どもがいるから「一律に～」というのではなく今、大変な思いをしている人に対して社会全体でサポートしていくことを目指してほしいと思います。また多様性についてはセクシャルマイノリティの当事者として、この事を自ら公表している人間は、特に40代以上は、数%程度(私の友人数百人いても5人くらい)が実態で、思った以上に多くの人数がいることを知ってほしい。特に秋田では公表している友人は1人もいません。昔は世間体や家を継ぐため結婚している人も多くいましたが、最近の若い人たちは、カミングアウトしている人が増えています。未婚化の要因はセクシャルマイノリティへの理解も影響していると思います。(男性・40代)

職場に国籍がちがう方がいらっしゃるのですが、違いを感じる事が多く、多様性は、簡単でないのではないかなと思っております。(女性・50代)

内容的にテーマに合った回答か分かりませんが思っている事を記入してみました。下記の通りの考えです。(女性・前期高齢者)

男女の平等性がまだまだ確立とれていない。意識改革が必要だと思う。(女性・50代)

社会に出たことがないので、男女の平等さを実感したことがあまりない。性別に関係なく、その人がしたいことができる環境があればそれでよいと思う。(女性・20代)

書類を書く際に限らずとっていいほど「男・女」という項目があり不快でした。そしてこれも「女性活躍推進担当」と書かれていていやでした。同性婚という言い方はあまり好きではありません。なぜ生まれもった性別で分けられ好きになることすら否定されるのか意味がわかりません。性別も今は男女以外にも存在するので異性や同性といった表現も好きではないです。(自由記載・20歳未満)

「老いては子に従え」が家庭、会社、ひいては政治レベルで行えるのであれば、その延長線上に「男女共生」や「多様性社会」の活路を見いだすのではないだろうかと思います。(男性・50代)

男女によって向き不向きがあって「してほしくない」と思うこともあるのが当然であり、そう思う人に対してそれは男女差別と思う人がいることもよく分かる。何気なく思ってきたことがそういった偏見として、苦しんでいる人もいるということ、自分も含めて一人ひとりが意識していかなければこの問題は改善されないのではないかなと思う。純粋に、能力で選ばれるのが当たり前となればいい。多様性というのも同じで、人の考え方だから好き嫌いが出るのは当然。せめて当事者が、周りの目の無い所での受容が許される程度の社会になればならないと思う。(事務的な制限や、法的な点で) (男性・20代)

私はDVにあっていました。離婚するためにたくさんの費用、年月を要しました。離婚できて10年以上立つのにその時の費用(弁護士費用だけでなくその時の生活費等)やその後の生活がままならず、仕事(本職の他にいくつものバイト)をいくらしても、借金はなくなりません。私に人権はないと思っています。(女性・50代)

秋田では、何をやっても、無理！特に役所はトップがダメ！だから、若者は、県外へ行く！魅力がないなら、以上！（答えない・50代）

夫と自分と子供となに事も話し合っ、やる気が一番だと思家庭の事、結婚の事も、他人事でなく自分の事だから、(未婚・既婚でも)夫が若い時は、他、いろいろ自分から、やっていたけどその後病気になり、私が、外で働き、夫が家庭の事をやっていた。(女性・後期高齢者)

多様性への対応も大切であり、必要性は認識しているが時代のニーズに広く浅く応えていくのはいかなものか？市政としては、やってますよ感をだしたいだけではないか？と思ってしまう。首都圏や大都市ならば、判らなくもないが、秋田という地域性を考慮すると優先順位付けしたうえで、重大的な課題に確りとした施策を行っていくことが重要と考える。秋田で求められることは、先ず高齢化・少子化ではないか。子育てをし易い環境づくりこそが、いろいろな多様性に結び付いていくものと考え。子育てをするうえで幼少期に家族と過ごす時間が、子供と親の心の成長にはとても大切だと思っている。あつという間に子供は大きくなる。子育ての時間は親にとっても有意義なことであり子供が生まれ、生活のために両親が働き、子供と過ごす時間が削られているのであれば、とても悲しい実態である。会社で育児休業を終えた女性の派遣社員を受け入れたが彼女の事務処理能力は高い。休憩時間も、資格取得の勉強をしており、このような方は、もっと活躍の場を与えられるべき。と思う。ただ、子供の発熱等で急な休みはどうしても発生する。コロナ禍で仕事の仕方に変化があった。この機を活かし、在宅勤務をもっと充実させられないものか。私の両親は共働きだったため、子供の頃は鍵っ子だった。小学校から帰ると、お米をといで炊飯器のスイッチを入れ母の帰りを待つのが日課だった。幼稚園の頃から一人で歯医者へ通院し、高熱で小学校を休んでも病院へは一人で行った。家に帰るとお母さんが待っている友達がうらやましくもあった。昔は、家の家族がおり、大人が子供と一緒に過ごす時間が多く子供の様子に目が行き届いていたことから、現代のような陰湿ないじめも少なかったように思える。子供が成長する過程で、家族と過ごす(家族の愛情に接する)時間は大切であり家に帰ってもだれもない子育て、例えば共稼ぎのような状態には私は否定的な考えを持っている。現代のいじめ等の社会問題も、子の成長期において親がそばで一緒に過ごすことで子供に安心を与え、穏やかでへいわにせいちようできるのではないか。話を戻す。web等新しい技術を活用し、仕事の在宅化をもっと充実させられないものか？共稼ぎであっても、両親のどちらかが在宅勤務できるような社会が構築できれば多様性という面で先に進めることができる。と考える。在宅勤務により、現状、産前産後休暇～育児休業と経営者が敬遠したがる1年半近くの休業の状態を緩和できるのではないか？新生児の育児は大変である。産後すぐに働けということではなく在宅で、育児に支障が出ない程度で仕事をサポートし、現状よりも長期間、在宅勤務ができる仕組みができれば保育園不足への対策にもなり父親も同様に在宅勤務が可能となり、母親任せと言ったことも改善されるのでは？子供が義務教育を終えるまでは、両親のどちらかが常に在宅できる状態で子育てができるような社会を構築できればと、切に願う。また、企業内で託児所を設ける。無理であれば、企業と保育施設の提携により働きながら子供を育てられる環境づくりも有効か。そういった企業に県・市から補助金や運営費の助成を行い、子育てをしながら働きやすい都市づくりを目指すことにもっと力を入れていただきたい。更にIT化を促進し、地方都市であっても首都圏と遜色ない就労の機会であったり、育児・学校教育や新しい労働環境づくりを図って欲しい。そういった環境が出来上がれば地元で働き、結婚し子供を育てようとする若者や、秋田に移住し子育てを考える人も増えるのではないか。秋田は、小中学校の平均学力が全国的に高い。更に子育てのし易さを組み合わせるとともに、子供の成長に寄り添える子育てといったことを謳える魅力ある都市になることを期待したい。2か月前に孫が生まれたが、息子夫婦はもう育休明けの保育園を探している。1年先の話だが、近隣の保育園には空きがないと困っている。将来、秋田で子育てができてよかった。といえるような市政を是非お願いしたい。父は要介護者である。父の年金と介護保険で何とかやりくりできている。私が貰うであろう年金額は父の半額にも満たず、老後の心配は尽きない。高齢社会への今以上の対策が望まれるが、それ以上に子育てし易く、子供たちが健康で平和に暮らせる社会を望む。そういった観点から、SDGsの取り組みは大いに賛同できる。また、SDGsの推進において多様性は不可欠であると思う。(男性・50代)